



中部電力

浜岡原子力発電所
基準津波の策定のうち
プレート間地震の津波評価について
(コメント回答) データ集

2021年2月10日

目次

1	その他の検討波源モデルの詳細	
1-1	検討波源モデルCのパラメータスタディモデルの設定	3
1-2	検討波源モデル①のパラメータスタディモデルの設定	35
1-3	検討波源モデル②のパラメータスタディモデルの設定	67
1-4	検討波源モデル③のパラメータスタディモデルの設定	92
2	痕跡再現モデルの波源モデルの詳細	
2-1	遠州灘沿岸域の痕跡再現モデル（プレートの沈み込み速度を考慮したモデル）の設定	123
2-2	遠州灘沿岸域の痕跡再現モデル（プレートの沈み込み速度を考慮しないモデル）の設定	140
2-3	南海トラフ広域の痕跡再現モデル（プレートの沈み込み速度を考慮したモデル）の設定	154
2-4	南海トラフ広域の痕跡再現モデル（プレートの沈み込み速度を考慮しないモデル）の設定	166

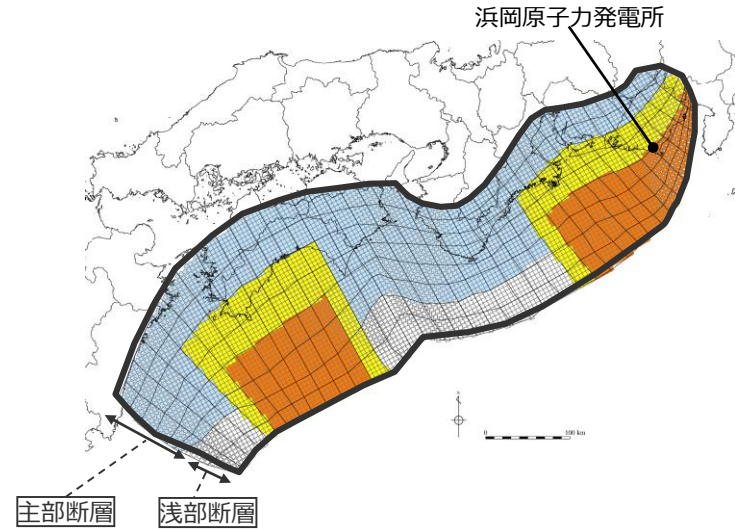
1 その他の検討波源モデルの詳細

1-1 検討波源モデルCのパラメータスタディモデルの設定

1 その他の検討波源モデルの詳細

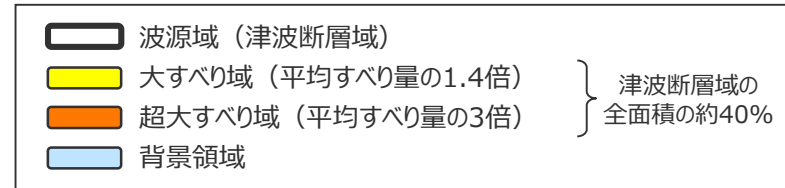
1-1 検討波源モデルCのパラメータスタディモデルの設定 (大すべり域の位置を東へ60kmとしたケースのすべり量分布の設定)

■「検討波源モデルC（土木学会(2016)手法によるモデル）」の大すべり域の位置を東へ60kmとしたケースの各小断層のすべり量分布は以下のとおり。



検討波源モデルC（土木学会(2016)手法によるモデル）
の大すべり域の位置を東へ60kmとしたケースのすべり量

断層モデル		面積 (km ²)	M ₀ (Nm)	M _w	Δσ (MPa)	最大 すべり量(m)	平均 すべり量(m)
検討波源モデルC (土木学会(2016)手法による モデル) 大すべり域の位置を東へ60kmと したケース	全体	126,822	6.4×10 ²²	9.1	3.4	38.0	12.2
	主部断層	109,725	4.5×10 ²²	9.0	3.0	38.0	9.9
	浅部断層	17,098	1.9×10 ²²	-	-	38.0	27.0



検討波源モデルC
(土木学会(2016)手法によるモデル)
の大すべり域の位置を東へ60kmとしたケース

検討波源モデルC（土木学会(2016)手法によるモデル）
の大すべり域の位置を東へ60kmとしたケースの小断層のすべり量分布 (m)

		西 ←																																				⇨ 東			
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38		
陸側⇨	深度40km↓	1	4.7	4.7	4.5	4.5	4.4	4.4	4.0	3.9	3.8	3.7	3.7	3.6	3.5	3.5	3.4	3.4	3.4	3.3	3.3	3.3	3.2	3.2	3.1	3.1	3.0	3.2	2.8	2.8	2.4	2.4	1.9	1.9	1.9	1.9	1.7	1.7	1.2	1.2	
	30km↓	2	4.7	4.7	4.5	4.5	4.4	4.4	4.0	3.9	3.9	3.8	3.7	3.7	3.6	3.5	3.4	3.4	3.4	3.3	3.3	3.3	3.2	3.2	3.1	3.1	3.0	3.2	3.2	2.8	2.8	2.4	2.4	1.9	1.9	1.9	1.9	1.7	1.7	1.2	1.2
海溝軸⇩	20km↓	3	4.7	4.7	4.5	4.5	17.7	17.7	16.1	16.1	15.6	15.2	15.2	14.8	14.3	3.6	3.5	3.5	3.4	3.4	3.3	3.3	3.3	3.2	3.2	3.1	3.0	12.1	12.9	12.9	11.4	11.4	9.7	9.7	9.7	9.7	7.7	7.7	6.8	6.8	5.0
	10km↓	4	4.7	4.7	4.5	4.5	17.7	17.7	16.1	16.1	15.6	15.6	15.2	14.8	14.8	3.6	3.5	3.5	3.4	3.4	3.4	3.3	3.3	3.2	3.2	3.1	3.1	12.1	14.6	12.9	12.9	11.4	9.7	9.7	9.7	9.7	7.7	7.7	6.8	6.8	5.0
⇩	10km↓	5	4.7	4.7	4.5	4.5	17.7	38.0	38.0	34.4	34.4	33.3	32.5	32.5	14.8	3.7	3.6	3.5	3.5	3.4	3.4	3.4	3.3	3.3	3.2	3.1	3.1	12.1	25.9	31.3	27.7	27.7	24.4	24.4	20.7	20.7	16.4	16.4	14.7	14.7	
	0km↓	6	4.7	4.7	4.5	4.5	17.7	38.0	38.0	34.4	34.4	33.3	33.3	32.5	14.8	3.7	3.6	3.5	3.5	3.4	3.4	3.4	3.3	3.3	3.2	3.2	3.1	12.5	25.9	31.3	31.3	27.7	27.7	24.4	24.4	20.7	20.7	16.4	14.7	14.7	
⇩	0km↓	7	0.0	0.0	0.0	0.0	17.7	38.0	38.0	34.4	34.4	34.4	33.3	33.3	15.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	12.5	25.9	25.9	31.3	31.3	27.7	27.7	24.4	24.4	20.7	16.4	14.7	14.7	
	0km↓	8	0.0	0.0	0.0	0.0	18.2	38.0	38.0	38.0	34.4	34.4	33.3	33.3	15.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	12.5	25.9	25.9	31.3	31.3	31.3	27.7	27.7	24.4	20.7	16.4	14.7	14.7	

- すべり量分布の番号は上記波源モデル図の各小断層に対し西側から東側に順に1列から38列まで設定。陸側から海溝軸側に1行から8行まで設定。
- 駿河湾内のトラフ軸付近の領域については、他の領域に比べ、プレート境界面の深さ10kmの位置がトラフ軸に近くなり、また、トラフ軸沿いの津波断層モデルの面積も狭くなることから、この領域は分岐断層的な運動をする領域とみなせる（内閣府2012）とされるが、敷地への影響の観点から大すべり域のすべり量ではなく超大すべり域のすべり量を設定。

1 その他の検討波源モデルの詳細

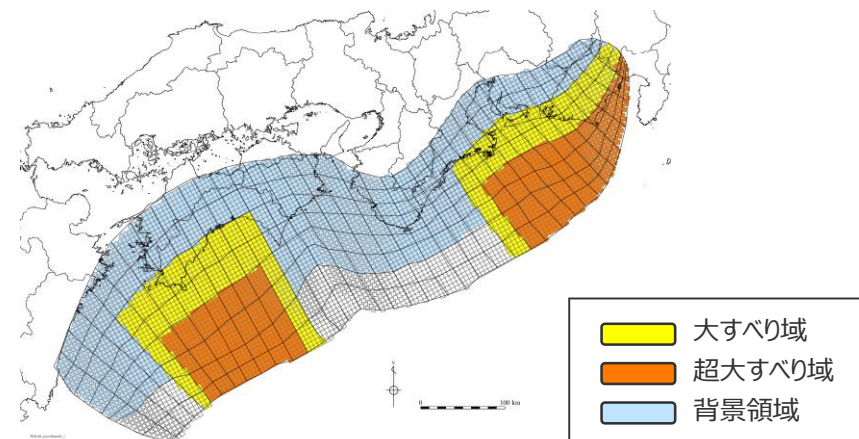
1-1 検討波源モデルCのパラメータスタディモデルの設定

(大すべり域の位置を東へ60kmとしたケースの断層パラメータの設定)

検討波源モデルC
(土木学会(2016)手法によるモデル)
の大すべり域の位置を東へ60kmとしたケースの断層パラメータ

項目		設定値
全体	面積※ (km ²)	126,822
	地震モーメント (Nm)	6.4×10 ²²
	Mw	9.1
	平均応力降下量 (MPa)	3.4
	平均すべり量 (m)	12.2
	最大すべり量 (m)	38.0
	剛性率 (N/m ²)	4.1×10 ¹⁰
	破壊伝播速度 (km/s)	2.0
	ライズタイム (s)	150
	主部断層	面積※ (km ²)
地震モーメント (Nm)		4.5×10 ²²
平均すべり量 (m)		9.9
最大すべり量 (m)		38.0
浅部断層	面積※ (km ²)	17,098
	地震モーメント (Nm)	1.9×10 ²²
	平均すべり量 (m)	27.0
	最大すべり量 (m)	38.0

※津波断層域のうちすべりが発生している波源域の面積



検討波源モデルC (土木学会(2016)手法によるモデル)
の大すべり域の位置を東へ60kmとしたケース

主部断層：深さ10km以深の断層
浅部断層：深さ10km以浅の断層

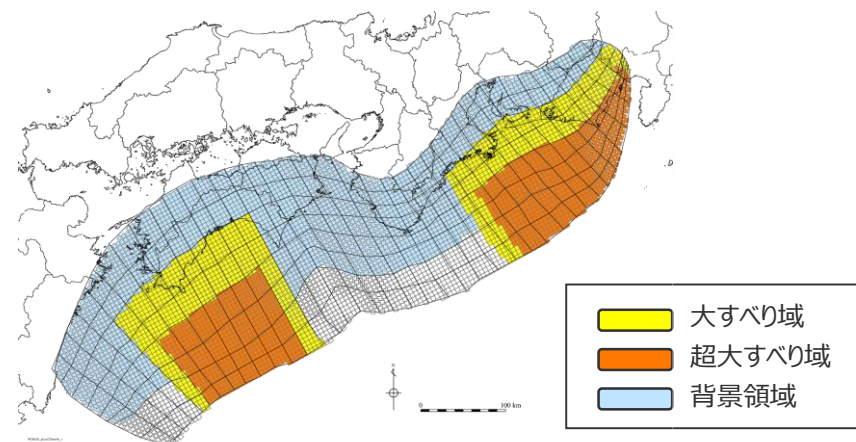
1 その他の検討波源モデルの詳細

1-1 検討波源モデルCのパラメータスタディモデルの設定 (大すべり域の位置を東へ50kmとしたケースの断層パラメータの設定)

検討波源モデルC
(土木学会(2016)手法によるモデル)
の大すべり域の位置を東へ50kmとしたケースの断層パラメータ

項目		設定値
全体	面積※ (km ²)	127,400
	地震モーメント (Nm)	6.4×10^{22}
	Mw	9.1
	平均応力降下量 (MPa)	3.4
	平均すべり量 (m)	12.3
	最大すべり量 (m)	38.0
	剛性率 (N/m ²)	4.1×10^{10}
	破壊伝播速度 (km/s)	2.0
	ライズタイム (s)	150
主部断層	面積※ (km ²)	109,725
	地震モーメント (Nm)	4.5×10^{22}
	平均すべり量 (m)	9.9
	最大すべり量 (m)	38.0
浅部断層	面積※ (km ²)	17,675
	地震モーメント (Nm)	2.0×10^{22}
	平均すべり量 (m)	27.0
	最大すべり量 (m)	38.0

※津波断層域のうちすべりが発生している波源域の面積



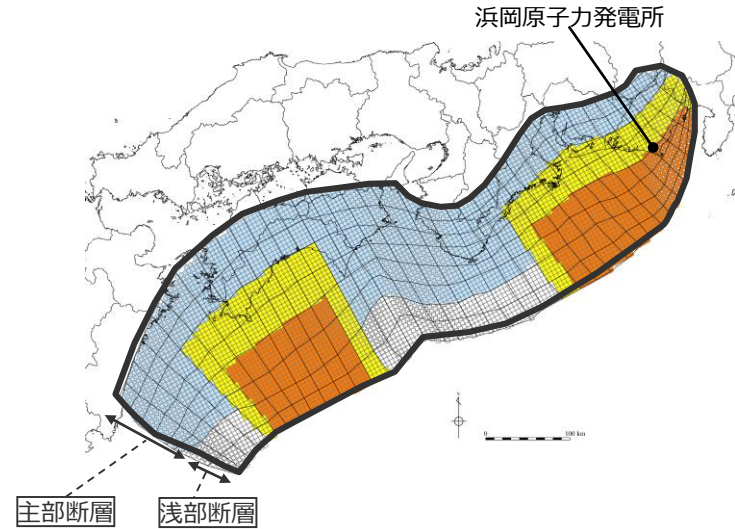
検討波源モデルC (土木学会(2016)手法によるモデル)
の大すべり域の位置を東へ50kmとしたケース

主部断層: 深さ10km以深の断層
浅部断層: 深さ10km以浅の断層

1 その他の検討波源モデルの詳細

1-1 検討波源モデルCのパラメータスタディモデルの設定 (大すべり域の位置を東へ40kmとしたケースのすべり量分布の設定)

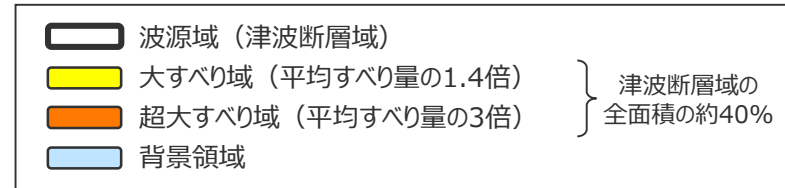
■「検討波源モデルC（土木学会(2016)手法によるモデル）」の大すべり域の位置を東へ40kmとしたケースの各小断層のすべり量分布は以下のとおり。



検討波源モデルC
(土木学会(2016)手法によるモデル)
の大すべり域の位置を東へ40kmとしたケース

検討波源モデルC（土木学会(2016)手法によるモデル）
の大すべり域の位置を東へ40kmとしたケースのすべり量

断層モデル		面積 (km ²)	M ₀ (Nm)	M _w	Δσ (MPa)	最大すべり量(m)	平均すべり量(m)
検討波源モデルC (土木学会(2016)手法によるモデル) 大すべり域の位置を東へ40kmとしたケース	全体	128,027	6.5×10 ²²	9.1	3.5	38.0	12.4
	主部断層	109,725	4.5×10 ²²	9.0	3.0	38.0	9.9
	浅部断層	18,303	2.0×10 ²²	-	-	38.0	26.9



検討波源モデルC（土木学会(2016)手法によるモデル）
の大すべり域の位置を東へ40kmとしたケースの小断層のすべり量分布 (m)

		西 ←																																						⇒ 東	
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38		
陸側	深度40km↓	1	4.2	4.2	4.0	4.0	3.9	3.9	3.6	3.4	3.4	3.3	3.3	3.2	3.1	3.1	3.0	3.0	3.0	2.9	2.9	2.9	2.8	2.8	2.8	2.8	2.7	2.9	2.5	2.5	2.1	2.1	1.7	1.7	1.7	1.7	1.5	1.5	1.1	1.1	
	30km↓	2	4.2	4.2	4.0	4.0	3.9	3.9	3.6	3.4	3.4	3.4	3.3	3.3	3.2	3.1	3.0	3.0	3.0	2.9	2.9	2.9	2.8	2.8	2.8	2.8	2.7	2.9	2.9	2.5	2.5	2.1	2.1	1.7	1.7	1.7	1.7	1.5	1.5	1.1	1.1
海溝軸	20km↓	3	4.2	4.2	4.0	4.0	17.7	17.7	16.1	16.1	15.6	15.2	15.2	14.8	14.3	3.2	3.1	3.1	3.0	3.0	2.9	2.9	2.9	2.8	2.8	2.8	12.1	12.1	12.9	12.9	11.4	11.4	9.7	9.7	9.7	9.7	7.7	7.7	6.8	6.8	5.0
	10km↓	4	4.2	4.2	4.0	4.0	17.7	17.7	16.1	16.1	15.6	15.6	15.2	14.8	14.8	3.2	3.1	3.1	3.0	3.0	3.0	2.9	2.9	2.8	2.8	2.8	12.5	12.1	14.6	12.9	12.9	11.4	9.7	9.7	9.7	9.7	7.7	7.7	6.8	6.8	5.0
陸側	0km↓	5	4.2	4.2	4.0	4.0	17.7	38.0	38.0	34.4	34.4	33.3	32.5	32.5	14.8	3.3	3.2	3.1	3.1	3.0	3.0	2.9	2.9	2.8	2.8	2.8	12.5	25.9	25.9	31.3	27.7	27.7	24.4	24.4	20.7	20.7	16.4	16.4	14.7	6.8	
	6	4.2	4.2	4.0	4.0	17.7	38.0	38.0	34.4	34.4	34.4	33.3	33.3	32.5	14.8	3.3	3.2	3.1	3.1	3.0	3.0	2.9	2.9	2.8	2.8	2.8	12.5	26.9	25.9	31.3	31.3	27.7	27.7	24.4	24.4	20.7	20.7	16.4	14.7	6.8	
海溝軸	7	0.0	0.0	0.0	0.0	17.7	38.0	38.0	34.4	34.4	34.4	33.3	33.3	15.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	12.5	26.9	25.9	25.9	31.3	31.3	27.7	27.7	24.4	24.4	20.7	16.4	14.7	6.8	
	8	0.0	0.0	0.0	0.0	18.2	38.0	38.0	38.0	34.4	34.4	33.3	33.3	15.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	12.7	26.9	25.9	25.9	31.3	31.3	31.3	27.7	27.7	24.4	20.7	16.4	14.7	6.8	

- すべり量分布の番号は上記波源モデル図の各小断層に対し西側から東側に順に1列から38列まで設定。陸側から海溝軸側に1行から8行まで設定。
- 駿河湾内のトラフ軸付近の領域については、他の領域に比べ、プレート境界面の深さ10kmの位置がトラフ軸に近くなり、また、トラフ軸沿いの津波断層モデルの面積も狭くなることから、この領域は分岐断層的な運動をする領域とみなせる（内閣府2012）とされるが、敷地への影響の観点から大すべり域のすべり量ではなく超大すべり域のすべり量を設定。

1 その他の検討波源モデルの詳細

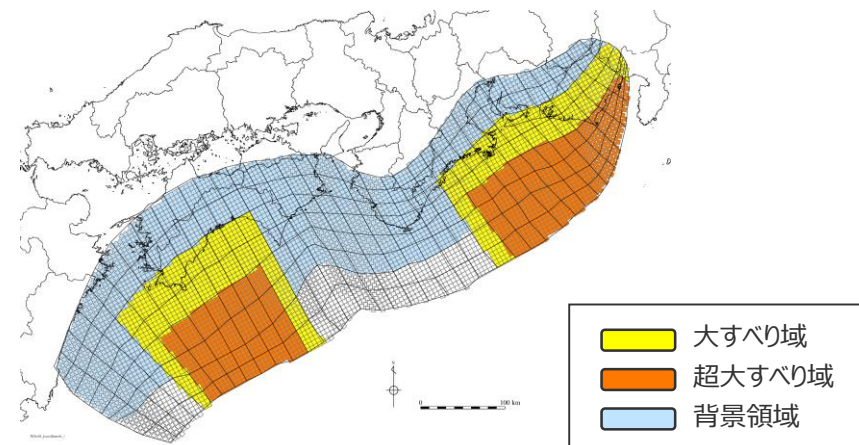
1-1 検討波源モデルCのパラメータスタディモデルの設定

(大すべり域の位置を東へ40kmとしたケースの断層パラメータの設定)

検討波源モデルC
 (土木学会(2016)手法によるモデル)
 の大すべり域の位置を東へ40kmとしたケースの断層パラメータ

項目		設定値
全体	面積※ (km ²)	128,027
	地震モーメント (Nm)	6.5×10 ²²
	Mw	9.1
	平均応力降下量 (MPa)	3.5
	平均すべり量 (m)	12.4
	最大すべり量 (m)	38.0
	剛性率 (N/m ²)	4.1×10 ¹⁰
	破壊伝播速度 (km/s)	2.0
	ライズタイム (s)	150
	主部断層	面積※ (km ²)
地震モーメント (Nm)		4.5×10 ²²
平均すべり量 (m)		9.9
最大すべり量 (m)		38.0
浅部断層	面積※ (km ²)	18,303
	地震モーメント (Nm)	2.0×10 ²²
	平均すべり量 (m)	26.9
	最大すべり量 (m)	38.0

※津波断層域のうちすべりが発生している波源域の面積



検討波源モデルC (土木学会(2016)手法によるモデル)
 の大すべり域の位置を東へ40kmとしたケース

主部断層：深さ10km以深の断層
 浅部断層：深さ10km以浅の断層

1 その他の検討波源モデルの詳細

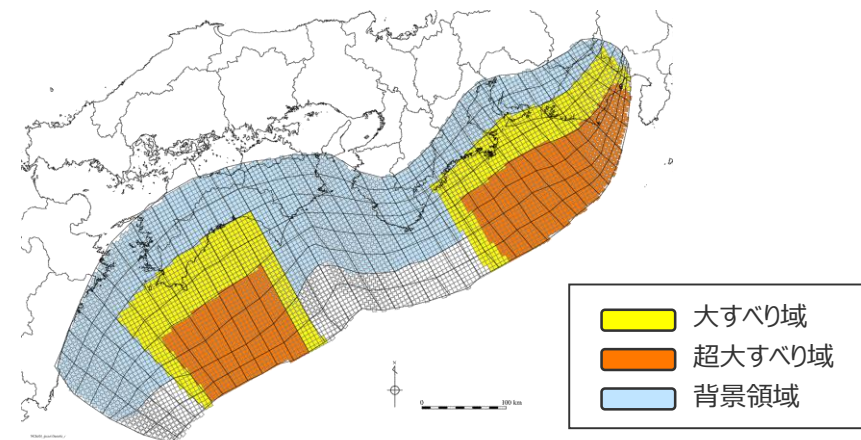
1-1 検討波源モデルCのパラメータスタディモデルの設定

(大すべり域の位置を東へ30kmとしたケースの断層パラメータの設定)

検討波源モデルC
(土木学会(2016)手法によるモデル)
の大すべり域の位置を東へ30kmとしたケースの断層パラメータ

項目		設定値
全体	面積※ (km ²)	128,598
	地震モーメント (Nm)	6.6×10^{22}
	Mw	9.1
	平均応力降下量 (MPa)	3.5
	平均すべり量 (m)	12.4
	最大すべり量 (m)	38.0
	剛性率 (N/m ²)	4.1×10^{10}
	破壊伝播速度 (km/s)	2.0
	ライズタイム (s)	150
	主部断層	面積※ (km ²)
地震モーメント (Nm)		4.5×10^{22}
平均すべり量 (m)		9.9
最大すべり量 (m)		38.0
浅部断層	面積※ (km ²)	18,873
	地震モーメント (Nm)	2.1×10^{22}
	平均すべり量 (m)	26.9
	最大すべり量 (m)	38.0

※津波断層域のうちすべりが発生している波源域の面積



検討波源モデルC (土木学会(2016)手法によるモデル)
の大すべり域の位置を東へ30kmとしたケース

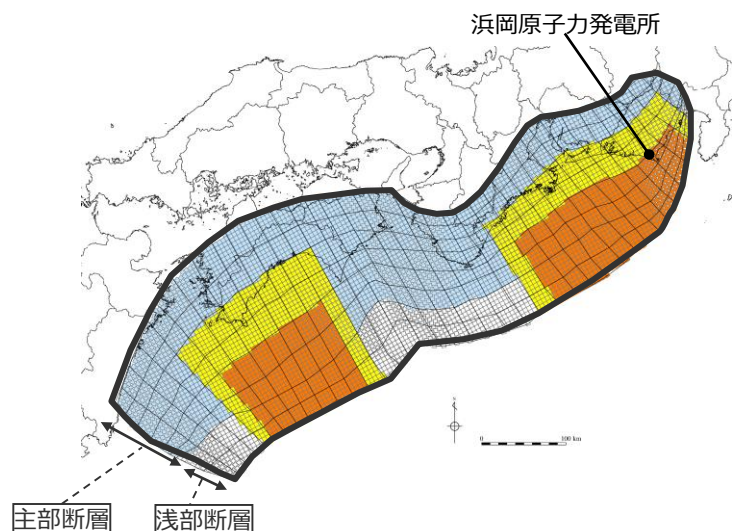
主部断層：深さ10km以深の断層

浅部断層：深さ10km以浅の断層

1 その他の検討波源モデルの詳細

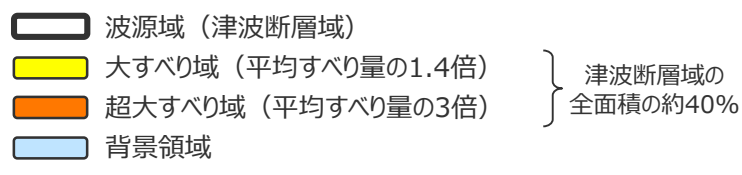
1-1 検討波源モデルCのパラメータスタディモデルの設定 (大すべり域の位置を東へ20kmとしたケースのすべり量分布の設定)

■「検討波源モデルC (土木学会(2016)手法によるモデル)」の大すべり域の位置を東へ20kmとしたケースの各小断層のすべり量分布は以下のとおり。



検討波源モデルC (土木学会(2016)手法によるモデル)
の大すべり域の位置を東へ20kmとしたケースのすべり量

断層モデル		面積 (km ²)	M ₀ (Nm)	M _w	Δσ (MPa)	最大すべり量(m)	平均すべり量(m)
検討波源モデルC (土木学会(2016)手法によるモデル) 大すべり域の位置を東へ20kmとしたケース	全体	129,091	6.6×10^{22}	9.1	3.5	38.0	12.5
	主部断層	109,725	4.5×10^{22}	9.0	3.0	38.0	9.9
	浅部断層	19,366	2.1×10^{22}	-	-	38.0	27.0



検討波源モデルC
(土木学会(2016)手法によるモデル)
の大すべり域の位置を東へ20kmとしたケース

検討波源モデルC (土木学会(2016)手法によるモデル)
の大すべり域の位置を東へ20kmとしたケースの小断層のすべり量分布 (m)

		西 ← → 東																																								
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38			
陸側	深度40km↓	1	3.7	3.7	3.6	3.6	3.5	3.5	3.2	3.1	3.0	2.9	2.9	2.8	2.8	2.7	2.7	2.7	2.6	2.6	2.6	2.5	2.5	2.5	2.5	2.4	2.6	2.3	2.3	1.9	1.9	1.5	1.5	1.5	1.5	1.4	1.4	1.0	1.0			
	30km↓	2	3.7	3.7	3.6	3.6	3.5	3.5	3.2	3.1	3.1	3.0	2.9	2.9	2.8	2.8	2.7	2.7	2.7	2.6	2.6	2.6	2.5	2.5	2.5	2.5	2.4	2.6	2.6	2.3	2.3	1.9	1.9	1.9	1.5	1.5	1.5	1.4	1.4	1.0	1.0	
海溝軸	20km↓	3	3.7	3.7	3.6	3.6	17.7	17.7	16.1	16.1	15.6	15.2	15.2	14.8	14.3	2.8	2.8	2.8	2.7	2.7	2.6	2.6	2.6	2.5	2.5	12.5	12.1	12.1	12.9	12.9	11.4	11.4	9.7	9.7	9.7	9.7	7.7	7.7	6.8	6.8	1.0	1.0
		4	3.7	3.7	3.6	3.6	17.7	17.7	16.1	16.1	15.6	15.6	15.2	14.8	14.8	2.8	2.8	2.8	2.7	2.7	2.7	2.6	2.6	2.5	2.5	12.5	12.5	12.1	14.6	12.9	12.9	11.4	9.7	9.7	9.7	9.7	7.7	7.7	6.8	6.8	1.0	1.0
海溝軸	10km↓	5	3.7	3.7	3.6	3.6	17.7	38.0	38.0	34.4	34.4	33.3	32.5	32.5	14.8	2.9	2.8	2.8	2.8	2.7	2.7	2.7	2.6	2.6	2.5	12.5	26.9	25.9	25.9	31.3	27.7	27.7	24.4	24.4	20.7	20.7	16.4	16.4	6.8	6.8	1.4	1.4
		6	3.7	3.7	3.6	3.6	17.7	38.0	38.0	34.4	34.4	34.4	33.3	33.3	32.5	14.8	2.9	2.8	2.8	2.8	2.7	2.7	2.7	2.6	2.6	2.5	12.7	26.9	26.9	25.9	31.3	31.3	27.7	27.7	24.4	24.4	20.7	20.7	16.4	6.8	6.8	1.4
陸側	0km↓	7	0.0	0.0	0.0	0.0	17.7	38.0	38.0	34.4	34.4	34.4	33.3	33.3	15.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	12.7	26.9	26.9	25.9	25.9	31.3	31.3	27.7	27.7	24.4	24.4	20.7	16.4	6.8	6.8	0.0	0.0
		8	0.0	0.0	0.0	0.0	18.2	38.0	38.0	38.0	34.4	34.4	33.3	33.3	15.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	12.7	27.2	26.9	25.9	25.9	31.3	31.3	31.3	27.7	27.7	24.4	20.7	16.4	6.8	6.8	0.0

- すべり量分布の番号は上記波源モデル図の各小断層に対し西側から東側に順に1列から38列まで設定。陸側から海溝軸側に1行から8行まで設定。
- 駿河湾内のトラフ軸付近の領域については、他の領域に比べ、プレート境界面の深さ10kmの位置がトラフ軸に近くなり、また、トラフ軸沿いの津波断層モデルの面積も狭くなることから、この領域は分岐断層的な運動をする領域とみなせる(内閣府2012)とされるが、敷地への影響の観点から大すべり域のすべり量ではなく超大すべり域のすべり量を設定。

1 その他の検討波源モデルの詳細

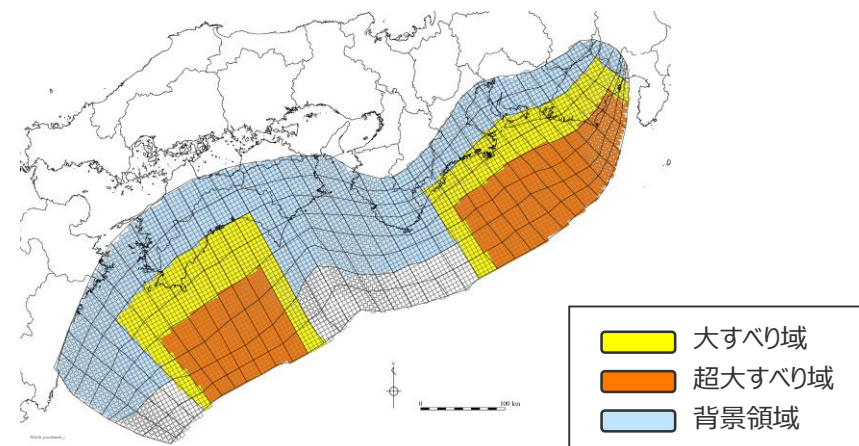
1-1 検討波源モデルCのパラメータスタディモデルの設定

(大すべり域の位置を東へ20kmとしたケースの断層パラメータの設定)

検討波源モデルC
(土木学会(2016)手法によるモデル)
の大すべり域の位置を東へ20kmとしたケースの断層パラメータ

項目		設定値
全体	面積※ (km ²)	129,091
	地震モーメント (Nm)	6.6×10 ²²
	Mw	9.1
	平均応力降下量 (MPa)	3.5
	平均すべり量 (m)	12.5
	最大すべり量 (m)	38.0
	剛性率 (N/m ²)	4.1×10 ¹⁰
	破壊伝播速度 (km/s)	2.0
	ライズタイム (s)	150
	主部断層	面積※ (km ²)
地震モーメント (Nm)		4.5×10 ²²
平均すべり量 (m)		9.9
最大すべり量 (m)		38.0
浅部断層	面積※ (km ²)	19,366
	地震モーメント (Nm)	2.1×10 ²²
	平均すべり量 (m)	27.0
	最大すべり量 (m)	38.0

※津波断層域のうちすべりが発生している波源域の面積



検討波源モデルC (土木学会(2016)手法によるモデル)
の大すべり域の位置を東へ20kmとしたケース

主部断層：深さ10km以深の断層
浅部断層：深さ10km以浅の断層

1 その他の検討波源モデルの詳細

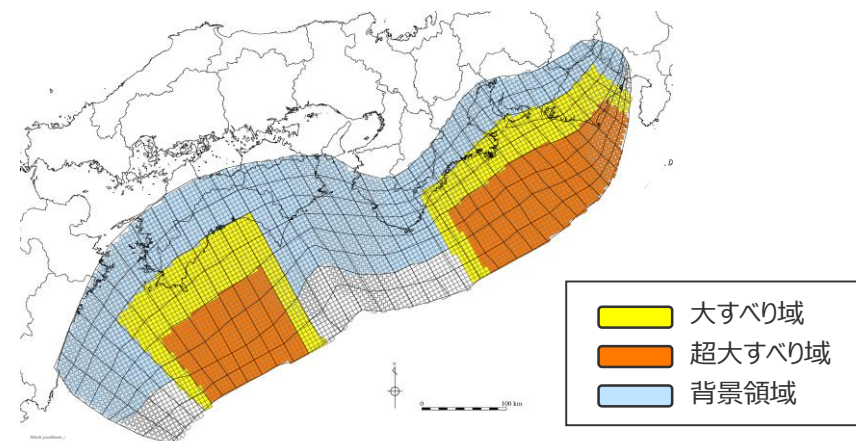
1-1 検討波源モデルCのパラメータスタディモデルの設定

(大すべり域の位置を東へ10kmとしたケースの断層パラメータの設定)

検討波源モデルC
(土木学会(2016)手法によるモデル)
の大すべり域の位置を東へ10kmとしたケースの断層パラメータ

項目		設定値
全体	面積※ (km ²)	129,534
	地震モーメント (Nm)	6.7×10^{22}
	Mw	9.1
	平均応力降下量 (MPa)	3.5
	平均すべり量 (m)	12.6
	最大すべり量 (m)	38.0
	剛性率 (N/m ²)	4.1×10^{10}
	破壊伝播速度 (km/s)	2.0
	ライズタイム (s)	150
	主部断層	面積※ (km ²)
地震モーメント (Nm)		4.5×10^{22}
平均すべり量 (m)		9.9
最大すべり量 (m)		38.0
浅部断層	面積※ (km ²)	19,810
	地震モーメント (Nm)	2.2×10^{22}
	平均すべり量 (m)	27.1
	最大すべり量 (m)	38.0

※津波断層域のうちすべりが発生している波源域の面積



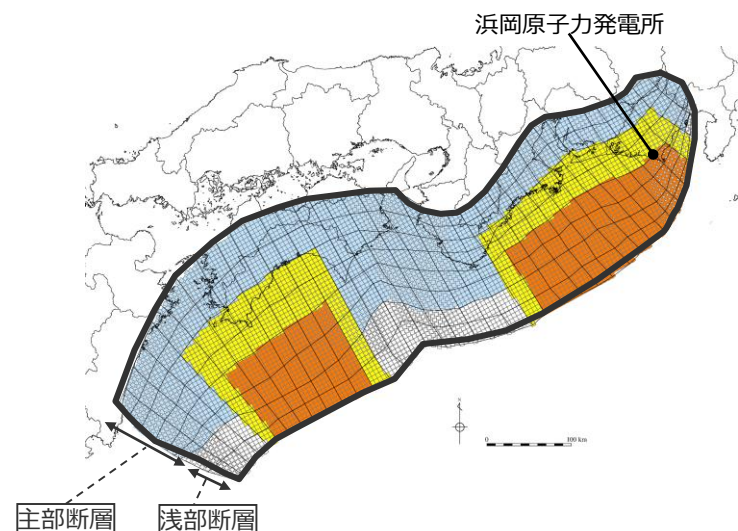
検討波源モデルC (土木学会(2016)手法によるモデル)
の大すべり域の位置を東へ10kmとしたケース

主部断層：深さ10km以深の断層
浅部断層：深さ10km以浅の断層

1 その他の検討波源モデルの詳細

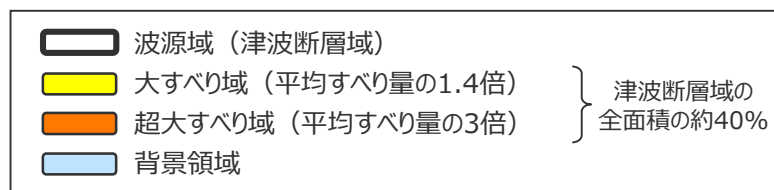
1-1 検討波源モデルCのパラメータスタディモデルの設定 (大すべり域の位置を基準位置としたケースのすべり量分布の設定)

■「検討波源モデルC（土木学会(2016)手法によるモデル）」の大すべり域の位置を基準位置としたケースの各小断層のすべり量分布は以下のとおり。



検討波源モデルC（土木学会(2016)手法によるモデル）
の大すべり域の位置を基準位置としたケースのすべり量

断層モデル		面積 (km ²)	M ₀ (Nm)	M _w	Δσ (MPa)	最大すべり量(m)	平均すべり量(m)
検討波源モデルC (土木学会(2016)手法によるモデル) 大すべり域の位置を基準位置としたケース	全体	129,927	6.7×10 ²²	9.2	3.5	38.0	12.6
	主部断層	109,725	4.5×10 ²²	9.0	3.0	38.0	9.9
	浅部断層	20,202	2.2×10 ²²	-	-	38.0	27.2



検討波源モデルC
(土木学会(2016)手法によるモデル)
の大すべり域の位置を基準位置としたケース

検討波源モデルC（土木学会(2016)手法によるモデル）
の大すべり域の位置を基準位置としたケースの小断層のすべり量分布 (m)

		西 ←																	⇒ 東																					
深度40km↓		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	
陸側⇕	30km↓	1	3.4	3.4	3.3	3.3	3.2	3.2	2.9	2.8	2.7	2.7	2.6	2.5	2.5	2.4	2.4	2.4	2.4	2.4	2.4	2.3	2.3	2.2	2.2	2.2	2.3	2.0	2.0	1.7	1.7	1.4	1.4	1.4	1.4	1.2	1.2	0.9	0.9	
	20km↓	2	3.4	3.4	3.3	3.3	3.2	3.2	2.9	2.8	2.8	2.7	2.7	2.6	2.5	2.4	2.4	2.4	2.4	2.4	2.4	2.3	2.3	2.2	2.2	2.2	2.3	2.3	2.0	2.0	1.7	1.7	1.7	1.4	1.4	1.4	1.2	1.2	0.9	
海溝軸⇕	10km↓	3	3.4	3.4	3.3	3.3	17.7	17.7	16.1	16.1	15.6	15.2	15.2	14.8	14.3	2.6	2.5	2.5	2.4	2.4	2.4	2.4	2.3	12.7	12.5	12.1	12.1	12.9	12.9	11.4	11.4	9.7	9.7	9.7	9.7	7.7	7.7	6.8	1.2	0.9
	0km↓	4	3.4	3.4	3.3	3.3	17.7	17.7	16.1	16.1	15.6	15.6	15.2	14.8	14.8	2.6	2.5	2.5	2.4	2.4	2.4	2.4	2.3	12.7	12.5	12.5	12.1	14.6	12.9	12.9	11.4	9.7	9.7	9.7	9.7	7.7	7.7	1.2	0.9	
⇓	10km↓	5	3.4	3.4	3.3	3.3	17.7	38.0	38.0	34.4	34.4	33.3	32.5	32.5	14.8	2.7	2.6	2.5	2.5	2.4	2.4	2.4	2.4	12.7	26.9	26.9	25.9	25.9	31.3	27.7	27.7	24.4	24.4	20.7	20.7	16.4	7.7	1.2	1.2	
	0km↓	6	3.4	3.4	3.3	3.3	17.7	38.0	38.0	34.4	34.4	34.4	33.3	33.3	15.2	2.7	2.6	2.5	2.5	2.5	2.4	2.4	2.4	12.7	27.2	26.9	26.9	25.9	31.3	31.3	27.7	27.7	24.4	24.4	20.7	20.7	7.7	1.2	1.2	
⇓	0km↓	7	0.0	0.0	0.0	0.0	17.7	38.0	38.0	34.4	34.4	34.4	33.3	33.3	15.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	12.7	27.2	26.9	26.9	25.9	25.9	31.3	31.3	27.7	27.7	24.4	24.4	20.7	7.7	0.0	0.0	
	0km↓	8	0.0	0.0	0.0	0.0	18.2	38.0	38.0	38.0	34.4	34.4	33.3	33.3	15.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	13.1	27.2	27.2	26.9	25.9	25.9	31.3	31.3	31.3	27.7	27.7	24.4	20.7	7.7	0.0	0.0	

- すべり量分布の番号は上記波源モデル図の各小断層に対し西側から東側に順に1列から38列まで設定。陸側から海溝軸側に1行から8行まで設定。
- 駿河湾内のトラフ軸付近の領域については、他の領域に比べ、プレート境界面の深さ10kmの位置がトラフ軸に近くなり、また、トラフ軸沿いの津波断層モデルの面積も狭くなることから、この領域は分岐断層的な運動をする領域とみなせる（内閣府2012）とされるが、敷地への影響の観点から大すべり域のすべり量ではなく超大すべり域のすべり量を設定。

1 その他の検討波源モデルの詳細

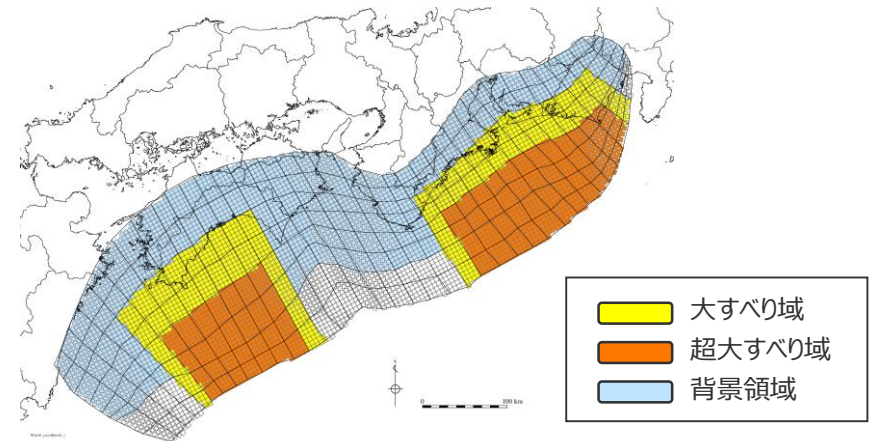
1-1 検討波源モデルCのパラメータスタディモデルの設定

(大すべり域の位置を基準位置としたケースの断層パラメータの設定)

検討波源モデルC
 (土木学会(2016)手法によるモデル)
 の大すべり域の位置を基準位置としたケースの断層パラメータ

項目		設定値
全体	面積※ (km ²)	129,927
	地震モーメント (Nm)	6.7×10 ²²
	Mw	9.2
	平均応力降下量 (MPa)	3.5
	平均すべり量 (m)	12.6
	最大すべり量 (m)	38.0
	剛性率 (N/m ²)	4.1×10 ¹⁰
	破壊伝播速度 (km/s)	2.0
	ライズタイム (s)	150
	主部断層	面積※ (km ²)
地震モーメント (Nm)		4.5×10 ²²
平均すべり量 (m)		9.9
最大すべり量 (m)		38.0
浅部断層	面積※ (km ²)	20,202
	地震モーメント (Nm)	2.2×10 ²²
	平均すべり量 (m)	27.2
	最大すべり量 (m)	38.0

※津波断層域のうちすべりが発生している波源域の面積



検討波源モデルC (土木学会(2016)手法によるモデル)
 の大すべり域の位置を基準位置としたケース

主部断層：深さ10km以深の断層
 浅部断層：深さ10km以浅の断層

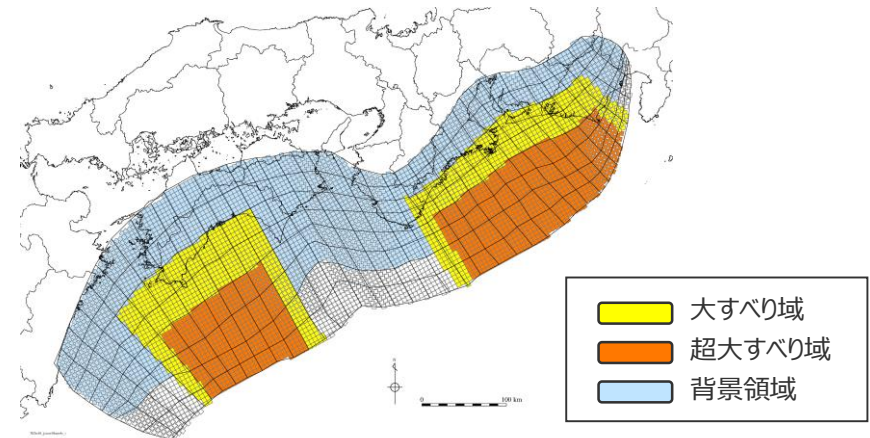
1 その他の検討波源モデルの詳細

1-1 検討波源モデルCのパラメータスタディモデルの設定 (大すべり域の位置を西へ10kmとしたケースの断層パラメータの設定)

検討波源モデルC
(土木学会(2016)手法によるモデル)
の大すべり域の位置を西へ10kmとしたケースの断層パラメータ

項目		設定値
全体	面積※ (km ²)	130,296
	地震モーメント (Nm)	6.8×10^{22}
	Mw	9.2
	平均応力降下量 (MPa)	3.5
	平均すべり量 (m)	12.7
	最大すべり量 (m)	38.0
	剛性率 (N/m ²)	4.1×10^{10}
	破壊伝播速度 (km/s)	2.0
	ライズタイム (s)	150
	主部断層	面積※ (km ²)
地震モーメント (Nm)		4.5×10^{22}
平均すべり量 (m)		9.9
最大すべり量 (m)		38.0
浅部断層	面積※ (km ²)	20,571
	地震モーメント (Nm)	2.3×10^{22}
	平均すべり量 (m)	27.3
	最大すべり量 (m)	38.0

※津波断層域のうちすべりが発生している波源域の面積



検討波源モデルC (土木学会(2016)手法によるモデル)
の大すべり域の位置を西へ10kmとしたケース

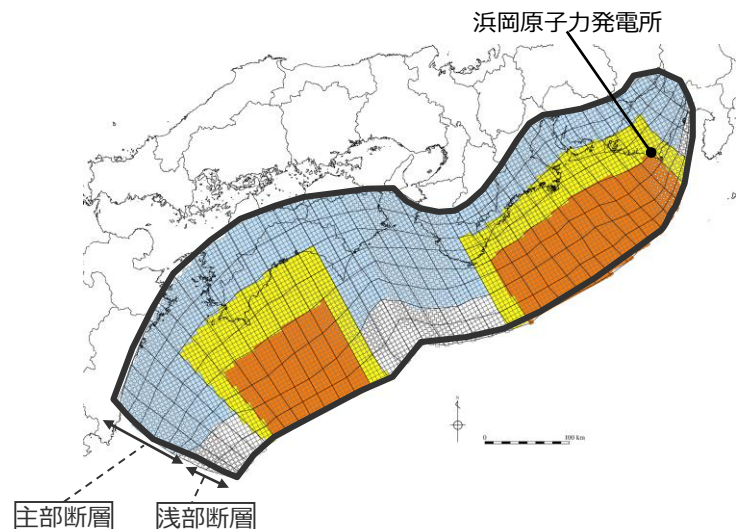
主部断層：深さ10km以深の断層
浅部断層：深さ10km以浅の断層

1 その他の検討波源モデルの詳細

1-1 検討波源モデルCのパラメータスタディモデルの設定

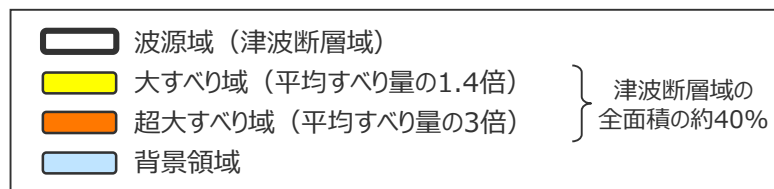
(大すべり域の位置を西へ20kmとしたケースのすべり量分布の設定)

■「検討波源モデルC（土木学会(2016)手法によるモデル）」の大すべり域の位置を西へ20kmとしたケースの各小断層のすべり量分布は以下のとおり。



検討波源モデルC（土木学会(2016)手法によるモデル）
の大すべり域の位置を西へ20kmとしたケースのすべり量

断層モデル		面積 (km ²)	M ₀ (Nm)	M _w	Δσ (MPa)	最大すべり量(m)	平均すべり量(m)
検討波源モデルC (土木学会(2016)手法によるモデル) 大すべり域の位置を西へ20kmとしたケース	全体	130,639	6.8×10 ²²	9.2	3.5	38.0	12.7
	主部断層	109,725	4.5×10 ²²	9.0	3.0	38.0	9.9
	浅部断層	20,915	2.3×10 ²²	-	-	38.0	27.3



検討波源モデルC
(土木学会(2016)手法によるモデル)
の大すべり域の位置を西へ20kmとしたケース

検討波源モデルC（土木学会(2016)手法によるモデル）
の大すべり域の位置を西へ20kmとしたケースの小断層のすべり量分布 (m)

		西 ←																	→ 東																					
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	
陸側	深度40km↓	1	3.1	3.1	3.0	3.0	2.9	2.9	2.6	2.5	2.5	2.4	2.4	2.3	2.3	2.2	2.2	2.2	2.1	2.1	2.1	2.1	2.1	2.0	2.0	2.0	2.1	1.8	1.8	1.6	1.6	1.2	1.2	1.2	1.2	1.1	1.1	0.8	0.8	
	30km↓	2	3.1	3.1	3.0	3.0	2.9	2.9	2.6	2.5	2.5	2.5	2.4	2.4	2.3	2.3	2.2	2.2	2.2	2.1	2.1	2.1	2.1	2.1	2.0	2.0	2.0	2.1	1.8	1.8	1.6	1.6	1.6	1.2	1.2	1.2	1.1	1.1	0.8	
海溝軸	20km↓	3	3.1	3.1	3.0	3.0	17.7	17.7	16.1	16.1	15.6	15.2	15.2	14.8	14.3	2.3	2.3	2.3	2.2	2.2	2.1	2.1	2.1	12.7	12.7	12.5	12.1	12.1	12.9	12.9	11.4	11.4	9.7	9.7	9.7	7.7	7.7	1.1	1.1	0.8
	10km↓	4	3.1	3.1	3.0	3.0	17.7	17.7	16.1	16.1	15.6	15.6	15.2	14.8	14.8	2.3	2.3	2.3	2.2	2.2	2.2	2.1	2.1	12.7	12.7	12.5	12.5	12.1	14.6	12.9	12.9	11.4	9.7	9.7	9.7	9.7	7.7	1.2	1.1	0.8
海溝軸	10km↓	5	3.1	3.1	3.0	3.0	17.7	38.0	38.0	34.4	34.4	33.3	32.5	32.5	14.8	2.4	2.3	2.3	2.3	2.2	2.2	2.2	2.1	13.1	27.2	26.9	26.9	25.9	25.9	31.3	27.7	27.7	24.4	24.4	20.7	20.7	7.7	1.2	1.1	1.1
	10km↓	6	3.1	3.1	3.0	3.0	17.7	38.0	38.0	34.4	34.4	34.4	33.3	33.3	32.5	14.8	2.4	2.3	2.3	2.3	2.2	2.2	2.1	13.1	27.2	27.2	26.9	26.9	25.9	31.3	31.3	27.7	27.7	24.4	24.4	20.7	9.7	1.2	1.1	1.1
海溝軸	0km↓	7	0.0	0.0	0.0	0.0	17.7	38.0	38.0	34.4	34.4	34.4	33.3	33.3	15.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	13.1	27.2	27.2	26.9	26.9	25.9	25.9	31.3	31.3	27.7	27.7	24.4	24.4	9.7	0.0	0.0	0.0
	0km↓	8	0.0	0.0	0.0	0.0	18.2	38.0	38.0	38.0	34.4	34.4	33.3	33.3	15.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	13.1	28.1	27.2	27.2	26.9	25.9	25.9	31.3	31.3	31.3	27.7	27.7	24.4	9.7	0.0	0.0	0.0

- すべり量分布の番号は上記波源モデル図の各小断層に対し西側から東側に順に1列から38列まで設定。陸側から海溝軸側に1行から8行まで設定。
- 駿河湾内のトラフ軸付近の領域については、他の領域に比べ、プレート境界面の深さ10kmの位置がトラフ軸に近くなり、また、トラフ軸沿いの津波断層モデルの面積も狭くなることから、この領域は分岐断層的な運動をする領域とみなせる（内閣府2012）とされるが、敷地への影響の観点から大すべり域のすべり量ではなく超大すべり域のすべり量を設定。

1 その他の検討波源モデルの詳細

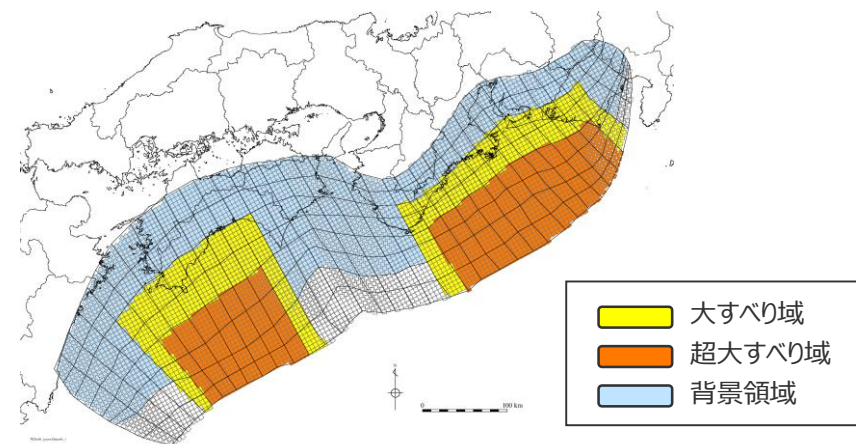
1-1 検討波源モデルCのパラメータスタディモデルの設定

(大すべり域の位置を西へ20kmとしたケースの断層パラメータの設定)

検討波源モデルC
(土木学会(2016)手法によるモデル)
の大すべり域の位置を西へ20kmとしたケースの断層パラメータ

項目		設定値
全体	面積※ (km ²)	130,639
	地震モーメント (Nm)	6.8×10^{22}
	Mw	9.2
	平均応力降下量 (MPa)	3.5
	平均すべり量 (m)	12.7
	最大すべり量 (m)	38.0
	剛性率 (N/m ²)	4.1×10^{10}
	破壊伝播速度 (km/s)	2.0
	ライズタイム (s)	150
主部断層	面積※ (km ²)	109,725
	地震モーメント (Nm)	4.5×10^{22}
	平均すべり量 (m)	9.9
	最大すべり量 (m)	38.0
浅部断層	面積※ (km ²)	20,915
	地震モーメント (Nm)	2.3×10^{22}
	平均すべり量 (m)	27.3
	最大すべり量 (m)	38.0

※津波断層域のうちすべりが発生している波源域の面積



検討波源モデルC (土木学会(2016)手法によるモデル)
の大すべり域の位置を西へ20kmとしたケース

主部断層：深さ10km以深の断層
浅部断層：深さ10km以浅の断層

1 その他の検討波源モデルの詳細

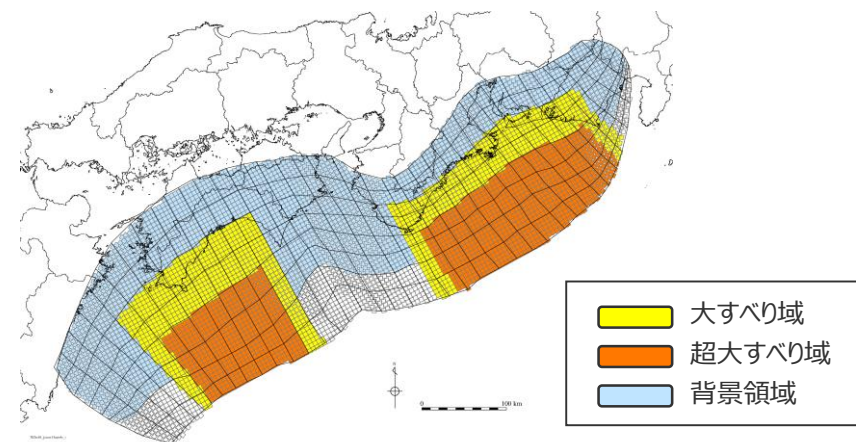
1-1 検討波源モデルCのパラメータスタディモデルの設定

(大すべり域の位置を西へ30kmとしたケースの断層パラメータの設定)

検討波源モデルC
 (土木学会(2016)手法によるモデル)
 の大すべり域の位置を西へ30kmとしたケースの断層パラメータ

項目		設定値
全体	面積※ (km ²)	130,961
	地震モーメント (Nm)	6.9×10^{22}
	Mw	9.2
	平均応力降下量 (MPa)	3.5
	平均すべり量 (m)	12.8
	最大すべり量 (m)	38.0
	剛性率 (N/m ²)	4.1×10^{10}
	破壊伝播速度 (km/s)	2.0
	ライズタイム (s)	150
	主部断層	面積※ (km ²)
地震モーメント (Nm)		4.5×10^{22}
平均すべり量 (m)		9.9
最大すべり量 (m)		38.0
浅部断層	面積※ (km ²)	21,237
	地震モーメント (Nm)	2.4×10^{22}
	平均すべり量 (m)	27.4
	最大すべり量 (m)	38.0

※津波断層域のうちすべりが発生している波源域の面積



検討波源モデルC (土木学会(2016)手法によるモデル)
 の大すべり域の位置を西へ30kmとしたケース

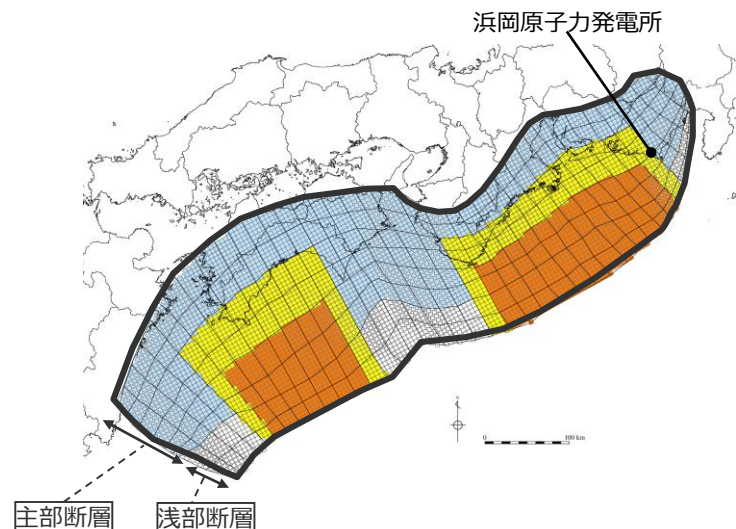
主部断層：深さ10km以深の断層
 浅部断層：深さ10km以浅の断層

1 その他の検討波源モデルの詳細

1-1 検討波源モデルCのパラメータスタディモデルの設定

(大すべり域の位置を西へ40kmとしたケースのすべり量分布の設定)

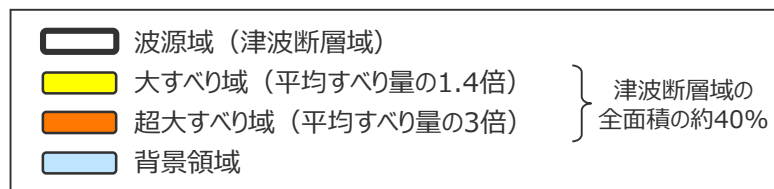
■「検討波源モデルC（土木学会(2016)手法によるモデル）」の大すべり域の位置を西へ40kmとしたケースの各小断層のすべり量分布は以下のとおり。



検討波源モデルC
(土木学会(2016)手法によるモデル)
の大すべり域の位置を西へ40kmとしたケース

検討波源モデルC（土木学会(2016)手法によるモデル）
の大すべり域の位置を西へ40kmとしたケースのすべり量

断層モデル		面積 (km ²)	M ₀ (Nm)	Mw	Δσ (MPa)	最大すべり量(m)	平均すべり量(m)
検討波源モデルC (土木学会(2016)手法によるモデル) 大すべり域の位置を西へ40kmとしたケース	全体	131,156	6.9×10 ²²	9.2	3.5	38.0	12.8
	主部断層	109,725	4.5×10 ²²	9.0	3.0	38.0	9.9
	浅部断層	21,432	2.4×10 ²²	-	-	38.0	27.6



検討波源モデルC（土木学会(2016)手法によるモデル）
の大すべり域の位置を西へ40kmとしたケースの小断層のすべり量分布 (m)

		西 ←																	→ 東																				
陸側 ⇄ 海溝軸 ⇄	深度40km↓	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38
		30km↓	1	2.8	2.8	2.7	2.7	2.6	2.6	2.4	2.3	2.2	2.2	2.2	2.1	2.0	2.0	2.0	2.0	1.9	1.9	1.9	1.9	1.9	1.8	1.8	1.8	1.9	1.7	1.7	1.4	1.4	1.1	1.1	1.1	1.1	1.0	1.0	0.7
	20km↓	2	2.8	2.8	2.7	2.7	2.6	2.6	2.4	2.3	2.3	2.2	2.2	2.1	2.0	2.0	2.0	2.0	1.9	1.9	1.9	1.9	1.9	1.8	1.8	1.8	1.9	1.9	1.7	1.7	1.4	1.4	1.4	1.1	1.1	1.1	1.0	1.0	0.7
		3	2.8	2.8	2.7	2.7	17.7	17.7	16.1	16.1	15.6	15.2	15.2	14.8	14.3	2.1	2.0	2.0	2.0	2.0	1.9	1.9	13.1	12.7	12.7	12.5	12.1	12.1	12.9	12.9	11.4	11.4	9.7	9.7	9.7	9.7	1.1	1.0	1.0
	10km↓	4	2.8	2.8	2.7	2.7	17.7	17.7	16.1	16.1	15.6	15.6	15.2	14.8	14.8	2.1	2.0	2.0	2.0	2.0	1.9	13.1	12.7	12.7	12.5	12.5	12.1	14.6	12.9	12.9	11.4	9.7	9.7	9.7	9.7	1.1	1.1	1.0	0.7
		5	2.8	2.8	2.7	2.7	17.7	38.0	38.0	34.4	34.4	33.3	32.5	32.5	14.8	2.2	2.1	2.0	2.0	2.0	2.0	13.1	28.1	27.2	26.9	26.9	25.9	25.9	31.3	27.7	27.7	24.4	24.4	20.7	9.7	1.1	1.1	1.0	1.0
	0km↓	6	2.8	2.8	2.7	2.7	17.7	38.0	38.0	34.4	34.4	34.4	33.3	33.3	15.2	2.2	2.1	2.0	2.0	2.0	13.1	28.1	27.2	27.2	26.9	26.9	25.9	31.3	31.3	27.7	27.7	24.4	24.4	9.7	1.4	1.1	1.0	1.0	
		7	0.0	0.0	0.0	0.0	17.7	38.0	38.0	34.4	34.4	34.4	33.3	33.3	15.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	13.6	28.1	27.2	27.2	26.9	26.9	25.9	25.9	31.3	31.3	27.7	27.7	24.4	11.4	0.0	0.0	0.0	0.0
	8	0.0	0.0	0.0	0.0	18.2	38.0	38.0	38.0	34.4	34.4	33.3	33.3	15.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	13.6	28.1	28.1	27.2	27.2	26.9	25.9	25.9	31.3	31.3	31.3	27.7	27.7	11.4	0.0	0.0	0.0	0.0	

- すべり量分布の番号は上記波源モデル図の各小断層に対し西側から東側に順に1列から38列まで設定。陸側から海溝軸側に1行から8行まで設定。
- 駿河湾内のトラフ軸付近の領域については、他の領域に比べ、プレート境界面の深さ10kmの位置がトラフ軸に近くなり、また、トラフ軸沿いの津波断層モデルの面積も狭くなることから、この領域は分岐断層的な運動をする領域とみなせる（内閣府2012）とされるが、敷地への影響の観点から大すべり域のすべり量ではなく超大すべり域のすべり量を設定。

1 その他の検討波源モデルの詳細

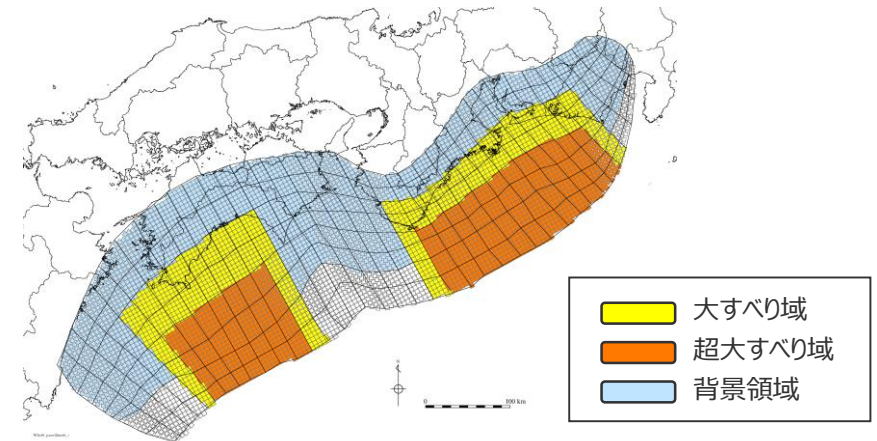
1-1 検討波源モデルCのパラメータスタディモデルの設定

(大すべり域の位置を西へ40kmとしたケースの断層パラメータの設定)

検討波源モデルC
(土木学会(2016)手法によるモデル)
の大すべり域の位置を西へ40kmとしたケースの断層パラメータ

項目		設定値
全体	面積※ (km ²)	131,156
	地震モーメント (Nm)	6.9×10^{22}
	Mw	9.2
	平均応力降下量 (MPa)	3.5
	平均すべり量 (m)	12.8
	最大すべり量 (m)	38.0
	剛性率 (N/m ²)	4.1×10^{10}
	破壊伝播速度 (km/s)	2.0
	ライズタイム (s)	150
	主部断層	面積※ (km ²)
地震モーメント (Nm)		4.5×10^{22}
平均すべり量 (m)		9.9
最大すべり量 (m)		38.0
浅部断層	面積※ (km ²)	21,432
	地震モーメント (Nm)	2.4×10^{22}
	平均すべり量 (m)	27.6
	最大すべり量 (m)	38.0

※津波断層域のうちすべりが発生している波源域の面積



検討波源モデルC (土木学会(2016)手法によるモデル)
の大すべり域の位置を西へ40kmとしたケース

主部断層：深さ10km以深の断層
浅部断層：深さ10km以浅の断層

1 その他の検討波源モデルの詳細

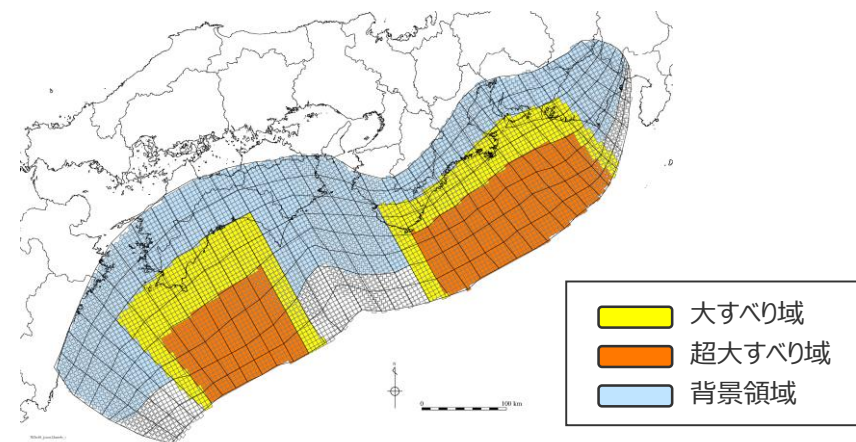
1-1 検討波源モデルCのパラメータスタディモデルの設定

(大すべり域の位置を西へ50kmとしたケースの断層パラメータの設定)

検討波源モデルC
(土木学会(2016)手法によるモデル)
の大すべり域の位置を西へ50kmとしたケースの断層パラメータ

項目		設定値
全体	面積※ (km ²)	130,901
	地震モーメント (Nm)	6.9×10^{22}
	Mw	9.2
	平均応力降下量 (MPa)	3.5
	平均すべり量 (m)	12.8
	最大すべり量 (m)	38.0
	剛性率 (N/m ²)	4.1×10^{10}
	破壊伝播速度 (km/s)	2.0
	ライズタイム (s)	150
	主部断層	面積※ (km ²)
地震モーメント (Nm)		4.5×10^{22}
平均すべり量 (m)		9.9
最大すべり量 (m)		38.0
浅部断層	面積※ (km ²)	21,176
	地震モーメント (Nm)	2.4×10^{22}
	平均すべり量 (m)	27.6
	最大すべり量 (m)	38.0

※津波断層域のうちすべりが発生している波源域の面積



検討波源モデルC (土木学会(2016)手法によるモデル)
の大すべり域の位置を西へ50kmとしたケース

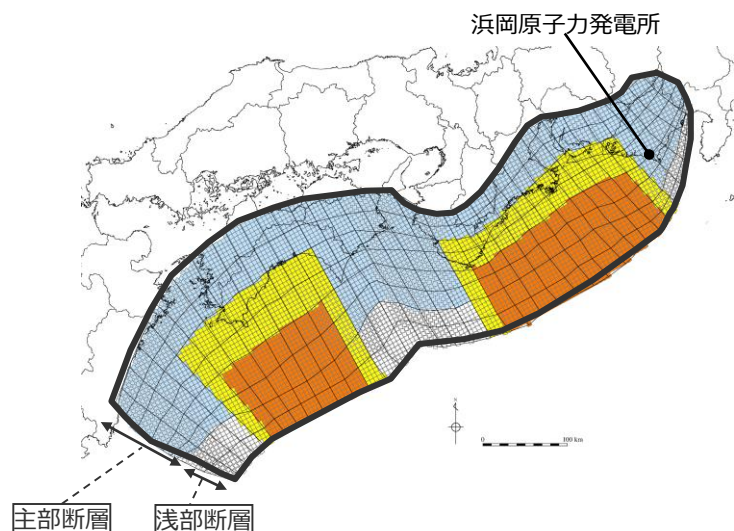
主部断層：深さ10km以深の断層
浅部断層：深さ10km以浅の断層

1 その他の検討波源モデルの詳細

1-1 検討波源モデルCのパラメータスタディモデルの設定

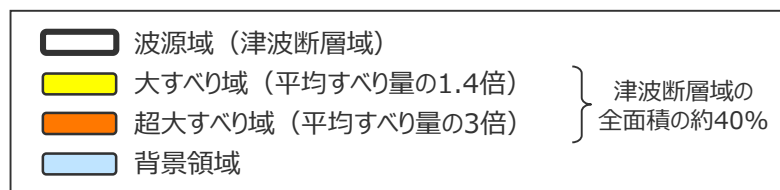
(大すべり域の位置を西へ60kmとしたケースのすべり量分布の設定)

■「検討波源モデルC（土木学会(2016)手法によるモデル）」の大すべり域の位置を西へ60kmとしたケースの各小断層のすべり量分布は以下のとおり。



検討波源モデルC（土木学会(2016)手法によるモデル）
の大すべり域の位置を西へ60kmとしたケースのすべり量

断層モデル		面積 (km ²)	M ₀ (Nm)	M _w	Δσ (MPa)	最大すべり量(m)	平均すべり量(m)
検討波源モデルC (土木学会(2016)手法によるモデル) 大すべり域の位置を西へ60kmとしたケース	全体	130,620	6.8×10 ²²	9.2	3.5	38.0	12.8
	主部断層	109,725	4.5×10 ²²	9.0	3.0	38.0	9.9
	浅部断層	20,896	2.4×10 ²²	-	-	38.0	27.6



検討波源モデルC
(土木学会(2016)手法によるモデル)
の大すべり域の位置を西へ60kmとしたケース

検討波源モデルC（土木学会(2016)手法によるモデル）
の大すべり域の位置を西へ60kmとしたケースの小断層のすべり量分布 (m)

		西 ←																	⇒ 東																							
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38			
陸側⇕	深度40km↓	1	3.2	3.2	3.1	3.1	3.0	3.0	2.7	2.6	2.6	2.5	2.5	2.4	2.4	2.3	2.3	2.3	2.2	2.2	2.2	2.2	2.2	2.1	2.1	2.1	2.2	1.9	1.9	1.6	1.6	1.3	1.3	1.3	1.3	1.2	1.2	0.8	0.8			
	30km↓	2	3.2	3.2	3.1	3.1	3.0	3.0	2.7	2.6	2.6	2.6	2.5	2.5	2.4	2.4	2.3	2.3	2.3	2.2	2.2	2.2	2.2	2.1	2.1	2.1	2.2	2.2	1.9	1.9	1.6	1.6	1.6	1.3	1.3	1.3	1.2	1.2	0.8	0.8		
海溝軸⇕	20km↓	3	3.2	3.2	3.1	3.1	17.7	17.7	16.1	16.1	15.6	15.2	15.2	14.8	14.3	2.4	2.4	2.4	2.3	2.3	2.2	2.2	13.1	12.7	12.7	12.5	12.1	12.1	12.9	12.9	11.4	11.4	9.7	9.7	9.7	1.3	1.3	1.2	1.2	0.8	0.8	
	10km↓	4	3.2	3.2	3.1	3.1	17.7	17.7	16.1	16.1	15.6	15.6	15.2	14.8	14.8	2.4	2.4	2.4	2.3	2.3	2.3	2.2	13.1	12.7	12.7	12.5	12.5	12.1	14.6	12.9	12.9	11.4	9.7	9.7	9.7	1.6	1.3	1.3	1.2	0.8	0.8	
⇓	0km↓	5	3.2	3.2	3.1	3.1	17.7	38.0	38.0	34.4	34.4	33.3	32.5	32.5	14.8	2.5	2.4	2.4	2.4	2.3	2.3	2.3	13.1	28.1	27.2	26.9	26.9	25.9	25.9	31.3	27.7	27.7	24.4	24.4	9.7	1.6	1.3	1.3	1.2	1.2	0.8	0.8
	8	0.0	0.0	0.0	0.0	17.7	38.0	38.0	34.4	34.4	34.4	33.3	33.3	15.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	13.6	28.1	27.2	27.2	26.9	26.9	25.9	25.9	31.3	31.3	27.7	27.7	11.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	8	0.0	0.0	0.0	0.0	18.2	38.0	38.0	38.0	34.4	34.4	33.3	33.3	15.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	13.6	28.1	28.1	27.2	27.2	26.9	25.9	25.9	31.3	31.3	31.3	27.7	12.9	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

- すべり量分布の番号は上記波源モデル図の各小断層に対し西側から東側に順に1列から38列まで設定。陸側から海溝軸側に1行から8行まで設定。
- 駿河湾内のトラフ軸付近の領域については、他の領域に比べ、プレート境界面の深さ10km の位置がトラフ軸に近くなり、また、トラフ軸沿いの津波断層モデルの面積も狭くなることから、この領域は分岐断層的な運動をする領域とみなせる（内閣府2012）とされるが、敷地への影響の観点から大すべり域のすべり量ではなく超大すべり域のすべり量を設定。

1 その他の検討波源モデルの詳細

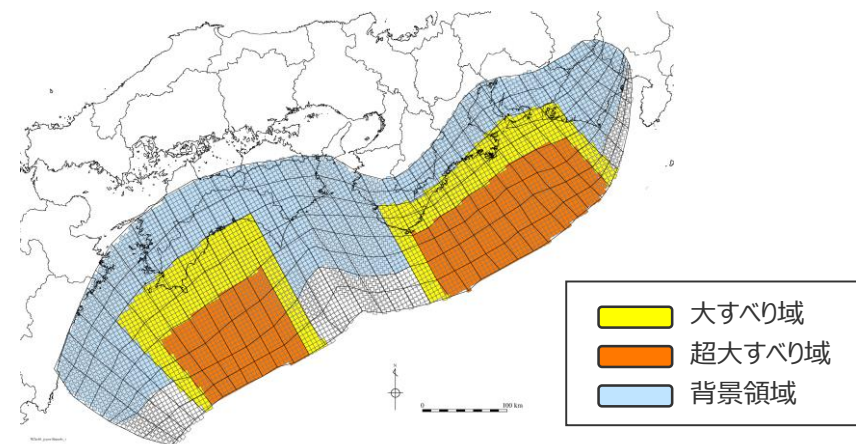
1-1 検討波源モデルCのパラメータスタディモデルの設定

(大すべり域の位置を西へ60kmとしたケースの断層パラメータの設定)

検討波源モデルC
 (土木学会(2016)手法によるモデル)
 の大すべり域の位置を西へ60kmとしたケースの断層パラメータ

項目		設定値
全体	面積※ (km ²)	130,620
	地震モーメント (Nm)	6.8×10^{22}
	Mw	9.2
	平均応力降下量 (MPa)	3.5
	平均すべり量 (m)	12.8
	最大すべり量 (m)	38.0
	剛性率 (N/m ²)	4.1×10^{10}
	破壊伝播速度 (km/s)	2.0
	ライズタイム (s)	150
主部断層	面積※ (km ²)	109,725
	地震モーメント (Nm)	4.5×10^{22}
	平均すべり量 (m)	9.9
	最大すべり量 (m)	38.0
浅部断層	面積※ (km ²)	20,896
	地震モーメント (Nm)	2.4×10^{22}
	平均すべり量 (m)	27.6
	最大すべり量 (m)	38.0

※津波断層域のうちすべりが発生している波源域の面積



検討波源モデルC (土木学会(2016)手法によるモデル)
 の大すべり域の位置を西へ60kmとしたケース

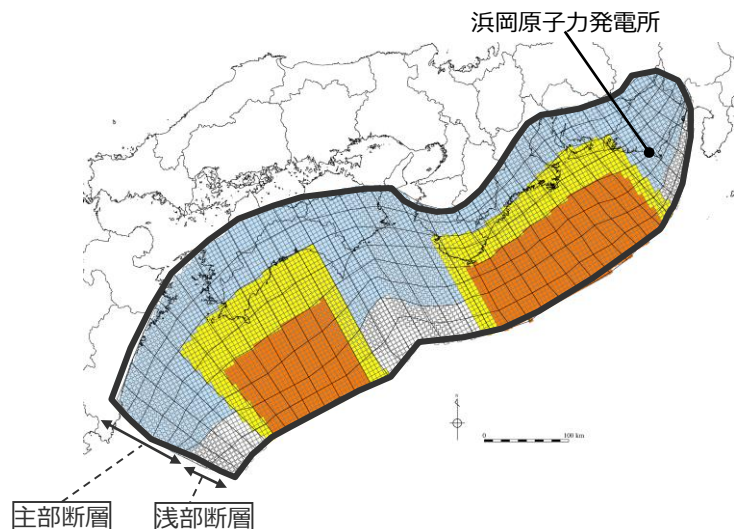
主部断層：深さ10km以深の断層
 浅部断層：深さ10km以浅の断層

1 その他の検討波源モデルの詳細

1-1 検討波源モデルCのパラメータスタディモデルの設定

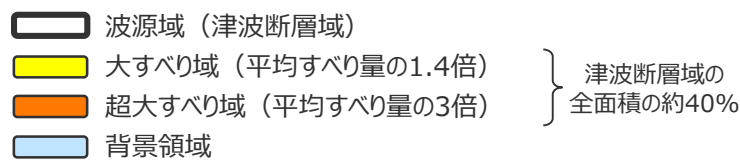
(大すべり域の位置を西へ70kmとしたケースのすべり量分布の設定)

■「検討波源モデルC（土木学会(2016)手法によるモデル）」の大すべり域の位置を西へ70kmとしたケースの各小断層のすべり量分布は以下のとおり。



検討波源モデルC（土木学会(2016)手法によるモデル）
の大すべり域の位置を西へ70kmとしたケースのすべり量

断層モデル		面積 (km ²)	M ₀ (Nm)	Mw	Δσ (MPa)	最大すべり量(m)	平均すべり量(m)
検討波源モデルC (土木学会(2016)手法によるモデル) 大すべり域の位置を西へ70kmとしたケース	全体	130,844	6.9×10 ²²	9.2	3.5	38.0	12.8
	主部断層	109,725	4.5×10 ²²	9.0	3.0	38.0	9.9
	浅部断層	21,120	2.4×10 ²²	-	-	38.0	27.6



検討波源モデルC
(土木学会(2016)手法によるモデル)
の大すべり域の位置を西へ70kmとしたケース

検討波源モデルC（土木学会(2016)手法によるモデル）
の大すべり域の位置を西へ70kmとしたケースの小断層のすべり量分布 (m)

		西 ← → 東																																																																																			
深度		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38																																														
陸側 ⇕ 海溝軸	40km↓	w	e	w	e	w	e	w	e	w	e	w	e	w	e	w	e	w	e	w	e	w	e	w	e	w	e	w	e	w	e	w	e	w	e	w	e	w	e	w	e																																												
	30km↓	1	3.1	3.1	3.1	3.1	3.0	3.0	3.0	3.0	2.9	2.9	2.9	2.9	2.7	2.7	2.6	2.6	2.5	2.5	2.5	2.5	2.4	2.4	2.3	2.3	2.3	2.2	2.2	2.2	2.2	2.2	2.2	2.2	2.2	2.1	2.1	2.1	2.1	2.1	2.1	2.1	2.1	2.1	2.0	2.0	2.1	2.1	1.9	1.9	1.9	1.9	1.6	1.6	1.6	1.6	1.3	1.3	1.3	1.3	1.3	1.3	1.1	1.1	1.1	1.1	0.8	0.8	0.8	0.8															
	20km↓	2	3.1	3.1	3.1	3.1	3.0	3.0	3.0	3.0	2.9	2.9	2.9	2.9	2.7	2.7	2.6	2.6	2.6	2.5	2.5	2.5	2.5	2.4	2.4	2.3	2.3	2.2	2.2	2.2	2.2	2.2	2.2	2.2	2.1	2.1	2.1	2.1	2.1	2.1	2.1	2.1	2.1	2.0	2.0	2.1	2.1	1.9	1.9	1.9	1.9	1.6	1.6	1.6	1.6	1.3	1.3	1.3	1.3	1.3	1.3	1.1	1.1	1.1	1.1	0.8	0.8																		
		3	3.1	3.1	3.1	3.1	3.0	3.0	3.0	3.0	17.7	17.7	17.7	17.7	16.1	16.1	16.1	16.1	15.6	15.6	15.2	15.2	15.2	14.8	14.8	14.3	14.3	2.4	2.4	2.3	2.3	2.3	2.2	2.2	2.2	2.2	2.2	2.2	2.2	2.1	13.1	13.1	13.1	12.7	12.7	12.7	12.5	12.5	12.1	12.1	12.1	12.1	12.9	12.9	12.9	12.9	11.4	11.4	11.4	9.7	9.7	9.7	9.7	1.6	1.6	1.3	1.3	1.3	1.3	1.1	1.1	1.1	1.1	0.8	0.8										
	10km↓	4	3.1	3.1	3.1	3.1	3.0	3.0	3.0	3.0	17.7	17.7	17.7	17.7	16.1	16.1	16.1	16.1	15.6	15.6	15.2	15.2	14.8	14.8	14.3	14.3	2.4	2.4	2.3	2.3	2.3	2.2	2.2	2.2	2.2	2.2	2.2	2.2	2.1	13.1	13.1	13.1	12.7	12.7	12.7	12.5	12.5	12.1	12.1	12.1	12.1	14.6	14.6	12.9	12.9	12.9	12.9	11.4	11.4	9.7	9.7	9.7	9.7	1.6	1.6	1.6	1.3	1.3	1.3	1.3	1.1	1.1	1.1	1.1	0.8	0.8									
		5	3.1	3.1	3.1	3.1	3.0	3.0	3.0	3.0	17.7	17.7	17.7	17.7	16.1	16.1	16.1	16.1	15.6	15.6	15.2	15.2	14.8	14.8	14.3	14.3	2.5	2.5	2.4	2.4	2.3	2.3	2.3	2.2	2.2	2.2	2.2	2.2	2.2	2.1	13.6	13.6	13.1	13.1	12.8	12.8	12.7	12.7	12.7	12.7	12.5	12.5	12.5	12.5	12.1	12.1	12.1	12.1	14.6	14.6	12.9	12.9	12.9	12.9	11.4	11.4	9.7	9.7	9.7	9.7	1.6	1.6	1.6	1.3	1.3	1.3	1.3	1.1	1.1	1.1	1.1	0.8	0.8		
	0km↓	6	3.1	3.1	3.1	3.1	3.0	3.0	3.0	3.0	17.7	17.7	17.7	17.7	16.1	16.1	16.1	16.1	15.6	15.6	15.2	15.2	14.8	14.8	14.3	14.3	2.5	2.5	2.4	2.4	2.3	2.3	2.3	2.3	2.2	2.2	2.2	2.2	2.2	2.2	2.1	13.6	13.6	13.1	13.1	12.8	12.8	12.7	12.7	12.7	12.7	12.5	12.5	12.5	12.5	12.1	12.1	12.1	12.1	14.6	14.6	12.9	12.9	12.9	12.9	11.4	11.4	9.7	9.7	9.7	9.7	1.6	1.6	1.6	1.6	1.3	1.3	1.3	1.3	1.1	1.1	1.1	1.1	0.8	0.8
		7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	17.7	17.7	17.7	17.7	16.1	16.1	16.1	16.1	15.6	15.6	15.2	15.2	14.8	14.8	14.3	14.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	13.6	13.6	13.1	13.1	12.8	12.8	12.7	12.7	12.7	12.7	12.5	12.5	12.5	12.5	12.1	12.1	12.1	12.1	14.6	14.6	12.9	12.9	12.9	12.9	11.4	11.4	9.7	9.7	9.7	9.7	1.6	1.6	1.6	1.6	1.3	1.3	1.3	1.3	1.1	1.1	1.1	1.1	0.8	0.8	
8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	18.2	18.2	18.2	18.2	18.2	18.2	18.2	18.2	18.2	18.2	18.2	18.2	18.2	18.2	18.2	18.2	18.2	18.2	18.2	18.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	13.6	13.6	13.1	13.1	12.8	12.8	12.7	12.7	12.7	12.7	12.5	12.5	12.5	12.5	12.1	12.1	12.1	12.1	14.6	14.6	12.9	12.9	12.9	12.9	11.4	11.4	9.7	9.7	9.7	9.7	1.6	1.6	1.6	1.6	1.3	1.3	1.3	1.3	1.1	1.1	1.1	1.1	0.8	0.8			

- すべり分布の番号は上記波源モデル図の各小断層に対し西側から東側に順に1列から38列まで設定。各列はw,eに2列に分割。陸側から海溝軸側に1行から8行まで設定。
- 駿河湾内のトラフ軸付近の領域については、他の領域に比べ、プレート境界面の深さ10kmの位置がトラフ軸に近くなり、また、トラフ軸沿いの津波断層モデルの面積も狭くなることから、この領域は分岐断層的な運動をする領域とみなせる（内閣府2012）とされるが、敷地への影響の観点から大すべり域のすべり量ではなく超大すべり域のすべり量を設定。

1 その他の検討波源モデルの詳細

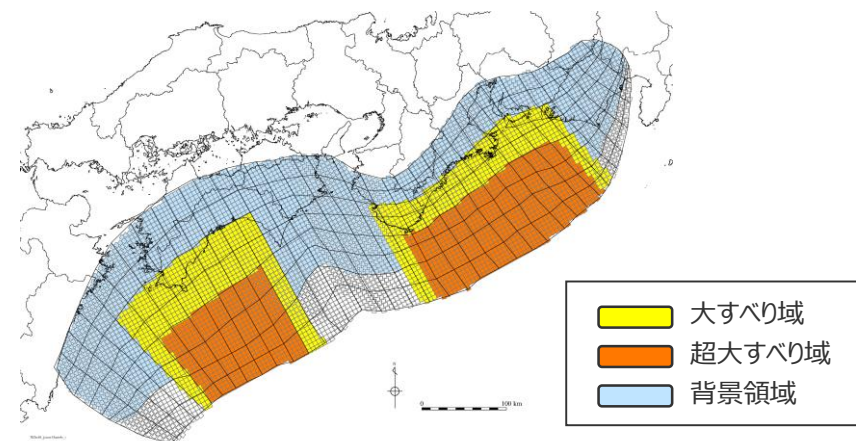
1-1 検討波源モデルCのパラメータスタディモデルの設定

(大すべり域の位置を西へ70kmとしたケースの断層パラメータの設定)

検討波源モデルC
(土木学会(2016)手法によるモデル)
の大すべり域の位置を西へ70kmとしたケースの断層パラメータ

項目		設定値
全体	面積※ (km ²)	130,844
	地震モーメント (Nm)	6.9×10^{22}
	Mw	9.2
	平均応力降下量 (MPa)	3.5
	平均すべり量 (m)	12.8
	最大すべり量 (m)	38.0
	剛性率 (N/m ²)	4.1×10^{10}
	破壊伝播速度 (km/s)	2.0
	ライズタイム (s)	150
	主部断層	面積※ (km ²)
地震モーメント (Nm)		4.5×10^{22}
平均すべり量 (m)		9.9
最大すべり量 (m)		38.0
浅部断層	面積※ (km ²)	21,120
	地震モーメント (Nm)	2.4×10^{22}
	平均すべり量 (m)	27.6
	最大すべり量 (m)	38.0

※津波断層域のうちすべりが発生している波源域の面積



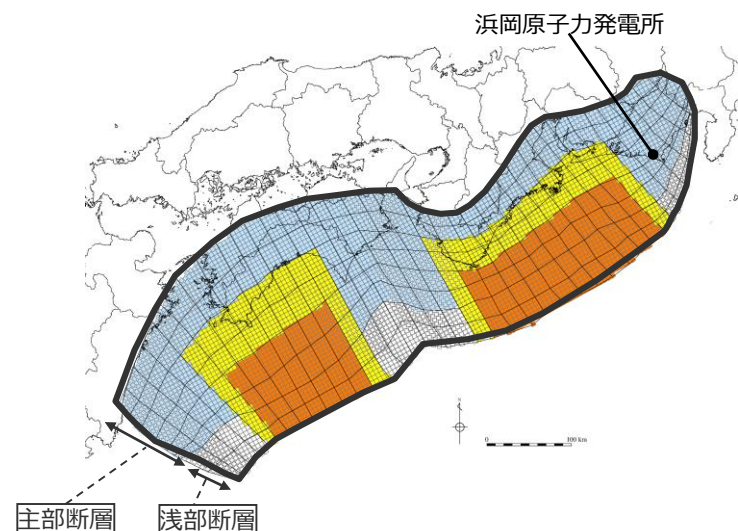
検討波源モデルC (土木学会(2016)手法によるモデル)
の大すべり域の位置を西へ70kmとしたケース

主部断層：深さ10km以深の断層
浅部断層：深さ10km以浅の断層

1 その他の検討波源モデルの詳細

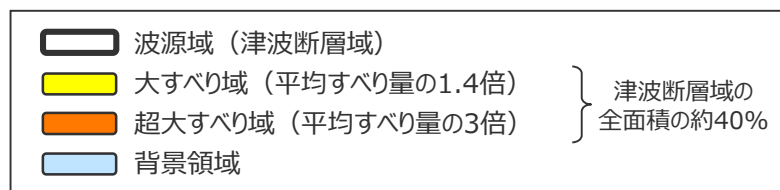
1-1 検討波源モデルCのパラメータスタディモデルの設定 (大すべり域の位置を西へ80kmとしたケースのすべり量分布の設定)

■「検討波源モデルC（土木学会(2016)手法によるモデル）」の大すべり域の位置を西へ80kmとしたケースの各小断層のすべり量分布は以下のとおり。



検討波源モデルC（土木学会(2016)手法によるモデル）
の大すべり域の位置を西へ80kmとしたケースのすべり量

断層モデル		面積 (km ²)	M ₀ (Nm)	Mw	Δσ (MPa)	最大すべり量(m)	平均すべり量(m)
検討波源モデルC (土木学会(2016)手法によるモデル) 大すべり域の位置を西へ80kmとしたケース	全体	130,993	6.9×10 ²²	9.2	3.5	38.0	12.8
	主部断層	109,725	4.5×10 ²²	9.0	3.0	38.0	9.9
	浅部断層	21,269	2.4×10 ²²	-	-	38.0	27.7



検討波源モデルC
(土木学会(2016)手法によるモデル)
の大すべり域の位置を西へ80kmとしたケース

検討波源モデルC（土木学会(2016)手法によるモデル）
の大すべり域の位置を西へ80kmとしたケースの小断層のすべり量分布 (m)

		西 ←																	→ 東																						
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38		
陸側 ⇄	深度40km ↓		3.0	3.0	2.9	2.9	2.8	2.8	2.6	2.5	2.4	2.4	2.4	2.3	2.2	2.2	2.2	2.2	2.1	2.1	2.1	2.0	2.0	2.0	2.0	1.9	2.1	1.8	1.8	1.6	1.6	1.2	1.2	1.2	1.2	1.1	1.1	0.8	0.8		
	30km ↓	1	3.0	3.0	2.9	2.9	2.8	2.8	2.6	2.5	2.5	2.4	2.4	2.4	2.3	2.2	2.2	2.2	2.2	2.1	2.1	2.1	2.0	2.0	2.0	2.0	1.9	2.1	1.8	1.8	1.6	1.6	1.2	1.2	1.2	1.2	1.1	1.1	0.8	0.8	
海溝軸 ⇄	20km ↓	2	3.0	3.0	2.9	2.9	2.8	2.8	2.6	2.5	2.5	2.4	2.4	2.4	2.3	2.2	2.2	2.2	2.2	2.1	2.1	2.1	2.0	2.0	2.0	2.0	1.9	2.1	1.8	1.8	1.6	1.6	1.2	1.2	1.2	1.2	1.1	1.1	0.8	0.8	
		3	3.0	3.0	2.9	2.9	17.7	17.7	16.1	16.1	15.6	15.2	15.2	14.8	14.3	2.3	2.2	2.2	2.2	2.2	2.1	13.1	13.1	12.7	12.7	12.5	12.1	12.1	12.9	12.9	11.4	11.4	9.7	9.7	1.6	1.2	1.2	1.1	1.1	0.8	0.8
	10km ↓	4	3.0	3.0	2.9	2.9	17.7	17.7	16.1	16.1	15.6	15.6	15.2	14.8	14.8	2.3	2.2	2.2	2.2	2.2	2.2	13.1	13.1	12.7	12.7	12.5	12.5	12.1	14.6	12.9	12.9	11.4	9.7	9.7	1.6	1.6	1.2	1.2	1.1	0.8	0.8
		5	3.0	3.0	2.9	2.9	17.7	38.0	38.0	34.4	34.4	33.3	32.5	32.5	14.8	2.4	2.3	2.2	2.2	2.2	2.2	13.6	28.1	28.1	27.2	26.9	26.9	25.9	25.9	31.3	27.7	27.7	24.4	11.4	1.6	1.6	1.2	1.2	1.1	1.1	1.1
0km ↓	6	3.0	3.0	2.9	2.9	17.7	38.0	38.0	34.4	34.4	33.3	33.3	32.5	14.8	2.4	2.3	2.2	2.2	2.2	2.2	13.6	28.1	28.1	27.2	27.2	26.9	26.9	25.9	31.3	31.3	27.7	27.7	11.4	1.8	1.6	1.6	1.2	1.1	1.1	1.1	1.1
	7	0.0	0.0	0.0	0.0	17.7	38.0	38.0	34.4	34.4	34.4	33.3	33.3	15.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	13.6	29.1	28.1	27.2	27.2	26.9	26.9	25.9	25.9	31.3	31.3	27.7	12.9	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
⇄	8	0.0	0.0	0.0	0.0	18.2	38.0	38.0	38.0	34.4	34.4	33.3	33.3	15.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	13.6	29.1	28.1	28.1	27.2	27.2	26.9	25.9	25.9	31.3	31.3	31.3	12.9	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

- すべり量分布の番号は上記波源モデル図の各小断層に対し西側から東側に順に1列から38列まで設定。陸側から海溝軸側に1行から8行まで設定。
- 駿河湾内のトラフ軸付近の領域については、他の領域に比べ、プレート境界面の深さ10kmの位置がトラフ軸に近くなり、また、トラフ軸沿いの津波断層モデルの面積も狭くなることから、この領域は分岐断層的な運動をする領域とみなせる（内閣府2012）とされるが、敷地への影響の観点から大すべり域のすべり量ではなく超大すべり域のすべり量を設定。

1 その他の検討波源モデルの詳細

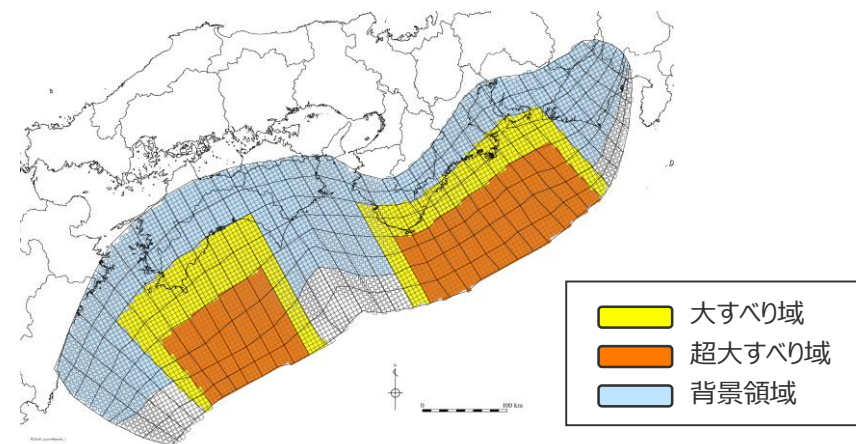
1-1 検討波源モデルCのパラメータスタディモデルの設定

(大すべり域の位置を西へ80kmとしたケースの断層パラメータの設定)

検討波源モデルC
(土木学会(2016)手法によるモデル)
の大すべり域の位置を西へ80kmとしたケースの断層パラメータ

項目		設定値
全体	面積※ (km ²)	130,993
	地震モーメント (Nm)	6.9×10^{22}
	Mw	9.2
	平均応力降下量 (MPa)	3.5
	平均すべり量 (m)	12.8
	最大すべり量 (m)	38.0
	剛性率 (N/m ²)	4.1×10^{10}
	破壊伝播速度 (km/s)	2.0
	ライズタイム (s)	150
主部断層	面積※ (km ²)	109,725
	地震モーメント (Nm)	4.5×10^{22}
	平均すべり量 (m)	9.9
	最大すべり量 (m)	38.0
浅部断層	面積※ (km ²)	21,269
	地震モーメント (Nm)	2.4×10^{22}
	平均すべり量 (m)	27.7
	最大すべり量 (m)	38.0

※津波断層域のうちすべりが発生している波源域の面積



検討波源モデルC (土木学会(2016)手法によるモデル)
の大すべり域の位置を西へ80kmとしたケース

主部断層：深さ10km以深の断層

浅部断層：深さ10km以浅の断層

余 白

1 その他の検討波源モデルの詳細

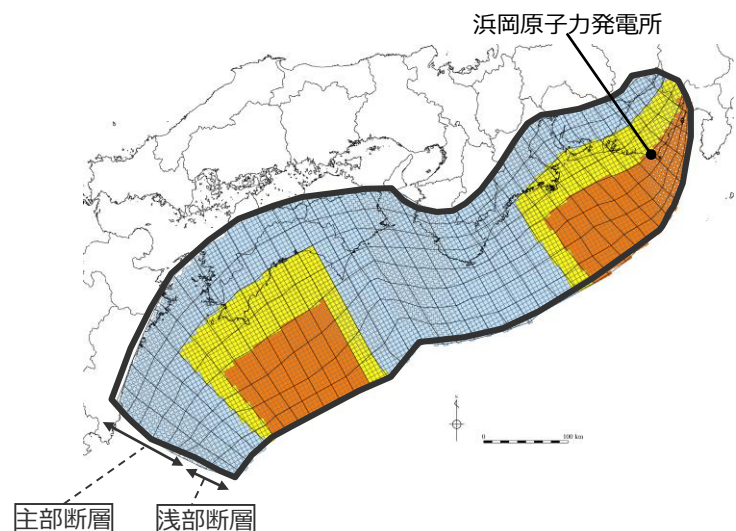
1-2 検討波源モデル①のパラメータスタディモデルの設定

1 その他の検討波源モデルの詳細

1-2 検討波源モデル①のパラメータスタディモデルの設定

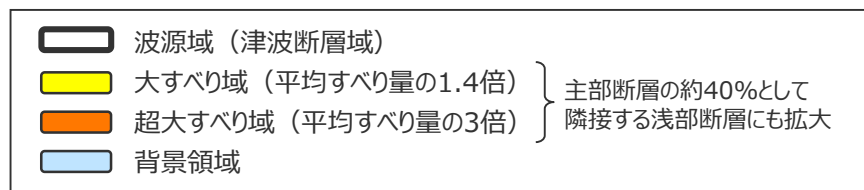
(大すべり域の位置を東へ60kmとしたケースのすべり量分布の設定)

■「検討波源モデル①（日本海溝の広域の津波特性再現手法によるモデル）」の大すべり域の位置を東へ60kmとしたケースの各小断層のすべり量分布は以下のとおり。



検討波源モデル①（日本海溝の広域の津波特性再現手法によるモデル）
の大すべり域の位置を東へ60kmとしたケースのすべり量

断層モデル		面積 (km ²)	M ₀ (Nm)	Mw	Δσ (MPa)	最大すべり量(m)	平均すべり量(m)
検討波源モデル① (日本海溝の広域の津波特性 再現手法によるモデル) 大すべり域の位置を東へ60kmと したケース	全体	144,379	7.7×10 ²²	9.2	3.4	36.6	10.7
	主部断層	109,725	5.2×10 ²²	9.1	3.5	36.6	9.5
	浅部断層	34,655	2.5×10 ²²	-	-	36.6	14.5



検討波源モデル①

(日本海溝の広域の津波特性再現手法によるモデル)
の大すべり域の位置を東へ60kmとしたケース

検討波源モデル①（日本海溝の広域の津波特性再現手法によるモデル）
の大すべり域の位置を東へ60kmとしたケースの小断層のすべり量分布 (m)

		西 ←															⇒ 東																								
深度40km↓		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38		
陸側⇕	30km↓	1	4.3	4.3	4.1	4.1	4.0	4.0	3.6	3.5	3.4	3.4	3.4	3.2	3.2	3.1	3.1	3.1	3.0	3.0	3.0	2.9	2.9	2.8	2.8	2.7	2.9	2.6	2.6	2.2	2.2	1.7	1.7	1.7	1.7	1.6	1.6	1.1	1.1		
	20km↓	2	4.3	4.3	4.1	4.1	4.0	4.0	3.6	3.5	3.5	3.4	3.4	3.4	3.2	3.2	3.1	3.1	3.1	3.0	3.0	3.0	2.9	2.9	2.8	2.8	2.7	2.9	2.9	2.6	2.6	2.2	2.2	1.7	1.7	1.7	1.7	1.6	1.6	1.1	1.1
10km↓		3	4.3	4.3	4.1	4.1	17.1	17.1	15.5	15.5	15.0	14.6	14.6	14.3	13.8	3.2	3.2	3.2	3.1	3.1	3.0	3.0	3.0	2.9	2.9	2.8	2.7	11.7	12.5	12.5	11.0	11.0	9.3	9.3	9.3	7.4	7.4	6.6	6.6	4.8	4.8
	0km↓	4	4.3	4.3	4.1	4.1	17.1	17.1	15.5	15.5	15.0	15.0	14.6	14.3	14.3	3.2	3.2	3.2	3.1	3.1	3.1	3.0	3.0	2.9	2.9	2.8	2.8	11.7	14.1	12.5	12.5	11.0	9.3	9.3	9.3	9.3	7.4	7.4	6.6	6.6	4.8
海溝軸⇕		5	4.3	4.3	4.1	4.1	17.1	36.6	36.6	33.2	33.2	32.1	31.3	31.3	14.3	3.4	3.2	3.2	3.2	3.1	3.1	3.1	3.0	3.0	2.9	2.8	2.8	11.7	25.0	30.1	26.7	26.7	23.5	23.5	20.0	20.0	15.8	15.8	14.1	14.1	
	⇕	6	4.3	4.3	4.1	4.1	17.1	36.6	36.6	33.2	33.2	32.1	32.1	31.3	14.3	3.4	3.2	3.2	3.2	3.2	3.1	3.1	3.0	3.0	2.9	2.9	2.8	12.1	25.0	30.1	30.1	26.7	26.7	23.5	23.5	20.0	20.0	15.8	14.1	14.1	14.1
7		4.3	4.3	4.1	4.1	17.1	36.6	36.6	33.2	33.2	33.2	32.1	32.1	14.6	3.4	3.2	3.2	3.2	3.2	3.2	3.1	3.1	3.0	2.9	2.9	2.8	12.1	25.0	25.0	30.1	30.1	26.7	26.7	23.5	23.5	20.0	15.8	14.1	14.1	14.1	
8	4.3	4.3	4.1	4.1	17.5	36.6	36.6	36.6	33.2	33.2	32.1	32.1	14.6	3.4	3.2	3.2	3.2	3.2	3.2	3.2	3.1	3.1	3.0	3.0	2.9	2.9	12.1	25.0	25.0	30.1	30.1	30.1	26.7	26.7	23.5	20.0	15.8	14.1	14.1	14.1	

- すべり量分布の番号は上記波源モデル図の各小断層に対し西側から東側に順に1列から38列まで設定。陸側から海溝軸側に1行から8行まで設定。
- 駿河湾内のトラフ軸付近の領域については、他の領域に比べ、プレート境界面の深さ10kmの位置がトラフ軸に近くなり、また、トラフ軸沿いの津波断層モデルの面積も狭くなることから、この領域は分岐断層的な運動をする領域とみなせる（内閣府2012）とされるが、敷地への影響の観点から大すべり域のすべり量ではなく超大すべり域のすべり量を設定。

1 その他の検討波源モデルの詳細

1-2 検討波源モデル①のパラメータスタディモデルの設定

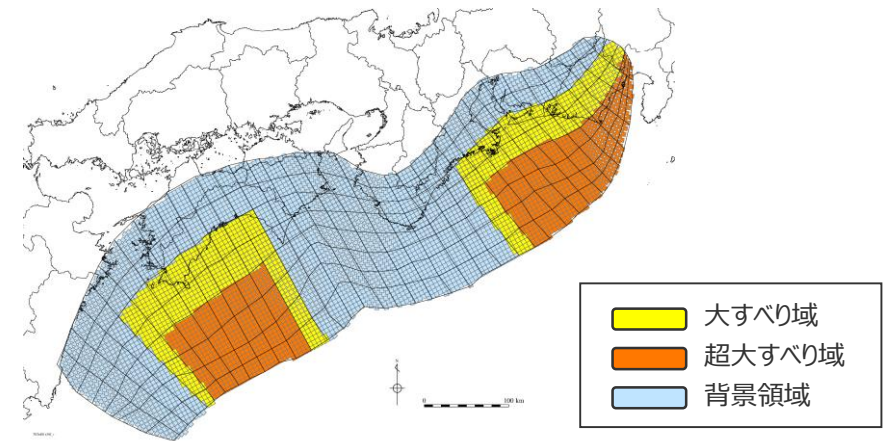
(大すべり域の位置を東へ60kmとしたケースの断層パラメータの設定)

検討波源モデル①

(日本海溝の広域の津波特性再現手法によるモデル)
の大すべり域の位置を東へ60kmとしたケースの断層パラメータ

項目		設定値
全体	面積※ (km ²)	144,379
	地震モーメント (Nm)	7.7×10^{22}
	Mw	9.2
	平均応力降下量 (MPa)	3.4
	平均すべり量 (m)	10.7
	最大すべり量 (m)	36.6
	剛性率 (N/m ²)	5.0×10^{10}
	破壊伝播速度 (km/s)	2.0
	ライズタイム (s)	150
主部断層	面積※ (km ²)	109,725
	地震モーメント (Nm)	5.2×10^{22}
	平均すべり量 (m)	9.5
	最大すべり量 (m)	36.6
浅部断層	面積※ (km ²)	34,655
	地震モーメント (Nm)	2.5×10^{22}
	平均すべり量 (m)	14.5
	最大すべり量 (m)	36.6

※津波断層域のうちすべりが発生している波源域の面積



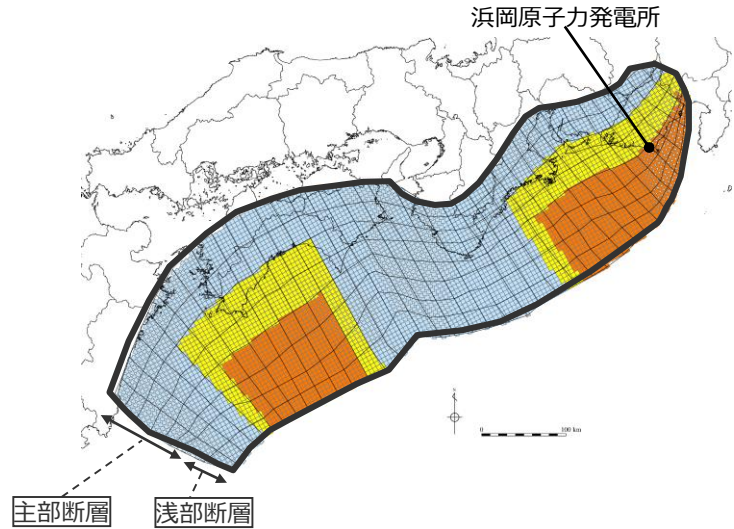
検討波源モデル① (日本海溝の広域の津波特性再現手法によるモデル)
の大すべり域の位置を東へ60kmとしたケース

主部断層：深さ10km以深の断層
浅部断層：深さ10km以浅の断層

1 その他の検討波源モデルの詳細

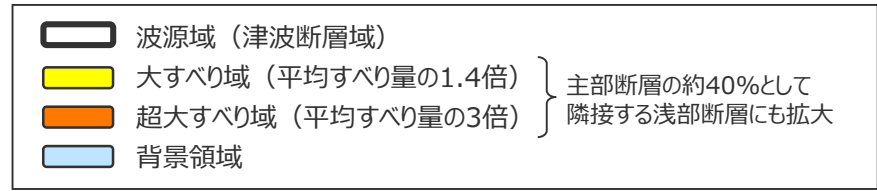
1-2 検討波源モデル①のパラメータスタディモデルの設定
(大すべり域の位置を東へ50kmとしたケースのすべり量分布の設定)

■ 「検討波源モデル①（日本海溝の広域の津波特性再現手法によるモデル）」の大すべり域の位置を東へ50kmとしたケースの各小断層のすべり量分布は以下のとおり。



検討波源モデル①（日本海溝の広域の津波特性再現手法によるモデル）
の大すべり域の位置を東へ50kmとしたケースのすべり量

断層モデル	面積 (km ²)	M ₀ (Nm)	Mw	Δσ (MPa)	最大 すべり量(m)	平均 すべり量(m)	
検討波源モデル① (日本海溝の広域の津波特性 再現手法によるモデル) 大すべり域の位置を東へ50kmと したケース	全体	144,379	7.8×10 ²²	9.2	3.5	36.6	10.9
	主部断層	109,725	5.3×10 ²²	9.1	3.5	36.6	9.6
	浅部断層	34,655	2.6×10 ²²	-	-	36.6	14.9



検討波源モデル①
(日本海溝の広域の津波特性再現手法によるモデル)
の大すべり域の位置を東へ50kmとしたケース

検討波源モデル①（日本海溝の広域の津波特性再現手法によるモデル）
の大すべり域の位置を東へ50kmとしたケースの小断層のすべり量分布 (m)

		西 ←																																							⇒ 東																																				
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38																																						
陸側⇄ 海溝軸 ⇄	深度	w e w e																																																																											
	40km↓	1 4.3 4.3 4.3 4.3 4.1 4.1 4.1 4.1 4.0 4.0 4.0 4.0 3.6 3.6 3.5 3.5 3.4 3.4 3.4 3.4 3.2 3.2 3.2 3.2 3.1 3.1 3.1 3.1 3.0 3.0 3.0 3.0 3.0 3.0 2.9 2.9 2.9 2.9 2.8 2.8 2.8 2.8 2.7 2.7 2.9 2.9 2.6 2.6 2.6 2.6 2.2 2.2 2.2 2.2 2.2 1.7 1.7 1.7 1.7 1.7 1.7 1.6 1.6 1.6 1.6 1.1 1.1 1.1 1.1																																																																											
	30km↓	2 4.3 4.3 4.3 4.3 4.1 4.1 4.1 4.1 4.0 4.0 4.0 4.0 3.6 3.6 3.5 3.5 3.5 3.4 3.4 3.4 3.4 3.2 3.2 3.2 3.2 3.1 3.1 3.1 3.1 3.0 3.0 3.0 3.0 3.0 3.0 2.9 2.9 2.9 2.9 2.8 2.8 2.8 2.8 2.7 2.7 2.9 2.9 2.9 2.9 2.6 2.6 2.6 2.6 2.2 2.2 2.2 2.2 2.2 1.7 1.7 1.7 1.7 1.7 1.7 1.6 1.6 1.6 1.6 1.1 1.1 1.1 1.1																																																																											
	20km↓	3 4.3 4.3 4.3 4.3 4.1 4.1 4.1 4.1 4.1 17.1 17.1 17.1 17.1 15.5 15.5 15.5 15.5 15.0 15.0 14.6 14.6 14.6 14.3 14.3 13.8 13.8 3.2 3.2 3.2 3.2 3.1 3.1 3.1 3.1 3.0 3.0 3.0 3.0 3.0 3.0 2.9 2.9 2.9 2.9 2.8 2.8 2.8 2.7 11.7 11.7 11.7 12.5 12.5 12.5 11.0 11.0 11.0 11.0 9.3 9.3 9.3 9.3 9.3 9.3 7.4 7.4 7.4 7.4 6.6 6.6 6.6 4.8 4.8																																																																											
	10km↓	4 4.3 4.3 4.3 4.3 4.1 4.1 4.1 4.1 4.1 17.1 17.1 17.1 17.1 15.5 15.5 15.5 15.5 15.0 15.0 15.0 14.6 14.6 14.3 14.3 14.3 3.2 3.2 3.2 3.2 3.1 3.1 3.1 3.1 3.0 3.0 3.0 3.0 3.0 3.0 2.9 2.9 2.9 2.9 2.8 2.8 2.8 2.8 2.8 12.1 11.7 11.7 14.1 14.1 12.5 12.5 12.5 11.0 11.0 9.3 9.3 9.3 9.3 9.3 9.3 7.4 7.4 7.4 7.4 6.6 6.6 4.8 4.8																																																																											
	0km↓	5 4.3 4.3 4.3 4.3 4.1 4.1 4.1 4.1 4.1 17.1 17.1 17.1 17.1 15.5 15.5 15.5 15.5 15.0 15.0 15.0 14.6 14.6 14.3 14.3 14.3 3.4 3.4 3.2 3.2 3.2 3.2 3.1 3.1 3.1 3.1 3.1 3.1 3.0 3.0 3.0 3.0 2.9 2.9 2.9 2.9 2.9 2.9 2.8 2.8 2.8 2.8 2.8 12.1 12.1 25.9 25.0 25.0 30.1 30.1 26.7 26.7 26.7 23.5 23.5 23.5 23.5 20.0 20.0 20.0 15.8 15.8 14.1 14.1 14.1 6.6																																																																											
		6 4.3 4.3 4.3 4.3 4.1 4.1 4.1 4.1 4.1 17.1 17.1 17.1 17.1 15.5 15.5 15.5 15.5 15.0 15.0 15.0 14.6 14.6 14.3 14.3 14.3 3.4 3.4 3.2 3.2 3.2 3.2 3.1 3.1 3.1 3.1 3.1 3.1 3.0 3.0 3.0 3.0 2.9 2.9 2.9 2.9 2.9 2.9 2.8 2.8 2.8 2.8 2.8 12.1 12.1 25.9 25.0 25.0 30.1 30.1 26.7 26.7 26.7 23.5 23.5 23.5 23.5 20.0 20.0 20.0 15.8 15.8 14.1 14.1 14.1 6.6																																																																											
		7 4.3 4.3 4.3 4.3 4.1 4.1 4.1 4.1 4.1 17.1 17.1 17.1 17.1 15.5 15.5 15.5 15.5 15.0 15.0 15.0 14.6 14.6 14.3 14.3 14.3 14.6 14.6 3.4 3.4 3.2 3.2 3.2 3.2 3.2 3.2 3.1 3.1 3.1 3.1 3.0 3.0 3.0 3.0 2.9 2.9 2.9 2.9 2.9 2.9 2.8 2.8 2.8 2.8 2.8 12.2 12.2 25.9 25.0 25.0 30.1 30.1 26.7 26.7 26.7 23.5 23.5 23.5 23.5 20.0 20.0 15.8 15.8 14.1 14.1 14.1 6.6																																																																											
	8 4.3 4.3 4.3 4.3 4.1 4.1 4.1 4.1 4.1 17.5 17.5 36.6 36.6 36.6 36.6 36.6 36.6 36.6 33.2 33.2 33.2 33.2 32.1 32.1 32.1 32.1 32.1 14.6 14.6 3.4 3.4 3.2 3.2 3.2 3.2 3.2 3.2 3.2 3.1 3.1 3.1 3.0 3.0 3.0 3.0 2.9 2.9 2.9 2.9 2.9 2.9 2.8 2.8 2.8 2.8 2.8 12.2 12.2 25.9 25.0 25.0 30.1 30.1 26.7 26.7 26.7 23.5 23.5 20.0 20.0 15.8 15.8 14.1 14.1 14.1 6.6																																																																												

・すべり分布の番号は上記波源モデル図の各小断層に対し西側から東側に順に1列から38列まで設定。各列はw,eに2列に分割。陸側から海溝軸側に1行から8行まで設定。
 ・駿河湾内のトラフ軸付近の領域については、他の領域に比べ、プレート境界面の深さ10kmの位置がトラフ軸に近くなり、また、トラフ軸沿いの津波断層モデルの面積も狭くなることから、この領域は分岐断層的な運動をする領域とみなせる（内閣府2012）とされるが、敷地への影響の観点から大すべり域のすべり量ではなく超大すべり域のすべり量を設定。

1 その他の検討波源モデルの詳細

1-2 検討波源モデル①のパラメータスタディモデルの設定

(大すべり域の位置を東へ50kmとしたケースの断層パラメータの設定)

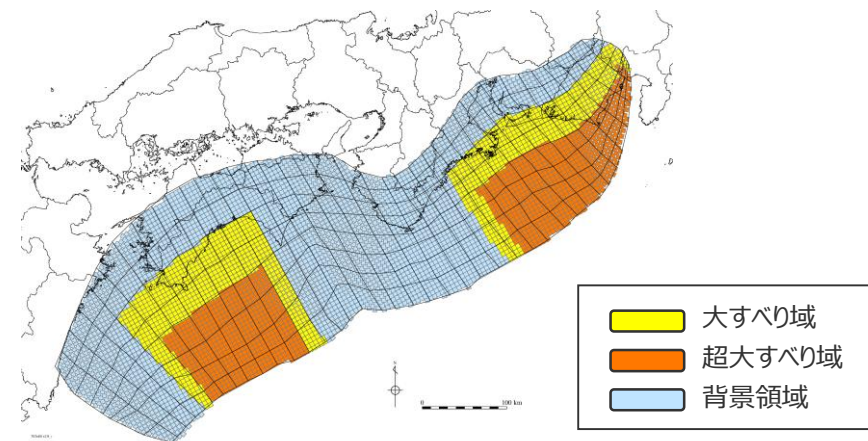
検討波源モデル①

(日本海溝の広域の津波特性再現手法によるモデル)

の大すべり域の位置を東へ50kmとしたケースの断層パラメータ

項目		設定値
全体	面積※ (km ²)	144,379
	地震モーメント (Nm)	7.8×10^{22}
	Mw	9.2
	平均応力降下量 (MPa)	3.5
	平均すべり量 (m)	10.9
	最大すべり量 (m)	36.6
	剛性率 (N/m ²)	5.0×10^{10}
	破壊伝播速度 (km/s)	2.0
	ライズタイム (s)	150
主部断層	面積※ (km ²)	109,725
	地震モーメント (Nm)	5.3×10^{22}
	平均すべり量 (m)	9.6
	最大すべり量 (m)	36.6
浅部断層	面積※ (km ²)	34,655
	地震モーメント (Nm)	2.6×10^{22}
	平均すべり量 (m)	14.9
	最大すべり量 (m)	36.6

※津波断層域のうちすべりが発生している波源域の面積



検討波源モデル① (日本海溝の広域の津波特性再現手法によるモデル) の大すべり域の位置を東へ50kmとしたケース

主部断層：深さ10km以深の断層

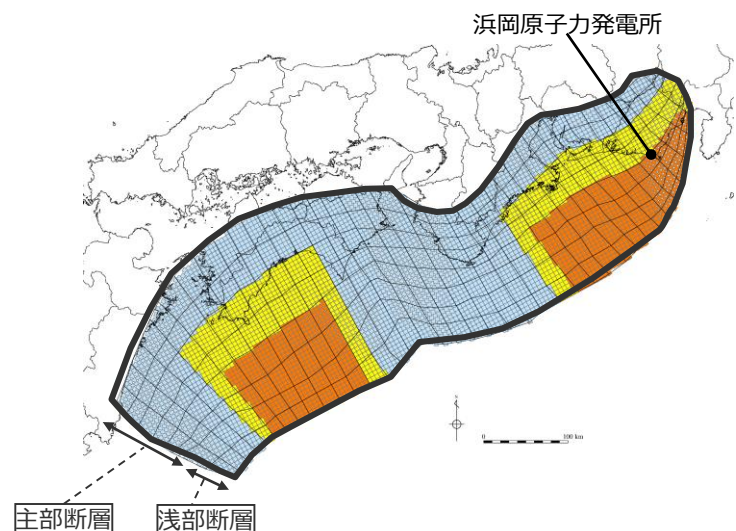
浅部断層：深さ10km以浅の断層

1 その他の検討波源モデルの詳細

1-2 検討波源モデル①のパラメータスタディモデルの設定

(大すべり域の位置を東へ40kmとしたケースのすべり量分布の設定)

■「検討波源モデル①（日本海溝の広域の津波特性再現手法によるモデル）」の大すべり域の位置を東へ40kmとしたケースの各小断層のすべり量分布は以下のとおり。

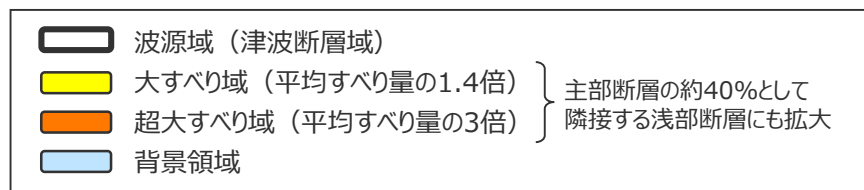


検討波源モデル①

(日本海溝の広域の津波特性再現手法によるモデル)
の大すべり域の位置を東へ40kmとしたケース

検討波源モデル①（日本海溝の広域の津波特性再現手法によるモデル）
の大すべり域の位置を東へ40kmとしたケースのすべり量

断層モデル		面積 (km ²)	M ₀ (Nm)	Mw	Δσ (MPa)	最大すべり量(m)	平均すべり量(m)
検討波源モデル① (日本海溝の広域の津波特性 再現手法によるモデル) 大すべり域の位置を東へ40kmと したケース	全体	144,379	8.0×10 ²²	9.2	3.5	36.6	11.0
	主部断層	109,725	5.3×10 ²²	9.1	3.6	36.6	9.7
	浅部断層	34,655	2.7×10 ²²	-	-	36.6	15.3



検討波源モデル①（日本海溝の広域の津波特性再現手法によるモデル）
の大すべり域の位置を東へ40kmとしたケースの小断層のすべり量分布 (m)

		西 ←															⇒ 東																								
深度40km↓		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38		
陸側⇕	30km↓	1	4.3	4.3	4.1	4.1	4.0	4.0	3.6	3.5	3.4	3.4	3.4	3.2	3.2	3.1	3.1	3.1	3.0	3.0	3.0	2.9	2.9	2.8	2.8	2.7	2.9	2.6	2.6	2.2	2.2	1.7	1.7	1.7	1.7	1.6	1.6	1.1	1.1		
	20km↓	2	4.3	4.3	4.1	4.1	4.0	4.0	3.6	3.5	3.5	3.4	3.4	3.4	3.2	3.2	3.1	3.1	3.1	3.0	3.0	3.0	2.9	2.9	2.8	2.8	2.7	2.9	2.9	2.6	2.6	2.2	2.2	1.7	1.7	1.7	1.7	1.6	1.6	1.1	1.1
10km↓		3	4.3	4.3	4.1	4.1	17.1	17.1	15.5	15.5	15.0	14.6	14.6	14.3	13.8	3.2	3.2	3.2	3.1	3.1	3.0	3.0	3.0	2.9	2.9	2.8	11.7	11.7	12.5	12.5	11.0	11.0	9.3	9.3	9.3	9.3	7.4	7.4	6.6	6.6	4.8
	0km↓	4	4.3	4.3	4.1	4.1	17.1	17.1	15.5	15.5	15.0	15.0	14.6	14.3	14.3	3.2	3.2	3.2	3.1	3.1	3.1	3.0	3.0	2.9	2.9	2.8	12.1	11.7	14.1	12.5	12.5	11.0	9.3	9.3	9.3	9.3	7.4	7.4	6.6	6.6	4.8
海溝軸⇕		5	4.3	4.3	4.1	4.1	17.1	36.6	36.6	33.2	33.2	32.1	31.3	31.3	14.3	3.4	3.2	3.2	3.2	3.1	3.1	3.1	3.0	3.0	2.9	2.8	12.1	25.0	25.0	30.1	26.7	26.7	23.5	23.5	20.0	20.0	15.8	15.8	14.1	14.1	6.6
	⇕	6	4.3	4.3	4.1	4.1	17.1	36.6	36.6	33.2	33.2	32.1	32.1	31.3	14.3	3.4	3.2	3.2	3.2	3.2	3.1	3.1	3.0	3.0	2.9	2.9	12.1	25.9	25.0	30.1	30.1	26.7	26.7	23.5	23.5	20.0	20.0	15.8	14.1	14.1	6.6
7		4.3	4.3	4.1	4.1	17.1	36.6	36.6	33.2	33.2	33.2	32.1	32.1	14.6	3.4	3.2	3.2	3.2	3.2	3.2	3.1	3.1	3.0	2.9	2.9	12.1	25.9	25.0	25.0	30.1	30.1	26.7	26.7	23.5	23.5	20.0	15.8	14.1	14.1	6.6	6.6
8	4.3	4.3	4.1	4.1	17.5	36.6	36.6	36.6	33.2	33.2	32.1	32.1	14.6	3.4	3.2	3.2	3.2	3.2	3.2	3.1	3.1	3.0	3.0	2.9	12.2	25.9	25.0	25.0	30.1	30.1	26.7	26.7	23.5	20.0	15.8	14.1	14.1	6.6	6.6		

- すべり量分布の番号は上記波源モデル図の各小断層に対し西側から東側に順に1列から38列まで設定。陸側から海溝軸側に1行から8行まで設定。
- 駿河湾内のトラフ軸付近の領域については、他の領域に比べ、プレート境界面の深さ10kmの位置がトラフ軸に近くなり、また、トラフ軸沿いの津波断層モデルの面積も狭くなることから、この領域は分岐断層的な運動をする領域とみなせる（内閣府2012）とされるが、敷地への影響の観点から大すべり域のすべり量ではなく超大すべり域のすべり量を設定。

1 その他の検討波源モデルの詳細

1-2 検討波源モデル①のパラメータスタディモデルの設定

(大すべり域の位置を東へ40kmとしたケースの断層パラメータの設定)

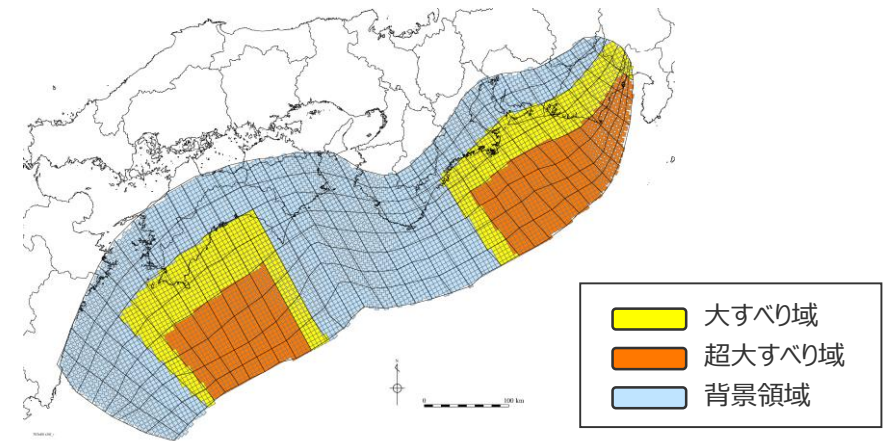
検討波源モデル①

(日本海溝の広域の津波特性再現手法によるモデル)

の大すべり域の位置を東へ40kmとしたケースの断層パラメータ

項目		設定値
全体	面積※ (km ²)	144,379
	地震モーメント (Nm)	8.0×10 ²²
	Mw	9.2
	平均応力降下量 (MPa)	3.5
	平均すべり量 (m)	11.0
	最大すべり量 (m)	36.6
	剛性率 (N/m ²)	5.0×10 ¹⁰
	破壊伝播速度 (km/s)	2.0
	ライズタイム (s)	150
主部断層	面積※ (km ²)	109,725
	地震モーメント (Nm)	5.3×10 ²²
	平均すべり量 (m)	9.7
	最大すべり量 (m)	36.6
浅部断層	面積※ (km ²)	34,655
	地震モーメント (Nm)	2.7×10 ²²
	平均すべり量 (m)	15.3
	最大すべり量 (m)	36.6

※津波断層域のうちすべりが発生している波源域の面積



検討波源モデル① (日本海溝の広域の津波特性再現手法によるモデル) の大すべり域の位置を東へ40kmとしたケース

主部断層：深さ10km以深の断層

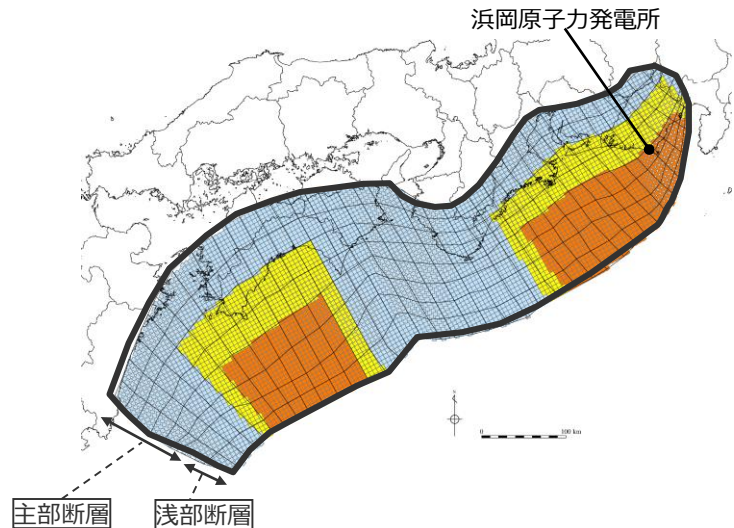
浅部断層：深さ10km以浅の断層

1 その他の検討波源モデルの詳細

1-2 検討波源モデル①のパラメータスタディモデルの設定

(大すべり域の位置を東へ30kmとしたケースのすべり量分布の設定)

■ 「検討波源モデル①（日本海溝の広域の津波特性再現手法によるモデル）」の大すべり域の位置を東へ30kmとしたケースの各小断層のすべり量分布は以下のとおり。



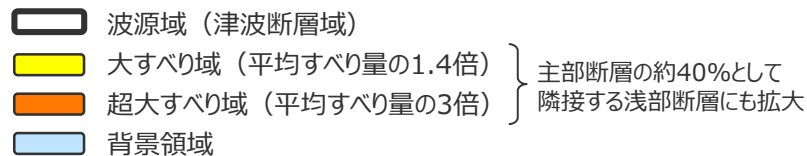
検討波源モデル①

(日本海溝の広域の津波特性再現手法によるモデル)

の大すべり域の位置を東へ30kmとしたケース

検討波源モデル①（日本海溝の広域の津波特性再現手法によるモデル）
の大すべり域の位置を東へ30kmとしたケースのすべり量

断層モデル		面積 (km ²)	M ₀ (Nm)	M _w	Δσ (MPa)	最大すべり量(m)	平均すべり量(m)
検討波源モデル① (日本海溝の広域の津波特性 再現手法によるモデル) 大すべり域の位置を東へ30kmと したケース	全体	144,379	8.1×10 ²²	9.2	3.6	36.6	11.2
	主部断層	109,725	5.4×10 ²²	9.1	3.6	36.6	9.8
	浅部断層	34,655	2.7×10 ²²	-	-	36.6	15.7



検討波源モデル①（日本海溝の広域の津波特性再現手法によるモデル）

の大すべり域の位置を東へ30kmとしたケースの小断層のすべり量分布 (m)



・すべり分布の番号は上記波源モデル図の各小断層に対し西側から東側に順に1列から38列まで設定。各列はw,eに2列に分割。陸側から海溝軸側に1行から8行まで設定。
 ・駿河湾内のトラフ軸付近の領域については、他の領域に比べ、プレート境界面の深さ10kmの位置がトラフ軸に近くなり、また、トラフ軸沿いの津波断層モデルの面積も狭くなることから、この領域は分岐断層的な運動をする領域とみなせる（内閣府2012）とされるが、敷地への影響の観点から大すべり域のすべり量ではなく超大すべり域のすべり量を設定。

1 その他の検討波源モデルの詳細

1-2 検討波源モデル①のパラメータスタディモデルの設定

(大すべり域の位置を東へ30kmとしたケースの断層パラメータの設定)

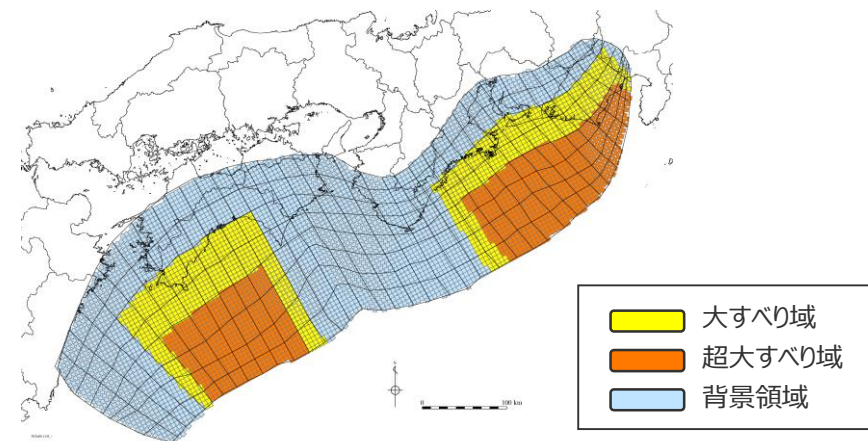
検討波源モデル①

(日本海溝の広域の津波特性再現手法によるモデル)

の大すべり域の位置を東へ30kmとしたケースの断層パラメータ

項目		設定値
全体	面積※ (km ²)	144,379
	地震モーメント (Nm)	8.1×10^{22}
	Mw	9.2
	平均応力降下量 (MPa)	3.6
	平均すべり量 (m)	11.2
	最大すべり量 (m)	36.6
	剛性率 (N/m ²)	5.0×10^{10}
	破壊伝播速度 (km/s)	2.0
	ライズタイム (s)	150
	主部断層	面積※ (km ²)
地震モーメント (Nm)		5.4×10^{22}
平均すべり量 (m)		9.8
最大すべり量 (m)		36.6
浅部断層	面積※ (km ²)	34,655
	地震モーメント (Nm)	2.7×10^{22}
	平均すべり量 (m)	15.7
	最大すべり量 (m)	36.6

※津波断層域のうちすべりが発生している波源域の面積



検討波源モデル① (日本海溝の広域の津波特性再現手法によるモデル) の大すべり域の位置を東へ30kmとしたケース

主部断層：深さ10km以深の断層

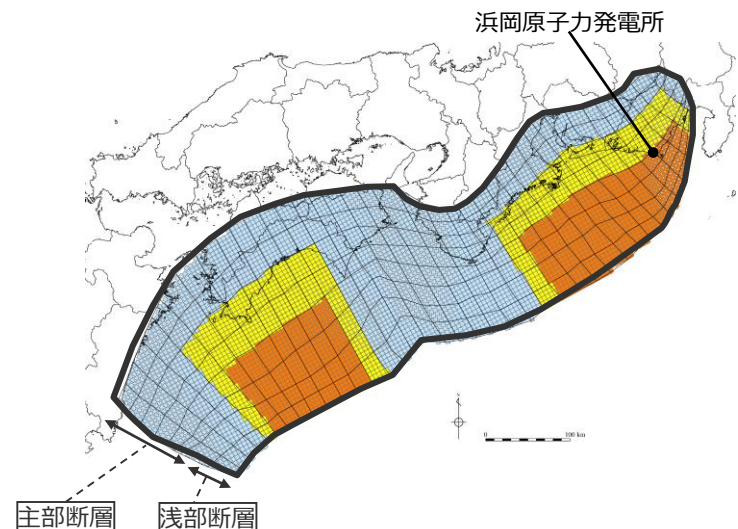
浅部断層：深さ10km以浅の断層

1 その他の検討波源モデルの詳細

1-2 検討波源モデル①のパラメータスタディモデルの設定

(大すべり域の位置を東へ20kmとしたケースのすべり量分布の設定)

■「検討波源モデル①（日本海溝の広域の津波特性再現手法によるモデル）」の大すべり域の位置を東へ20kmとしたケースの各小断層のすべり量分布は以下のとおり。

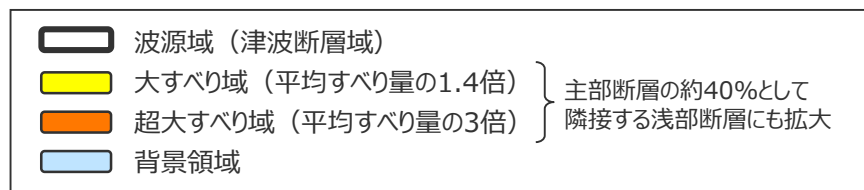


検討波源モデル①

(日本海溝の広域の津波特性再現手法によるモデル)
の大すべり域の位置を東へ20kmとしたケース

検討波源モデル①（日本海溝の広域の津波特性再現手法によるモデル）
の大すべり域の位置を東へ20kmとしたケースのすべり量

断層モデル		面積 (km ²)	M ₀ (Nm)	Mw	Δσ (MPa)	最大すべり量(m)	平均すべり量(m)
検討波源モデル① (日本海溝の広域の津波特性 再現手法によるモデル) 大すべり域の位置を東へ20kmと したケース	全体	144,379	8.2×10 ²²	9.2	3.6	36.6	11.4
	主部断層	109,725	5.4×10 ²²	9.1	3.6	36.6	9.9
	浅部断層	34,655	2.8×10 ²²	-	-	36.6	16.0



検討波源モデル①（日本海溝の広域の津波特性再現手法によるモデル）
の大すべり域の位置を東へ20kmとしたケースの小断層のすべり量分布 (m)

		西 ←															⇒ 東																									
深度40km↓		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38			
陸側⇕	30km↓	1	4.3	4.3	4.1	4.1	4.0	4.0	3.6	3.5	3.4	3.4	3.4	3.2	3.2	3.1	3.1	3.1	3.0	3.0	3.0	2.9	2.9	2.8	2.8	2.7	2.9	2.6	2.6	2.2	2.2	1.7	1.7	1.7	1.7	1.6	1.6	1.1	1.1			
	20km↓	2	4.3	4.3	4.1	4.1	4.0	4.0	3.6	3.5	3.5	3.4	3.4	3.4	3.2	3.2	3.1	3.1	3.1	3.0	3.0	3.0	2.9	2.9	2.8	2.8	2.7	2.9	2.9	2.6	2.6	2.2	2.2	1.7	1.7	1.7	1.7	1.6	1.6	1.1	1.1	
10km↓		3	4.3	4.3	4.1	4.1	17.1	17.1	15.5	15.5	15.0	14.6	14.6	14.3	13.8	3.2	3.2	3.2	3.1	3.1	3.0	3.0	3.0	2.9	2.9	12.1	11.7	11.7	12.5	12.5	11.0	11.0	9.3	9.3	9.3	9.3	7.4	7.4	6.6	6.6	1.1	1.1
	0km↓	4	4.3	4.3	4.1	4.1	17.1	17.1	15.5	15.5	15.0	15.0	14.6	14.3	14.3	3.2	3.2	3.2	3.1	3.1	3.1	3.0	3.0	2.9	2.9	12.1	12.1	11.7	14.1	12.5	12.5	11.0	9.3	9.3	9.3	9.3	7.4	7.4	6.6	6.6	1.1	1.1
海溝軸⇕		5	4.3	4.3	4.1	4.1	17.1	36.6	36.6	33.2	33.2	32.1	31.3	31.3	14.3	3.4	3.2	3.2	3.2	3.1	3.1	3.1	3.0	3.0	2.9	12.1	25.9	25.0	25.0	30.1	26.7	26.7	23.5	23.5	20.0	20.0	15.8	15.8	6.6	6.6	1.6	1.6
	⇓	6	4.3	4.3	4.1	4.1	17.1	36.6	36.6	33.2	33.2	32.1	32.1	31.3	14.3	3.4	3.2	3.2	3.2	3.2	3.1	3.1	3.0	3.0	2.9	12.2	25.9	25.9	25.0	30.1	30.1	26.7	26.7	23.5	23.5	20.0	20.0	15.8	15.8	6.6	6.6	1.6
7		4.3	4.3	4.1	4.1	17.1	36.6	36.6	33.2	33.2	33.2	32.1	32.1	14.6	3.4	3.2	3.2	3.2	3.2	3.2	3.1	3.1	3.0	2.9	12.2	25.9	25.9	25.0	30.1	30.1	26.7	26.7	23.5	23.5	20.0	15.8	15.8	6.6	6.6	1.6	1.6	
8	4.3	4.3	4.1	4.1	17.5	36.6	36.6	36.6	33.2	33.2	32.1	32.1	14.6	3.4	3.2	3.2	3.2	3.2	3.2	3.2	3.1	3.1	3.0	3.0	12.2	26.2	25.9	25.0	30.1	30.1	30.1	26.7	26.7	23.5	20.0	15.8	6.6	6.6	1.6	1.6		

- すべり量分布の番号は上記波源モデル図の各小断層に対し西側から東側に順に1列から38列まで設定。陸側から海溝軸側に1行から8行まで設定。
- 駿河湾内のトラフ軸付近の領域については、他の領域に比べ、プレート境界面の深さ10kmの位置がトラフ軸に近くなり、また、トラフ軸沿いの津波断層モデルの面積も狭くなることから、この領域は分岐断層的な運動をする領域とみなせる（内閣府2012）とされるが、敷地への影響の観点から大すべり域のすべり量ではなく超大すべり域のすべり量を設定。

1 その他の検討波源モデルの詳細

1-2 検討波源モデル①のパラメータスタディモデルの設定

(大すべり域の位置を東へ20kmとしたケースの断層パラメータの設定)

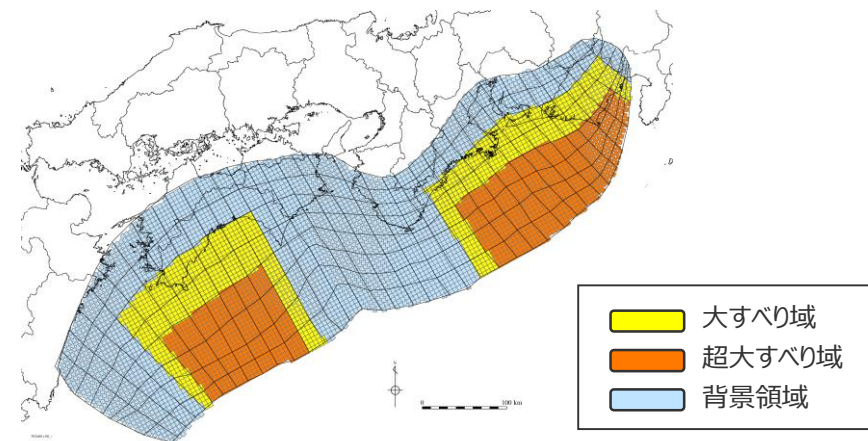
検討波源モデル①

(日本海溝の広域の津波特性再現手法によるモデル)

の大すべり域の位置を東へ20kmとしたケースの断層パラメータ

項目		設定値
全体	面積※ (km ²)	144,379
	地震モーメント (Nm)	8.2×10^{22}
	Mw	9.2
	平均応力降下量 (MPa)	3.6
	平均すべり量 (m)	11.4
	最大すべり量 (m)	36.6
	剛性率 (N/m ²)	5.0×10^{10}
	破壊伝播速度 (km/s)	2.0
	ライズタイム (s)	150
	主部断層	面積※ (km ²)
地震モーメント (Nm)		5.4×10^{22}
平均すべり量 (m)		9.9
最大すべり量 (m)		36.6
浅部断層	面積※ (km ²)	34,655
	地震モーメント (Nm)	2.8×10^{22}
	平均すべり量 (m)	16.0
	最大すべり量 (m)	36.6

※津波断層域のうちすべりが発生している波源域の面積



検討波源モデル① (日本海溝の広域の津波特性再現手法によるモデル) の大すべり域の位置を東へ20kmとしたケース

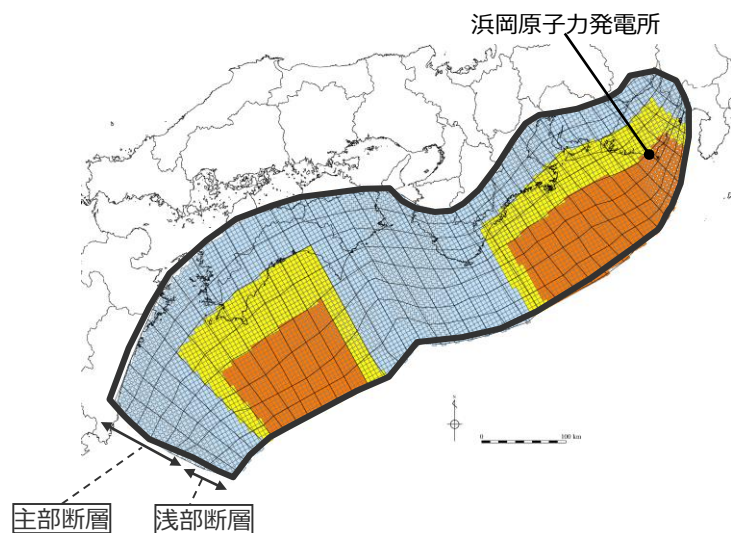
主部断層：深さ10km以深の断層

浅部断層：深さ10km以浅の断層

1 その他の検討波源モデルの詳細

1-2 検討波源モデル①のパラメータスタディモデルの設定 (大すべり域の位置を東へ10kmとしたケースのすべり量分布の設定)

■ 「検討波源モデル①（日本海溝の広域の津波特性再現手法によるモデル）」の大すべり域の位置を東へ10kmとしたケースの各小断層のすべり量分布は以下のとおり。



検討波源モデル①
(日本海溝の広域の津波特性再現手法によるモデル)
の大すべり域の位置を東へ10kmとしたケース

検討波源モデル①（日本海溝の広域の津波特性再現手法によるモデル）
の大すべり域の位置を東へ10kmとしたケースのすべり量

断層モデル		面積 (km ²)	M ₀ (Nm)	Mw	Δσ (MPa)	最大すべり量(m)	平均すべり量(m)
検討波源モデル① (日本海溝の広域の津波特性 再現手法によるモデル) 大すべり域の位置を東へ10kmと したケース	全体	144,379	8.3×10 ²²	9.2	3.7	36.6	11.5
	主部断層	109,725	5.5×10 ²²	9.1	3.7	36.6	10.0
	浅部断層	34,655	2.8×10 ²²	-	-	36.6	16.4

- 波源域（津波断層域）
- 大すべり域（平均すべり量の1.4倍）
- 超大すべり域（平均すべり量の3倍）
- 背景領域

} 主部断層の約40%として隣接する浅部断層にも拡大

検討波源モデル①（日本海溝の広域の津波特性再現手法によるモデル）
の大すべり域の位置を東へ10kmとしたケースの小断層のすべり量分布 (m)



・すべり分布の番号は上記波源モデル図の各小断層に対し西側から東側に順に1列から38列まで設定。各列はw,eに2列に分割。陸側から海溝軸側に1行から8行まで設定。
 ・駿河湾内のトラフ軸付近の領域については、他の領域に比べ、プレート境界面の深さ10kmの位置がトラフ軸に近く、また、トラフ軸沿いの津波断層モデルの面積も狭くなることから、この領域は分岐断層的な運動をする領域とみなせる（内閣府2012）とされるが、敷地への影響の観点から大すべり域のすべり量ではなく超大すべり域のすべり量を設定。

1 その他の検討波源モデルの詳細

1-2 検討波源モデル①のパラメータスタディモデルの設定

(大すべり域の位置を東へ10kmとしたケースの断層パラメータの設定)

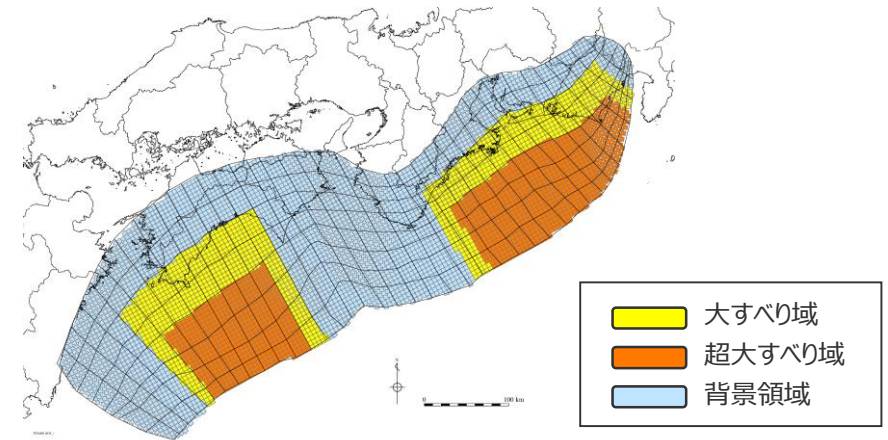
検討波源モデル①

(日本海溝の広域の津波特性再現手法によるモデル)

の大すべり域の位置を東へ10kmとしたケースの断層パラメータ

項目		設定値
全体	面積※ (km ²)	144,379
	地震モーメント (Nm)	8.3×10^{22}
	Mw	9.2
	平均応力降下量 (MPa)	3.7
	平均すべり量 (m)	11.5
	最大すべり量 (m)	36.6
	剛性率 (N/m ²)	5.0×10^{10}
	破壊伝播速度 (km/s)	2.0
	ライズタイム (s)	150
主部断層	面積※ (km ²)	109,725
	地震モーメント (Nm)	5.5×10^{22}
	平均すべり量 (m)	10.0
	最大すべり量 (m)	36.6
浅部断層	面積※ (km ²)	34,655
	地震モーメント (Nm)	2.8×10^{22}
	平均すべり量 (m)	16.4
	最大すべり量 (m)	36.6

※津波断層域のうちすべりが発生している波源域の面積



検討波源モデル① (日本海溝の広域の津波特性再現手法によるモデル) の大すべり域の位置を東へ10kmとしたケース

主部断層：深さ10km以深の断層

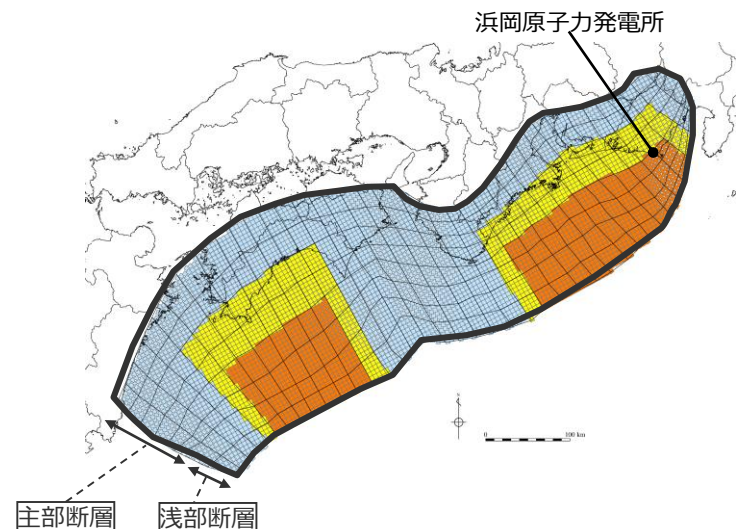
浅部断層：深さ10km以浅の断層

1 その他の検討波源モデルの詳細

1-2 検討波源モデル①のパラメータスタディモデルの設定

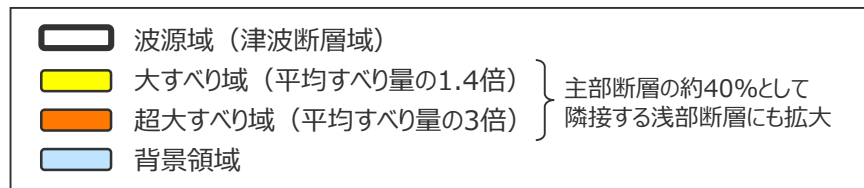
(大すべり域の位置を基準位置としたケースのすべり量分布の設定)

■「検討波源モデル①（日本海溝の広域の津波特性再現手法によるモデル）」の大すべり域の位置を基準位置としたケースの各小断層のすべり量分布は以下のとおり。



検討波源モデル①（日本海溝の広域の津波特性再現手法によるモデル）
の大すべり域の位置を基準位置としたケースのすべり量

断層モデル		面積 (km ²)	M ₀ (Nm)	Mw	Δσ (MPa)	最大すべり量(m)	平均すべり量(m)
検討波源モデル① (日本海溝の広域の津波特性 再現手法によるモデル) 大すべり域の位置を基準位置と したケース	全体	144,379	8.4×10 ²²	9.2	3.7	36.6	11.6
	主部断層	109,725	5.5×10 ²²	9.1	3.7	36.6	10.0
	浅部断層	34,655	2.9×10 ²²	-	-	36.6	16.7



検討波源モデル①

(日本海溝の広域の津波特性再現手法によるモデル)
の大すべり域の位置を基準位置としたケース

検討波源モデル①（日本海溝の広域の津波特性再現手法によるモデル）
の大すべり域の位置を基準位置としたケースの小断層のすべり量分布 (m)

		西 ←																												⇒ 東										
深度40km↓		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	
陸側⇕	30km↓	1	4.3	4.3	4.1	4.1	4.0	4.0	3.6	3.5	3.4	3.4	3.4	3.2	3.2	3.1	3.1	3.1	3.0	3.0	3.0	2.9	2.9	2.8	2.8	2.7	2.9	2.6	2.6	2.2	2.2	1.7	1.7	1.7	1.7	1.6	1.6	1.1	1.1	
	20km↓	2	4.3	4.3	4.1	4.1	4.0	4.0	3.6	3.5	3.5	3.4	3.4	3.4	3.2	3.2	3.1	3.1	3.1	3.0	3.0	3.0	2.9	2.9	2.8	2.8	2.7	2.9	2.9	2.6	2.6	2.2	2.2	1.7	1.7	1.7	1.7	1.6	1.6	1.1
10km↓		3	4.3	4.3	4.1	4.1	17.1	17.1	15.5	15.5	15.0	14.6	14.6	14.3	13.8	3.2	3.2	3.2	3.1	3.1	3.0	3.0	3.0	2.9	12.2	12.1	11.7	11.7	12.5	12.5	11.0	11.0	9.3	9.3	9.3	7.4	7.4	6.6	1.6	1.1
	0km↓	4	4.3	4.3	4.1	4.1	17.1	17.1	15.5	15.5	15.0	15.0	14.6	14.3	14.3	3.2	3.2	3.2	3.1	3.1	3.1	3.0	3.0	2.9	12.2	12.1	12.1	11.7	14.1	12.5	12.5	11.0	9.3	9.3	9.3	9.3	7.4	7.4	1.6	1.1
海溝軸⇕		5	4.3	4.3	4.1	4.1	17.1	36.6	36.6	33.2	33.2	32.1	31.3	31.3	14.3	3.4	3.2	3.2	3.2	3.1	3.1	3.1	3.0	3.0	12.2	25.9	25.9	25.0	25.0	30.1	26.7	26.7	23.5	23.5	20.0	20.0	15.8	7.4	1.6	1.6
	⇕	6	4.3	4.3	4.1	4.1	17.1	36.6	36.6	33.2	33.2	32.1	32.1	31.3	14.3	3.4	3.2	3.2	3.2	3.2	3.1	3.1	3.0	3.0	12.2	26.2	25.9	25.9	25.0	30.1	30.1	26.7	26.7	23.5	23.5	20.0	20.0	7.4	1.6	1.6
7		4.3	4.3	4.1	4.1	17.1	36.6	36.6	33.2	33.2	33.2	32.1	32.1	14.6	3.4	3.2	3.2	3.2	3.2	3.2	3.1	3.1	3.0	12.2	26.2	25.9	25.9	25.0	25.0	30.1	30.1	26.7	26.7	23.5	23.5	20.0	7.4	1.6	1.6	
⇕	8	4.3	4.3	4.1	4.1	17.5	36.6	36.6	36.6	33.2	33.2	32.1	32.1	14.6	3.4	3.2	3.2	3.2	3.2	3.2	3.1	3.1	3.0	12.7	26.2	26.2	25.9	25.0	25.0	30.1	30.1	30.1	26.7	26.7	23.5	20.0	7.4	1.6	1.6	

- すべり量分布の番号は上記波源モデル図の各小断層に対し西側から東側に順に1列から38列まで設定。陸側から海溝軸側に1行から8行まで設定。
- 駿河湾内のトラフ軸付近の領域については、他の領域に比べ、プレート境界面の深さ10kmの位置がトラフ軸に近くなり、また、トラフ軸沿いの津波断層モデルの面積も狭くなることから、この領域は分岐断層的な運動をする領域とみなせる（内閣府2012）とされるが、敷地への影響の観点から大すべり域のすべり量ではなく超大すべり域のすべり量を設定。

1 その他の検討波源モデルの詳細

1-2 検討波源モデル①のパラメータスタディモデルの設定

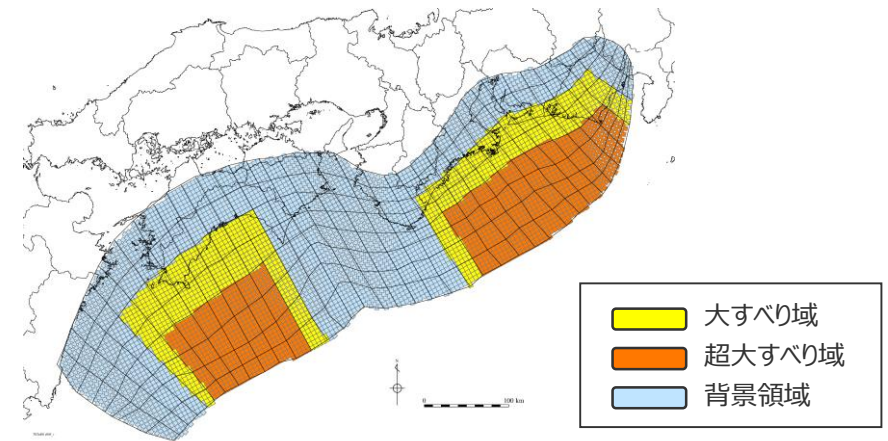
(大すべり域の位置を基準位置としたケースの断層パラメータの設定)

検討波源モデル①

(日本海溝の広域の津波特性再現手法によるモデル)
の大すべり域の位置を基準位置としたケースの断層パラメータ

項目		設定値
全体	面積※ (km ²)	144,379
	地震モーメント (Nm)	8.4×10^{22}
	Mw	9.2
	平均応力降下量 (MPa)	3.7
	平均すべり量 (m)	11.6
	最大すべり量 (m)	36.6
	剛性率 (N/m ²)	5.0×10^{10}
	破壊伝播速度 (km/s)	2.0
	ライズタイム (s)	150
主部断層	面積※ (km ²)	109,725
	地震モーメント (Nm)	5.5×10^{22}
	平均すべり量 (m)	10.0
	最大すべり量 (m)	36.6
浅部断層	面積※ (km ²)	34,655
	地震モーメント (Nm)	2.9×10^{22}
	平均すべり量 (m)	16.7
	最大すべり量 (m)	36.6

※津波断層域のうちすべりが発生している波源域の面積



検討波源モデル① (日本海溝の広域の津波特性再現手法によるモデル)
の大すべり域の位置を基準位置としたケース

主部断層：深さ10km以深の断層
浅部断層：深さ10km以浅の断層

1 その他の検討波源モデルの詳細

1-2 検討波源モデル①のパラメータスタディモデルの設定

(大すべり域の位置を西へ10kmとしたケースの断層パラメータの設定)

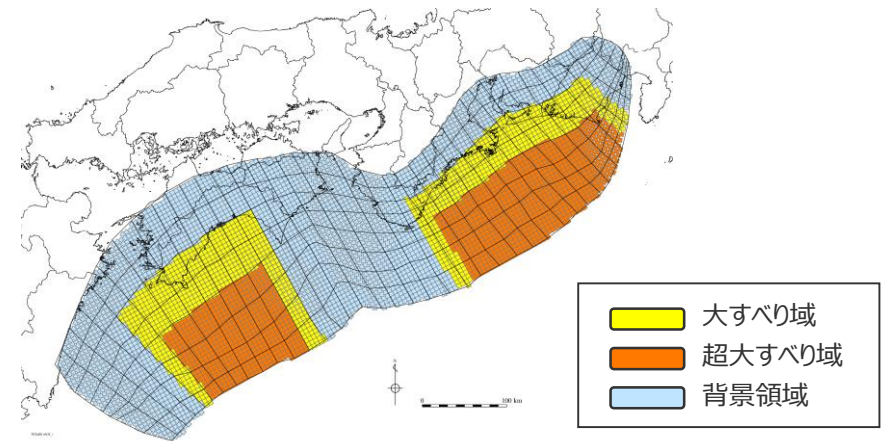
検討波源モデル①

(日本海溝の広域の津波特性再現手法によるモデル)

の大すべり域の位置を西へ10kmとしたケースの断層パラメータ

項目		設定値
全体	面積※ (km ²)	144,379
	地震モーメント (Nm)	8.5×10^{22}
	Mw	9.2
	平均応力降下量 (MPa)	3.8
	平均すべり量 (m)	11.8
	最大すべり量 (m)	36.6
	剛性率 (N/m ²)	5.0×10^{10}
	破壊伝播速度 (km/s)	2.0
	ライズタイム (s)	150
	主部断層	面積※ (km ²)
地震モーメント (Nm)		5.5×10^{22}
平均すべり量 (m)		10.1
最大すべり量 (m)		36.6
浅部断層	面積※ (km ²)	34,655
	地震モーメント (Nm)	2.9×10^{22}
	平均すべり量 (m)	17.0
	最大すべり量 (m)	36.6

※津波断層域のうちすべりが発生している波源域の面積



検討波源モデル① (日本海溝の広域の津波特性再現手法によるモデル) の大すべり域の位置を西へ10kmとしたケース

主部断層：深さ10km以深の断層

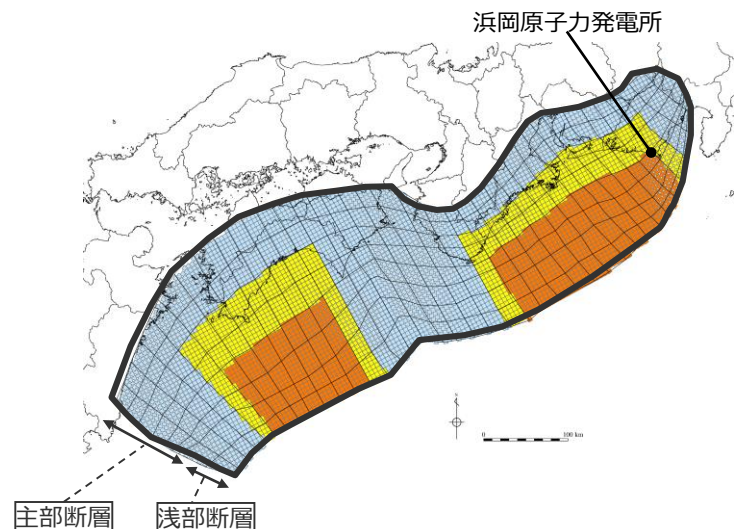
浅部断層：深さ10km以浅の断層

1 その他の検討波源モデルの詳細

1-2 検討波源モデル①のパラメータスタディモデルの設定

(大すべり域の位置を西へ20kmとしたケースのすべり量分布の設定)

■「検討波源モデル①（日本海溝の広域の津波特性再現手法によるモデル）」の大すべり域の位置を西へ20kmとしたケースの各小断層のすべり量分布は以下のとおり。

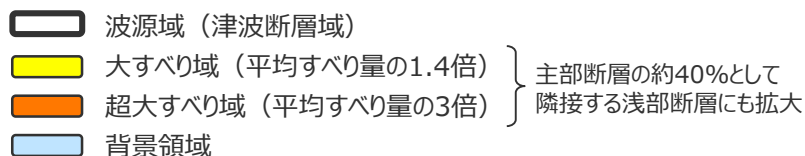


検討波源モデル①

(日本海溝の広域の津波特性再現手法によるモデル)
の大すべり域の位置を西へ20kmとしたケース

検討波源モデル①（日本海溝の広域の津波特性再現手法によるモデル）
の大すべり域の位置を西へ20kmとしたケースのすべり量

断層モデル		面積 (km ²)	M ₀ (Nm)	Mw	Δσ (MPa)	最大すべり量(m)	平均すべり量(m)
検討波源モデル① (日本海溝の広域の津波特性 再現手法によるモデル) 大すべり域の位置を西へ20kmと したケース	全体	144,379	8.6×10 ²²	9.2	3.8	36.6	11.9
	主部断層	109,725	5.6×10 ²²	9.1	3.7	36.6	10.2
	浅部断層	34,655	3.0×10 ²²	-	-	36.6	17.2



検討波源モデル①（日本海溝の広域の津波特性再現手法によるモデル）
の大すべり域の位置を西へ20kmとしたケースの小断層のすべり量分布 (m)

		西 ←															⇒ 東																								
深度40km↓		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38		
陸側⇕	30km↓	1	4.3	4.3	4.1	4.1	4.0	4.0	3.6	3.5	3.4	3.4	3.4	3.2	3.2	3.1	3.1	3.1	3.0	3.0	3.0	2.9	2.9	2.8	2.8	2.7	2.9	2.6	2.6	2.2	2.2	1.7	1.7	1.7	1.7	1.6	1.6	1.1	1.1		
	20km↓	2	4.3	4.3	4.1	4.1	4.0	4.0	3.6	3.5	3.5	3.4	3.4	3.4	3.2	3.2	3.1	3.1	3.1	3.0	3.0	3.0	2.9	2.9	2.8	2.8	2.7	2.9	2.9	2.6	2.6	2.2	2.2	1.7	1.7	1.7	1.7	1.6	1.6	1.1	1.1
10km↓		3	4.3	4.3	4.1	4.1	17.1	17.1	15.5	15.5	15.0	14.6	14.6	14.3	13.8	3.2	3.2	3.2	3.1	3.1	3.0	3.0	3.0	12.2	12.2	12.1	11.7	11.7	12.5	12.5	11.0	11.0	9.3	9.3	9.3	9.3	7.4	7.4	1.6	1.6	1.1
	0km↓	4	4.3	4.3	4.1	4.1	17.1	17.1	15.5	15.5	15.0	15.0	14.6	14.3	14.3	3.2	3.2	3.2	3.1	3.1	3.1	3.0	3.0	12.2	12.2	12.1	12.1	11.7	14.1	12.5	12.5	11.0	9.3	9.3	9.3	9.3	7.4	1.7	1.6	1.6	1.6
海溝軸⇕		5	4.3	4.3	4.1	4.1	17.1	36.6	36.6	33.2	33.2	32.1	31.3	31.3	14.3	3.4	3.2	3.2	3.2	3.1	3.1	3.1	3.0	12.7	26.2	25.9	25.9	25.0	25.0	30.1	26.7	26.7	23.5	23.5	20.0	20.0	7.4	1.7	1.6	1.6	1.6
	⇓	6	4.3	4.3	4.1	4.1	17.1	36.6	36.6	33.2	33.2	32.1	32.1	31.3	14.3	3.4	3.2	3.2	3.2	3.2	3.1	3.1	3.0	12.7	26.2	26.2	25.9	25.9	25.0	30.1	30.1	26.7	26.7	23.5	23.5	20.0	9.3	1.7	1.6	1.6	1.6
7		4.3	4.3	4.1	4.1	17.1	36.6	36.6	33.2	33.2	33.2	32.1	32.1	14.6	3.4	3.2	3.2	3.2	3.2	3.2	3.1	3.1	12.7	26.2	26.2	25.9	25.9	25.0	30.1	30.1	26.7	26.7	23.5	23.5	9.3	1.7	1.6	1.6	1.6		
8	4.3	4.3	4.1	4.1	17.5	36.6	36.6	36.6	33.2	33.2	32.1	32.1	14.6	3.4	3.2	3.2	3.2	3.2	3.2	3.1	3.1	12.7	27.1	26.2	26.2	25.9	25.0	30.1	30.1	30.1	26.7	26.7	23.5	9.3	1.7	1.6	1.6	1.6			

- すべり量分布の番号は上記波源モデル図の各小断層に対し西側から東側に順に1列から38列まで設定。陸側から海溝軸側に1行から8行まで設定。
- 駿河湾内のトラフ軸付近の領域については、他の領域に比べ、プレート境界面の深さ10kmの位置がトラフ軸に近くなり、また、トラフ軸沿いの津波断層モデルの面積も狭くなることから、この領域は分岐断層的な運動をする領域とみなせる（内閣府2012）とされるが、敷地への影響の観点から大すべり域のすべり量ではなく超大すべり域のすべり量を設定。

1 その他の検討波源モデルの詳細

1-2 検討波源モデル①のパラメータスタディモデルの設定

(大すべり域の位置を西へ20kmとしたケースの断層パラメータの設定)

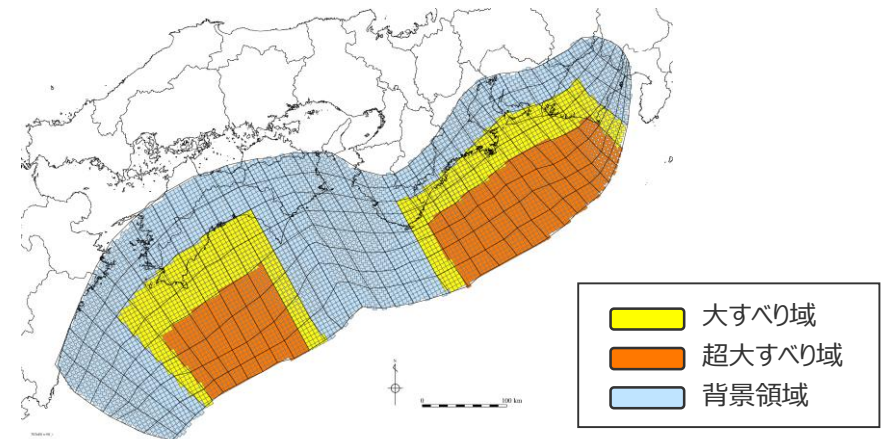
検討波源モデル①

(日本海溝の広域の津波特性再現手法によるモデル)

の大すべり域の位置を西へ20kmとしたケースの断層パラメータ

項目		設定値
全体	面積※ (km ²)	144,379
	地震モーメント (Nm)	8.6×10^{22}
	Mw	9.2
	平均応力降下量 (MPa)	3.8
	平均すべり量 (m)	11.9
	最大すべり量 (m)	36.6
	剛性率 (N/m ²)	5.0×10^{10}
	破壊伝播速度 (km/s)	2.0
	ライズタイム (s)	150
	主部断層	面積※ (km ²)
地震モーメント (Nm)		5.6×10^{22}
平均すべり量 (m)		10.2
最大すべり量 (m)		36.6
浅部断層	面積※ (km ²)	34,655
	地震モーメント (Nm)	3.0×10^{22}
	平均すべり量 (m)	17.2
	最大すべり量 (m)	36.6

※津波断層域のうちすべりが発生している波源域の面積



検討波源モデル① (日本海溝の広域の津波特性再現手法によるモデル) の大すべり域の位置を西へ20kmとしたケース

主部断層：深さ10km以深の断層

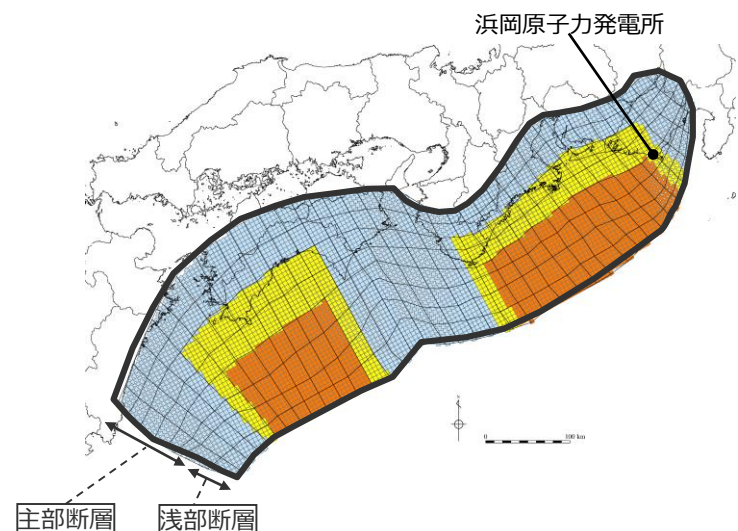
浅部断層：深さ10km以浅の断層

1 その他の検討波源モデルの詳細

1-2 検討波源モデル①のパラメータスタディモデルの設定

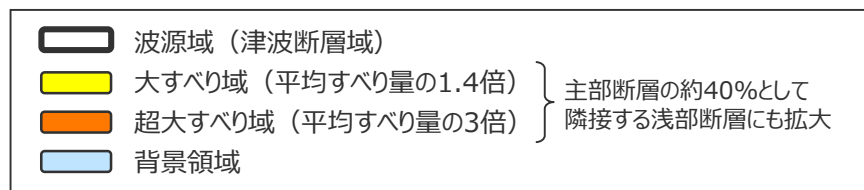
(大すべり域の位置を西へ30kmとしたケースのすべり量分布の設定)

■ 「検討波源モデル① (日本海溝の広域の津波特性再現手法によるモデル)」の大すべり域の位置を西へ30kmとしたケースの各小断層のすべり量分布は以下のとおり。



検討波源モデル① (日本海溝の広域の津波特性再現手法によるモデル)
の大すべり域の位置を西へ30kmとしたケースのすべり量

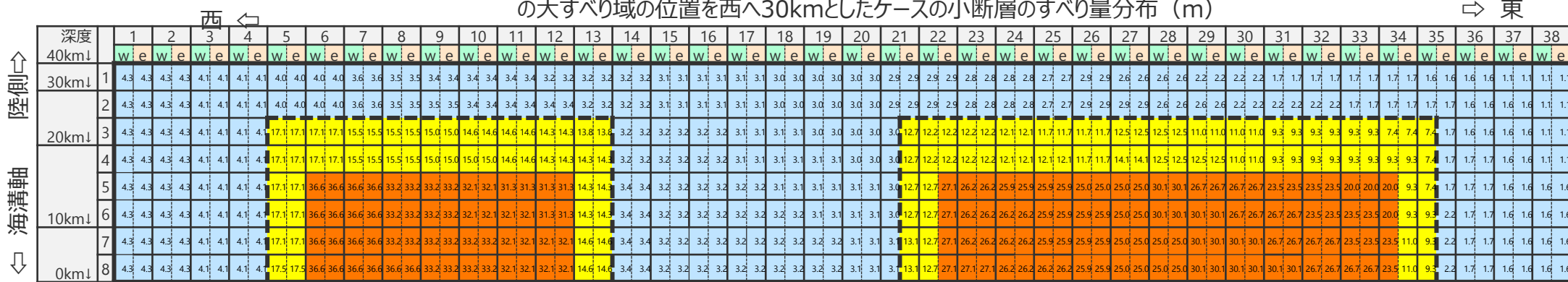
断層モデル		面積 (km ²)	M ₀ (Nm)	Mw	Δσ (MPa)	最大すべり量(m)	平均すべり量(m)
検討波源モデル① (日本海溝の広域の津波特性 再現手法によるモデル) 大すべり域の位置を西へ30kmと したケース	全体	144,379	8.6×10 ²²	9.2	3.8	36.6	12.0
	主部断層	109,725	5.6×10 ²²	9.1	3.8	36.6	10.2
	浅部断層	34,655	3.0×10 ²²	-	-	36.6	17.5



検討波源モデル①

(日本海溝の広域の津波特性再現手法によるモデル)
の大すべり域の位置を西へ30kmとしたケース

検討波源モデル① (日本海溝の広域の津波特性再現手法によるモデル)
の大すべり域の位置を西へ30kmとしたケースの小断層のすべり量分布 (m)



・すべり分布の番号は上記波源モデル図の各小断層に対し西側から東側に順に1列から38列まで設定。各列はw,eに2列に分割。陸側から海溝軸側に1行から8行まで設定。
 ・駿河湾内のトラフ軸付近の領域については、他の領域に比べ、プレート境界面の深さ10kmの位置がトラフ軸に近くなり、また、トラフ軸沿いの津波断層モデルの面積も狭くなることから、この領域は分岐断層的な運動をする領域とみなせる (内閣府2012) とされるが、敷地への影響の観点から大すべり域のすべり量ではなく超大すべり域のすべり量を設定。

1 その他の検討波源モデルの詳細

1-2 検討波源モデル①のパラメータスタディモデルの設定

(大すべり域の位置を西へ30kmとしたケースの断層パラメータの設定)

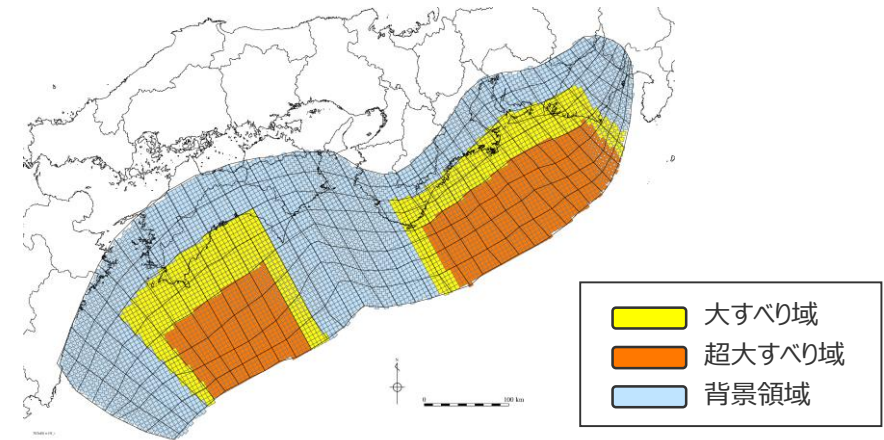
検討波源モデル①

(日本海溝の広域の津波特性再現手法によるモデル)

の大すべり域の位置を西へ30kmとしたケースの断層パラメータ

項目		設定値
全体	面積※ (km ²)	144,379
	地震モーメント (Nm)	8.6×10^{22}
	Mw	9.2
	平均応力降下量 (MPa)	3.8
	平均すべり量 (m)	12.0
	最大すべり量 (m)	36.6
	剛性率 (N/m ²)	5.0×10^{10}
	破壊伝播速度 (km/s)	2.0
	ライズタイム (s)	150
主部断層	面積※ (km ²)	109,725
	地震モーメント (Nm)	5.6×10^{22}
	平均すべり量 (m)	10.2
	最大すべり量 (m)	36.6
浅部断層	面積※ (km ²)	34,655
	地震モーメント (Nm)	3.0×10^{22}
	平均すべり量 (m)	17.5
	最大すべり量 (m)	36.6

※津波断層域のうちすべりが発生している波源域の面積



検討波源モデル① (日本海溝の広域の津波特性再現手法によるモデル) の大すべり域の位置を西へ30kmとしたケース

主部断層：深さ10km以深の断層

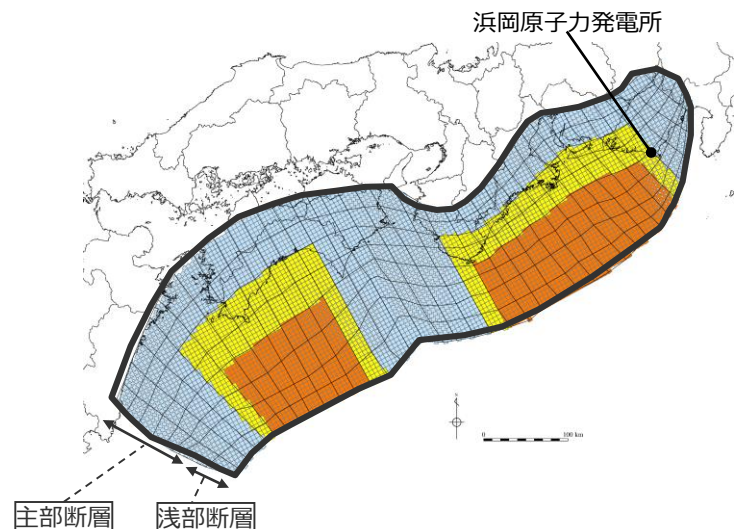
浅部断層：深さ10km以浅の断層

1 その他の検討波源モデルの詳細

1-2 検討波源モデル①のパラメータスタディモデルの設定

(大すべり域の位置を西へ40kmとしたケースのすべり量分布の設定)

■「検討波源モデル①（日本海溝の広域の津波特性再現手法によるモデル）」の大すべり域の位置を西へ40kmとしたケースの各小断層のすべり量分布は以下のとおり。

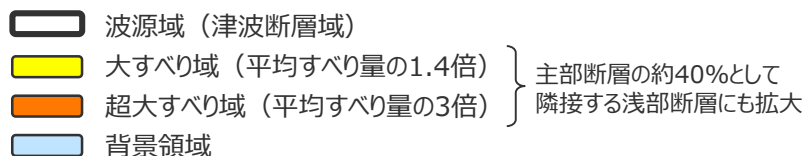


検討波源モデル①

(日本海溝の広域の津波特性再現手法によるモデル)
の大すべり域の位置を西へ40kmとしたケース

検討波源モデル①（日本海溝の広域の津波特性再現手法によるモデル）
の大すべり域の位置を西へ40kmとしたケースのすべり量

断層モデル		面積 (km ²)	M ₀ (Nm)	Mw	Δσ (MPa)	最大すべり量(m)	平均すべり量(m)
検討波源モデル① (日本海溝の広域の津波特性 再現手法によるモデル) 大すべり域の位置を西へ40kmと したケース	全体	144,379	8.7×10 ²²	9.2	3.9	36.6	12.1
	主部断層	109,725	5.6×10 ²²	9.1	3.8	36.6	10.3
	浅部断層	34,655	3.1×10 ²²	-	-	36.6	17.7



検討波源モデル①（日本海溝の広域の津波特性再現手法によるモデル）
の大すべり域の位置を西へ40kmとしたケースの小断層のすべり量分布 (m)

		西 ←															⇒ 東																							
深度40km↓		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	
陸側⇕	30km↓	1	4.3	4.3	4.1	4.1	4.0	4.0	3.6	3.5	3.4	3.4	3.4	3.2	3.2	3.1	3.1	3.1	3.0	3.0	3.0	2.9	2.9	2.8	2.8	2.7	2.9	2.6	2.6	2.2	2.2	1.7	1.7	1.7	1.7	1.6	1.6	1.1	1.1	
	20km↓	2	4.3	4.3	4.1	4.1	4.0	4.0	3.6	3.5	3.5	3.4	3.4	3.4	3.2	3.2	3.1	3.1	3.1	3.0	3.0	3.0	2.9	2.9	2.8	2.8	2.7	2.9	2.9	2.6	2.6	2.2	2.2	1.7	1.7	1.7	1.7	1.6	1.6	1.1
10km↓		3	4.3	4.3	4.1	4.1	17.1	17.1	15.5	15.5	15.0	14.6	14.6	14.3	13.8	3.2	3.2	3.2	3.1	3.1	3.0	3.0	12.7	12.2	12.2	12.1	11.7	11.7	12.5	12.5	11.0	11.0	9.3	9.3	9.3	7.4	1.7	1.6	1.6	1.1
	0km↓	4	4.3	4.3	4.1	4.1	17.1	17.1	15.5	15.5	15.0	15.0	14.6	14.3	14.3	3.2	3.2	3.2	3.1	3.1	3.1	3.0	12.7	12.2	12.2	12.1	12.1	11.7	14.1	12.5	12.5	11.0	9.3	9.3	9.3	9.3	1.7	1.7	1.6	1.1
海溝軸⇕		5	4.3	4.3	4.1	4.1	17.1	36.6	36.6	33.2	33.2	32.1	31.3	31.3	14.3	3.4	3.2	3.2	3.2	3.1	3.1	3.1	12.7	27.1	26.2	25.9	25.9	25.0	30.1	26.7	26.7	23.5	23.5	20.0	9.3	1.7	1.7	1.6	1.6	
	⇕	6	4.3	4.3	4.1	4.1	17.1	36.6	36.6	33.2	33.2	32.1	32.1	31.3	14.3	3.4	3.2	3.2	3.2	3.2	3.1	3.1	12.7	27.1	26.2	26.2	25.9	25.9	25.0	30.1	30.1	26.7	26.7	23.5	23.5	9.3	2.2	1.7	1.6	1.6
7		4.3	4.3	4.1	4.1	17.1	36.6	36.6	33.2	33.2	33.2	32.1	32.1	14.6	3.4	3.2	3.2	3.2	3.2	3.2	3.1	13.1	27.1	26.2	26.2	25.9	25.9	25.0	30.1	30.1	26.7	26.7	23.5	11.0	2.2	1.7	1.6	1.6		
8	4.3	4.3	4.1	4.1	17.5	36.6	36.6	36.6	33.2	33.2	32.1	32.1	14.6	3.4	3.2	3.2	3.2	3.2	3.2	3.2	3.1	13.1	27.1	27.1	26.2	26.2	25.9	25.0	30.1	30.1	26.7	26.7	11.0	2.2	1.7	1.6	1.6			

・すべり量分布の番号は上記波源モデル図の各小断層に対し西側から東側に順に1列から38列まで設定。陸側から海溝軸側に1行から8行まで設定。
 ・駿河湾内のトラフ軸付近の領域については、他の領域に比べ、プレート境界面の深さ10kmの位置がトラフ軸に近くなり、また、トラフ軸沿いの津波断層モデルの面積も狭くなることから、この領域は分岐断層的な運動をする領域とみなせる（内閣府2012）とされるが、敷地への影響の観点から大すべり域のすべり量ではなく超大すべり域のすべり量を設定。

1 その他の検討波源モデルの詳細

1-2 検討波源モデル①のパラメータスタディモデルの設定

(大すべり域の位置を西へ40kmとしたケースの断層パラメータの設定)

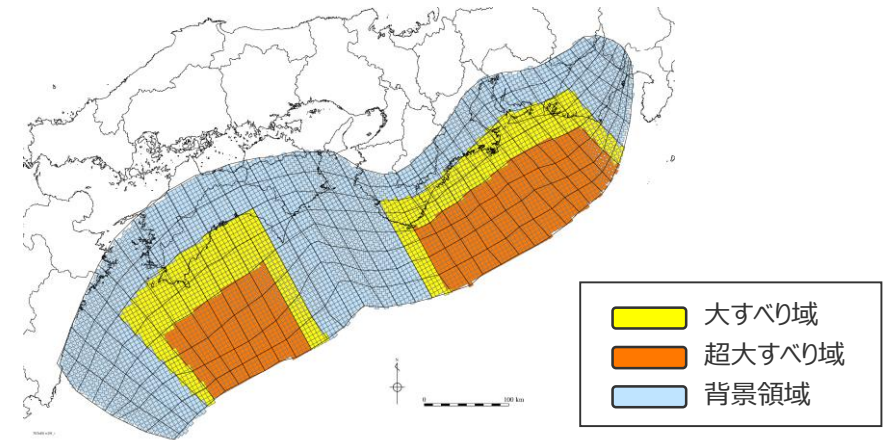
検討波源モデル①

(日本海溝の広域の津波特性再現手法によるモデル)

の大すべり域の位置を西へ40kmとしたケースの断層パラメータ

項目		設定値
全体	面積※ (km ²)	144,379
	地震モーメント (Nm)	8.7×10^{22}
	Mw	9.2
	平均応力降下量 (MPa)	3.9
	平均すべり量 (m)	12.1
	最大すべり量 (m)	36.6
	剛性率 (N/m ²)	5.0×10^{10}
	破壊伝播速度 (km/s)	2.0
	ライズタイム (s)	150
主部断層	面積※ (km ²)	109,725
	地震モーメント (Nm)	5.6×10^{22}
	平均すべり量 (m)	10.3
	最大すべり量 (m)	36.6
浅部断層	面積※ (km ²)	34,655
	地震モーメント (Nm)	3.1×10^{22}
	平均すべり量 (m)	17.7
	最大すべり量 (m)	36.6

※津波断層域のうちすべりが発生している波源域の面積



検討波源モデル① (日本海溝の広域の津波特性再現手法によるモデル) の大すべり域の位置を西へ40kmとしたケース

主部断層：深さ10km以深の断層

浅部断層：深さ10km以浅の断層

1 その他の検討波源モデルの詳細

1-2 検討波源モデル①のパラメータスタディモデルの設定

(大すべり域の位置を西へ50kmとしたケースの断層パラメータの設定)

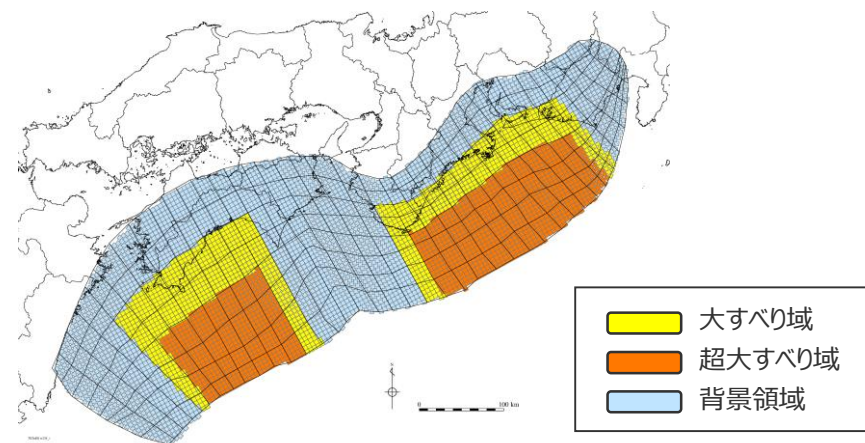
検討波源モデル①

(日本海溝の広域の津波特性再現手法によるモデル)

の大すべり域の位置を西へ50kmとしたケースの断層パラメータ

項目		設定値
全体	面積※ (km ²)	144,379
	地震モーメント (Nm)	8.6×10^{22}
	Mw	9.2
	平均応力降下量 (MPa)	3.8
	平均すべり量 (m)	12.0
	最大すべり量 (m)	36.6
	剛性率 (N/m ²)	5.0×10^{10}
	破壊伝播速度 (km/s)	2.0
	ライズタイム (s)	150
主部断層	面積※ (km ²)	109,725
	地震モーメント (Nm)	5.6×10^{22}
	平均すべり量 (m)	10.2
	最大すべり量 (m)	36.6
浅部断層	面積※ (km ²)	34,655
	地震モーメント (Nm)	3.0×10^{22}
	平均すべり量 (m)	17.5
	最大すべり量 (m)	36.6

※津波断層域のうちすべりが発生している波源域の面積



検討波源モデル① (日本海溝の広域の津波特性再現手法によるモデル) の大すべり域の位置を西へ50kmとしたケース

主部断層：深さ10km以深の断層

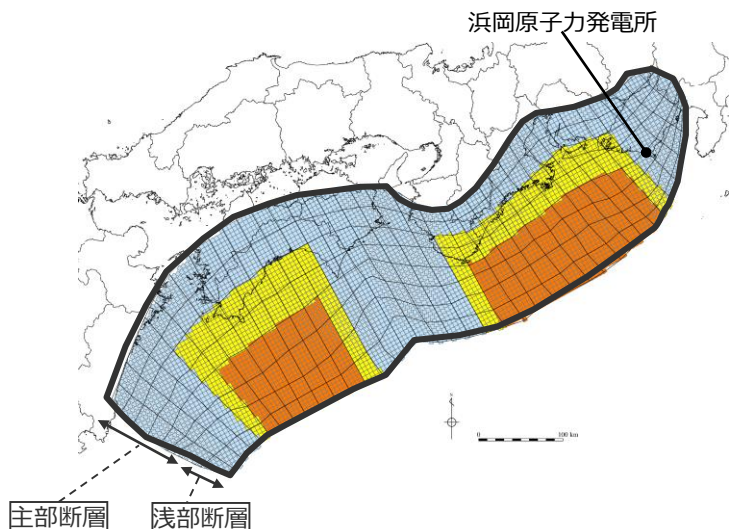
浅部断層：深さ10km以浅の断層

1 その他の検討波源モデルの詳細

1-2 検討波源モデル①のパラメータスタディモデルの設定

(大すべり域の位置を西へ60kmとしたケースのすべり量分布の設定)

■「検討波源モデル①（日本海溝の広域の津波特性再現手法によるモデル）」の大すべり域の位置を西へ60kmとしたケースの各小断層のすべり量分布は以下のとおり。

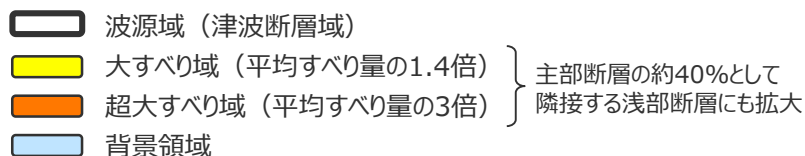


検討波源モデル①

(日本海溝の広域の津波特性再現手法によるモデル)
の大すべり域の位置を西へ60kmとしたケース

検討波源モデル①（日本海溝の広域の津波特性再現手法によるモデル）
の大すべり域の位置を西へ60kmとしたケースのすべり量

断層モデル		面積 (km ²)	M ₀ (Nm)	Mw	Δσ (MPa)	最大すべり量(m)	平均すべり量(m)
検討波源モデル① (日本海溝の広域の津波特性 再現手法によるモデル) 大すべり域の位置を西へ60kmと したケース	全体	144,379	8.6×10 ²²	9.2	3.8	36.6	11.8
	主部断層	109,725	5.5×10 ²²	9.1	3.7	36.6	10.1
	浅部断層	34,655	3.0×10 ²²	-	-	36.6	17.4



検討波源モデル①（日本海溝の広域の津波特性再現手法によるモデル）
の大すべり域の位置を西へ60kmとしたケースの小断層のすべり量分布 (m)

		西 ←															⇒ 東																								
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38		
陸側⇕	深度40km↓	1	4.3	4.3	4.1	4.1	4.0	4.0	3.6	3.5	3.4	3.4	3.4	3.2	3.2	3.1	3.1	3.1	3.0	3.0	3.0	2.9	2.9	2.8	2.8	2.7	2.9	2.6	2.6	2.2	2.2	1.7	1.7	1.7	1.7	1.6	1.6	1.1	1.1		
	30km↓	2	4.3	4.3	4.1	4.1	4.0	4.0	3.6	3.5	3.5	3.4	3.4	3.4	3.2	3.2	3.1	3.1	3.1	3.0	3.0	3.0	2.9	2.9	2.8	2.8	2.7	2.9	2.9	2.6	2.6	2.2	2.2	1.7	1.7	1.7	1.7	1.6	1.6	1.1	1.1
海溝軸⇕	20km↓	3	4.3	4.3	4.1	4.1	17.1	17.1	15.5	15.5	15.0	14.6	14.6	14.3	13.8	3.2	3.2	3.2	3.1	3.1	3.0	3.0	12.7	12.2	12.2	12.1	11.7	11.7	12.5	12.5	11.0	11.0	9.3	9.3	9.3	1.7	1.7	1.6	1.6	1.1	1.1
	10km↓	4	4.3	4.3	4.1	4.1	17.1	17.1	15.5	15.5	15.0	15.0	14.6	14.3	14.3	3.2	3.2	3.2	3.1	3.1	3.1	3.0	12.7	12.2	12.2	12.1	12.1	11.7	14.1	12.5	12.5	11.0	9.3	9.3	9.3	2.2	1.7	1.7	1.6	1.1	1.1
⇓	0km↓	5	4.3	4.3	4.1	4.1	17.1	36.6	36.6	33.2	33.2	32.1	31.3	31.3	14.3	3.4	3.2	3.2	3.2	3.1	3.1	3.1	12.7	27.1	26.2	25.9	25.9	25.0	30.1	26.7	26.7	23.5	23.5	9.3	2.2	1.7	1.7	1.6	1.6	1.6	1.6
	8	4.3	4.3	4.1	4.1	17.1	36.6	36.6	33.2	33.2	33.2	32.1	32.1	14.6	3.4	3.2	3.2	3.2	3.2	3.2	3.2	3.1	13.1	27.1	26.2	26.2	25.9	25.9	25.0	30.1	30.1	26.7	26.7	11.0	2.6	2.2	1.7	1.6	1.6	1.6	1.6

- すべり量分布の番号は上記波源モデル図の各小断層に対し西側から東側に順に1列から38列まで設定。陸側から海溝軸側に1行から8行まで設定。
- 駿河湾内のトラフ軸付近の領域については、他の領域に比べ、プレート境界面の深さ10kmの位置がトラフ軸に近くなり、また、トラフ軸沿いの津波断層モデルの面積も狭くなることから、この領域は分岐断層的な運動をする領域とみなせる（内閣府2012）とされるが、敷地への影響の観点から大すべり域のすべり量ではなく超大すべり域のすべり量を設定。

1 その他の検討波源モデルの詳細

1-2 検討波源モデル①のパラメータスタディモデルの設定

(大すべり域の位置を西へ60kmとしたケースの断層パラメータの設定)

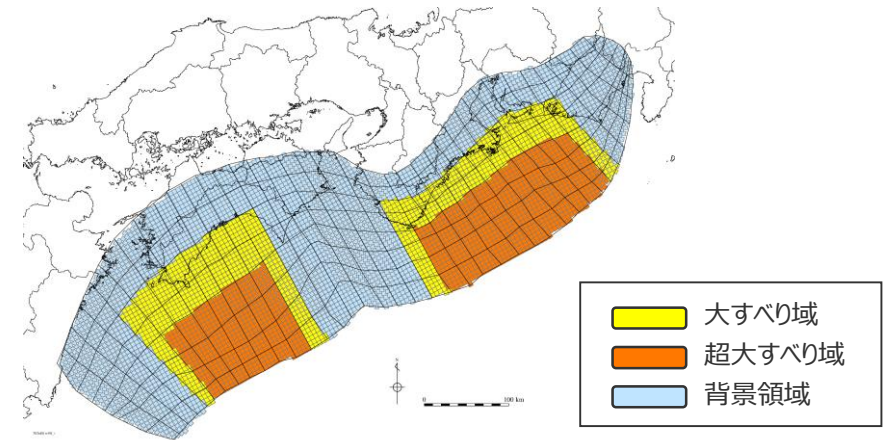
検討波源モデル①

(日本海溝の広域の津波特性再現手法によるモデル)

の大すべり域の位置を西へ60kmとしたケースの断層パラメータ

項目		設定値
全体	面積※ (km ²)	144,379
	地震モーメント (Nm)	8.6×10^{22}
	Mw	9.2
	平均応力降下量 (MPa)	3.8
	平均すべり量 (m)	11.8
	最大すべり量 (m)	36.6
	剛性率 (N/m ²)	5.0×10^{10}
	破壊伝播速度 (km/s)	2.0
	ライズタイム (s)	150
	主部断層	面積※ (km ²)
地震モーメント (Nm)		5.5×10^{22}
平均すべり量 (m)		10.1
最大すべり量 (m)		36.6
浅部断層	面積※ (km ²)	34,655
	地震モーメント (Nm)	3.0×10^{22}
	平均すべり量 (m)	17.4
	最大すべり量 (m)	36.6

※津波断層域のうちすべりが発生している波源域の面積



検討波源モデル① (日本海溝の広域の津波特性再現手法によるモデル) の大すべり域の位置を西へ60kmとしたケース

主部断層：深さ10km以深の断層
浅部断層：深さ10km以浅の断層

1 その他の検討波源モデルの詳細

1-2 検討波源モデル①のパラメータスタディモデルの設定

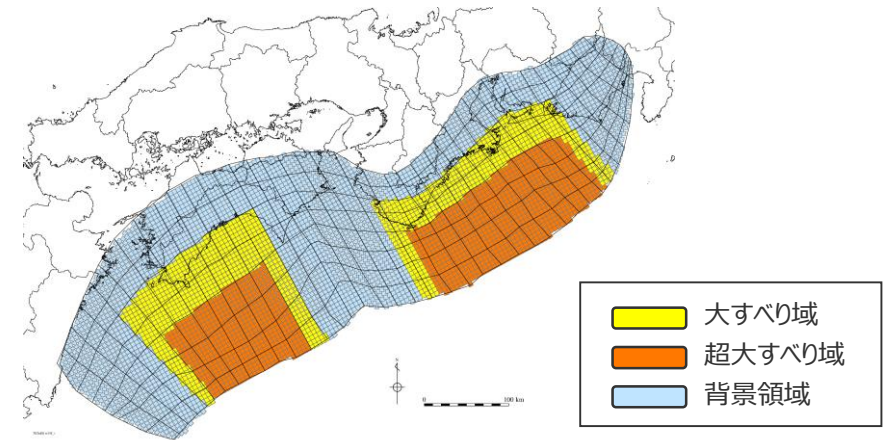
(大すべり域の位置を西へ70kmとしたケースの断層パラメータの設定)

検討波源モデル①

(日本海溝の広域の津波特性再現手法によるモデル)
の大すべり域の位置を西へ70kmとしたケースの断層パラメータ

項目		設定値
全体	面積※ (km ²)	144,379
	地震モーメント (Nm)	8.6×10^{22}
	Mw	9.2
	平均応力降下量 (MPa)	3.8
	平均すべり量 (m)	11.9
	最大すべり量 (m)	36.6
	剛性率 (N/m ²)	5.0×10^{10}
	破壊伝播速度 (km/s)	2.0
	ライズタイム (s)	150
	主部断層	面積※ (km ²)
地震モーメント (Nm)		5.6×10^{22}
平均すべり量 (m)		10.1
最大すべり量 (m)		36.6
浅部断層	面積※ (km ²)	34,655
	地震モーメント (Nm)	3.0×10^{22}
	平均すべり量 (m)	17.5
	最大すべり量 (m)	36.6

※津波断層域のうちすべりが発生している波源域の面積



検討波源モデル① (日本海溝の広域の津波特性再現手法によるモデル)
の大すべり域の位置を西へ70kmとしたケース

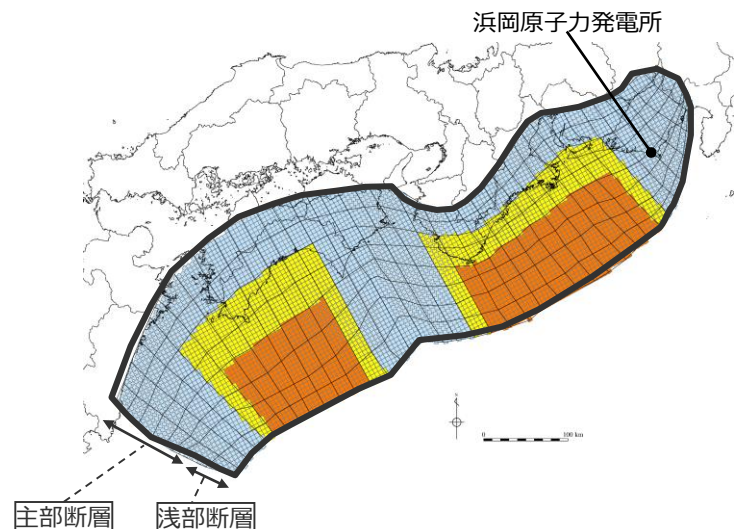
主部断層：深さ10km以深の断層
浅部断層：深さ10km以浅の断層

1 その他の検討波源モデルの詳細

1-2 検討波源モデル①のパラメータスタディモデルの設定

(大すべり域の位置を西へ80kmとしたケースのすべり量分布の設定)

■「検討波源モデル①（日本海溝の広域の津波特性再現手法によるモデル）」の大すべり域の位置を西へ80kmとしたケースの各小断層のすべり量分布は以下のとおり。

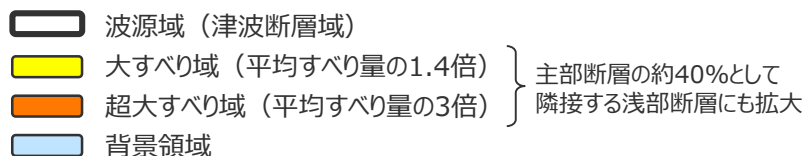


検討波源モデル①

(日本海溝の広域の津波特性再現手法によるモデル)
の大すべり域の位置を西へ80kmとしたケース

検討波源モデル①（日本海溝の広域の津波特性再現手法によるモデル）
の大すべり域の位置を西へ80kmとしたケースのすべり量

断層モデル		面積 (km ²)	M ₀ (Nm)	Mw	Δσ (MPa)	最大すべり量(m)	平均すべり量(m)
検討波源モデル① (日本海溝の広域の津波特性 再現手法によるモデル) 大すべり域の位置を西へ80kmと したケース	全体	144,379	8.6×10 ²²	9.2	3.8	36.6	12.0
	主部断層	109,725	5.6×10 ²²	9.1	3.7	36.6	10.2
	浅部断層	34,655	3.1×10 ²²	-	-	36.6	17.7



検討波源モデル①（日本海溝の広域の津波特性再現手法によるモデル）
の大すべり域の位置を西へ80kmとしたケースの小断層のすべり量分布 (m)

		西 ←															⇒ 東																									
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38			
陸側 ⇕	深度40km ↓		4.3	4.3	4.1	4.1	4.0	4.0	3.6	3.5	3.4	3.4	3.4	3.2	3.2	3.1	3.1	3.1	3.0	3.0	3.0	2.9	2.9	2.8	2.8	2.7	2.9	2.6	2.6	2.2	2.2	1.7	1.7	1.7	1.7	1.6	1.6	1.1	1.1			
	30km ↓	1	4.3	4.3	4.1	4.1	4.0	4.0	3.6	3.5	3.5	3.4	3.4	3.4	3.2	3.2	3.1	3.1	3.1	3.0	3.0	3.0	2.9	2.9	2.8	2.8	2.7	2.9	2.9	2.6	2.6	2.2	2.2	1.7	1.7	1.7	1.6	1.6	1.1	1.1		
海溝軸 ⇕	20km ↓	2	4.3	4.3	4.1	4.1	4.0	4.0	3.6	3.5	3.5	3.4	3.4	3.4	3.2	3.2	3.1	3.1	3.1	3.0	3.0	3.0	2.9	2.9	2.8	2.8	2.7	2.9	2.9	2.6	2.6	2.2	2.2	1.7	1.7	1.7	1.6	1.6	1.1	1.1		
		3	4.3	4.3	4.1	4.1	17.1	17.1	15.5	15.5	15.0	14.6	14.6	14.3	13.8	3.2	3.2	3.2	3.1	3.1	3.0	12.7	12.7	12.2	12.2	12.1	11.7	11.7	12.5	12.5	11.0	11.0	9.3	9.3	2.2	1.7	1.7	1.6	1.6	1.1	1.1	
	10km ↓	4	4.3	4.3	4.1	4.1	17.1	17.1	15.5	15.5	15.0	15.0	14.6	14.3	14.3	3.2	3.2	3.2	3.1	3.1	3.1	12.7	12.7	12.2	12.2	12.1	12.1	11.7	14.1	12.5	12.5	11.0	9.3	9.3	2.2	2.2	1.7	1.7	1.6	1.6	1.1	1.1
		5	4.3	4.3	4.1	4.1	17.1	36.6	36.6	33.2	33.2	32.1	31.3	31.3	14.3	3.4	3.2	3.2	3.2	3.1	3.1	13.1	27.1	27.1	26.2	25.9	25.0	25.0	30.1	26.7	26.7	23.5	11.0	2.2	2.2	1.7	1.7	1.6	1.6	1.1	1.1	
⇕ 海	0km ↓	6	4.3	4.3	4.1	4.1	17.1	36.6	36.6	33.2	33.2	32.1	32.1	31.3	14.3	3.4	3.2	3.2	3.2	3.2	3.1	13.1	27.1	27.1	26.2	26.2	25.9	25.9	25.0	30.1	30.1	26.7	26.7	11.0	2.6	2.2	2.2	1.7	1.6	1.6	1.1	1.1
		7	4.3	4.3	4.1	4.1	17.1	36.6	36.6	33.2	33.2	33.2	32.1	32.1	14.6	3.4	3.2	3.2	3.2	3.2	3.2	13.1	28.0	27.1	26.2	26.2	25.9	25.9	25.0	30.1	30.1	26.7	12.5	2.6	2.6	2.2	1.7	1.6	1.6	1.1	1.1	
⇕ 溝	8	4.3	4.3	4.1	4.1	17.5	36.6	36.6	36.6	33.2	33.2	32.1	32.1	14.6	3.4	3.2	3.2	3.2	3.2	3.2	13.1	28.0	27.1	27.1	26.2	26.2	25.9	25.0	30.1	30.1	30.1	12.5	2.9	2.6	2.2	1.7	1.6	1.6	1.1	1.1		

・すべり量分布の番号は上記波源モデル図の各小断層に対し西側から東側に順に1列から38列まで設定。陸側から海溝軸側に1行から8行まで設定。
 ・駿河湾内のトラフ軸付近の領域については、他の領域に比べ、プレート境界面の深さ10kmの位置がトラフ軸に近くなり、また、トラフ軸沿いの津波断層モデルの面積も狭くなることから、この領域は分岐断層的な運動をする領域とみなせる（内閣府2012）とされるが、敷地への影響の観点から大すべり域のすべり量ではなく超大すべり域のすべり量を設定。

1 その他の検討波源モデルの詳細

1-2 検討波源モデル①のパラメータスタディモデルの設定

(大すべり域の位置を西へ80kmとしたケースの断層パラメータの設定)

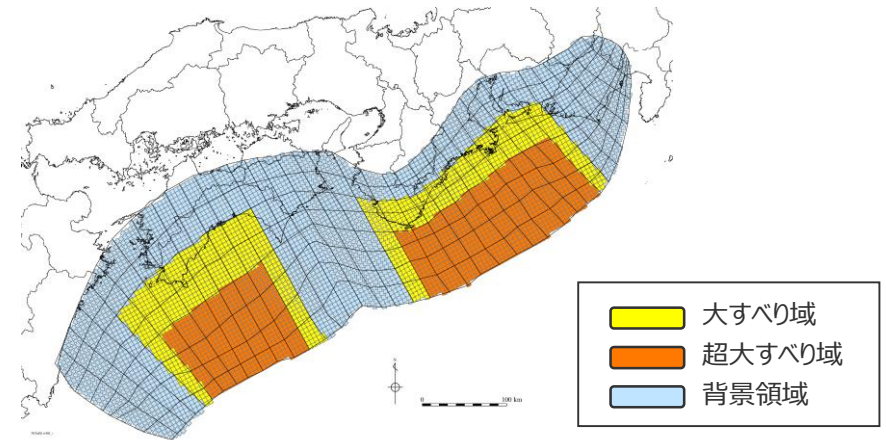
検討波源モデル①

(日本海溝の広域の津波特性再現手法によるモデル)

の大すべり域の位置を西へ80kmとしたケースの断層パラメータ

項目		設定値
全体	面積※ (km ²)	144,379
	地震モーメント (Nm)	8.6×10^{22}
	Mw	9.2
	平均応力降下量 (MPa)	3.8
	平均すべり量 (m)	12.0
	最大すべり量 (m)	36.6
	剛性率 (N/m ²)	5.0×10^{10}
	破壊伝播速度 (km/s)	2.0
	ライズタイム (s)	150
	主部断層	面積※ (km ²)
地震モーメント (Nm)		5.6×10^{22}
平均すべり量 (m)		10.2
最大すべり量 (m)		36.6
浅部断層	面積※ (km ²)	34,655
	地震モーメント (Nm)	3.1×10^{22}
	平均すべり量 (m)	17.7
	最大すべり量 (m)	36.6

※津波断層域のうちすべりが発生している波源域の面積



検討波源モデル① (日本海溝の広域の津波特性再現手法によるモデル) の大すべり域の位置を西へ80kmとしたケース

主部断層：深さ10km以深の断層

浅部断層：深さ10km以浅の断層

余 白

1 その他の検討波源モデルの詳細

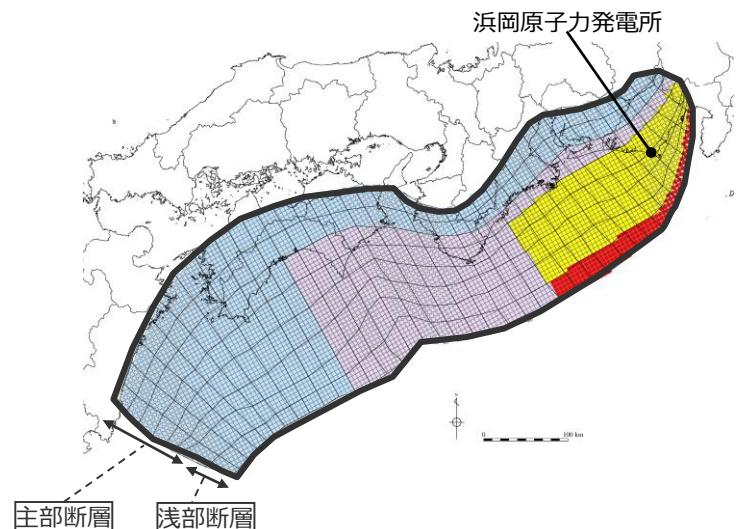
1-3 検討波源モデル②のパラメータスタディモデルの設定

1 その他の検討波源モデルの詳細

1-3 検討波源モデル②のパラメータスタディモデルの設定

(大すべり域の位置を東へ40kmとしたケースのすべり量分布の設定)

■「検討波源モデル②（日本海溝の宮城県津波特性評価手法1によるモデル）」の大すべり域の位置を東へ40kmとしたケースの各小断層のすべり量分布は以下のとおり。

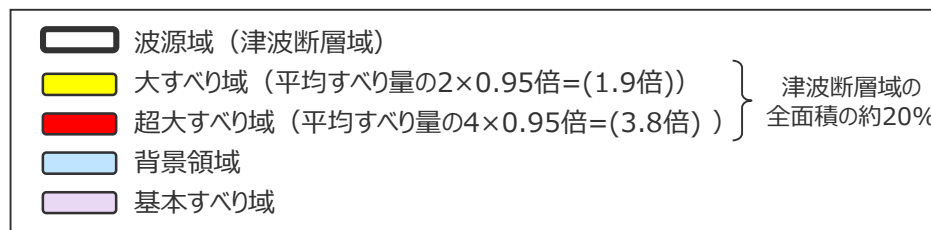


検討波源モデル②

(日本海溝の宮城県津波特性評価手法1によるモデル)
の大すべり域の位置を東へ40kmとしたケース

検討波源モデル②（日本海溝の宮城県津波特性評価手法1によるモデル）
の大すべり域の位置を東へ40kmとしたケースのすべり量

断層モデル		面積 (km ²)	M ₀ (Nm)	Mw	Δσ (MPa)	最大すべり量(m)	平均すべり量(m)
検討波源モデル② (日本海溝の宮城県津波特性評価手法1によるモデル) 大すべり域の位置を東へ40kmとしたケース	全体	144,379	6.8×10 ²²	9.2	3.0	37.0	9.4
	主部断層	109,725	4.5×10 ²²	9.0	3.0	18.5	8.2
	浅部断層	34,655	2.2×10 ²²	-	-	37.0	13.0



検討波源モデル②（日本海溝の宮城県津波特性評価手法1によるモデル）
の大すべり域の位置を東へ40kmとしたケースの小断層のすべり量分布 (m)

		西 ←														→ 東																								
深度40km↓		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	
陸側⇕	30km↓	1	8.4	8.4	8.2	8.2	7.9	7.9	7.2	7.0	6.8	6.7	6.7	6.4	6.3	6.3	6.1	6.1	6.1	5.9	5.9	5.9	5.7	5.7	5.6	5.6	5.4	5.8	5.1	5.1	4.3	4.3	3.4	3.4	3.4	3.4	3.1	3.1	2.2	2.2
	20km↓	2	8.4	8.4	8.2	8.2	7.9	7.9	7.2	7.0	7.0	6.8	6.7	6.7	6.4	6.3	6.1	6.1	6.1	5.9	5.9	5.9	5.7	5.7	5.6	5.6	5.4	5.8	5.8	5.1	5.1	4.3	4.3	4.3	3.4	3.4	3.4	3.1	3.1	2.2
3		8.4	8.4	8.2	8.2	7.9	7.9	7.2	7.2	7.0	6.8	6.8	9.4	9.1	9.1	8.8	8.8	8.6	8.6	8.3	8.3	8.3	8.1	8.1	8.0	7.7	7.7	8.2	8.2	7.2	7.2	6.1	6.1	6.1	4.9	4.9	4.3	4.3	3.1	
海溝軸⇕	10km↓	4	8.4	8.4	8.2	8.2	7.9	7.9	7.2	7.2	7.0	6.8	9.4	9.4	9.1	8.8	8.8	8.6	8.6	8.6	8.3	8.3	8.1	8.1	8.0	15.9	15.4	18.5	16.4	16.4	14.5	12.3	12.3	12.3	12.3	9.7	9.7	8.7	6.3	
		5	8.4	8.4	8.2	8.2	7.9	7.9	7.9	7.2	7.2	7.0	6.8	9.6	9.4	9.4	9.1	8.8	8.8	8.6	8.6	8.6	8.3	8.3	8.1	8.0	15.9	15.4	15.4	18.5	16.4	16.4	14.5	14.5	12.3	12.3	9.7	9.7	8.7	8.7
⇕	0km↓	6	8.4	8.4	8.2	8.2	7.9	7.9	7.9	7.2	7.2	7.0	9.6	9.4	9.4	9.1	8.8	8.8	8.8	8.6	8.6	8.3	8.3	8.1	8.1	15.9	15.9	15.4	18.5	18.5	16.4	16.4	14.5	14.5	12.3	12.3	9.7	8.7	8.7	
		7	8.4	8.4	8.2	8.2	7.9	7.9	7.9	7.2	7.2	7.0	9.9	9.6	9.4	9.1	9.1	8.8	8.8	8.8	8.6	8.6	8.3	8.1	8.1	15.9	15.9	15.4	15.4	18.5	18.5	16.4	16.4	14.5	14.5	12.3	9.7	8.7	8.7	
		8	8.4	8.4	8.2	8.2	8.2	7.9	7.9	7.9	7.2	7.2	7.0	9.9	9.6	9.4	9.1	9.1	9.1	8.8	8.8	8.6	8.6	8.3	8.3	8.1	32.2	31.8	30.7	30.7	37.0	37.0	37.0	32.8	32.8	28.9	24.6	19.4	17.4	17.4

- すべり量分布の番号は上記波源モデル図の各小断層に対し西側から東側に順に1列から38列まで設定。陸側から海溝軸側に1行から8行まで設定。
- 駿河湾内のトラフ軸付近の領域については、他の領域に比べ、プレート境界面の深さ10kmの位置がトラフ軸に近くなり、また、トラフ軸沿いの津波断層モデルの面積も狭くなることから、この領域は分岐断層的な運動をする領域とみなせる（内閣府2012）とされるが、敷地への影響の観点から大すべり域のすべり量ではなく超大すべり域のすべり量を設定。

1 その他の検討波源モデルの詳細

1-3 検討波源モデル②のパラメータスタディモデルの設定

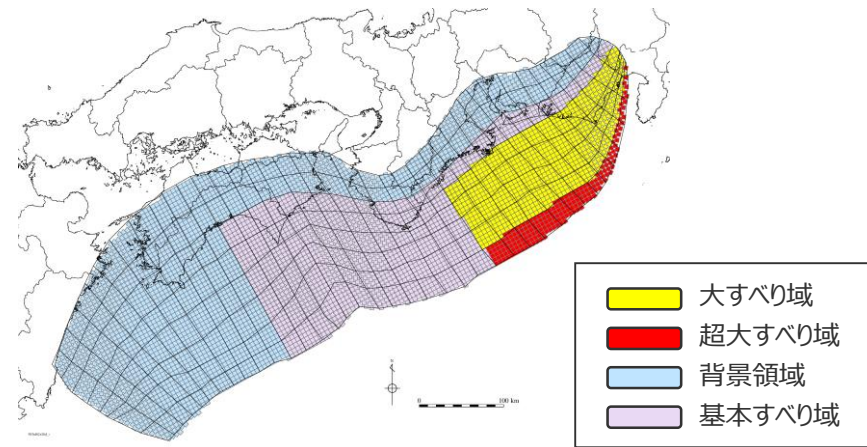
(大すべり域の位置を東へ40kmとしたケースの断層パラメータの設定)

検討波源モデル②

(日本海溝の宮城県津波特性評価手法1によるモデル)
の大すべり域の位置を東へ40kmとしたケースの断層パラメータ

項目		設定値
全体	面積※ (km ²)	144,379
	地震モーメント (Nm)	6.8×10^{22}
	Mw	9.2
	平均応力降下量 (MPa)	3.0
	平均すべり量 (m)	9.4
	最大すべり量 (m)	37.0
	剛性率 (N/m ²)	5.0×10^{10}
	破壊伝播速度 (km/s)	2.0
	ライズタイム (s)	150
	主部断層	面積※ (km ²)
地震モーメント (Nm)		4.5×10^{22}
平均すべり量 (m)		8.2
最大すべり量 (m)		18.5
浅部断層	面積※ (km ²)	34,655
	地震モーメント (Nm)	2.2×10^{22}
	平均すべり量 (m)	13.0
	最大すべり量 (m)	37.0

※津波断層域のうちすべりが発生している波源域の面積



検討波源モデル② (日本海溝の宮城県津波特性評価手法1によるモデル)
の大すべり域の位置を東へ40kmとしたケース

主部断層：深さ10km以深の断層
浅部断層：深さ10km以浅の断層

1 その他の検討波源モデルの詳細

1-3 検討波源モデル②のパラメータスタディモデルの設定

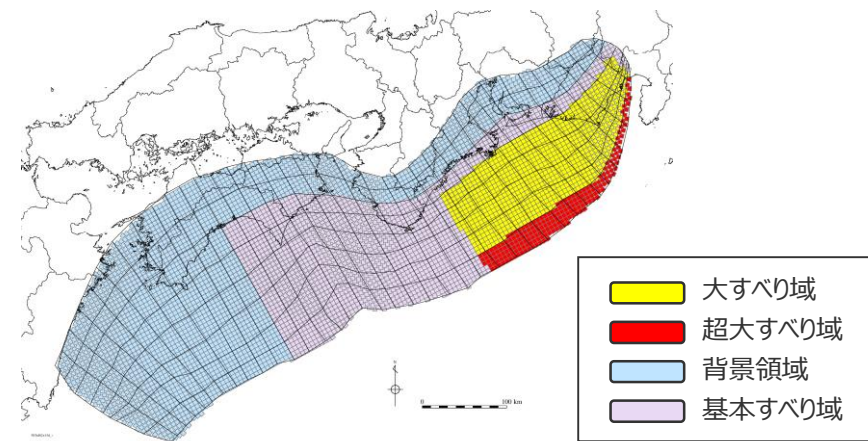
(大すべり域の位置を東へ30kmとしたケースの断層パラメータの設定)

検討波源モデル②

(日本海溝の宮城県津波特性評価手法1によるモデル)
の大すべり域の位置を東へ30kmとしたケースの断層パラメータ

項目		設定値
全体	面積※ (km ²)	144,379
	地震モーメント (Nm)	6.8×10^{22}
	Mw	9.2
	平均応力降下量 (MPa)	3.0
	平均すべり量 (m)	9.4
	最大すべり量 (m)	37.0
	剛性率 (N/m ²)	5.0×10^{10}
	破壊伝播速度 (km/s)	2.0
	ライズタイム (s)	150
	主部断層	面積※ (km ²)
地震モーメント (Nm)		4.5×10^{22}
平均すべり量 (m)		8.1
最大すべり量 (m)		18.5
浅部断層	面積※ (km ²)	34,655
	地震モーメント (Nm)	2.3×10^{22}
	平均すべり量 (m)	13.2
	最大すべり量 (m)	37.0

※津波断層域のうちすべりが発生している波源域の面積



検討波源モデル② (日本海溝の宮城県津波特性評価手法1によるモデル)
の大すべり域の位置を東へ30kmとしたケース

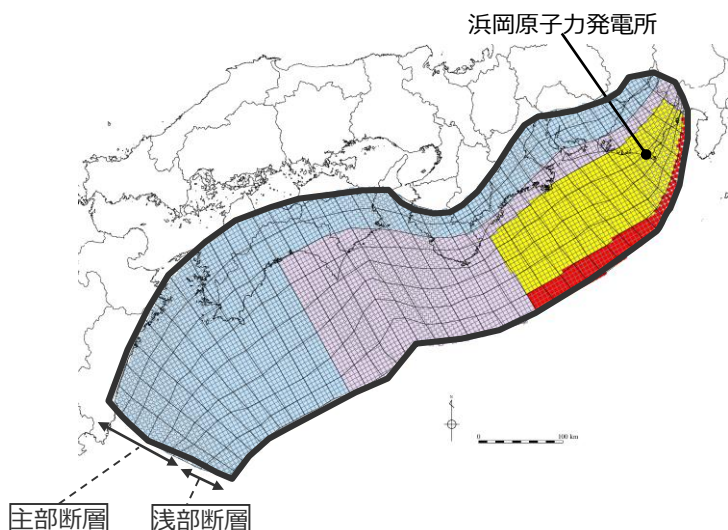
主部断層：深さ10km以深の断層

浅部断層：深さ10km以浅の断層

1 その他の検討波源モデルの詳細

1-3 検討波源モデル②のパラメータスタディモデルの設定 (大すべり域の位置を東へ20kmとしたケースのすべり量分布の設定)

■「検討波源モデル②（日本海溝の宮城県津波特性評価手法1によるモデル）」の大すべり域の位置を東へ20kmとしたケースの各小断層のすべり量分布は以下のとおり。

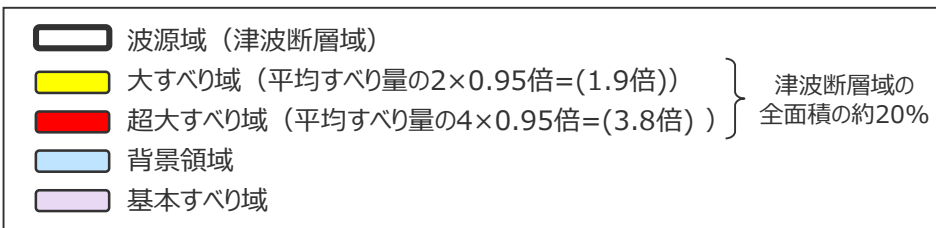


検討波源モデル②

(日本海溝の宮城県津波特性評価手法1によるモデル)
の大すべり域の位置を東へ20kmとしたケース

検討波源モデル②（日本海溝の宮城県津波特性評価手法1によるモデル）
の大すべり域の位置を東へ20kmとしたケースのすべり量

断層モデル		面積 (km ²)	M ₀ (Nm)	M _w	Δσ (MPa)	最大すべり量(m)	平均すべり量(m)
検討波源モデル② (日本海溝の宮城県津波特性評価手法1によるモデル) 大すべり域の位置を東へ20kmとしたケース	全体	144,379	6.8×10 ²²	9.2	3.0	37.0	9.4
	主部断層	109,725	4.4×10 ²²	9.0	3.0	18.5	8.1
	浅部断層	34,655	2.3×10 ²²	-	-	37.0	13.4



検討波源モデル②（日本海溝の宮城県津波特性評価手法1によるモデル）

の大すべり域の位置を東へ20kmとしたケースの小断層のすべり量分布 (m)

		西 ←																	⇒ 東																							
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38			
陸側	深度40km↓	1	8.0	8.0	7.7	7.7	7.5	7.5	6.8	6.6	6.4	6.3	6.3	6.1	5.9	5.9	5.8	5.8	5.8	5.6	5.6	5.6	5.4	5.4	5.3	5.3	5.1	5.5	4.9	4.9	4.1	4.1	3.3	3.3	3.3	3.3	2.9	2.9	2.1	2.1		
	30km↓	2	8.0	8.0	7.7	7.7	7.5	7.5	6.8	6.6	6.6	6.4	6.3	6.1	5.9	5.8	5.8	5.8	5.6	5.6	5.6	5.4	5.4	5.3	5.3	5.1	5.5	5.5	4.9	4.9	4.1	4.1	4.1	4.1	3.3	3.3	3.3	2.9	2.9	2.1	2.1	
海溝軸	20km↓	3	8.0	8.0	7.7	7.7	7.5	7.5	6.8	6.8	6.6	6.4	6.4	9.4	9.1	9.1	8.8	8.8	8.6	8.6	8.3	8.3	8.1	8.1	8.0	7.7	7.7	8.2	8.2	7.2	7.2	6.1	6.1	6.1	6.1	4.9	4.9	4.3	4.3	3.1	3.1	
	10km↓	4	8.0	8.0	7.7	7.7	7.5	7.5	6.8	6.8	6.6	6.6	6.4	9.4	9.4	9.1	8.8	8.8	8.6	8.6	8.6	8.3	8.3	8.1	8.1	15.9	15.9	15.4	18.5	16.4	16.4	14.5	12.3	12.3	12.3	12.3	9.7	9.7	8.7	8.7	3.1	3.1
⇩	0km↓	5	8.0	8.0	7.7	7.7	7.5	7.5	7.5	6.8	6.8	6.6	6.4	9.6	9.4	9.4	9.1	8.8	8.8	8.6	8.6	8.6	8.3	8.3	8.1	15.9	15.9	15.4	15.4	18.5	16.4	16.4	14.5	14.5	12.3	12.3	9.7	9.7	8.7	8.7	4.3	4.3
	8	8.0	8.0	7.7	7.7	7.5	7.5	7.5	6.8	6.8	6.8	6.6	9.9	9.6	9.4	9.1	9.1	8.8	8.8	8.8	8.6	8.6	8.3	8.1	16.1	15.9	15.9	15.4	15.4	18.5	18.5	16.4	16.4	14.5	14.5	12.3	12.3	9.7	8.7	8.7	4.3	4.3
	8	8.0	8.0	7.7	7.7	7.7	7.5	7.5	7.5	6.8	6.8	6.6	9.9	9.6	9.4	9.1	9.1	9.1	8.8	8.8	8.6	8.6	8.3	8.3	32.2	32.2	31.8	30.7	30.7	37.0	37.0	37.0	32.8	32.8	28.9	24.6	19.4	17.4	4.3	4.3		

- すべり量分布の番号は上記波源モデル図の各小断層に対し西側から東側に順に1列から38列まで設定。陸側から海溝軸側に1行から8行まで設定。
- 駿河湾内のトラフ軸付近の領域については、他の領域に比べ、プレート境界面の深さ10kmの位置がトラフ軸に近くなり、また、トラフ軸沿いの津波断層モデルの面積も狭くなることから、この領域は分岐断層的な運動をする領域とみなせる（内閣府2012）とされるが、敷地への影響の観点から大すべり域のすべり量ではなく超大すべり域のすべり量を設定。

1 その他の検討波源モデルの詳細

1-3 検討波源モデル②のパラメータスタディモデルの設定

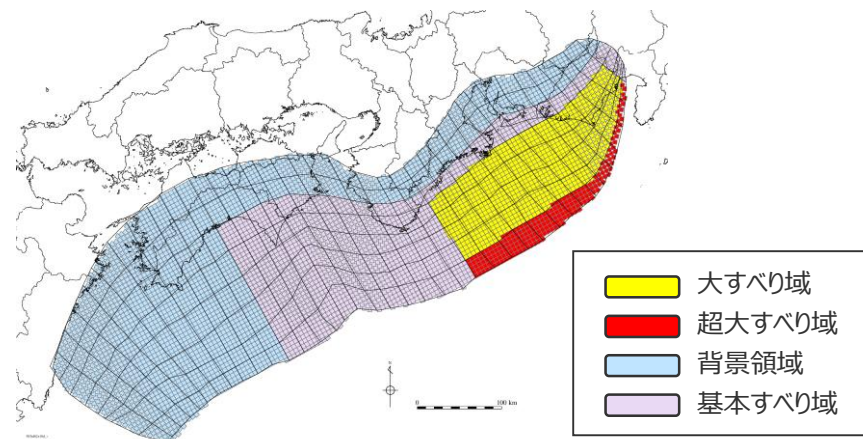
(大すべり域の位置を東へ20kmとしたケースの断層パラメータの設定)

検討波源モデル②

(日本海溝の宮城県の津波特性評価手法 1 によるモデル)
の大すべり域の位置を東へ20kmとしたケースの断層パラメータ

項目		設定値
全体	面積※ (km ²)	144,379
	地震モーメント (Nm)	6.8×10^{22}
	Mw	9.2
	平均応力降下量 (MPa)	3.0
	平均すべり量 (m)	9.4
	最大すべり量 (m)	37.0
	剛性率 (N/m ²)	5.0×10^{10}
	破壊伝播速度 (km/s)	2.0
	ライズタイム (s)	150
主部断層	面積※ (km ²)	109,725
	地震モーメント (Nm)	4.4×10^{22}
	平均すべり量 (m)	8.1
	最大すべり量 (m)	18.5
浅部断層	面積※ (km ²)	34,655
	地震モーメント (Nm)	2.3×10^{22}
	平均すべり量 (m)	13.4
	最大すべり量 (m)	37.0

※津波断層域のうちすべりが発生している波源域の面積



検討波源モデル② (日本海溝の宮城県の津波特性評価手法 1 によるモデル)
の大すべり域の位置を東へ20kmとしたケース

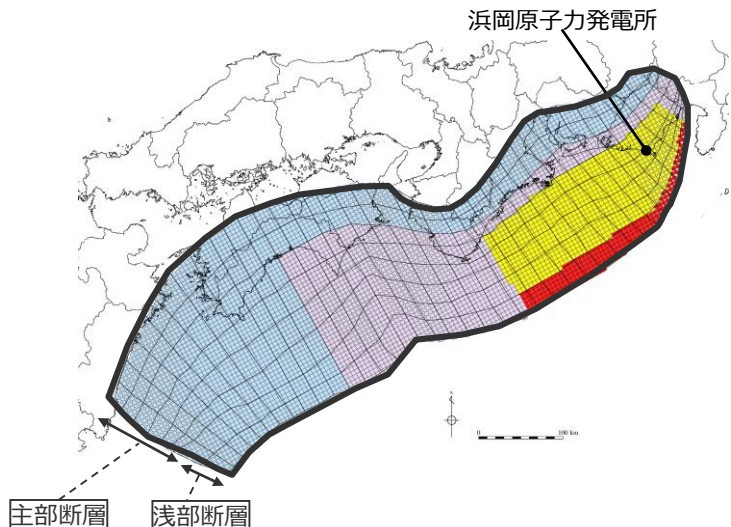
主部断層：深さ10km以深の断層

浅部断層：深さ10km以浅の断層

1 その他の検討波源モデルの詳細

1-3 検討波源モデル②のパラメータスタディモデルの設定 (大すべり域の位置を東へ10kmとしたケースのすべり量分布の設定)

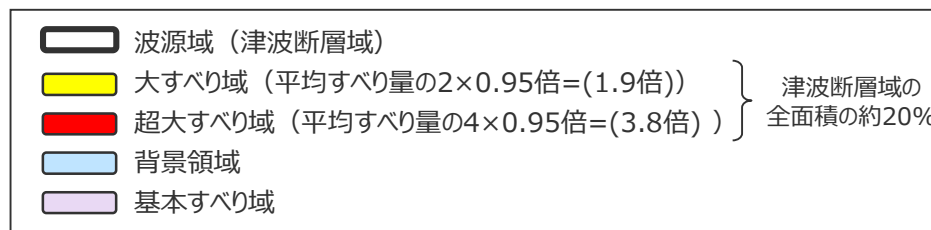
■「検討波源モデル②（日本海溝の宮城県の津波特性評価手法 1 によるモデル）」の大すべり域の位置を東へ10kmとしたケースの各小断層のすべり量分布は以下のとおり。



検討波源モデル②
(日本海溝の宮城県の津波特性評価手法 1 によるモデル)
の大すべり域の位置を東へ10kmとしたケース

検討波源モデル②（日本海溝の宮城県の津波特性評価手法 1 によるモデル）
の大すべり域の位置を東へ10kmとしたケースのすべり量

断層モデル		面積 (km ²)	M ₀ (Nm)	Mw	Δσ (MPa)	最大すべり量(m)	平均すべり量(m)
検討波源モデル② (日本海溝の宮城県の津波特性評価手法 1 によるモデル) 大すべり域の位置を東へ10kmとしたケース	全体	144,379	6.8×10 ²²	9.2	3.0	37.0	9.4
	主部断層	109,725	4.4×10 ²²	9.0	3.0	18.5	8.0
	浅部断層	34,655	2.4×10 ²²	-	-	37.0	13.6



検討波源モデル②（日本海溝の宮城県の津波特性評価手法 1 によるモデル）
の大すべり域の位置を東へ10kmとしたケースの小断層のすべり量分布 (m)

		西 ←																		→ 東																			
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38
陸側⇔ 海溝軸 ⇔	深度	w e w e																																					
	40km↓	1 7.8 7.8 7.8 7.8 7.6 7.6 7.6 7.6 7.4 7.4 7.4 7.4 7.4 7.4 6.7 6.7 6.5 6.5 6.3 6.3 6.2 6.2 6.2 6.2 5.9 5.9 5.8 5.8 5.8 5.6 5.6 5.6 5.6 5.5 5.5 5.5 5.5 5.3 5.3 5.3 5.3 5.2 5.2 5.2 5.2 5.0 5.0 5.4 5.4 4.7 4.7 4.7 4.7 4.0 4.0 4.0 4.0 3.2 3.2 3.2 3.2 3.2 3.2 2.8 2.8 2.8 2.1 2.1 2.1 2.1																																					
	30km↓	2 7.8 7.8 7.8 7.8 7.6 7.6 7.6 7.6 7.4 7.4 7.4 7.4 7.4 7.4 6.7 6.7 6.5 6.5 6.5 6.5 6.3 6.3 6.2 6.2 6.2 6.2 5.9 5.9 5.8 5.8 5.8 5.6 5.6 5.6 5.6 5.5 5.5 5.5 5.5 5.3 5.3 5.3 5.3 5.2 5.2 5.2 5.2 5.0 5.0 5.4 5.4 5.4 5.4 4.7 4.7 4.7 4.7 4.0 4.0 4.0 4.0 3.2 3.2 3.2 3.2 3.2 3.2 2.8 2.8 2.8 2.1 2.1 2.1 2.1																																					
	20km↓	3 7.8 7.8 7.8 7.8 7.6 7.6 7.6 7.6 7.4 7.4 7.4 7.4 7.4 7.4 6.7 6.7 6.7 6.7 6.5 6.5 6.5 6.5 6.3 6.3 6.3 6.3 9.4 9.4 9.1 9.1 9.1 9.1 8.8 8.8 8.8 8.6 8.6 8.6 8.6 8.3 8.3 8.3 8.3 8.1 8.1 8.1 8.1 8.0 8.0 7.7 7.7 7.7 7.7 8.2 8.2 8.2 8.2 7.2 7.2 7.2 6.1 6.1 6.1 6.1 6.1 4.9 4.9 4.9 4.3 4.3 4.3 3.1 3.1																																					
	10km↓	4 7.8 7.8 7.8 7.8 7.6 7.6 7.6 7.6 7.4 7.4 7.4 7.4 7.4 7.4 6.7 6.7 6.7 6.7 6.5 6.5 6.5 6.5 6.3 6.3 6.3 6.3 9.4 9.4 9.4 9.4 9.1 9.1 9.1 8.8 8.8 8.8 8.6 8.6 8.6 8.6 8.6 8.3 8.3 8.3 8.3 8.1 8.1 8.1 8.1 8.1 16.1 16.1 15.9 15.9 15.9 15.4 15.4 15.4 18.5 18.5 16.4 16.4 16.4 14.5 14.5 12.3 12.3 12.3 12.3 12.3 12.3 9.7 9.7 9.7 8.7 4.3 4.3 3.1 3.1																																					
	0km↓	5 7.8 7.8 7.8 7.8 7.6 7.6 7.6 7.6 7.4 7.4 7.4 7.4 7.4 7.4 6.7 6.7 6.7 6.7 6.5 6.5 6.5 6.5 6.3 6.3 6.3 6.3 9.6 9.6 9.4 9.4 9.4 9.1 9.1 9.1 8.8 8.8 8.8 8.6 8.6 8.6 8.6 8.6 8.6 8.3 8.3 8.3 8.3 8.3 8.1 8.1 8.1 8.1 8.1 16.1 16.1 16.1 15.9 15.9 15.9 15.4 15.4 15.4 18.5 18.5 16.4 16.4 16.4 14.5 14.5 12.3 12.3 12.3 12.3 12.3 12.3 9.7 9.7 9.7 8.7 4.3 4.3 4.3 4.3																																					
	0km↓	6 7.8 7.8 7.8 7.8 7.6 7.6 7.6 7.6 7.4 7.4 7.4 7.4 7.4 7.4 6.7 6.7 6.7 6.7 6.5 6.5 6.5 6.5 6.3 6.3 6.3 6.3 9.6 9.6 9.4 9.4 9.4 9.1 9.1 9.1 8.8 8.8 8.8 8.6 8.6 8.6 8.6 8.6 8.6 8.6 8.3 8.3 8.3 8.3 8.3 8.3 8.1 8.1 8.1 8.1 8.1 16.1 16.1 16.1 15.9 15.9 15.9 15.4 15.4 15.4 18.5 18.5 16.4 16.4 16.4 14.5 14.5 12.3 12.3 12.3 12.3 12.3 12.3 9.7 9.7 9.7 8.7 4.3 4.3 4.3 4.3																																					
	0km↓	7 7.8 7.8 7.8 7.8 7.6 7.6 7.6 7.6 7.4 7.4 7.4 7.4 7.4 7.4 6.7 6.7 6.7 6.7 6.5 6.5 6.5 6.5 6.3 6.3 6.3 6.3 9.9 9.9 9.6 9.6 9.4 9.4 9.1 9.1 9.1 9.1 8.8 8.8 8.8 8.6 8.6 8.6 8.6 8.6 8.6 8.6 8.3 8.3 8.3 8.3 8.3 8.3 8.1 8.1 8.1 8.1 8.1 16.1 16.1 16.1 15.9 15.9 15.9 15.4 15.4 15.4 18.5 18.5 18.5 16.4 16.4 16.4 14.5 14.5 12.3 12.3 12.3 12.3 12.3 12.3 9.7 9.7 8.7 4.3 4.3 4.3 4.3																																					
0km↓	8 7.8 7.8 7.8 7.8 7.6 7.6 7.6 7.6 7.4 7.4 7.4 7.4 7.4 7.4 6.7 6.7 6.7 6.7 6.5 6.5 6.5 6.5 6.3 6.3 6.3 6.3 9.9 9.9 9.6 9.6 9.4 9.4 9.1 9.1 9.1 9.1 8.8 8.8 8.8 8.6 8.6 8.6 8.6 8.6 8.6 8.6 8.3 8.3 8.3 8.3 8.3 8.3 8.1 8.1 8.1 8.1 8.1 33.3 32.2 32.2 32.2 31.8 31.8 30.7 30.7 30.7 37.0 37.0 37.0 32.8 32.8 32.8 28.9 28.9 24.6 24.6 19.4 19.4 17.4 4.3 4.3 4.3 4.3																																						

・すべり分布の番号は上記波源モデル図の各小断層に対し西側から東側に順に1列から38列まで設定。各列はw,eに2列に分割。陸側から海溝軸側に1行から8行まで設定。
 ・駿河湾内のトラフ軸付近の領域については、他の領域に比べ、プレート境界面の深さ10kmの位置がトラフ軸に近くなり、また、トラフ軸沿いの津波断層モデルの面積も狭くなることから、この領域は分岐断層的な運動をする領域とみなせる（内閣府2012）とされるが、敷地への影響の観点から大すべり域のすべり量ではなく超大すべり域のすべり量を設定。

1 その他の検討波源モデルの詳細

1-3 検討波源モデル②のパラメータスタディモデルの設定

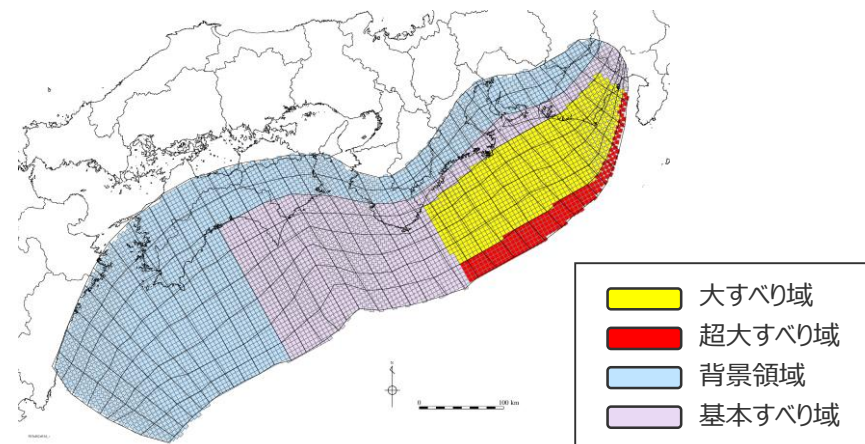
(大すべり域の位置を東へ10kmとしたケースの断層パラメータの設定)

検討波源モデル②

(日本海溝の宮城県津波特性評価手法1によるモデル)
の大すべり域の位置を東へ10kmとしたケースの断層パラメータ

項目		設定値
全体	面積※ (km ²)	144,379
	地震モーメント (Nm)	6.8×10^{22}
	Mw	9.2
	平均応力降下量 (MPa)	3.0
	平均すべり量 (m)	9.4
	最大すべり量 (m)	37.0
	剛性率 (N/m ²)	5.0×10^{10}
	破壊伝播速度 (km/s)	2.0
	ライズタイム (s)	150
	主部断層	面積※ (km ²)
地震モーメント (Nm)		4.4×10^{22}
平均すべり量 (m)		8.0
最大すべり量 (m)		18.5
浅部断層	面積※ (km ²)	34,655
	地震モーメント (Nm)	2.4×10^{22}
	平均すべり量 (m)	13.6
	最大すべり量 (m)	37.0

※津波断層域のうちすべりが発生している波源域の面積



検討波源モデル② (日本海溝の宮城県津波特性評価手法1によるモデル)
の大すべり域の位置を東へ10kmとしたケース

主部断層：深さ10km以深の断層

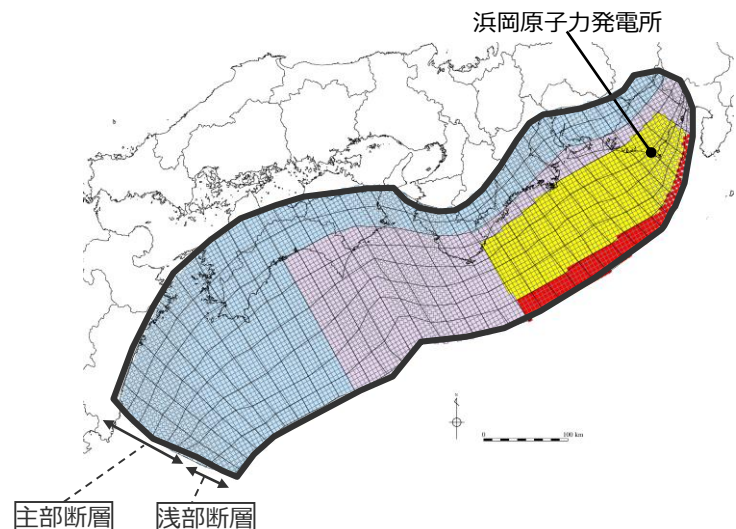
浅部断層：深さ10km以浅の断層

1 その他の検討波源モデルの詳細

1-3 検討波源モデル②のパラメータスタディモデルの設定

(大すべり域の位置を基準位置としたケースのすべり量分布の設定)

■「検討波源モデル②（日本海溝の宮城県の津波特性評価手法 1 によるモデル）」の大すべり域の位置を基準位置としたケースの各小断層のすべり量分布は以下のとおり。

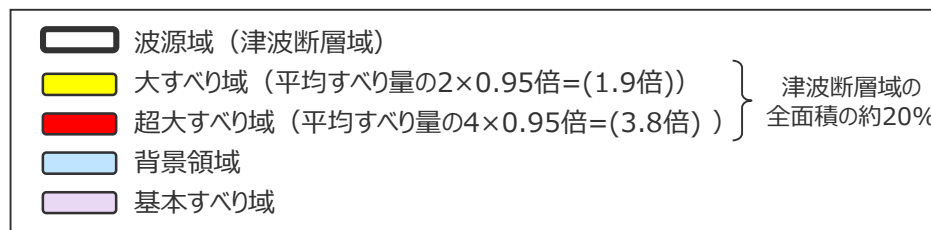


検討波源モデル②

(日本海溝の宮城県の津波特性評価手法 1 によるモデル)
の大すべり域の位置を基準位置としたケース

検討波源モデル②（日本海溝の宮城県の津波特性評価手法 1 によるモデル）
の大すべり域の位置を基準位置としたケースのすべり量

断層モデル		面積 (km ²)	M ₀ (Nm)	Mw	Δσ (MPa)	最大すべり量(m)	平均すべり量(m)
検討波源モデル② (日本海溝の宮城県の津波特性評価手法 1 によるモデル) 大すべり域の位置を基準位置としたケース	全体	144,379	6.8×10 ²²	9.2	3.0	37.0	9.4
	主部断層	109,725	4.4×10 ²²	9.0	2.9	18.5	8.0
	浅部断層	34,655	2.4×10 ²²	-	-	37.0	13.8



検討波源モデル②（日本海溝の宮城県の津波特性評価手法 1 によるモデル）

の大すべり域の位置を基準位置としたケースの小断層のすべり量分布 (m)

		西 ←														⇒ 東																							
深度40km↓		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38
陸側⇕	30km↓	1	7.6	7.6	7.4	7.4	7.2	7.2	6.5	6.3	6.1	6.0	6.0	5.8	5.7	5.5	5.5	5.5	5.3	5.3	5.3	5.2	5.2	5.1	5.1	4.9	5.3	4.6	4.6	3.9	3.9	3.1	3.1	3.1	3.1	2.8	2.8	2.0	2.0
	20km↓	2	7.6	7.6	7.4	7.4	7.2	7.2	6.5	6.3	6.3	6.1	6.0	6.0	5.8	5.7	5.5	5.5	5.5	5.3	5.3	5.3	5.2	5.2	5.1	5.1	4.9	5.3	4.6	4.6	3.9	3.9	3.9	3.1	3.1	3.1	3.1	2.8	2.8
10km↓		3	7.6	7.6	7.4	7.4	7.2	7.2	6.5	6.5	6.3	6.1	6.1	9.4	9.1	9.1	8.8	8.8	8.6	8.6	8.3	8.3	8.3	8.1	8.1	8.0	7.7	7.7	8.2	8.2	7.2	7.2	6.1	6.1	6.1	4.9	4.9	4.3	4.3
	0km↓	4	7.6	7.6	7.4	7.4	7.2	7.2	6.5	6.5	6.3	6.3	6.1	9.4	9.4	9.1	8.8	8.8	8.6	8.6	8.6	8.3	8.3	8.1	16.1	15.9	15.9	15.4	18.5	16.4	16.4	14.5	12.3	12.3	12.3	12.3	9.7	9.7	4.3
海溝軸⇕		5	7.6	7.6	7.4	7.4	7.2	7.2	7.2	6.5	6.5	6.3	6.1	9.6	9.4	9.4	9.1	8.8	8.8	8.6	8.6	8.6	8.3	8.3	16.1	15.9	15.9	15.4	15.4	18.5	16.4	16.4	14.5	14.5	12.3	12.3	9.7	9.7	4.3
		6	7.6	7.6	7.4	7.4	7.2	7.2	7.2	6.5	6.5	6.3	6.3	9.6	9.4	9.4	9.1	8.8	8.8	8.8	8.6	8.6	8.3	8.3	16.1	16.1	15.9	15.9	15.4	18.5	18.5	16.4	16.4	14.5	14.5	12.3	12.3	9.7	4.3
		7	7.6	7.6	7.4	7.4	7.2	7.2	7.2	6.5	6.5	6.5	6.3	9.9	9.6	9.4	9.1	9.1	8.8	8.8	8.8	8.6	8.6	8.3	16.1	16.1	15.9	15.9	15.4	15.4	18.5	18.5	16.4	16.4	14.5	14.5	12.3	9.7	4.3
		8	7.6	7.6	7.4	7.4	7.4	7.2	7.2	7.2	6.5	6.5	6.3	9.9	9.6	9.4	9.1	9.1	9.1	8.8	8.8	8.6	8.6	8.3	33.3	32.2	32.2	31.8	30.7	30.7	37.0	37.0	37.0	32.8	32.8	28.9	24.6	19.4	4.3

- すべり量分布の番号は上記波源モデル図の各小断層に対し西側から東側に順に1列から38列まで設定。陸側から海溝軸側に1行から8行まで設定。
- 駿河湾内のトラフ軸付近の領域については、他の領域に比べ、プレート境界面の深さ10km の位置がトラフ軸に近くなり、また、トラフ軸沿いの津波断層モデルの面積も狭くなることから、この領域は分岐断層的な運動をする領域とみなせる（内閣府2012）とされるが、敷地への影響の観点から大すべり域のすべり量ではなく超大すべり域のすべり量を設定。

1 その他の検討波源モデルの詳細

1-3 検討波源モデル②のパラメータスタディモデルの設定

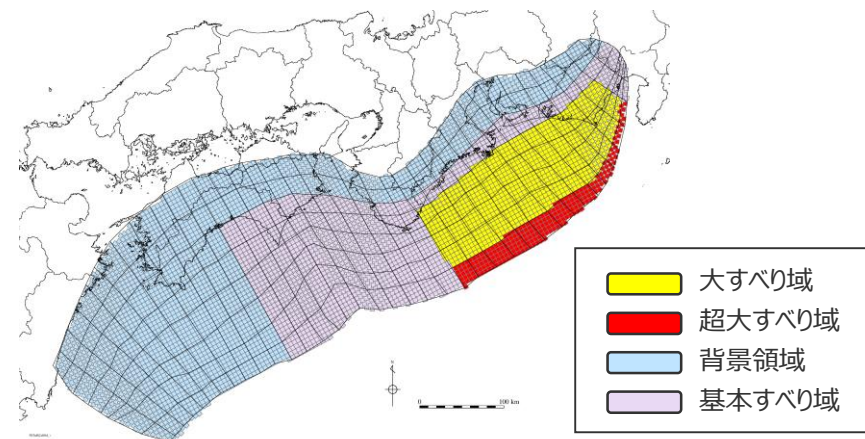
(大すべり域の位置を基準位置としたケースの断層パラメータの設定)

検討波源モデル②

(日本海溝の宮城県の津波特性評価手法 1 によるモデル)
の大すべり域の位置を基準位置としたケースの断層パラメータ

項目		設定値
全体	面積※ (km ²)	144,379
	地震モーメント (Nm)	6.8×10^{22}
	Mw	9.2
	平均応力降下量 (MPa)	3.0
	平均すべり量 (m)	9.4
	最大すべり量 (m)	37.0
	剛性率 (N/m ²)	5.0×10^{10}
	破壊伝播速度 (km/s)	2.0
	ライズタイム (s)	150
	主部断層	面積※ (km ²)
地震モーメント (Nm)		4.4×10^{22}
平均すべり量 (m)		8.0
最大すべり量 (m)		18.5
浅部断層	面積※ (km ²)	34,655
	地震モーメント (Nm)	2.4×10^{22}
	平均すべり量 (m)	13.8
	最大すべり量 (m)	37.0

※津波断層域のうちすべりが発生している波源域の面積



検討波源モデル② (日本海溝の宮城県の津波特性評価手法 1 によるモデル)
の大すべり域の位置を基準位置としたケース

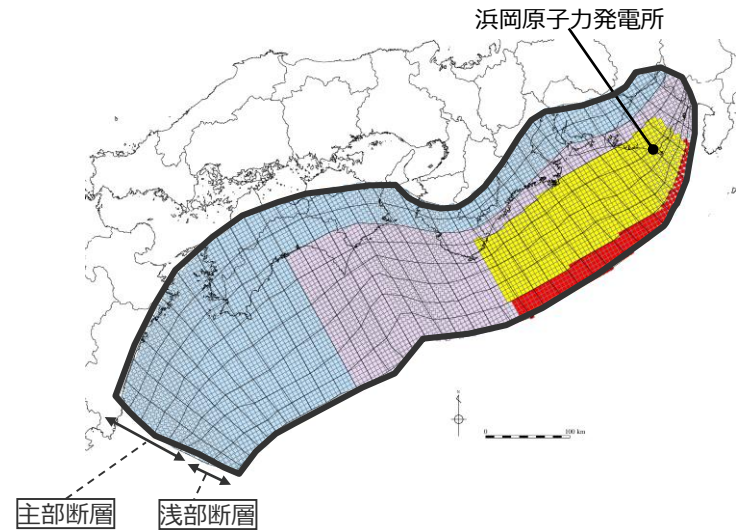
主部断層：深さ10km以深の断層

浅部断層：深さ10km以浅の断層

1 その他の検討波源モデルの詳細

1-3 検討波源モデル②のパラメータスタディモデルの設定 (大すべり域の位置を西へ10kmとしたケースのすべり量分布の設定)

■「検討波源モデル②（日本海溝の宮城県津波特性評価手法 1 によるモデル）」の大すべり域の位置を西へ10kmとしたケースの各小断層のすべり量分布は以下のとおり。



検討波源モデル②（日本海溝の宮城県津波特性評価手法 1 によるモデル）
の大すべり域の位置を西へ10kmとしたケースのすべり量

断層モデル		面積 (km ²)	M ₀ (Nm)	M _w	Δσ (MPa)	最大すべり量(m)	平均すべり量(m)
検討波源モデル② (日本海溝の宮城県津波特性評価手法 1 によるモデル) 大すべり域の位置を西へ10kmとしたケース	全体	144,379	6.8×10^{22}	9.2	3.0	37.0	9.4
	主部断層	109,725	4.3×10^{22}	9.0	2.9	18.5	7.9
	浅部断層	34,655	2.4×10^{22}	-	-	37.0	13.9

- 波源域 (津波断層域)
- 大すべり域 (平均すべり量の 2×0.95 倍=(1.9倍))
- 超大すべり域 (平均すべり量の 4×0.95 倍=(3.8倍))
- 背景領域
- 基本すべり域

津波断層域の全面積の約20%

検討波源モデル②
(日本海溝の宮城県津波特性評価手法 1 によるモデル)
の大すべり域の位置を西へ10kmとしたケース

検討波源モデル② (日本海溝の宮城県津波特性評価手法 1 によるモデル)
の大すべり域の位置を西へ10kmとしたケースの小断層のすべり量分布 (m)

深度	西 ←																																						⇨ 東																											
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38																												
40km↓	w	e	w	e	w	e	w	e	w	e	w	e	w	e	w	e	w	e	w	e	w	e	w	e	w	e	w	e	w	e	w	e	w	e	w	e	w	e	w	e																										
30km↓	1	7.5	7.5	7.5	7.5	7.2	7.2	7.2	7.2	7.0	7.0	7.0	6.4	6.4	6.2	6.2	6.0	6.0	5.9	5.9	5.9	5.7	5.7	5.5	5.5	5.4	5.4	5.4	5.4	5.2	5.2	5.2	5.2	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	4.8	4.8	5.1	5.1	4.5	4.5	4.5	4.5	3.8	3.8	3.8	3.8	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	2.7	2.7	2.7	2.7	2.0	2.0	2.0	2.0	
	2	7.5	7.5	7.5	7.5	7.2	7.2	7.2	7.2	7.0	7.0	7.0	6.4	6.4	6.2	6.2	6.0	6.0	5.9	5.9	5.9	5.7	5.7	5.5	5.5	5.4	5.4	5.4	5.4	5.2	5.2	5.2	5.2	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	4.8	4.8	5.1	5.1	4.5	4.5	4.5	4.5	3.8	3.8	3.8	3.8	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	2.7	2.7	2.7	2.7	2.0	2.0	2.0	2.0	
20km↓	3	7.5	7.5	7.5	7.2	7.2	7.2	7.2	7.0	7.0	7.0	6.4	6.4	6.4	6.2	6.2	6.0	6.0	6.0	9.4	9.4	9.1	9.1	9.1	8.8	8.8	8.8	8.6	8.6	8.6	8.3	8.3	8.3	8.3	8.1	8.1	8.1	8.0	7.7	7.7	7.7	7.7	8.2	8.2	8.2	7.2	7.2	7.2	6.1	6.1	6.1	6.1	6.1	4.9	4.9	4.9	4.3	4.3	4.3	3.1	3.1					
	4	7.5	7.5	7.5	7.2	7.2	7.2	7.2	7.0	7.0	7.0	7.0	6.4	6.4	6.4	6.2	6.2	6.2	6.2	6.0	6.0	9.4	9.4	9.4	9.1	9.1	8.8	8.8	8.8	8.6	8.6	8.6	8.6	8.6	8.3	8.3	8.3	8.3	8.1	8.1	8.1	8.0	7.7	7.7	7.7	7.7	8.2	8.2	7.2	7.2	7.2	6.1	6.1	6.1	6.1	4.9	4.9	4.9	4.3	4.3	4.3	3.1	3.1			
10km↓	5	7.5	7.5	7.5	7.2	7.2	7.2	7.2	7.0	7.0	7.0	7.0	6.4	6.4	6.4	6.2	6.2	6.0	6.0	9.6	9.6	9.4	9.4	9.4	9.1	9.1	8.8	8.8	8.8	8.6	8.6	8.6	8.6	8.6	8.3	8.3	8.3	8.3	8.1	8.1	8.1	8.0	7.7	7.7	7.7	7.7	8.2	8.2	7.2	7.2	7.2	6.1	6.1	6.1	6.1	4.9	4.9	4.9	4.3	4.3	4.3	3.1	3.1			
	6	7.5	7.5	7.5	7.2	7.2	7.2	7.2	7.0	7.0	7.0	7.0	6.4	6.4	6.4	6.2	6.2	6.2	6.2	9.6	9.6	9.4	9.4	9.4	9.1	9.1	8.8	8.8	8.8	8.6	8.6	8.6	8.6	8.6	8.3	8.3	8.3	8.3	8.1	8.1	8.1	8.0	7.7	7.7	7.7	7.7	8.2	8.2	7.2	7.2	7.2	6.1	6.1	6.1	6.1	4.9	4.9	4.9	4.3	4.3	4.3	3.1	3.1			
0km↓	7	7.5	7.5	7.5	7.2	7.2	7.2	7.2	7.0	7.0	7.0	7.0	6.4	6.4	6.4	6.2	6.2	9.9	9.9	9.6	9.6	9.4	9.4	9.1	9.1	9.1	9.1	8.8	8.8	8.8	8.8	8.6	8.6	8.6	8.6	8.6	8.6	8.3	8.3	8.3	8.3	8.1	8.1	8.1	8.0	7.7	7.7	7.7	7.7	8.2	8.2	7.2	7.2	7.2	6.1	6.1	6.1	6.1	4.9	4.9	4.9	4.3	4.3	4.3	3.1	3.1
	8	7.5	7.5	7.5	7.2	7.2	7.2	7.2	7.0	7.0	7.0	7.0	6.4	6.4	6.4	6.2	6.2	9.9	9.9	9.6	9.6	9.4	9.4	9.1	9.1	9.1	9.1	8.8	8.8	8.8	8.8	8.6	8.6	8.6	8.6	8.6	8.6	8.3	8.3	8.3	8.3	8.1	8.1	8.1	8.0	7.7	7.7	7.7	7.7	8.2	8.2	7.2	7.2	7.2	6.1	6.1	6.1	6.1	4.9	4.9	4.9	4.3	4.3	4.3	3.1	3.1

・すべり分布の番号は上記波源モデル図の各小断層に対し西側から東側に順に1列から38列まで設定。各列はw,eに2列に分割。陸側から海溝軸側に1行から8行まで設定。
 ・駿河湾内のトラフ軸付近の領域については、他の領域に比べ、プレート境界面の深さ10kmの位置がトラフ軸に近くなり、また、トラフ軸沿いの津波断層モデルの面積も狭くなることから、この領域は分岐断層的な運動をする領域とみなせる（内閣府2012）とされるが、敷地への影響の観点から大すべり域のすべり量ではなく超大すべり域のすべり量を設定。

1 その他の検討波源モデルの詳細

1-3 検討波源モデル②のパラメータスタディモデルの設定

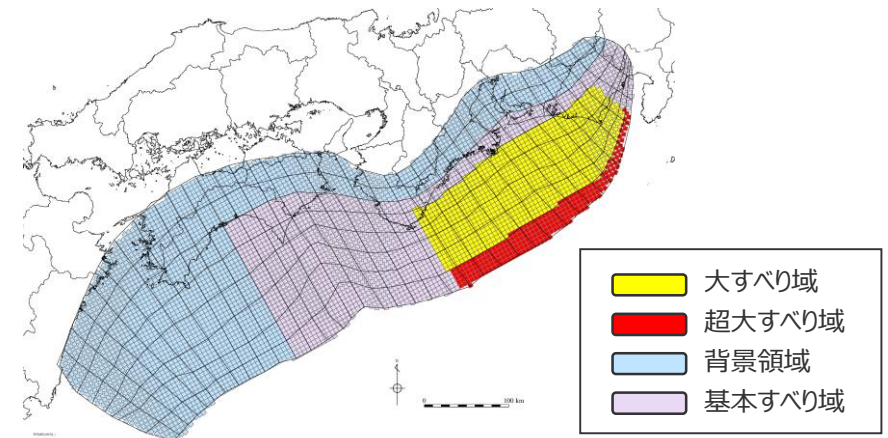
(大すべり域の位置を西へ10kmとしたケースの断層パラメータの設定)

検討波源モデル②

(日本海溝の宮城県津波特性評価手法1によるモデル)
の大すべり域の位置を西へ10kmとしたケースの断層パラメータ

項目		設定値
全体	面積※ (km ²)	144,379
	地震モーメント (Nm)	6.8×10^{22}
	Mw	9.2
	平均応力降下量 (MPa)	3.0
	平均すべり量 (m)	9.4
	最大すべり量 (m)	37.0
	剛性率 (N/m ²)	5.0×10^{10}
	破壊伝播速度 (km/s)	2.0
	ライズタイム (s)	150
	主部断層	面積※ (km ²)
地震モーメント (Nm)		4.3×10^{22}
平均すべり量 (m)		7.9
最大すべり量 (m)		18.5
浅部断層	面積※ (km ²)	34,655
	地震モーメント (Nm)	2.4×10^{22}
	平均すべり量 (m)	13.9
	最大すべり量 (m)	37.0

※津波断層域のうちすべりが発生している波源域の面積



検討波源モデル② (日本海溝の宮城県津波特性評価手法1によるモデル)
の大すべり域の位置を西へ10kmとしたケース

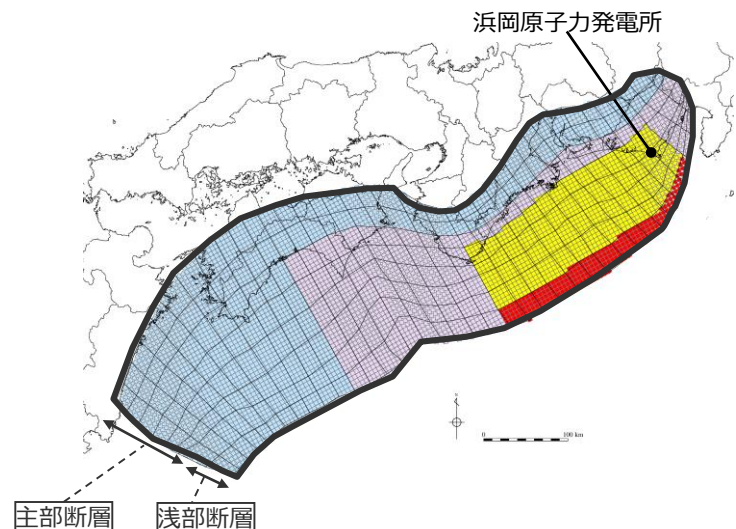
主部断層：深さ10km以深の断層
浅部断層：深さ10km以浅の断層

1 その他の検討波源モデルの詳細

1-3 検討波源モデル②のパラメータスタディモデルの設定

(大すべり域の位置を西へ20kmとしたケースのすべり量分布の設定)

■「検討波源モデル②（日本海溝の宮城県津波特性評価手法1によるモデル）」の大すべり域の位置を西へ20kmとしたケースの各小断層のすべり量分布は以下のとおり。

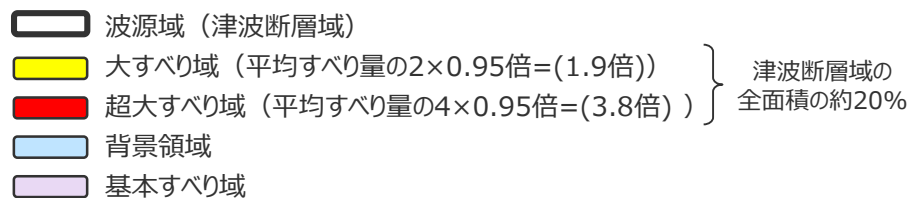


検討波源モデル②

(日本海溝の宮城県津波特性評価手法1によるモデル)
の大すべり域の位置を西へ20kmとしたケース

検討波源モデル②（日本海溝の宮城県津波特性評価手法1によるモデル）
の大すべり域の位置を西へ20kmとしたケースのすべり量

断層モデル		面積 (km ²)	M ₀ (Nm)	Mw	Δσ (MPa)	最大すべり量(m)	平均すべり量(m)
検討波源モデル② (日本海溝の宮城県津波特性評価手法1によるモデル) 大すべり域の位置を西へ20kmとしたケース	全体	144,379	6.8×10 ²²	9.2	3.0	37.0	9.4
	主部断層	109,725	4.3×10 ²²	9.0	2.9	18.5	7.9
	浅部断層	34,655	2.4×10 ²²	-	-	37.0	14.1



検討波源モデル②（日本海溝の宮城県津波特性評価手法1によるモデル）
の大すべり域の位置を西へ20kmとしたケースの小断層のすべり量分布 (m)

		西 ←															⇒ 東																							
深度40km↓		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	
陸側⇕	30km↓	1	7.3	7.3	7.0	7.0	6.9	6.9	6.2	6.0	5.9	5.7	5.7	5.5	5.4	5.4	5.2	5.2	5.2	5.1	5.1	5.1	4.9	4.9	4.9	4.9	4.7	5.0	4.4	4.4	3.7	3.7	3.0	3.0	3.0	3.0	2.6	2.6	1.9	1.9
	20km↓	2	7.3	7.3	7.0	7.0	6.9	6.9	6.2	6.0	6.0	5.9	5.7	5.7	5.5	5.4	5.2	5.2	5.2	5.1	5.1	5.1	4.9	4.9	4.9	4.9	4.7	5.0	5.0	4.4	4.4	3.7	3.7	3.0	3.0	3.0	3.0	2.6	2.6	1.9
3		7.3	7.3	7.0	7.0	6.9	6.9	6.2	6.2	6.0	5.9	5.9	9.4	9.1	9.1	8.8	8.8	8.6	8.6	8.3	8.3	8.3	8.1	8.1	8.0	7.7	7.7	8.2	8.2	7.2	7.2	6.1	6.1	6.1	4.9	4.9	4.3	4.3	3.1	
海溝軸⇕	10km↓	4	7.3	7.3	7.0	7.0	6.9	6.9	6.2	6.2	6.0	6.0	5.9	9.4	9.4	9.1	8.8	8.8	8.6	8.6	8.6	8.3	8.3	16.1	16.1	15.9	15.9	15.4	18.5	16.4	16.4	14.5	12.3	12.3	12.3	12.3	9.7	4.9	4.3	3.1
		5	7.3	7.3	7.0	7.0	6.9	6.9	6.9	6.2	6.2	6.0	5.9	9.6	9.4	9.4	9.1	8.8	8.8	8.6	8.6	8.6	8.3	16.7	16.1	15.9	15.9	15.4	15.4	18.5	16.4	16.4	14.5	14.5	12.3	12.3	9.7	4.9	4.3	4.3
⇓	0km↓	6	7.3	7.3	7.0	7.0	6.9	6.9	6.9	6.2	6.2	6.0	6.0	9.6	9.4	9.4	9.1	8.8	8.8	8.8	8.6	8.6	8.6	16.7	16.1	16.1	15.9	15.9	15.4	18.5	18.5	16.4	16.4	14.5	14.5	12.3	12.3	4.9	4.3	4.3
		7	7.3	7.3	7.0	7.0	6.9	6.9	6.9	6.2	6.2	6.2	6.0	9.9	9.6	9.4	9.1	9.1	8.8	8.8	8.8	8.6	8.6	16.7	16.1	16.1	15.9	15.9	15.4	15.4	18.5	18.5	16.4	16.4	14.5	14.5	12.3	4.9	4.3	4.3
		8	7.3	7.3	7.0	7.0	6.9	6.9	6.9	6.2	6.2	6.0	9.9	9.6	9.4	9.1	9.1	9.1	8.8	8.8	8.6	8.6	33.3	33.3	32.2	32.2	31.8	30.7	30.7	37.0	37.0	37.0	37.0	32.8	32.8	28.9	24.6	4.9	4.3	4.3

- すべり量分布の番号は上記波源モデル図の各小断層に対し西側から東側に順に1列から38列まで設定。陸側から海溝軸側に1行から8行まで設定。
- 駿河湾内のトラフ軸付近の領域については、他の領域に比べ、プレート境界面の深さ10kmの位置がトラフ軸に近くなり、また、トラフ軸沿いの津波断層モデルの面積も狭くなることから、この領域は分岐断層的な運動をする領域とみなせる（内閣府2012）とされるが、敷地への影響の観点から大すべり域のすべり量ではなく超大すべり域のすべり量を設定。

1 その他の検討波源モデルの詳細

1-3 検討波源モデル②のパラメータスタディモデルの設定

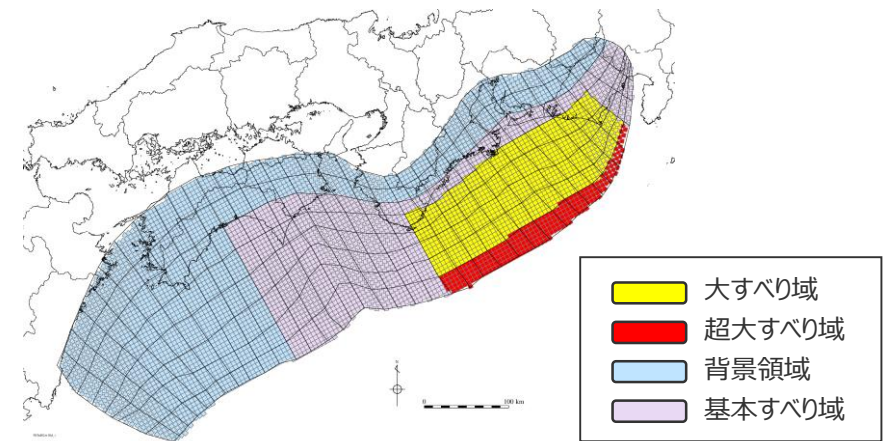
(大すべり域の位置を西へ20kmとしたケースの断層パラメータの設定)

検討波源モデル②

(日本海溝の宮城県津波特性評価手法1によるモデル)
の大すべり域の位置を西へ20kmとしたケースの断層パラメータ

項目		設定値
全体	面積※ (km ²)	144,379
	地震モーメント (Nm)	6.8×10^{22}
	Mw	9.2
	平均応力降下量 (MPa)	3.0
	平均すべり量 (m)	9.4
	最大すべり量 (m)	37.0
	剛性率 (N/m ²)	5.0×10^{10}
	破壊伝播速度 (km/s)	2.0
	ライズタイム (s)	150
主部断層	面積※ (km ²)	109,725
	地震モーメント (Nm)	4.3×10^{22}
	平均すべり量 (m)	7.9
	最大すべり量 (m)	18.5
浅部断層	面積※ (km ²)	34,655
	地震モーメント (Nm)	2.4×10^{22}
	平均すべり量 (m)	14.1
	最大すべり量 (m)	37.0

※津波断層域のうちすべりが発生している波源域の面積



検討波源モデル② (日本海溝の宮城県津波特性評価手法1によるモデル)
の大すべり域の位置を西へ20kmとしたケース

主部断層：深さ10km以深の断層
浅部断層：深さ10km以浅の断層

1 その他の検討波源モデルの詳細

1-3 検討波源モデル②のパラメータスタディモデルの設定

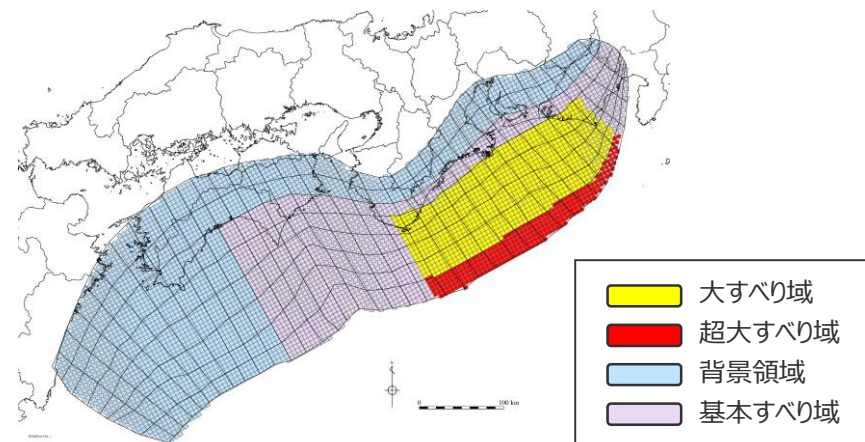
(大すべり域の位置を西へ30kmとしたケースの断層パラメータの設定)

検討波源モデル②

(日本海溝の宮城県津波特性評価手法1によるモデル)
の大すべり域の位置を西へ30kmとしたケースの断層パラメータ

項目		設定値
全体	面積※ (km ²)	144,379
	地震モーメント (Nm)	6.8×10^{22}
	Mw	9.2
	平均応力降下量 (MPa)	3.0
	平均すべり量 (m)	9.4
	最大すべり量 (m)	37.0
	剛性率 (N/m ²)	5.0×10^{10}
	破壊伝播速度 (km/s)	2.0
	ライズタイム (s)	150
	主部断層	面積※ (km ²)
地震モーメント (Nm)		4.3×10^{22}
平均すべり量 (m)		7.8
最大すべり量 (m)		18.5
浅部断層	面積※ (km ²)	34,655
	地震モーメント (Nm)	2.5×10^{22}
	平均すべり量 (m)	14.3
	最大すべり量 (m)	37.0

※津波断層域のうちすべりが発生している波源域の面積



検討波源モデル② (日本海溝の宮城県津波特性評価手法1によるモデル)
の大すべり域の位置を西へ30kmとしたケース

主部断層：深さ10km以深の断層

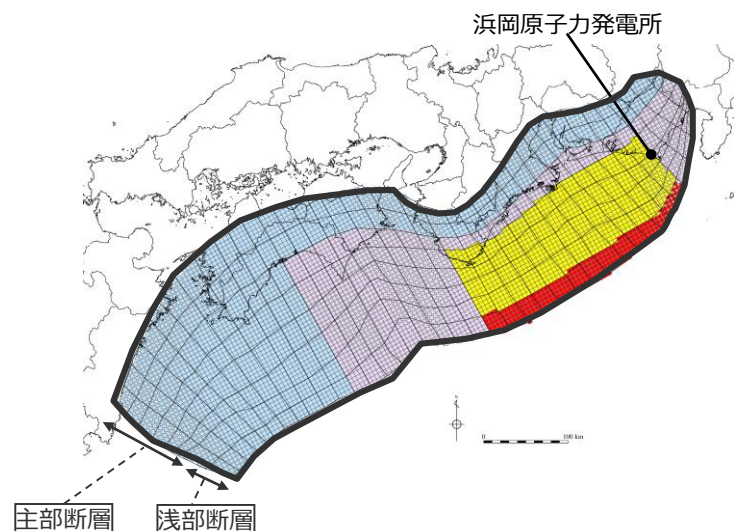
浅部断層：深さ10km以浅の断層

1 その他の検討波源モデルの詳細

1-3 検討波源モデル②のパラメータスタディモデルの設定

(大すべり域の位置を西へ40kmとしたケースのすべり量分布の設定)

■「検討波源モデル②（日本海溝の宮城県津波特性評価手法1によるモデル）」の大すべり域の位置を西へ40kmとしたケースの各小断層のすべり量分布は以下のとおり。

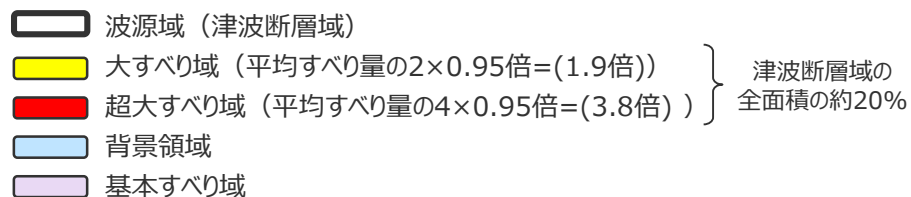


検討波源モデル②

(日本海溝の宮城県津波特性評価手法1によるモデル)
の大すべり域の位置を西へ40kmとしたケース

検討波源モデル②（日本海溝の宮城県津波特性評価手法1によるモデル）
の大すべり域の位置を西へ40kmとしたケースのすべり量

断層モデル		面積 (km ²)	M ₀ (Nm)	Mw	Δσ (MPa)	最大すべり量(m)	平均すべり量(m)
検討波源モデル② (日本海溝の宮城県津波特性評価手法1によるモデル) 大すべり域の位置を西へ40kmとしたケース	全体	144,379	6.8×10 ²²	9.2	3.0	37.0	9.4
	主部断層	109,725	4.3×10 ²²	9.0	2.9	18.5	7.8
	浅部断層	34,655	2.5×10 ²²	-	-	37.0	14.4



検討波源モデル②（日本海溝の宮城県津波特性評価手法1によるモデル）

の大すべり域の位置を西へ40kmとしたケースの小断層のすべり量分布 (m)

		西 ←															⇒ 東																							
深度40km↓		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	
陸側⇕	30km↓	1	7.0	7.0	6.7	6.7	6.6	6.6	6.0	5.8	5.6	5.5	5.3	5.2	5.0	5.0	5.0	4.9	4.9	4.9	4.7	4.7	4.6	4.6	4.5	4.8	4.2	4.2	3.6	3.6	2.8	2.8	2.8	2.8	2.5	2.5	1.8	1.8		
	20km↓	2	7.0	7.0	6.7	6.7	6.6	6.6	6.0	5.8	5.8	5.6	5.5	5.3	5.2	5.0	5.0	5.0	4.9	4.9	4.9	4.7	4.7	4.6	4.6	4.5	4.8	4.8	4.2	4.2	3.6	3.6	2.8	2.8	2.8	2.8	2.5	2.5	1.8	
3		7.0	7.0	6.7	6.7	6.6	6.6	6.0	6.0	5.8	5.6	5.6	9.4	9.1	9.1	8.8	8.8	8.6	8.6	8.3	8.3	8.3	8.1	8.1	8.0	7.7	7.7	8.2	8.2	7.2	7.2	6.1	6.1	6.1	4.9	4.9	4.3	4.3	3.1	
海溝軸⇕	10km↓	4	7.0	7.0	6.7	6.7	6.6	6.6	6.0	6.0	5.8	5.8	5.6	9.4	9.4	9.1	8.8	8.8	8.6	8.6	8.6	8.3	16.7	16.1	16.1	15.9	15.9	15.4	18.5	16.4	16.4	14.5	12.3	12.3	12.3	12.3	4.9	4.9	4.3	3.1
		5	7.0	7.0	6.7	6.7	6.6	6.6	6.6	6.0	6.0	5.8	5.6	9.6	9.4	9.4	9.1	8.8	8.8	8.6	8.6	8.6	16.7	16.7	16.1	15.9	15.9	15.4	15.4	18.5	16.4	16.4	14.5	14.5	12.3	12.3	4.9	4.9	4.3	4.3
⇓	0km↓	6	7.0	7.0	6.7	6.7	6.6	6.6	6.6	6.0	6.0	5.8	5.8	9.6	9.4	9.4	9.1	8.8	8.8	8.8	8.6	8.6	16.7	16.7	16.1	16.1	15.9	15.9	15.4	18.5	18.5	16.4	16.4	14.5	14.5	12.3	6.1	4.9	4.3	4.3
		7	7.0	7.0	6.7	6.7	6.6	6.6	6.6	6.0	6.0	6.0	5.8	9.9	9.6	9.4	9.1	9.1	8.8	8.8	8.8	8.6	17.2	16.7	16.1	16.1	15.9	15.9	15.4	15.4	18.5	18.5	16.4	16.4	14.5	14.5	6.1	4.9	4.3	4.3
	8	7.0	7.0	6.7	6.7	6.7	6.6	6.6	6.6	6.0	6.0	5.8	9.9	9.6	9.4	9.1	9.1	9.1	8.8	8.8	8.6	34.4	33.3	33.3	32.2	32.2	31.8	30.7	30.7	37.0	37.0	37.0	37.0	32.8	32.8	28.9	6.1	4.9	4.3	4.3

- すべり量分布の番号は上記波源モデル図の各小断層に対し西側から東側に順に1列から38列まで設定。陸側から海溝軸側に1行から8行まで設定。
- 駿河湾内のトラフ軸付近の領域については、他の領域に比べ、プレート境界面の深さ10kmの位置がトラフ軸に近くなり、また、トラフ軸沿いの津波断層モデルの面積も狭くなることから、この領域は分岐断層的な運動をする領域とみなせる（内閣府2012）とされるが、敷地への影響の観点から大すべり域のすべり量ではなく超大すべり域のすべり量を設定。

1 その他の検討波源モデルの詳細

1-3 検討波源モデル②のパラメータスタディモデルの設定

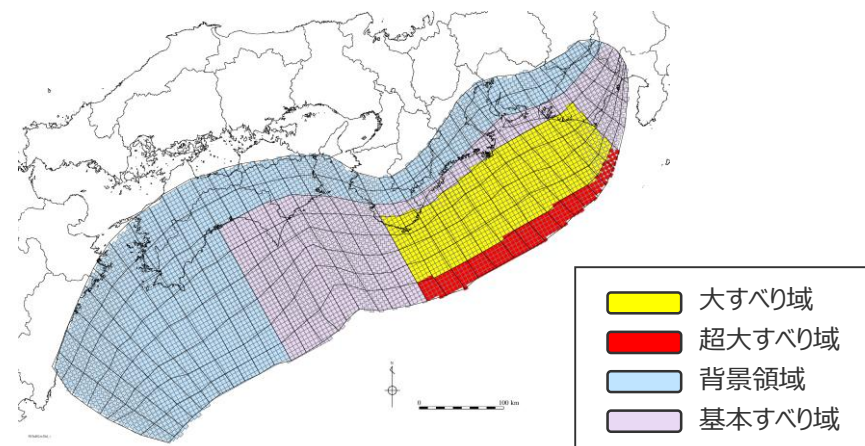
(大すべり域の位置を西へ40kmとしたケースの断層パラメータの設定)

検討波源モデル②

(日本海溝の宮城県津波特性評価手法1によるモデル)
の大すべり域の位置を西へ40kmとしたケースの断層パラメータ

項目		設定値
全体	面積※ (km ²)	144,379
	地震モーメント (Nm)	6.8×10^{22}
	Mw	9.2
	平均応力降下量 (MPa)	3.0
	平均すべり量 (m)	9.4
	最大すべり量 (m)	37.0
	剛性率 (N/m ²)	5.0×10^{10}
	破壊伝播速度 (km/s)	2.0
	ライズタイム (s)	150
	主部断層	面積※ (km ²)
地震モーメント (Nm)		4.3×10^{22}
平均すべり量 (m)		7.8
最大すべり量 (m)		18.5
浅部断層	面積※ (km ²)	34,655
	地震モーメント (Nm)	2.5×10^{22}
	平均すべり量 (m)	14.4
	最大すべり量 (m)	37.0

※津波断層域のうちすべりが発生している波源域の面積



検討波源モデル② (日本海溝の宮城県津波特性評価手法1によるモデル)
の大すべり域の位置を西へ40kmとしたケース

主部断層: 深さ10km以深の断層

浅部断層: 深さ10km以浅の断層

1 その他の検討波源モデルの詳細

1-3 検討波源モデル②のパラメータスタディモデルの設定

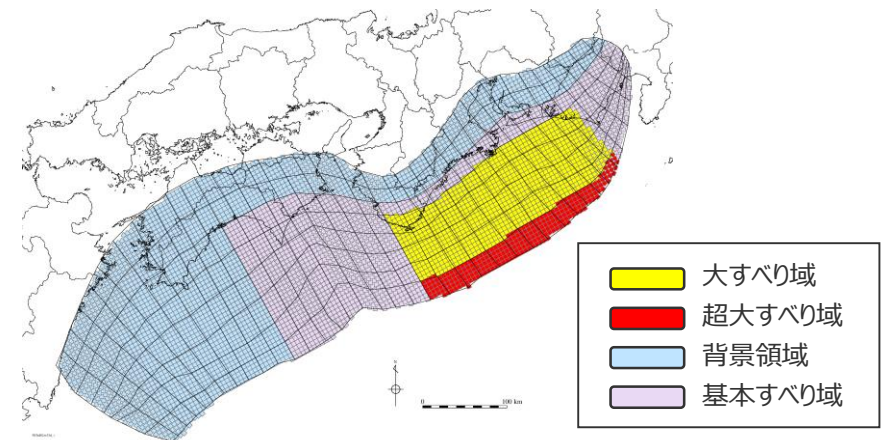
(大すべり域の位置を西へ50kmとしたケースの断層パラメータの設定)

検討波源モデル②

(日本海溝の宮城県津波特性評価手法1によるモデル)
の大すべり域の位置を西へ50kmとしたケースの断層パラメータ

項目		設定値
全体	面積※ (km ²)	144,379
	地震モーメント (Nm)	6.8×10^{22}
	Mw	9.2
	平均応力降下量 (MPa)	3.0
	平均すべり量 (m)	9.4
	最大すべり量 (m)	37.0
	剛性率 (N/m ²)	5.0×10^{10}
	破壊伝播速度 (km/s)	2.0
	ライズタイム (s)	150
	主部断層	面積※ (km ²)
地震モーメント (Nm)		4.3×10^{22}
平均すべり量 (m)		7.8
最大すべり量 (m)		18.5
浅部断層	面積※ (km ²)	34,655
	地震モーメント (Nm)	2.5×10^{22}
	平均すべり量 (m)	14.3
	最大すべり量 (m)	37.0

※津波断層域のうちすべりが発生している波源域の面積



検討波源モデル② (日本海溝の宮城県津波特性評価手法1によるモデル)
の大すべり域の位置を西へ50kmとしたケース

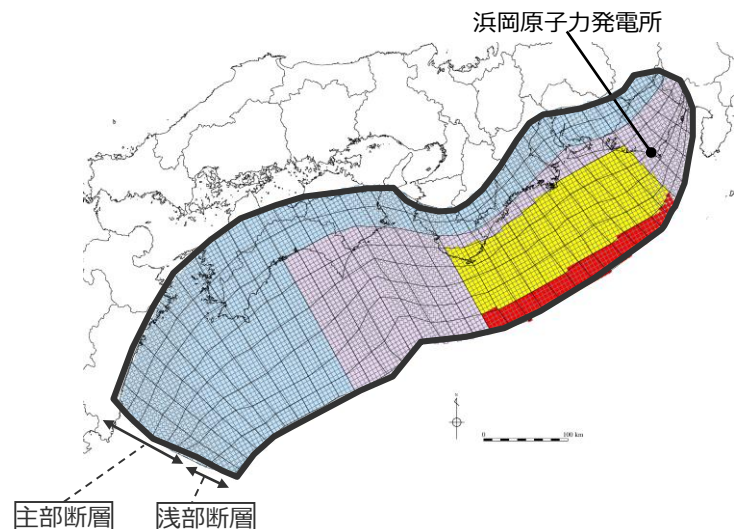
主部断層：深さ10km以深の断層
浅部断層：深さ10km以浅の断層

1 その他の検討波源モデルの詳細

1-3 検討波源モデル②のパラメータスタディモデルの設定

(大すべり域の位置を西へ60kmとしたケースのすべり量分布の設定)

■「検討波源モデル②（日本海溝の宮城県の津波特性評価手法1によるモデル）」の大すべり域の位置を西へ60kmとしたケースの各小断層のすべり量分布は以下のとおり。

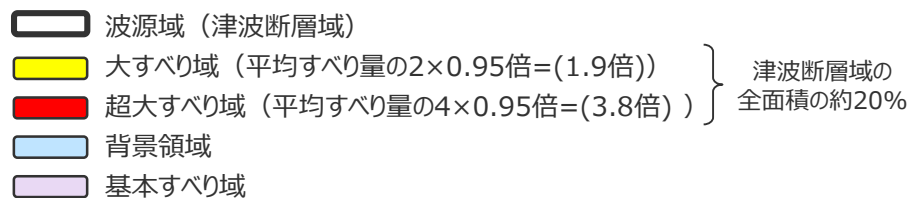


検討波源モデル②

(日本海溝の宮城県の津波特性評価手法1によるモデル)
の大すべり域の位置を西へ60kmとしたケース

検討波源モデル②（日本海溝の宮城県の津波特性評価手法1によるモデル）
の大すべり域の位置を西へ60kmとしたケースのすべり量

断層モデル		面積 (km ²)	M ₀ (Nm)	Mw	Δσ (MPa)	最大すべり量(m)	平均すべり量(m)
検討波源モデル② (日本海溝の宮城県の津波特性評価手法1によるモデル) 大すべり域の位置を西へ60kmとしたケース	全体	144,379	6.8×10 ²²	9.2	3.0	37.0	9.4
	主部断層	109,725	4.3×10 ²²	9.0	2.9	18.5	7.8
	浅部断層	34,655	2.5×10 ²²	-	-	37.0	14.2



検討波源モデル②（日本海溝の宮城県の津波特性評価手法1によるモデル）
の大すべり域の位置を西へ60kmとしたケースの小断層のすべり量分布 (m)

		西 ←															⇒ 東																							
深度40km↓		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	
陸側⇕	30km↓	1	7.2	7.2	7.0	7.0	6.8	6.8	6.2	6.0	5.8	5.7	5.7	5.5	5.3	5.3	5.2	5.2	5.0	5.0	5.0	4.9	4.9	4.8	4.8	4.6	5.0	4.4	4.4	3.7	3.7	2.9	2.9	2.9	2.9	2.6	2.6	1.9	1.9	
	20km↓	2	7.2	7.2	7.0	7.0	6.8	6.8	6.2	6.0	6.0	5.8	5.7	5.7	5.5	5.3	5.2	5.2	5.0	5.0	5.0	4.9	4.9	4.8	4.8	4.6	5.0	5.0	4.4	4.4	3.7	3.7	3.7	2.9	2.9	2.9	2.6	2.6	1.9	
3		7.2	7.2	7.0	7.0	6.8	6.8	6.2	6.2	6.0	5.8	5.8	9.4	9.1	9.1	8.8	8.8	8.6	8.6	8.3	8.3	8.3	8.1	8.1	8.0	7.7	7.7	8.2	8.2	7.2	7.2	6.1	6.1	6.1	4.9	4.9	4.3	4.3	3.1	
海溝軸⇕	10km↓	4	7.2	7.2	7.0	7.0	6.8	6.8	6.2	6.2	6.0	6.0	5.8	9.4	9.4	9.1	8.8	8.8	8.6	8.6	8.6	8.3	16.7	16.1	16.1	15.9	15.9	15.4	18.5	16.4	16.4	14.5	12.3	12.3	12.3	6.1	4.9	4.9	4.3	3.1
		5	7.2	7.2	7.0	7.0	6.8	6.8	6.8	6.2	6.2	6.0	5.8	9.6	9.4	9.4	9.1	8.8	8.8	8.6	8.6	8.6	16.7	16.7	16.1	15.9	15.9	15.4	15.4	18.5	16.4	16.4	14.5	14.5	12.3	6.1	4.9	4.9	4.3	3.1
⇓	0km↓	6	7.2	7.2	7.0	7.0	6.8	6.8	6.8	6.2	6.2	6.0	6.0	9.6	9.4	9.4	9.1	8.8	8.8	8.8	8.6	8.6	16.7	16.7	16.1	16.1	15.9	15.9	15.4	18.5	18.5	16.4	16.4	14.5	14.5	6.1	6.1	4.9	4.3	3.1
		7	7.2	7.2	7.0	7.0	6.8	6.8	6.8	6.2	6.2	6.2	6.0	9.9	9.6	9.4	9.1	9.1	8.8	8.8	8.8	8.6	17.2	16.7	16.1	16.1	15.9	15.9	15.4	15.4	18.5	18.5	16.4	16.4	14.5	7.2	6.1	4.9	4.3	3.1
		8	7.2	7.2	7.0	7.0	6.8	6.8	6.8	6.2	6.2	6.0	9.9	9.6	9.4	9.1	9.1	9.1	8.8	8.8	8.6	34.4	33.3	33.3	32.2	32.2	31.8	30.7	30.7	37.0	37.0	37.0	37.0	32.8	32.8	7.2	6.1	4.9	4.3	3.1

- すべり量分布の番号は上記波源モデル図の各小断層に対し西側から東側に順に1列から38列まで設定。陸側から海溝軸側に1行から8行まで設定。
- 駿河湾内のトラフ軸付近の領域については、他の領域に比べ、プレート境界面の深さ10kmの位置がトラフ軸に近くなり、また、トラフ軸沿いの津波断層モデルの面積も狭くなることから、この領域は分岐断層的な運動をする領域とみなせる（内閣府2012）とされるが、敷地への影響の観点から大すべり域のすべり量ではなく超大すべり域のすべり量を設定。

1 その他の検討波源モデルの詳細

1-3 検討波源モデル②のパラメータスタディモデルの設定

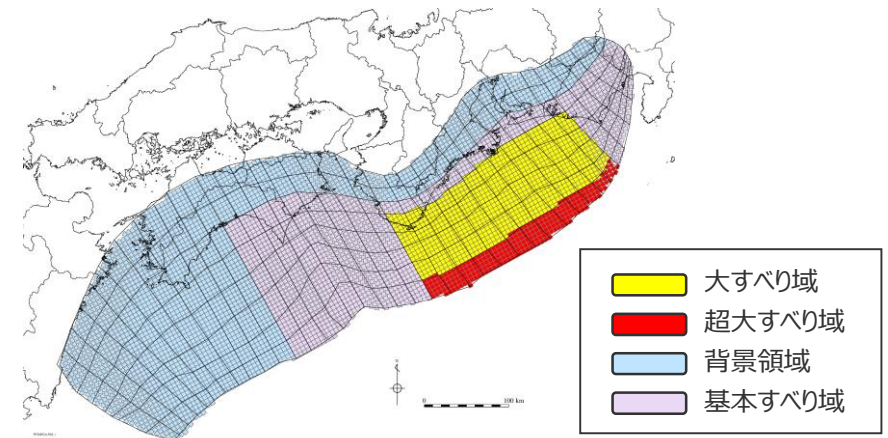
(大すべり域の位置を西へ60kmとしたケースの断層パラメータの設定)

検討波源モデル②

(日本海溝の宮城県津波特性評価手法1によるモデル)
の大すべり域の位置を西へ60kmとしたケースの断層パラメータ

項目		設定値
全体	面積※ (km ²)	144,379
	地震モーメント (Nm)	6.8×10^{22}
	Mw	9.2
	平均応力降下量 (MPa)	3.0
	平均すべり量 (m)	9.4
	最大すべり量 (m)	37.0
	剛性率 (N/m ²)	5.0×10^{10}
	破壊伝播速度 (km/s)	2.0
	ライズタイム (s)	150
	主部断層	面積※ (km ²)
地震モーメント (Nm)		4.3×10^{22}
平均すべり量 (m)		7.8
最大すべり量 (m)		18.5
浅部断層	面積※ (km ²)	34,655
	地震モーメント (Nm)	2.5×10^{22}
	平均すべり量 (m)	14.2
	最大すべり量 (m)	37.0

※津波断層域のうちすべりが発生している波源域の面積



検討波源モデル② (日本海溝の宮城県津波特性評価手法1によるモデル)
の大すべり域の位置を西へ60kmとしたケース

主部断層：深さ10km以深の断層
浅部断層：深さ10km以浅の断層

1 その他の検討波源モデルの詳細

1-3 検討波源モデル②のパラメータスタディモデルの設定

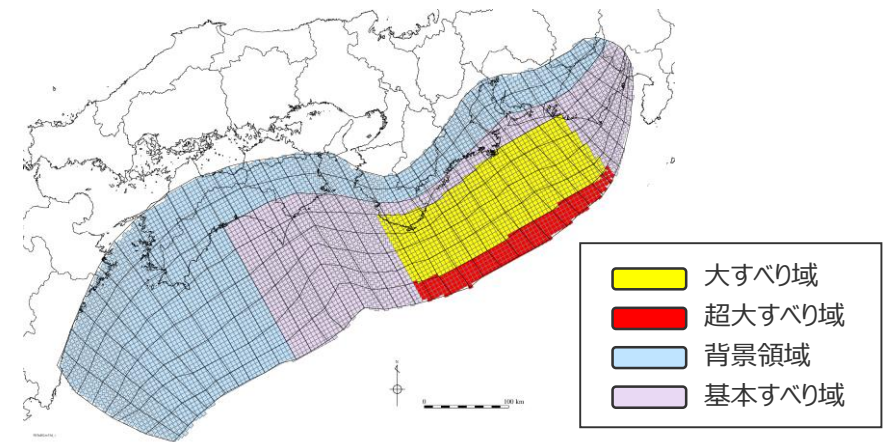
(大すべり域の位置を西へ70kmとしたケースの断層パラメータの設定)

検討波源モデル②

(日本海溝の宮城県津波特性評価手法1によるモデル)
の大すべり域の位置を西へ70kmとしたケースの断層パラメータ

項目		設定値
全体	面積※ (km ²)	144,379
	地震モーメント (Nm)	6.8×10^{22}
	Mw	9.2
	平均応力降下量 (MPa)	3.0
	平均すべり量 (m)	9.4
	最大すべり量 (m)	37.0
	剛性率 (N/m ²)	5.0×10^{10}
	破壊伝播速度 (km/s)	2.0
	ライズタイム (s)	150
	主部断層	面積※ (km ²)
地震モーメント (Nm)		4.3×10^{22}
平均すべり量 (m)		7.8
最大すべり量 (m)		18.5
浅部断層	面積※ (km ²)	34,655
	地震モーメント (Nm)	2.5×10^{22}
	平均すべり量 (m)	14.4
	最大すべり量 (m)	37.0

※津波断層域のうちすべりが発生している波源域の面積



検討波源モデル② (日本海溝の宮城県津波特性評価手法1によるモデル)
の大すべり域の位置を西へ70kmとしたケース

主部断層：深さ10km以深の断層
浅部断層：深さ10km以浅の断層

1 その他の検討波源モデルの詳細

1-3 検討波源モデル②のパラメータスタディモデルの設定

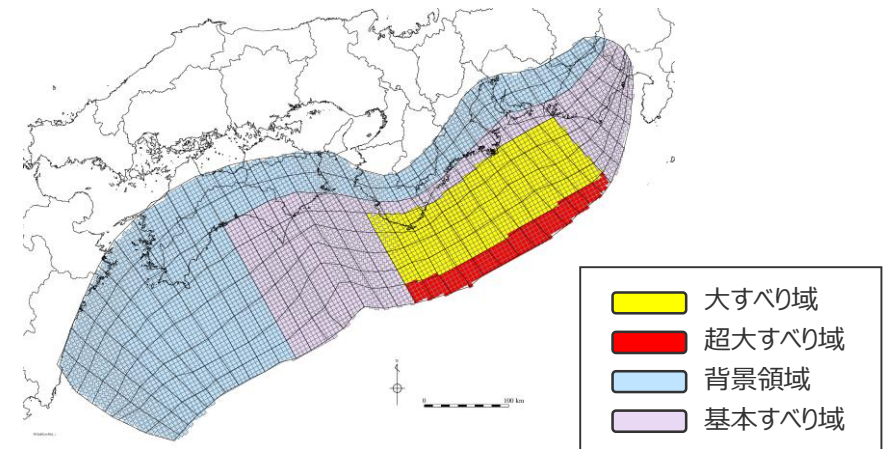
(大すべり域の位置を西へ80kmとしたケースの断層パラメータの設定)

検討波源モデル②

(日本海溝の宮城県の津波特性評価手法 1 によるモデル)
の大すべり域の位置を西へ80kmとしたケースの断層パラメータ

項目		設定値
全体	面積※ (km ²)	144,379
	地震モーメント (Nm)	6.8×10^{22}
	Mw	9.2
	平均応力降下量 (MPa)	3.0
	平均すべり量 (m)	9.4
	最大すべり量 (m)	37.0
	剛性率 (N/m ²)	5.0×10^{10}
	破壊伝播速度 (km/s)	2.0
	ライズタイム (s)	150
	主部断層	面積※ (km ²)
地震モーメント (Nm)		4.3×10^{22}
平均すべり量 (m)		7.8
最大すべり量 (m)		18.5
浅部断層	面積※ (km ²)	34,655
	地震モーメント (Nm)	2.5×10^{22}
	平均すべり量 (m)	14.4
	最大すべり量 (m)	37.0

※津波断層域のうちすべりが発生している波源域の面積



検討波源モデル② (日本海溝の宮城県の津波特性評価手法 1 によるモデル)
の大すべり域の位置を西へ80kmとしたケース

主部断層：深さ10km以深の断層
浅部断層：深さ10km以浅の断層

余 白

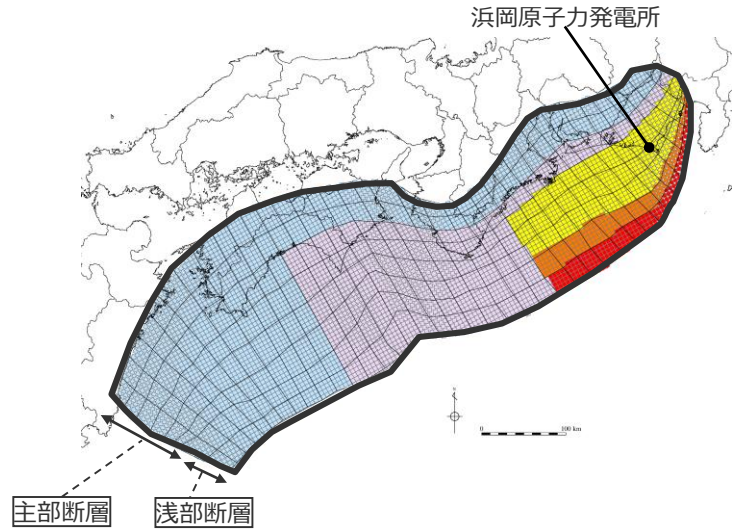
1 その他の検討波源モデルの詳細

1-4 検討波源モデル③のパラメータスタディモデルの設定

1 その他の検討波源モデルの詳細

1-4 検討波源モデル③のパラメータスタディモデルの設定 (大すべり域の位置を東へ40kmとしたケースのすべり量分布の設定)

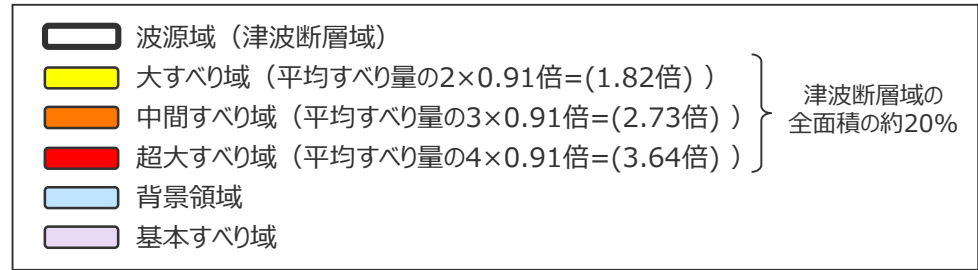
■「検討波源モデル③（日本海溝の宮城県津波特性評価手法2によるモデル）」の大すべり域の位置を東へ40kmとしたケースの各小断層のすべり量分布は以下のとおり。



検討波源モデル③
(日本海溝の宮城県津波特性評価手法2によるモデル)
の大すべり域の位置を東へ40kmとしたケース

検討波源モデル③（日本海溝の宮城県津波特性評価手法2によるモデル）
の大すべり域の位置を東へ40kmとしたケースのすべり量

断層モデル		面積 (km ²)	M ₀ (Nm)	Mw	Δσ (MPa)	最大すべり量(m)	平均すべり量(m)
検討波源モデル③ (日本海溝の宮城県津波特性評価手法2によるモデル) 大すべり域の位置を東へ40kmとしたケース	全体	144,379	6.8×10 ²²	9.2	3.0	35.3	9.4
	主部断層	109,725	4.4×10 ²²	9.0	2.9	17.7	8.0
	浅部断層	34,655	2.4×10 ²²	-	-	35.3	13.6



検討波源モデル③（日本海溝の宮城県津波特性評価手法2によるモデル）
の大すべり域の位置を東へ40kmとしたケースの小断層のすべり量分布 (m)

		西 ←															⇒ 東																							
深度40km↓		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	
陸側⇕	30km↓	1	8.4	8.4	8.1	8.1	7.9	7.9	7.2	7.0	6.8	6.6	6.6	6.4	6.2	6.2	6.1	6.1	6.1	5.9	5.9	5.9	5.7	5.7	5.6	5.6	5.4	5.8	5.1	5.1	4.3	4.3	3.4	3.4	3.4	3.4	3.1	3.1	2.2	2.2
	20km↓	2	8.4	8.4	8.1	8.1	7.9	7.9	7.2	7.0	7.0	6.8	6.6	6.6	6.4	6.2	6.1	6.1	6.1	5.9	5.9	5.9	5.7	5.7	5.6	5.6	5.4	5.8	5.8	5.1	5.1	4.3	4.3	4.3	3.4	3.4	3.4	3.4	3.1	3.1
3		8.4	8.4	8.1	8.1	7.9	7.9	7.2	7.2	7.0	6.8	6.8	9.0	8.7	8.7	8.4	8.4	8.2	8.2	8.0	8.0	8.0	7.7	7.7	7.6	7.3	7.3	7.8	7.8	6.9	6.9	5.9	5.9	5.9	4.6	4.6	4.1	4.1	3.0	
海溝軸⇕	10km↓	4	8.4	8.4	8.1	8.1	7.9	7.9	7.2	7.2	7.0	7.0	6.8	9.0	9.0	8.7	8.4	8.4	8.2	8.2	8.2	8.0	8.0	7.7	7.7	7.6	15.2	14.7	17.7	15.7	15.7	13.8	11.7	11.7	11.7	11.7	9.3	9.3	8.3	6.0
		5	8.4	8.4	8.1	8.1	7.9	7.9	7.9	7.2	7.2	7.0	6.8	9.2	9.0	9.0	8.7	8.4	8.4	8.2	8.2	8.2	8.0	8.0	7.7	7.7	7.6	15.2	14.7	14.7	17.7	15.7	15.7	13.8	13.8	11.7	11.7	9.3	9.3	8.3
⇓	0km↓	6	8.4	8.4	8.1	8.1	7.9	7.9	7.9	7.2	7.2	7.0	9.2	9.0	9.0	8.7	8.4	8.4	8.4	8.2	8.2	8.0	8.0	7.7	7.7	7.7	22.8	22.8	22.0	22.0	26.5	26.5	23.5	23.5	20.7	20.7	17.6	13.9	12.4	12.4
		7	8.4	8.4	8.1	8.1	7.9	7.9	7.9	7.2	7.2	7.0	9.4	9.2	9.0	8.7	8.7	8.4	8.4	8.4	8.2	8.2	8.0	8.0	7.7	7.7	7.7	22.8	22.8	22.0	22.0	26.5	26.5	23.5	23.5	20.7	20.7	17.6	13.9	12.4
	8	8.4	8.4	8.1	8.1	8.1	7.9	7.9	7.9	7.2	7.2	7.0	9.4	9.2	9.0	8.7	8.7	8.7	8.4	8.4	8.2	8.2	8.0	8.0	7.7	30.8	30.4	29.3	29.3	35.3	35.3	35.3	31.3	31.3	27.6	23.4	18.5	16.6	16.6	

- すべり量分布の番号は上記波源モデル図の各小断層に対し西側から東側に順に1列から38列まで設定。陸側から海溝軸側に1行から8行まで設定。
- 駿河湾内のトラフ軸付近の領域については、他の領域に比べ、プレート境界面の深さ10kmの位置がトラフ軸に近くなり、また、トラフ軸沿いの津波断層モデルの面積も狭くなることから、この領域は分岐断層的な運動をする領域とみなせる（内閣府2012）とされるが、敷地への影響の観点から大すべり域のすべり量ではなく超大すべり域のすべり量を設定。

1 その他の検討波源モデルの詳細

1-4 検討波源モデル③のパラメータスタディモデルの設定

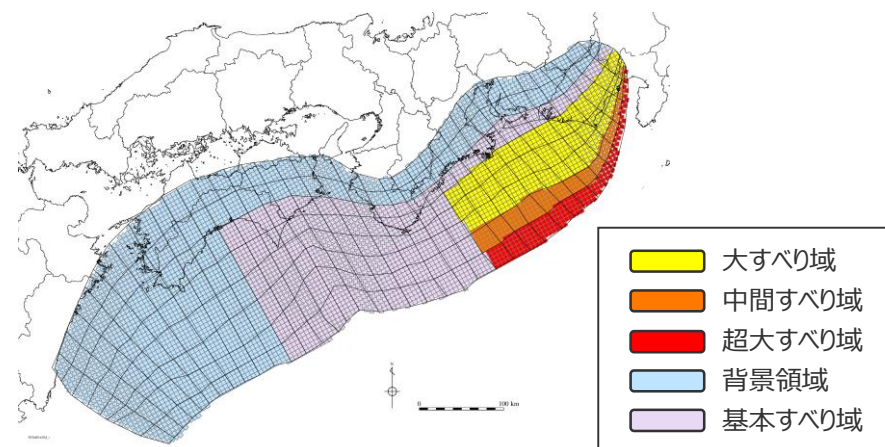
(大すべり域の位置を東へ40kmとしたケースの断層パラメータの設定)

検討波源モデル③

(日本海溝の宮城県津波特性評価手法2によるモデル)
の大すべり域の位置を東へ40kmとしたケースの断層パラメータ

項目		設定値
全体	面積※ (km ²)	144,379
	地震モーメント (Nm)	6.8×10^{22}
	Mw	9.2
	平均応力降下量 (MPa)	3.0
	平均すべり量 (m)	9.4
	最大すべり量 (m)	35.3
	剛性率 (N/m ²)	5.0×10^{10}
	破壊伝播速度 (km/s)	2.0
	ライズタイム (s)	150
主部断層	面積※ (km ²)	109,725
	地震モーメント (Nm)	4.4×10^{22}
	平均すべり量 (m)	8.0
	最大すべり量 (m)	17.7
浅部断層	面積※ (km ²)	34,655
	地震モーメント (Nm)	2.4×10^{22}
	平均すべり量 (m)	13.6
	最大すべり量 (m)	35.3

※津波断層域のうちすべりが発生している波源域の面積



検討波源モデル③ (日本海溝の宮城県津波特性評価手法2によるモデル)
の大すべり域の位置を東へ40kmとしたケース

主部断層：深さ10km以深の断層

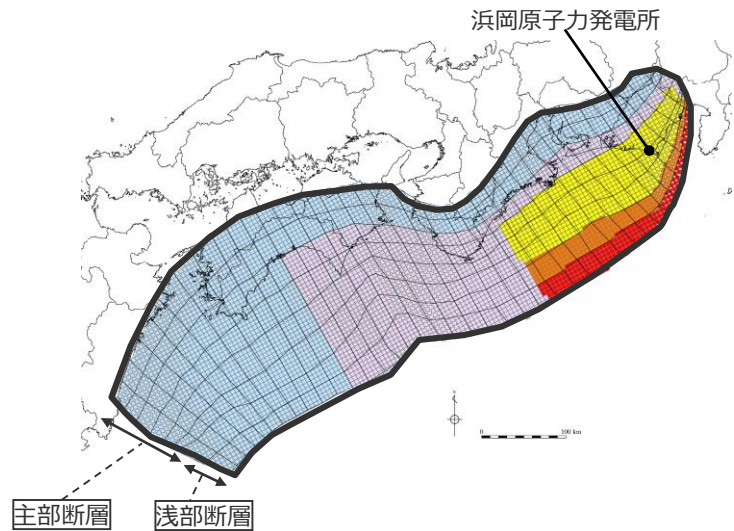
浅部断層：深さ10km以浅の断層

1 その他の検討波源モデルの詳細

1-4 検討波源モデル③のパラメータスタディモデルの設定

(大すべり域の位置を東へ30kmとしたケースのすべり量分布の設定)

■「検討波源モデル③（日本海溝の宮城県津波特性評価手法 2 によるモデル）」の大すべり域の位置を東へ30kmとしたケースの各小断層のすべり量分布は以下のとおり。



検討波源モデル③
(日本海溝の宮城県津波特性評価手法 2 によるモデル)
の大すべり域の位置を東へ30kmとしたケース

検討波源モデル③（日本海溝の宮城県津波特性評価手法 2 によるモデル）
の大すべり域の位置を東へ30kmとしたケースのすべり量

断層モデル		面積 (km ²)	M ₀ (Nm)	M _w	Δσ (MPa)	最大すべり量(m)	平均すべり量(m)
検討波源モデル③ (日本海溝の宮城県津波特性評価手法 2 によるモデル) 大すべり域の位置を東へ30kmとしたケース	全体	144,379	6.8×10 ²²	9.2	3.0	35.3	9.4
	主部断層	109,725	4.4×10 ²²	9.0	2.9	17.7	7.9
	浅部断層	34,655	2.4×10 ²²	-	-	35.3	13.9

- 波源域 (津波断層域)
 - 大すべり域 (平均すべり量の2×0.91倍=(1.82倍))
 - 中間すべり域 (平均すべり量の3×0.91倍=(2.73倍))
 - 超大すべり域 (平均すべり量の4×0.91倍=(3.64倍))
 - 背景領域
 - 基本すべり域
- 津波断層域の全面積の約20%

検討波源モデル③（日本海溝の宮城県津波特性評価手法 2 によるモデル）
の大すべり域の位置を東へ30kmとしたケースの小断層のすべり量分布 (m)

深度	西 ←																																					→ 東																											
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38																											
40km↓	w	e	w	e	w	e	w	e	w	e	w	e	w	e	w	e	w	e	w	e	w	e	w	e	w	e	w	e	w	e	w	e	w	e	w	e	w	e	w	e	w																								
30km↓	1	8.2	8.2	8.2	8.2	7.9	7.9	7.9	7.9	7.7	7.7	7.7	7.0	7.0	6.8	6.8	6.6	6.6	6.4	6.4	6.2	6.2	6.1	6.1	5.9	5.9	5.9	5.9	5.7	5.7	5.7	5.7	5.5	5.5	5.5	5.4	5.4	5.4	5.4	5.3	5.3	5.6	5.6	5.0	5.0	5.0	4.2	4.2	4.2	4.2	3.3	3.3	3.3	3.3	3.3	3.3	3.0	3.0	3.0	3.0	2.2	2.2	2.2	2.2	
20km↓	2	8.2	8.2	8.2	8.2	7.9	7.9	7.9	7.9	7.7	7.7	7.7	7.0	7.0	6.8	6.8	6.6	6.6	6.4	6.4	6.2	6.2	6.1	6.1	5.9	5.9	5.9	5.9	5.7	5.7	5.7	5.7	5.5	5.5	5.5	5.4	5.4	5.4	5.4	5.3	5.3	5.6	5.6	5.0	5.0	5.0	5.0	4.2	4.2	4.2	4.2	3.3	3.3	3.3	3.3	3.3	3.3	3.0	3.0	3.0	3.0	2.2	2.2	2.2	2.2
10km↓	3	8.2	8.2	8.2	8.2	7.9	7.9	7.9	7.9	7.7	7.7	7.7	7.0	7.0	6.8	6.8	6.6	6.6	6.4	6.4	6.2	6.2	6.1	6.1	5.9	5.9	5.9	5.9	5.7	5.7	5.7	5.7	5.5	5.5	5.5	5.4	5.4	5.4	5.4	5.3	5.3	5.6	5.6	5.0	5.0	5.0	5.0	4.2	4.2	4.2	4.2	3.3	3.3	3.3	3.3	3.3	3.3	3.0	3.0	3.0	3.0	2.2	2.2	2.2	2.2
0km↓	4	8.2	8.2	8.2	8.2	7.9	7.9	7.9	7.9	7.7	7.7	7.7	7.0	7.0	6.8	6.8	6.6	6.6	6.4	6.4	6.2	6.2	6.1	6.1	5.9	5.9	5.9	5.9	5.7	5.7	5.7	5.7	5.5	5.5	5.5	5.4	5.4	5.4	5.4	5.3	5.3	5.6	5.6	5.0	5.0	5.0	5.0	4.2	4.2	4.2	4.2	3.3	3.3	3.3	3.3	3.3	3.3	3.0	3.0	3.0	3.0	2.2	2.2	2.2	2.2
40km↓	5	8.2	8.2	8.2	8.2	7.9	7.9	7.9	7.9	7.7	7.7	7.7	7.0	7.0	6.8	6.8	6.6	6.6	6.4	6.4	6.2	6.2	6.1	6.1	5.9	5.9	5.9	5.9	5.7	5.7	5.7	5.7	5.5	5.5	5.5	5.4	5.4	5.4	5.4	5.3	5.3	5.6	5.6	5.0	5.0	5.0	5.0	4.2	4.2	4.2	4.2	3.3	3.3	3.3	3.3	3.3	3.3	3.0	3.0	3.0	3.0	2.2	2.2	2.2	2.2
30km↓	6	8.2	8.2	8.2	8.2	7.9	7.9	7.9	7.9	7.7	7.7	7.7	7.0	7.0	6.8	6.8	6.6	6.6	6.4	6.4	6.2	6.2	6.1	6.1	5.9	5.9	5.9	5.9	5.7	5.7	5.7	5.7	5.5	5.5	5.5	5.4	5.4	5.4	5.4	5.3	5.3	5.6	5.6	5.0	5.0	5.0	5.0	4.2	4.2	4.2	4.2	3.3	3.3	3.3	3.3	3.3	3.3	3.0	3.0	3.0	3.0	2.2	2.2	2.2	2.2
20km↓	7	8.2	8.2	8.2	8.2	7.9	7.9	7.9	7.9	7.7	7.7	7.7	7.0	7.0	6.8	6.8	6.6	6.6	6.4	6.4	6.2	6.2	6.1	6.1	5.9	5.9	5.9	5.9	5.7	5.7	5.7	5.7	5.5	5.5	5.5	5.4	5.4	5.4	5.4	5.3	5.3	5.6	5.6	5.0	5.0	5.0	5.0	4.2	4.2	4.2	4.2	3.3	3.3	3.3	3.3	3.3	3.3	3.0	3.0	3.0	3.0	2.2	2.2	2.2	2.2
10km↓	8	8.2	8.2	8.2	8.2	7.9	7.9	7.9	7.9	7.7	7.7	7.7	7.0	7.0	6.8	6.8	6.6	6.6	6.4	6.4	6.2	6.2	6.1	6.1	5.9	5.9	5.9	5.9	5.7	5.7	5.7	5.7	5.5	5.5	5.5	5.4	5.4	5.4	5.4	5.3	5.3	5.6	5.6	5.0	5.0	5.0	5.0	4.2	4.2	4.2	4.2	3.3	3.3	3.3	3.3	3.3	3.3	3.0	3.0	3.0	3.0	2.2	2.2	2.2	2.2
0km↓	8	8.2	8.2	8.2	8.2	7.9	7.9	7.9	7.9	7.7	7.7	7.7	7.0	7.0	6.8	6.8	6.6	6.6	6.4	6.4	6.2	6.2	6.1	6.1	5.9	5.9	5.9	5.9	5.7	5.7	5.7	5.7	5.5	5.5	5.5	5.4	5.4	5.4	5.4	5.3	5.3	5.6	5.6	5.0	5.0	5.0	5.0	4.2	4.2	4.2	4.2	3.3	3.3	3.3	3.3	3.3	3.3	3.0	3.0	3.0	3.0	2.2	2.2	2.2	2.2

- すべり分布の番号は上記波源モデル図の各小断層に対し西側から東側に順に1列から38列まで設定。各列はw,eに2列に分割。陸側から海溝軸側に1行から8行まで設定。
- 駿河湾内のトラフ軸付近の領域については、他の領域に比べ、プレート境界面の深さ10kmの位置がトラフ軸に近くなり、また、トラフ軸沿いの津波断層モデルの面積も狭くなることから、この領域は分岐断層的な運動をする領域とみなせる（内閣府2012）とされるが、敷地への影響の観点から大すべり域のすべり量ではなく超大すべり域のすべり量を設定。

1 その他の検討波源モデルの詳細

1-4 検討波源モデル③のパラメータスタディモデルの設定

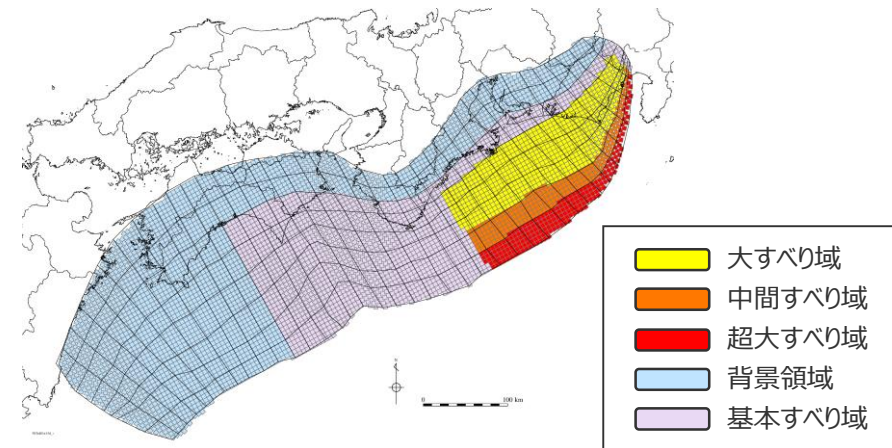
(大すべり域の位置を東へ30kmとしたケースの断層パラメータの設定)

検討波源モデル③

(日本海溝の宮城県津波特性評価手法2によるモデル)
の大すべり域の位置を東へ30kmとしたケースの断層パラメータ

項目		設定値
全体	面積※ (km ²)	144,379
	地震モーメント (Nm)	6.8×10^{22}
	Mw	9.2
	平均応力降下量 (MPa)	3.0
	平均すべり量 (m)	9.4
	最大すべり量 (m)	35.3
	剛性率 (N/m ²)	5.0×10^{10}
	破壊伝播速度 (km/s)	2.0
	ライズタイム (s)	150
主部断層	面積※ (km ²)	109,725
	地震モーメント (Nm)	4.4×10^{22}
	平均すべり量 (m)	7.9
	最大すべり量 (m)	17.7
浅部断層	面積※ (km ²)	34,655
	地震モーメント (Nm)	2.4×10^{22}
	平均すべり量 (m)	13.9
	最大すべり量 (m)	35.3

※津波断層域のうちすべりが発生している波源域の面積



検討波源モデル③ (日本海溝の宮城県津波特性評価手法2によるモデル)
の大すべり域の位置を東へ30kmとしたケース

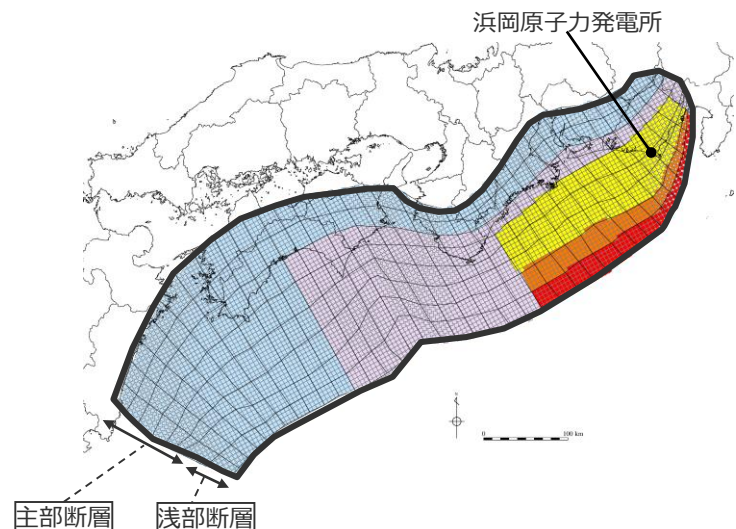
主部断層：深さ10km以深の断層
浅部断層：深さ10km以浅の断層

1 その他の検討波源モデルの詳細

1-4 検討波源モデル③のパラメータスタディモデルの設定

(大すべり域の位置を東へ20kmとしたケースのすべり量分布の設定)

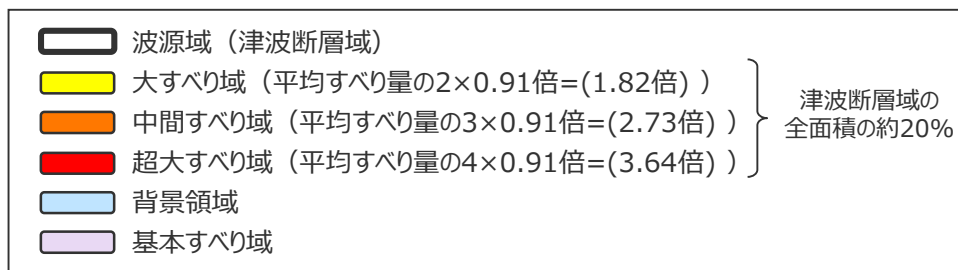
■「検討波源モデル③（日本海溝の宮城県の津波特性評価手法2によるモデル）」の大すべり域の位置を東へ20kmとしたケースの各小断層のすべり量分布は以下のとおり。



検討波源モデル③
(日本海溝の宮城県の津波特性評価手法2によるモデル)
の大すべり域の位置を東へ20kmとしたケース

検討波源モデル③（日本海溝の宮城県の津波特性評価手法2によるモデル）
の大すべり域の位置を東へ20kmとしたケースのすべり量

断層モデル		面積 (km ²)	M ₀ (Nm)	Mw	Δσ (MPa)	最大すべり量(m)	平均すべり量(m)
検討波源モデル③ (日本海溝の宮城県の津波特性評価手法2によるモデル) 大すべり域の位置を東へ20kmとしたケース	全体	144,379	6.8×10 ²²	9.2	3.0	35.3	9.4
	主部断層	109,725	4.3×10 ²²	9.0	2.9	17.7	7.9
	浅部断層	34,655	2.4×10 ²²	-	-	35.3	14.1



検討波源モデル③（日本海溝の宮城県の津波特性評価手法2によるモデル）
の大すべり域の位置を東へ20kmとしたケースの小断層のすべり量分布 (m)

		西 ←															⇒ 東																									
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38			
陸側 ⇕ 海溝軸 ⇕ ⇓	深度40km ↓																																									
	30km ↓	1	7.9	7.9	7.7	7.7	7.5	7.5	6.8	6.6	6.4	6.3	6.3	6.0	5.9	5.9	5.7	5.7	5.5	5.5	5.5	5.4	5.4	5.3	5.3	5.1	5.5	4.8	4.8	4.1	4.1	3.2	3.2	3.2	3.2	2.9	2.9	2.1	2.1			
		2	7.9	7.9	7.7	7.7	7.5	7.5	6.8	6.6	6.6	6.4	6.3	6.0	5.9	5.7	5.7	5.5	5.5	5.5	5.4	5.4	5.3	5.3	5.1	5.5	5.5	4.8	4.8	4.1	4.1	4.1	4.1	3.2	3.2	3.2	2.9	2.9	2.1			
	20km ↓	3	7.9	7.9	7.7	7.7	7.5	7.5	6.8	6.8	6.6	6.4	6.4	9.0	8.7	8.7	8.4	8.4	8.2	8.2	8.0	8.0	8.0	7.7	7.7	7.6	7.3	7.3	7.8	7.8	6.9	6.9	5.9	5.9	5.9	4.6	4.6	4.1	4.1	3.0		
		4	7.9	7.9	7.7	7.7	7.5	7.5	6.8	6.8	6.6	6.6	6.4	9.0	9.0	8.7	8.4	8.4	8.2	8.2	8.2	8.0	8.0	7.7	7.7	15.2	15.2	14.7	17.7	15.7	15.7	13.8	11.7	11.7	11.7	11.7	9.3	9.3	8.3	3.0		
	10km ↓	5	7.9	7.9	7.7	7.7	7.5	7.5	7.5	6.8	6.8	6.6	6.4	9.2	9.0	9.0	8.7	8.4	8.4	8.2	8.2	8.2	8.0	8.0	7.7	15.2	15.2	14.7	17.7	17.7	15.7	15.7	13.8	13.8	11.7	11.7	9.3	9.3	8.3	4.1		
		6	7.9	7.9	7.7	7.7	7.5	7.5	7.5	6.8	6.8	6.6	6.6	9.2	9.0	9.0	8.7	8.4	8.4	8.4	8.2	8.2	8.0	8.0	7.7	15.4	15.2	15.2	14.7	17.7	17.7	15.7	15.7	13.8	13.8	11.7	11.7	9.3	8.3	4.1		
	0km ↓	7	7.9	7.9	7.7	7.7	7.5	7.5	7.5	6.8	6.8	6.6	6.6	9.4	9.2	9.0	8.7	8.7	8.4	8.4	8.4	8.2	8.2	8.0	7.7	23.1	22.8	22.8	22.0	22.0	26.5	26.5	23.5	23.5	20.7	20.7	17.6	13.9	12.4	4.1		
8		7.9	7.9	7.7	7.7	7.5	7.5	7.5	6.8	6.8	6.6	6.6	9.4	9.2	9.0	8.7	8.7	8.7	8.4	8.4	8.2	8.2	8.0	8.0	30.8	30.8	30.4	29.3	29.3	35.3	35.3	35.3	31.3	31.3	27.6	23.4	18.5	16.6	4.1			

- ・すべり量分布の番号は上記波源モデル図の各小断層に対し西側から東側に順に1列から38列まで設定。陸側から海溝軸側に1行から8行まで設定。
- ・駿河湾内のトラフ軸付近の領域については、他の領域に比べ、プレート境界面の深さ10kmの位置がトラフ軸に近くなり、また、トラフ軸沿いの津波断層モデルの面積も狭くなることから、この領域は分岐断層的な運動をする領域とみなせる（内閣府2012）とされるが、敷地への影響の観点から大すべり域のすべり量ではなく超大すべり域のすべり量を設定。

1 その他の検討波源モデルの詳細

1-4 検討波源モデル③のパラメータスタディモデルの設定

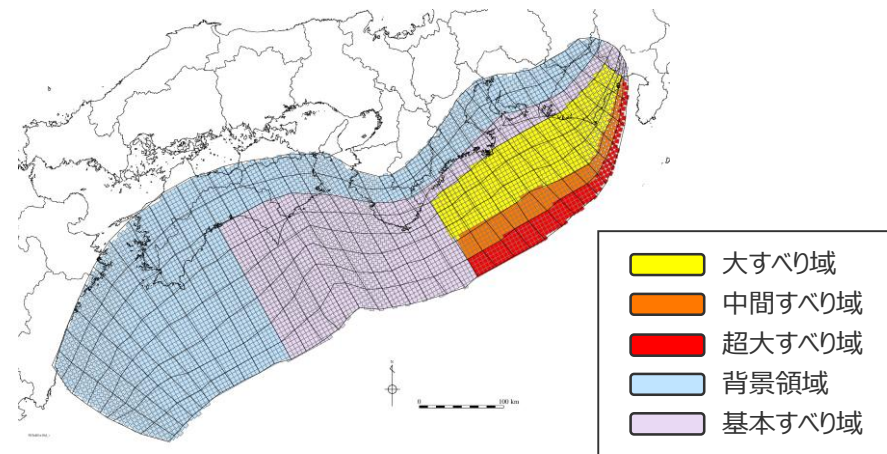
(大すべり域の位置を東へ20kmとしたケースの断層パラメータの設定)

検討波源モデル③

(日本海溝の宮城県津波特性評価手法2によるモデル)
の大すべり域の位置を東へ20kmとしたケースの断層パラメータ

項目		設定値
全体	面積※ (km ²)	144,379
	地震モーメント (Nm)	6.8×10^{22}
	Mw	9.2
	平均応力降下量 (MPa)	3.0
	平均すべり量 (m)	9.4
	最大すべり量 (m)	35.3
	剛性率 (N/m ²)	5.0×10^{10}
	破壊伝播速度 (km/s)	2.0
	ライズタイム (s)	150
主部断層	面積※ (km ²)	109,725
	地震モーメント (Nm)	4.3×10^{22}
	平均すべり量 (m)	7.9
	最大すべり量 (m)	17.7
浅部断層	面積※ (km ²)	34,655
	地震モーメント (Nm)	2.4×10^{22}
	平均すべり量 (m)	14.1
	最大すべり量 (m)	35.3

※津波断層域のうちすべりが発生している波源域の面積



検討波源モデル③ (日本海溝の宮城県津波特性評価手法2によるモデル)
の大すべり域の位置を東へ20kmとしたケース

主部断層：深さ10km以深の断層
浅部断層：深さ10km以浅の断層

1 その他の検討波源モデルの詳細

1-4 検討波源モデル③のパラメータスタディモデルの設定

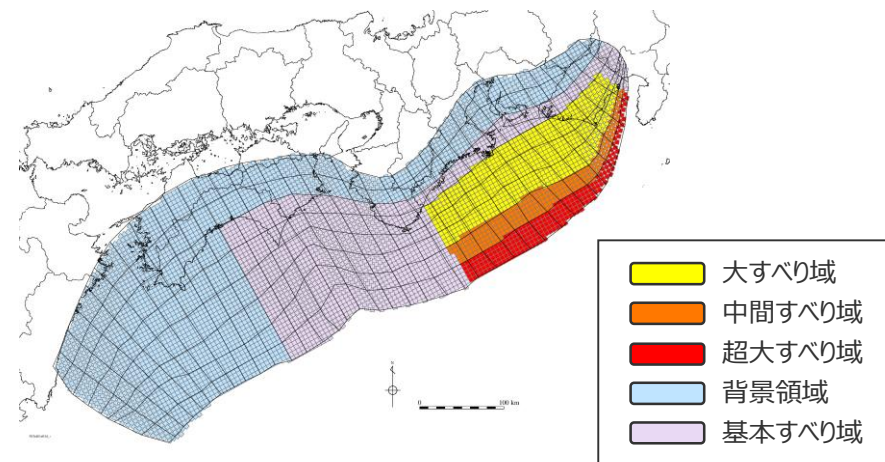
(大すべり域の位置を東へ10kmとしたケースの断層パラメータの設定)

検討波源モデル③

(日本海溝の宮城県津波特性評価手法2によるモデル)
の大すべり域の位置を東へ10kmとしたケースの断層パラメータ

項目		設定値
全体	面積※ (km ²)	144,379
	地震モーメント (Nm)	6.8×10^{22}
	Mw	9.2
	平均応力降下量 (MPa)	3.0
	平均すべり量 (m)	9.4
	最大すべり量 (m)	35.3
	剛性率 (N/m ²)	5.0×10^{10}
	破壊伝播速度 (km/s)	2.0
	ライズタイム (s)	150
主部断層	面積※ (km ²)	109,725
	地震モーメント (Nm)	4.3×10^{22}
	平均すべり量 (m)	7.8
	最大すべり量 (m)	17.7
浅部断層	面積※ (km ²)	34,655
	地震モーメント (Nm)	2.5×10^{22}
	平均すべり量 (m)	14.3
	最大すべり量 (m)	35.3

※津波断層域のうちすべりが発生している波源域の面積



検討波源モデル③ (日本海溝の宮城県津波特性評価手法2によるモデル)
の大すべり域の位置を東へ10kmとしたケース

主部断層：深さ10km以深の断層
浅部断層：深さ10km以浅の断層

1 その他の検討波源モデルの詳細

1-4 検討波源モデル③のパラメータスタディモデルの設定

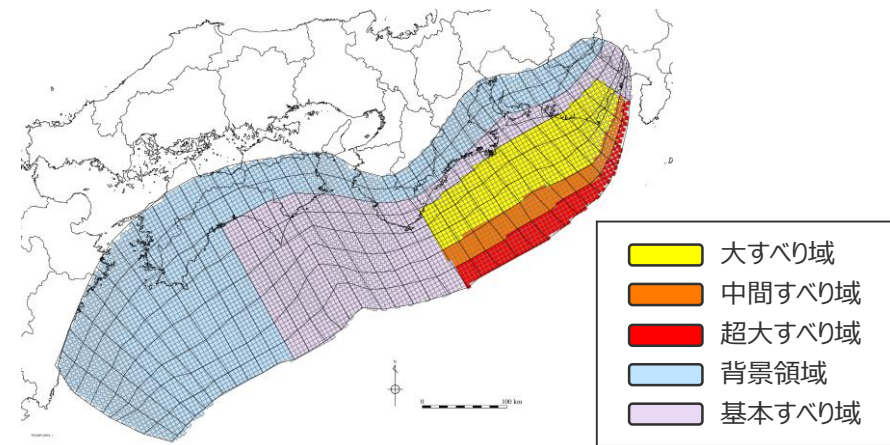
(大すべり域の位置を基準位置としたケースの断層パラメータの設定)

検討波源モデル③

(日本海溝の宮城県の津波特性評価手法 2 によるモデル)
の大すべり域の位置を基準位置としたケースの断層パラメータ

項目		設定値
全体	面積※ (km ²)	144,379
	地震モーメント (Nm)	6.8×10 ²²
	Mw	9.2
	平均応力降下量 (MPa)	3.0
	平均すべり量 (m)	9.4
	最大すべり量 (m)	35.3
	剛性率 (N/m ²)	5.0×10 ¹⁰
	破壊伝播速度 (km/s)	2.0
	ライズタイム (s)	150
主部断層	面積※ (km ²)	109,725
	地震モーメント (Nm)	4.2×10 ²²
	平均すべり量 (m)	7.7
	最大すべり量 (m)	17.7
浅部断層	面積※ (km ²)	34,655
	地震モーメント (Nm)	2.5×10 ²²
	平均すべり量 (m)	14.6
	最大すべり量 (m)	35.3

※津波断層域のうちすべりが発生している波源域の面積



検討波源モデル③ (日本海溝の宮城県の津波特性評価手法 2 によるモデル)
の大すべり域の位置を基準位置としたケース

主部断層：深さ10km以深の断層
浅部断層：深さ10km以浅の断層

1 その他の検討波源モデルの詳細

1-4 検討波源モデル③のパラメータスタディモデルの設定

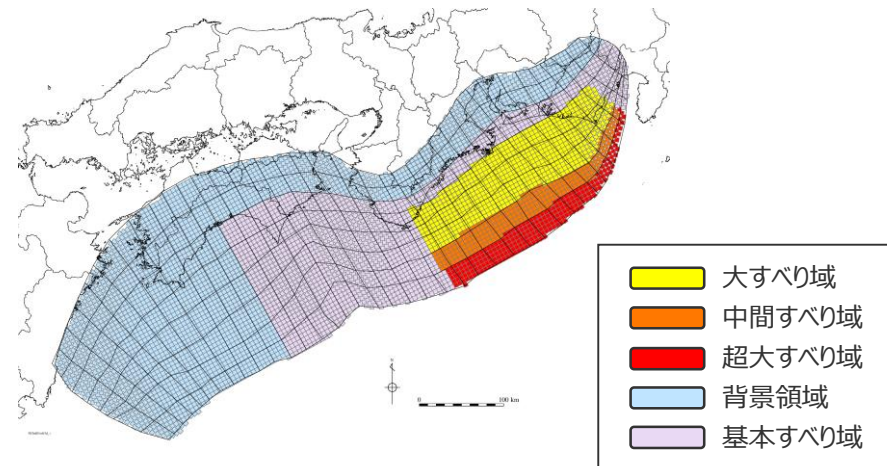
(大すべり域の位置を西へ10kmとしたケースの断層パラメータの設定)

検討波源モデル③

(日本海溝の宮城県津波特性評価手法2によるモデル)
の大すべり域の位置を西へ10kmとしたケースの断層パラメータ

項目		設定値
全体	面積※ (km ²)	144,379
	地震モーメント (Nm)	6.8×10^{22}
	Mw	9.2
	平均応力降下量 (MPa)	3.0
	平均すべり量 (m)	9.4
	最大すべり量 (m)	35.3
	剛性率 (N/m ²)	5.0×10^{10}
	破壊伝播速度 (km/s)	2.0
	ライズタイム (s)	150
主部断層	面積※ (km ²)	109,725
	地震モーメント (Nm)	4.2×10^{22}
	平均すべり量 (m)	7.7
	最大すべり量 (m)	17.7
浅部断層	面積※ (km ²)	34,655
	地震モーメント (Nm)	2.6×10^{22}
	平均すべり量 (m)	14.8
	最大すべり量 (m)	35.3

※津波断層域のうちすべりが発生している波源域の面積



検討波源モデル③ (日本海溝の宮城県津波特性評価手法2によるモデル)
の大すべり域の位置を西へ10kmとしたケース

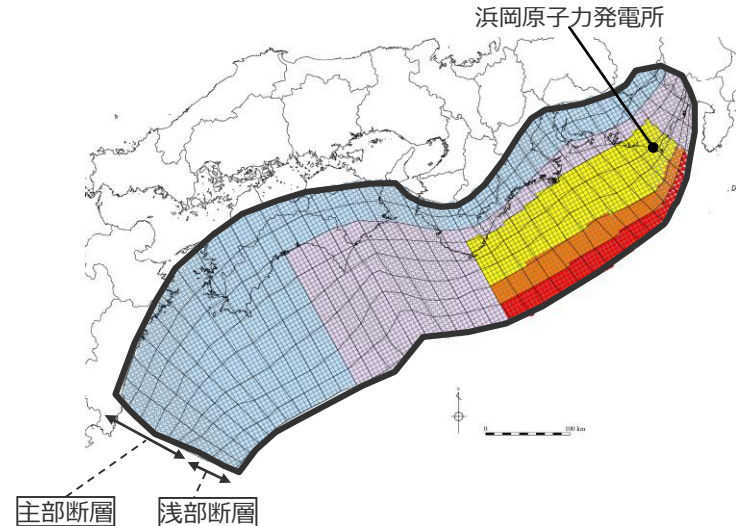
主部断層：深さ10km以深の断層

浅部断層：深さ10km以浅の断層

1 その他の検討波源モデルの詳細

1-4 検討波源モデル③のパラメータスタディモデルの設定 (大すべり域の位置を西へ20kmとしたケースのすべり量分布の設定)

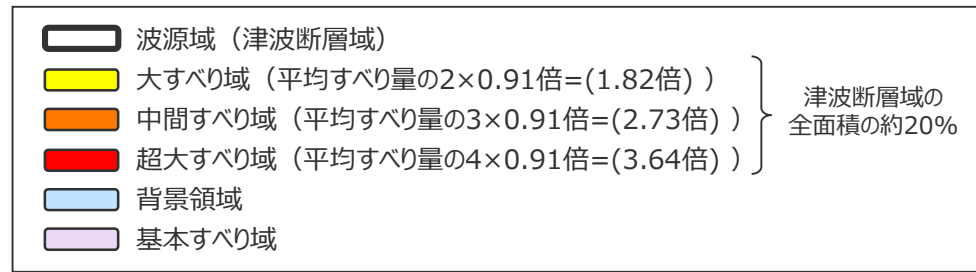
■「検討波源モデル③（日本海溝の宮城県津波特性評価手法2によるモデル）」の大すべり域の位置を西へ20kmとしたケースの各小断層のすべり量分布は以下のとおり。



検討波源モデル③
(日本海溝の宮城県津波特性評価手法2によるモデル)
の大すべり域の位置を西へ20kmとしたケース

検討波源モデル③（日本海溝の宮城県津波特性評価手法2によるモデル）
の大すべり域の位置を西へ20kmとしたケースのすべり量

断層モデル		面積 (km ²)	M ₀ (Nm)	Mw	Δσ (MPa)	最大 すべり量(m)	平均 すべり量(m)
検討波源モデル③ (日本海溝の宮城県津波特性評価手法2によるモデル) 大すべり域の位置を西へ20kmとしたケース	全体	144,379	6.8×10 ²²	9.2	3.0	35.3	9.4
	主部断層	109,725	4.2×10 ²²	9.0	2.8	17.7	7.6
	浅部断層	34,655	2.6×10 ²²	-	-	35.3	15.0



検討波源モデル③（日本海溝の宮城県津波特性評価手法2によるモデル）
の大すべり域の位置を西へ20kmとしたケースの小断層のすべり量分布（m）

陸側⇄ 海溝軸 ⇄東	西 ← → 東																																									
	深度40km↓		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38		
30km↓	1		7.1	7.1	6.9	6.9	6.7	6.7	6.1	5.9	5.7	5.6	5.6	5.4	5.3	5.3	5.1	5.1	5.1	5.0	5.0	5.0	4.8	4.8	4.7	4.7	4.6	4.9	4.3	4.3	3.7	3.7	2.9	2.9	2.9	2.9	2.6	2.6	1.9	1.9		
	20km↓	2		7.1	7.1	6.9	6.9	6.7	6.7	6.1	5.9	5.9	5.7	5.6	5.6	5.4	5.3	5.1	5.1	5.1	5.0	5.0	5.0	4.8	4.8	4.7	4.7	4.6	4.9	4.9	4.3	4.3	3.7	3.7	3.7	2.9	2.9	2.9	2.9	2.6	2.6	1.9
3			7.1	7.1	6.9	6.9	6.7	6.7	6.1	6.1	5.9	5.7	5.7	9.0	8.7	8.7	8.4	8.4	8.2	8.2	8.0	8.0	8.0	7.7	7.7	7.6	7.3	7.3	7.8	7.8	6.9	6.9	5.9	5.9	5.9	4.6	4.6	4.1	4.1	3.0		
10km↓	4		7.1	7.1	6.9	6.9	6.7	6.7	6.1	6.1	5.9	5.9	5.7	9.0	9.0	8.7	8.4	8.4	8.2	8.2	8.2	8.0	8.0	15.4	15.4	15.2	15.2	14.7	17.7	15.7	15.7	13.8	11.7	11.7	11.7	11.7	9.3	4.6	4.1	3.0		
	5		7.1	7.1	6.9	6.9	6.7	6.7	6.7	6.1	6.1	5.9	5.7	9.2	9.0	9.0	8.7	8.4	8.4	8.4	8.2	8.2	8.0	8.0	15.9	15.4	15.4	15.2	15.2	14.7	17.7	17.7	15.7	15.7	13.8	13.8	11.7	11.7	9.3	4.6	4.1	4.1
0km↓	6		7.1	7.1	6.9	6.9	6.7	6.7	6.7	6.1	6.1	5.9	5.9	9.2	9.0	9.0	8.7	8.4	8.4	8.4	8.2	8.2	8.0	8.0	15.9	15.4	15.4	15.2	15.2	14.7	17.7	17.7	15.7	15.7	13.8	13.8	11.7	11.7	9.3	4.6	4.1	4.1
	7		7.1	7.1	6.9	6.9	6.7	6.7	6.7	6.1	6.1	6.1	5.9	9.4	9.2	9.0	8.7	8.7	8.4	8.4	8.4	8.2	8.2	8.2	23.9	23.1	23.1	22.8	22.8	22.0	22.0	26.5	26.5	23.5	23.5	20.7	20.7	17.6	4.6	4.1	4.1	
8		7.1	7.1	6.9	6.9	6.9	6.7	6.7	6.7	6.1	6.1	5.9	9.4	9.2	9.0	8.7	8.7	8.7	8.4	8.4	8.4	8.2	8.2	31.8	31.8	30.8	30.8	30.4	29.3	29.3	35.3	35.3	35.3	31.3	31.3	27.6	23.4	4.6	4.1	4.1		

- すべり量分布の番号は上記波源モデル図の各小断層に対し西側から東側に順に1列から38列まで設定。陸側から海溝軸側に1行から8行まで設定。
- 駿河湾内のトラフ軸付近の領域については、他の領域に比べ、プレート境界面の深さ10kmの位置がトラフ軸に近くなり、また、トラフ軸沿いの津波断層モデルの面積も狭くなることから、この領域は分岐断層的な運動をする領域とみなせる（内閣府2012）とされるが、敷地への影響の観点から大すべり域のすべり量ではなく超大すべり域のすべり量を設定。

1 その他の検討波源モデルの詳細

1-4 検討波源モデル③のパラメータスタディモデルの設定

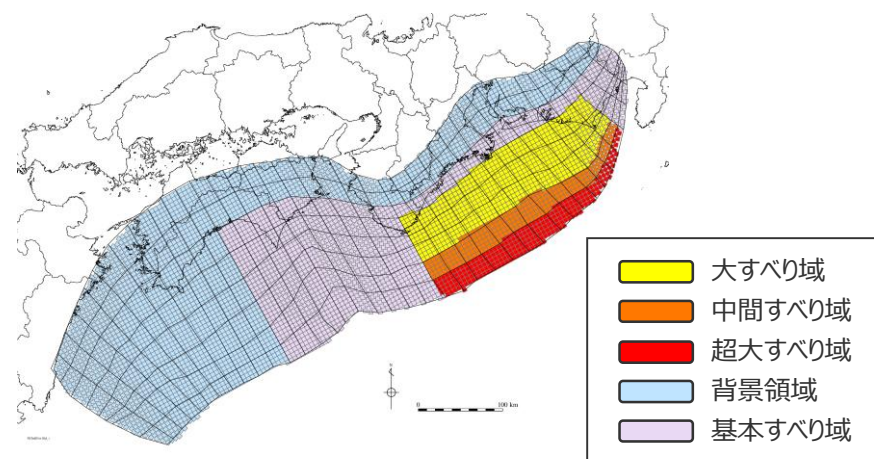
(大すべり域の位置を西へ20kmとしたケースの断層パラメータの設定)

検討波源モデル③

(日本海溝の宮城県の津波特性評価手法 2 によるモデル)
の大すべり域の位置を西へ20kmとしたケースの断層パラメータ

項目		設定値
全体	面積※ (km ²)	144,379
	地震モーメント (Nm)	6.8×10^{22}
	Mw	9.2
	平均応力降下量 (MPa)	3.0
	平均すべり量 (m)	9.4
	最大すべり量 (m)	35.3
	剛性率 (N/m ²)	5.0×10^{10}
	破壊伝播速度 (km/s)	2.0
	ライズタイム (s)	150
主部断層	面積※ (km ²)	109,725
	地震モーメント (Nm)	4.2×10^{22}
	平均すべり量 (m)	7.6
	最大すべり量 (m)	17.7
浅部断層	面積※ (km ²)	34,655
	地震モーメント (Nm)	2.6×10^{22}
	平均すべり量 (m)	15.0
	最大すべり量 (m)	35.3

※津波断層域のうちすべりが発生している波源域の面積



検討波源モデル③ (日本海溝の宮城県の津波特性評価手法 2 によるモデル)
の大すべり域の位置を西へ20kmとしたケース

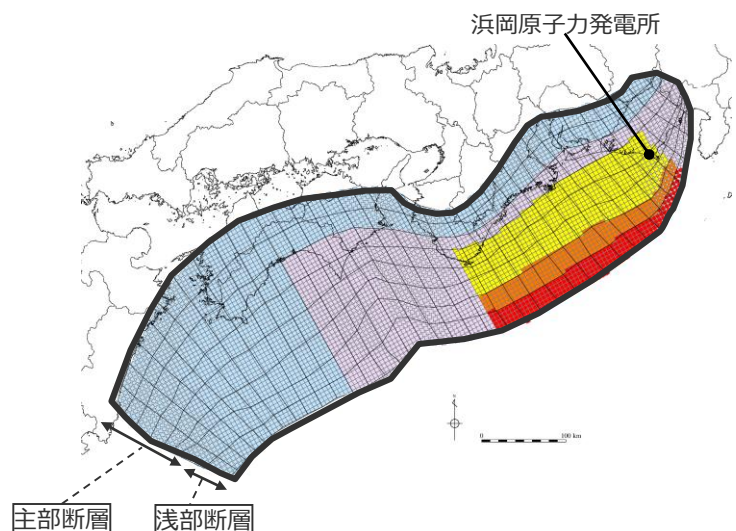
主部断層：深さ10km以深の断層

浅部断層：深さ10km以浅の断層

1 その他の検討波源モデルの詳細

1-4 検討波源モデル③のパラメータスタディモデルの設定 (大すべり域の位置を西へ30kmとしたケースのすべり量分布の設定)

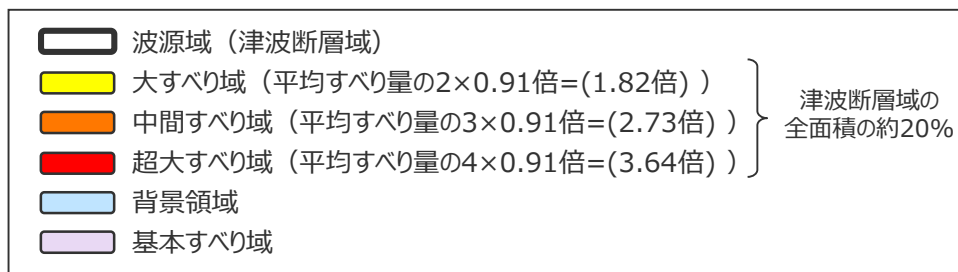
■「検討波源モデル③（日本海溝の宮城県の津波特性評価手法 2 によるモデル）」の大すべり域の位置を西へ30kmとしたケースの各小断層のすべり量分布は以下のとおり。



検討波源モデル③
(日本海溝の宮城県の津波特性評価手法 2 によるモデル)
の大すべり域の位置を西へ30kmとしたケース

検討波源モデル③（日本海溝の宮城県の津波特性評価手法 2 によるモデル）
の大すべり域の位置を西へ30kmとしたケースのすべり量

断層モデル		面積 (km ²)	M ₀ (Nm)	Mw	Δσ (MPa)	最大 すべり量(m)	平均 すべり量(m)
検討波源モデル③ (日本海溝の宮城県の津波特 性評価手法 2 によるモデル) 大すべり域の位置を西へ30kmと したケース	全体	144,379	6.8×10 ²²	9.2	3.0	35.3	9.4
	主部断層	109,725	4.1×10 ²²	9.0	2.8	17.7	7.5
	浅部断層	34,655	2.6×10 ²²	-	-	35.3	15.2



検討波源モデル③（日本海溝の宮城県の津波特性評価手法 2 によるモデル）
の大すべり域の位置を西へ30kmとしたケースの小断層のすべり量分布 (m)

深度	陸側⇄	西 ⇄ ⇄ 東																																																																				
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38																															
40km		w	e	w	e	w	e	w	e	w	e	w	e	w	e	w	e	w	e	w	e	w	e	w	e	w	e	w	e	w	e	w	e	w	e	w	e	w	e	w	e																													
30km	1	6.9	6.9	6.9	6.9	6.7	6.7	6.7	6.7	6.5	6.5	6.5	6.5	5.9	5.9	5.7	5.7	5.6	5.6	5.5	5.5	5.5	5.3	5.3	5.1	5.1	5.1	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	4.8	4.8	4.8	4.8	4.7	4.7	4.7	4.7	4.6	4.6	4.6	4.6	4.5	4.5	4.8	4.8	4.2	4.2	4.2	4.2	3.6	3.6	3.6	3.6	2.8	2.8	2.8	2.8	2.5	2.5	2.5	2.5	1.8	1.8	1.8	1.8		
	2	6.9	6.9	6.9	6.9	6.7	6.7	6.7	6.7	6.5	6.5	6.5	6.5	5.9	5.9	5.7	5.7	5.7	5.6	5.6	5.5	5.5	5.5	5.3	5.3	5.1	5.1	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	4.8	4.8	4.8	4.8	4.7	4.7	4.7	4.7	4.6	4.6	4.6	4.6	4.5	4.5	4.8	4.8	4.8	4.2	4.2	4.2	4.2	3.6	3.6	3.6	3.6	2.8	2.8	2.8	2.8	2.5	2.5	2.5	2.5	1.8	1.8	1.8	1.8	
20km	3	6.9	6.9	6.9	6.9	6.7	6.7	6.7	6.7	6.5	6.5	6.5	6.5	5.9	5.9	5.7	5.7	5.6	5.6	5.6	9.0	9.0	8.7	8.7	8.7	8.4	8.4	8.4	8.4	8.2	8.2	8.2	8.2	8.0	8.0	8.0	8.0	8.0	7.7	7.7	7.7	7.7	7.6	7.6	7.3	7.3	7.3	7.8	7.8	7.8	6.9	6.9	6.9	6.9	5.9	5.9	5.9	5.9	4.6	4.6	4.6	4.1	4.1	4.1	3.0	3.0				
	4	6.9	6.9	6.9	6.9	6.7	6.7	6.7	6.7	6.5	6.5	6.5	6.5	5.9	5.9	5.7	5.7	5.7	5.6	5.6	9.0	9.0	9.0	9.0	8.7	8.7	8.4	8.4	8.4	8.4	8.2	8.2	8.2	8.2	8.0	8.0	8.0	8.0	8.0	8.0	7.7	7.7	7.7	7.7	7.6	7.6	7.3	7.3	7.3	7.8	7.8	7.8	6.9	6.9	6.9	6.9	5.9	5.9	5.9	5.9	4.6	4.6	4.6	4.1	4.1	4.1	3.0	3.0		
10km	5	6.9	6.9	6.9	6.9	6.7	6.7	6.7	6.7	6.5	6.5	6.5	6.5	5.9	5.9	5.7	5.7	5.7	5.6	5.6	9.2	9.2	9.0	9.0	9.0	8.7	8.7	8.4	8.4	8.4	8.2	8.2	8.2	8.2	8.2	8.0	8.0	8.0	8.0	8.0	8.0	7.7	7.7	7.7	7.7	7.6	7.6	7.3	7.3	7.3	7.8	7.8	7.8	6.9	6.9	6.9	6.9	5.9	5.9	5.9	5.9	4.6	4.6	4.6	4.1	4.1	4.1	4.1	4.1	
	6	6.9	6.9	6.9	6.9	6.7	6.7	6.7	6.7	6.5	6.5	6.5	6.5	5.9	5.9	5.7	5.7	5.7	5.6	5.6	9.2	9.2	9.0	9.0	9.0	8.7	8.7	8.4	8.4	8.4	8.2	8.2	8.2	8.2	8.2	8.0	8.0	8.0	8.0	8.0	8.0	7.7	7.7	7.7	7.7	7.6	7.6	7.3	7.3	7.3	7.8	7.8	7.8	6.9	6.9	6.9	6.9	5.9	5.9	5.9	5.9	4.6	4.6	4.6	4.1	4.1	4.1	4.1	4.1	
0km	7	6.9	6.9	6.9	6.9	6.7	6.7	6.7	6.7	6.5	6.5	6.5	6.5	5.9	5.9	5.7	5.7	5.7	5.6	5.6	9.2	9.2	9.0	9.0	9.0	8.7	8.7	8.4	8.4	8.4	8.4	8.2	8.2	8.2	8.2	8.2	8.0	8.0	8.0	8.0	8.0	8.0	7.7	7.7	7.7	7.7	7.6	7.6	7.3	7.3	7.3	7.8	7.8	7.8	6.9	6.9	6.9	6.9	5.9	5.9	5.9	5.9	4.6	4.6	4.6	4.1	4.1	4.1	4.1	4.1
	8	6.9	6.9	6.9	6.9	6.7	6.7	6.7	6.7	6.5	6.5	6.5	6.5	5.9	5.9	5.7	5.7	5.7	5.6	5.6	9.2	9.2	9.0	9.0	9.0	8.7	8.7	8.4	8.4	8.4	8.4	8.2	8.2	8.2	8.2	8.2	8.0	8.0	8.0	8.0	8.0	8.0	7.7	7.7	7.7	7.7	7.6	7.6	7.3	7.3	7.3	7.8	7.8	7.8	6.9	6.9	6.9	6.9	5.9	5.9	5.9	5.9	4.6	4.6	4.6	4.1	4.1	4.1	4.1	4.1

・すべり分布の番号は上記波源モデル図の各小断層に対し西側から東側に順に1列から38列まで設定。各列はw,eに2列に分割。陸側から海溝軸側に1行から8行まで設定。
 ・駿河湾内のトラフ軸付近の領域については、他の領域に比べ、プレート境界面の深さ10km の位置がトラフ軸に近くなり、また、トラフ軸沿いの津波断層モデルの面積も狭くなることから、この領域は分岐断層的な運動をする領域とみなせる（内閣府2012）とされるが、敷地への影響の観点から大すべり域のすべり量ではなく超大すべり域のすべり量を設定。

1 その他の検討波源モデルの詳細

1-4 検討波源モデル③のパラメータスタディモデルの設定

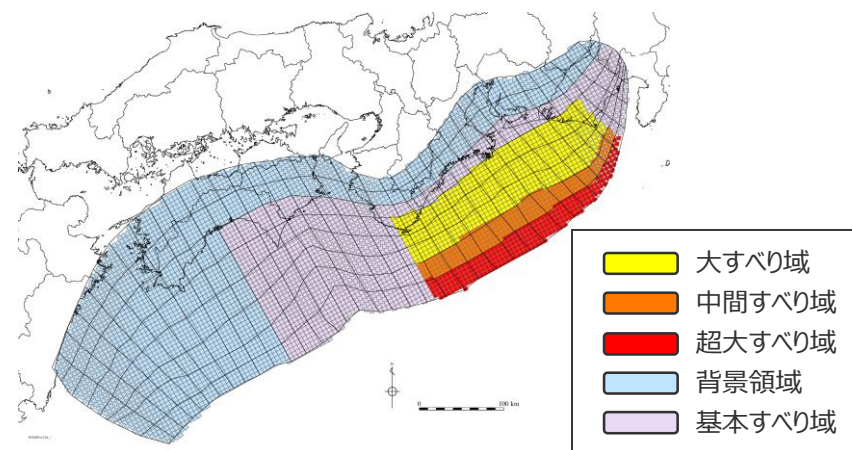
(大すべり域の位置を西へ30kmとしたケースの断層パラメータの設定)

検討波源モデル③

(日本海溝の宮城県津波特性評価手法2によるモデル)
の大すべり域の位置を西へ30kmとしたケースの断層パラメータ

項目		設定値
全体	面積※ (km ²)	144,379
	地震モーメント (Nm)	6.8×10^{22}
	Mw	9.2
	平均応力降下量 (MPa)	3.0
	平均すべり量 (m)	9.4
	最大すべり量 (m)	35.3
	剛性率 (N/m ²)	5.0×10^{10}
	破壊伝播速度 (km/s)	2.0
	ライズタイム (s)	150
主部断層	面積※ (km ²)	109,725
	地震モーメント (Nm)	4.1×10^{22}
	平均すべり量 (m)	7.5
	最大すべり量 (m)	17.7
浅部断層	面積※ (km ²)	34,655
	地震モーメント (Nm)	2.6×10^{22}
	平均すべり量 (m)	15.2
	最大すべり量 (m)	35.3

※津波断層域のうちすべりが発生している波源域の面積



検討波源モデル③ (日本海溝の宮城県津波特性評価手法2によるモデル)
の大すべり域の位置を西へ30kmとしたケース

主部断層：深さ10km以深の断層

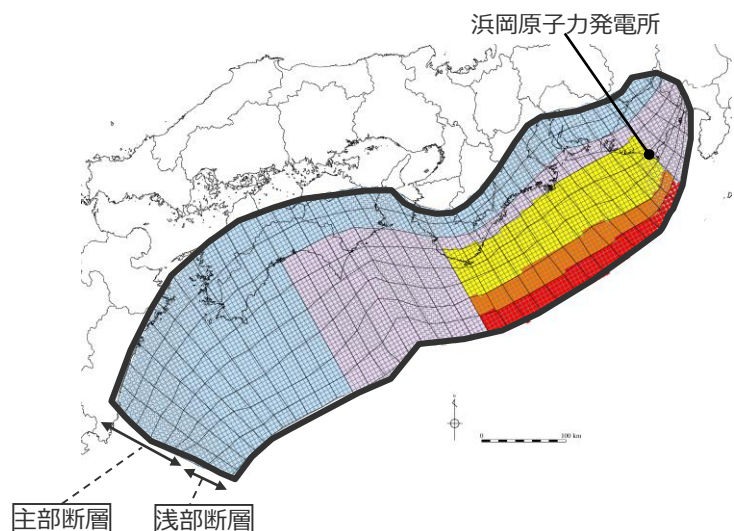
浅部断層：深さ10km以浅の断層

1 その他の検討波源モデルの詳細

1-4 検討波源モデル③のパラメータスタディモデルの設定

(大すべり域の位置を西へ40kmとしたケースのすべり量分布の設定)

■「検討波源モデル③（日本海溝の宮城県津波特性評価手法2によるモデル）」の大すべり域の位置を西へ40kmとしたケースの各小断層のすべり量分布は以下のとおり。

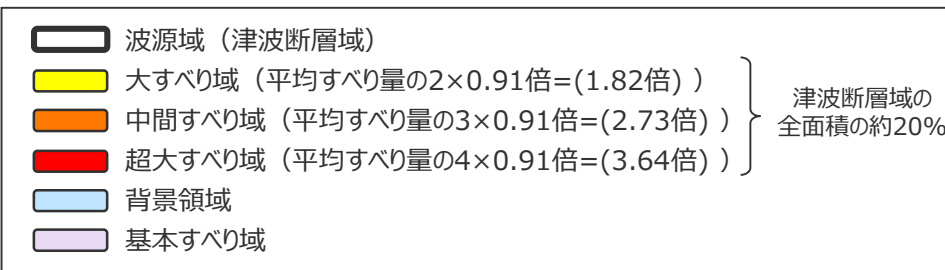


検討波源モデル③

(日本海溝の宮城県津波特性評価手法2によるモデル)
の大すべり域の位置を西へ40kmとしたケース

検討波源モデル③（日本海溝の宮城県津波特性評価手法2によるモデル）
の大すべり域の位置を西へ40kmとしたケースのすべり量

断層モデル		面積 (km ²)	M ₀ (Nm)	M _w	Δσ (MPa)	最大すべり量(m)	平均すべり量(m)
検討波源モデル③ (日本海溝の宮城県津波特性評価手法2によるモデル) 大すべり域の位置を西へ40kmとしたケース	全体	144,379	6.8×10^{22}	9.2	3.0	35.3	9.4
	主部断層	109,725	4.1×10^{22}	9.0	2.8	17.7	7.5
	浅部断層	34,655	2.7×10^{22}	-	-	35.3	15.3



検討波源モデル③（日本海溝の宮城県津波特性評価手法2によるモデル）
の大すべり域の位置を西へ40kmとしたケースの小断層のすべり量分布 (m)

		西 ←															→ 東																							
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	
陸側	深度40km↓		6.8	6.8	6.6	6.6	6.4	6.4	5.8	5.6	5.5	5.4	5.4	5.2	5.0	5.0	4.9	4.9	4.9	4.7	4.7	4.7	4.6	4.6	4.5	4.5	4.4	4.7	4.1	4.1	3.5	3.5	2.8	2.8	2.8	2.8	2.5	2.5	1.8	1.8
	30km↓	1	6.8	6.8	6.6	6.6	6.4	6.4	5.8	5.6	5.6	5.5	5.4	5.4	5.2	5.0	4.9	4.9	4.9	4.7	4.7	4.7	4.6	4.6	4.5	4.5	4.4	4.7	4.1	4.1	3.5	3.5	2.8	2.8	2.8	2.8	2.5	2.5	1.8	1.8
海溝軸	20km↓	2	6.8	6.8	6.6	6.6	6.4	6.4	5.8	5.8	5.6	5.5	5.4	5.4	5.2	5.0	4.9	4.9	4.9	4.7	4.7	4.7	4.6	4.6	4.5	4.5	4.4	4.7	4.1	4.1	3.5	3.5	2.8	2.8	2.8	2.8	2.5	2.5	1.8	1.8
		3	6.8	6.8	6.6	6.6	6.4	6.4	5.8	5.8	5.6	5.5	5.5	9.0	8.7	8.7	8.4	8.4	8.2	8.2	8.0	8.0	8.0	7.7	7.7	7.6	7.3	7.3	7.8	7.8	6.9	6.9	5.9	5.9	5.9	4.6	4.6	4.1	4.1	3.0
	10km↓	4	6.8	6.8	6.6	6.6	6.4	6.4	5.8	5.8	5.6	5.6	5.5	9.0	9.0	8.7	8.4	8.4	8.2	8.2	8.2	8.0	15.9	15.4	15.4	15.2	15.2	14.7	17.7	15.7	15.7	13.8	11.7	11.7	11.7	11.7	4.6	4.6	4.1	3.0
5		6.8	6.8	6.6	6.6	6.4	6.4	6.4	5.8	5.8	5.6	5.5	9.2	9.0	9.0	8.7	8.4	8.4	8.2	8.2	8.2	15.9	15.9	15.4	15.4	15.2	15.2	14.7	17.7	17.7	15.7	15.7	13.8	13.8	11.7	11.7	4.6	4.6	4.1	4.1
⇩	0km↓	6	6.8	6.8	6.6	6.6	6.4	6.4	6.4	5.8	5.8	5.6	5.6	9.2	9.0	9.0	8.7	8.4	8.4	8.4	8.2	8.2	15.9	15.9	15.4	15.4	15.2	15.2	14.7	17.7	17.7	15.7	15.7	13.8	13.8	11.7	5.9	4.6	4.1	4.1
		7	6.8	6.8	6.6	6.6	6.4	6.4	6.4	5.8	5.8	5.8	5.6	9.4	9.2	9.0	8.7	8.7	8.4	8.4	8.4	8.2	24.6	23.9	23.1	23.1	22.8	22.8	22.0	22.0	26.5	26.5	23.5	23.5	20.7	20.7	5.9	4.6	4.1	4.1
		8	6.8	6.8	6.6	6.6	6.6	6.4	6.4	6.4	5.8	5.8	5.6	9.4	9.2	9.0	8.7	8.7	8.4	8.4	8.2	32.8	31.8	31.8	30.8	30.8	30.4	29.3	29.3	35.3	35.3	35.3	31.3	31.3	27.6	5.9	4.6	4.1	4.1	

・すべり量分布の番号は上記波源モデル図の各小断層に対し西側から東側に順に1列から38列まで設定。陸側から海溝軸側に1行から8行まで設定。

・駿河湾内のトラフ軸付近の領域については、他の領域に比べ、プレート境界面の深さ10kmの位置がトラフ軸に近くなり、また、トラフ軸沿いの津波断層モデルの面積も狭くなることから、この領域は分岐断層的な運動をする領域とみなせる（内閣府2012）とされるが、敷地への影響の観点から大すべり域のすべり量ではなく超大すべり域のすべり量を設定。

1 その他の検討波源モデルの詳細

1-4 検討波源モデル③のパラメータスタディモデルの設定

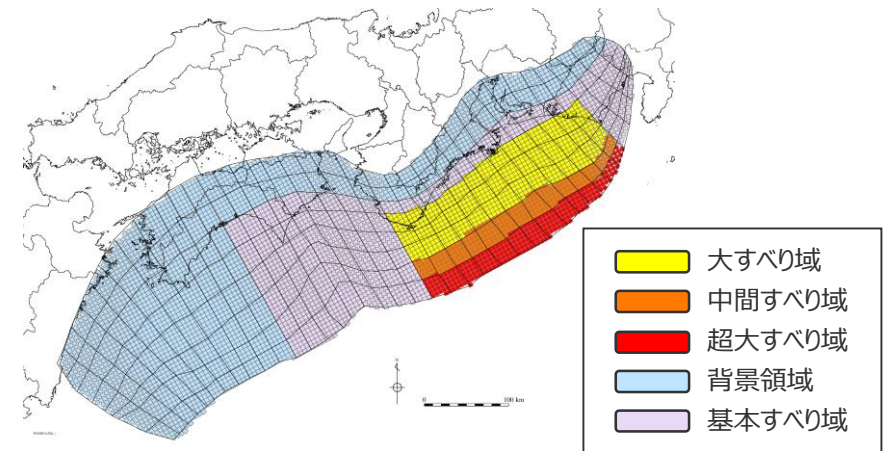
(大すべり域の位置を西へ40kmとしたケースの断層パラメータの設定)

検討波源モデル③

(日本海溝の宮城県津波特性評価手法2によるモデル)
の大すべり域の位置を西へ40kmとしたケースの断層パラメータ

項目		設定値
全体	面積※ (km ²)	144,379
	地震モーメント (Nm)	6.8×10^{22}
	Mw	9.2
	平均応力降下量 (MPa)	3.0
	平均すべり量 (m)	9.4
	最大すべり量 (m)	35.3
	剛性率 (N/m ²)	5.0×10^{10}
	破壊伝播速度 (km/s)	2.0
	ライズタイム (s)	150
主部断層	面積※ (km ²)	109,725
	地震モーメント (Nm)	4.1×10^{22}
	平均すべり量 (m)	7.5
	最大すべり量 (m)	17.7
浅部断層	面積※ (km ²)	34,655
	地震モーメント (Nm)	2.7×10^{22}
	平均すべり量 (m)	15.3
	最大すべり量 (m)	35.3

※津波断層域のうちすべりが発生している波源域の面積



検討波源モデル③ (日本海溝の宮城県津波特性評価手法2によるモデル)
の大すべり域の位置を西へ40kmとしたケース

主部断層：深さ10km以深の断層

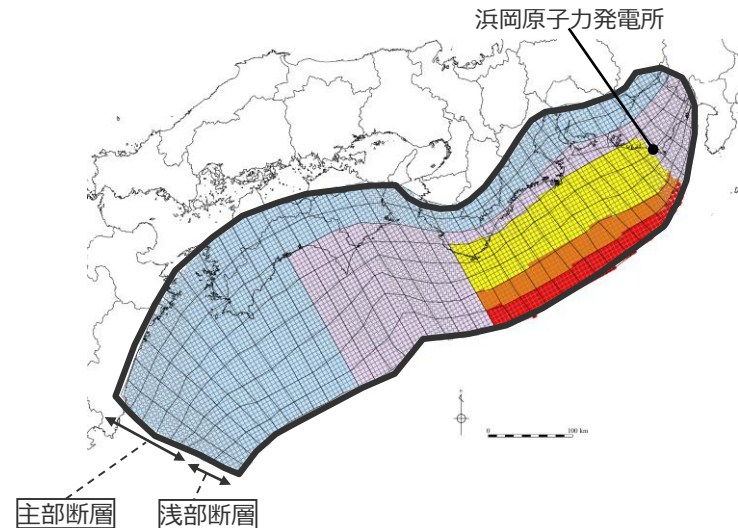
浅部断層：深さ10km以浅の断層

1 その他の検討波源モデルの詳細

1-4 検討波源モデル③のパラメータスタディモデルの設定

(大すべり域の位置を西へ50kmとしたケースのすべり量分布の設定)

■「検討波源モデル③（日本海溝の宮城県津波特性評価手法2によるモデル）」の大すべり域の位置を西へ50kmとしたケースの各小断層のすべり量分布は以下のとおり。

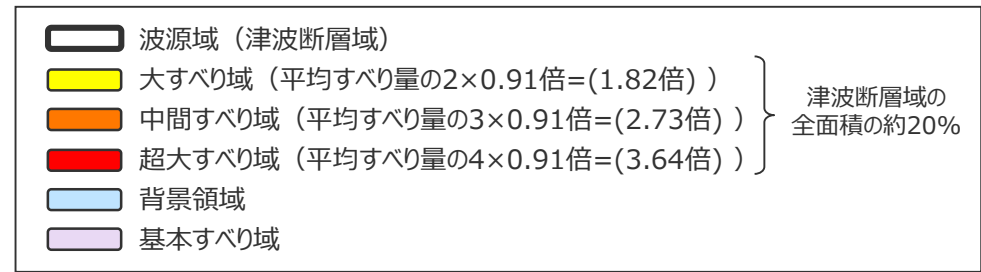


検討波源モデル③

(日本海溝の宮城県津波特性評価手法2によるモデル)
大すべり域の位置を西へ50kmとしたケース

検討波源モデル③（日本海溝の宮城県津波特性評価手法2によるモデル）
大すべり域の位置を西へ50kmとしたケースのすべり量

断層モデル		面積 (km ²)	M ₀ (Nm)	M _w	Δσ (MPa)	最大すべり量(m)	平均すべり量(m)
検討波源モデル③ (日本海溝の宮城県津波特性評価手法2によるモデル) 大すべり域の位置を西へ50kmとしたケース	全体	144,379	6.8×10 ²²	9.2	3.0	35.3	9.4
	主部断層	109,725	4.1×10 ²²	9.0	2.8	17.7	7.5
	浅部断層	34,655	2.6×10 ²²	-	-	35.3	15.2



検討波源モデル③（日本海溝の宮城県津波特性評価手法2によるモデル）
大すべり域の位置を西へ50kmとしたケースの小断層のすべり量分布 (m)

西 ←

⇒ 東

深度	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38																																			
40km	w	e	w	e	w	e	w	e	w	e	w	e	w	e	w	e	w	e	w	e	w	e	w	e	w	e	w	e	w	e	w	e	w	e	w	e	w	e	w	e	w	e																															
30km	1	6.9	6.9	6.9	6.7	6.7	6.7	6.5	6.5	6.5	5.9	5.9	5.7	5.7	5.6	5.5	5.5	5.3	5.3	5.1	5.1	5.0	5.0	5.0	4.8	4.8	4.8	4.8	4.2	4.2	4.2	3.6	3.6	3.6	3.6	2.8	2.8	2.8	2.5	2.5	2.5	1.8	1.8	1.8	1.8																												
20km	2	6.9	6.9	6.9	6.7	6.7	6.7	6.5	6.5	6.5	5.9	5.9	5.7	5.7	5.6	5.5	5.5	5.3	5.3	5.1	5.1	5.0	5.0	5.0	4.8	4.8	4.8	4.8	4.2	4.2	4.2	3.6	3.6	3.6	3.6	2.8	2.8	2.8	2.5	2.5	2.5	1.8	1.8	1.8	1.8																												
	3	6.9	6.9	6.9	6.7	6.7	6.7	6.5	6.5	6.5	5.9	5.9	5.7	5.7	5.6	5.6	5.6	9.0	9.0	8.7	8.7	8.7	8.4	8.4	8.4	8.4	8.2	8.2	8.2	8.0	8.0	8.0	8.0	8.0	8.0	7.7	7.7	7.7	7.6	7.6	7.3	7.3	7.8	7.8	7.8	6.9	6.9	6.9	5.9	5.9	5.9	5.9	4.6	4.6	4.6	4.1	4.1	4.1	3.0	3.0	3.0	3.0											
10km	4	6.9	6.9	6.9	6.7	6.7	6.7	6.5	6.5	6.5	5.9	5.9	5.7	5.7	5.7	5.6	5.6	9.0	9.0	9.0	8.7	8.7	8.4	8.4	8.4	8.4	8.2	8.2	8.2	8.0	8.0	8.0	8.0	8.0	8.0	15.9	15.9	15.4	15.4	15.4	15.2	15.2	15.2	14.7	14.7	14.7	14.7	17.7	17.7	17.7	15.7	15.7	15.7	13.8	13.8	11.7	11.7	11.7	11.7	11.7	11.7	5.9	4.6	4.6	4.6	4.1	4.1	4.1	3.0	3.0	3.0	3.0	
	5	6.9	6.9	6.9	6.7	6.7	6.7	6.5	6.5	6.5	5.9	5.9	5.7	5.7	5.6	5.6	9.2	9.2	9.0	9.0	9.0	8.7	8.7	8.4	8.4	8.4	8.4	8.2	8.2	8.2	8.2	8.2	8.2	8.2	15.9	15.9	15.9	15.4	15.4	15.4	15.2	15.2	15.2	14.7	14.7	14.7	14.7	17.7	17.7	17.7	15.7	15.7	15.7	13.8	13.8	13.8	13.8	11.7	11.7	11.7	5.9	4.6	4.6	4.6	4.1	4.1	4.1	4.1	4.1	4.1	3.0	3.0	3.0
0km	6	6.9	6.9	6.9	6.7	6.7	6.7	6.5	6.5	6.5	5.9	5.9	5.7	5.7	5.7	5.7	9.2	9.2	9.0	9.0	9.0	8.7	8.7	8.4	8.4	8.4	8.4	8.2	8.2	8.2	8.2	8.2	8.2	24.6	24.6	24.6	23.9	23.9	23.1	23.1	23.1	22.8	22.8	22.8	22.0	22.0	22.0	26.5	26.5	26.5	26.5	23.5	23.5	23.5	23.5	20.7	20.7	20.7	6.9	5.9	5.9	4.6	4.6	4.1	4.1	4.1	4.1	4.1	3.0	3.0	3.0	3.0	
	7	6.9	6.9	6.9	6.7	6.7	6.7	6.5	6.5	6.5	5.9	5.9	5.7	5.7	5.7	5.7	9.4	9.4	9.2	9.2	9.0	9.0	8.7	8.7	8.7	8.4	8.4	8.4	8.4	8.4	8.2	8.2	8.2	32.8	32.8	31.8	31.8	31.8	30.8	30.8	30.8	30.4	30.4	29.3	29.3	29.3	35.3	35.3	35.3	35.3	31.3	31.3	31.3	31.3	27.6	6.9	5.9	4.6	4.6	4.1	4.1	4.1	3.0	3.0	3.0	3.0							
0km	8	6.9	6.9	6.9	6.7	6.7	6.7	6.5	6.5	6.5	5.9	5.9	5.7	5.7	5.7	9.4	9.4	9.2	9.2	9.0	9.0	8.7	8.7	8.7	8.4	8.4	8.4	8.4	8.4	8.2	8.2	8.2	32.8	32.8	31.8	31.8	31.8	30.8	30.8	30.8	30.4	30.4	29.3	29.3	29.3	35.3	35.3	35.3	35.3	31.3	31.3	31.3	31.3	27.6	6.9	5.9	4.6	4.6	4.1	4.1	4.1	3.0	3.0	3.0	3.0								

すべり分布の番号は上記波源モデル図の各小断層に対し西側から東側に順に1列から38列まで設定。各列はw,eに2列に分割。陸側から海溝軸側に1行から8行まで設定。
駿河湾内のトラフ軸付近の領域については、他の領域に比べ、プレート境界面の深さ10kmの位置がトラフ軸に近くなり、また、トラフ軸沿いの津波断層モデルの面積も狭くなることから、この領域は分岐断層的な運動をする領域とみなせる（内閣府2012）とされるが、敷地への影響の観点から大すべり域のすべり量ではなく超大すべり域のすべり量を設定。

1 その他の検討波源モデルの詳細

1-4 検討波源モデル③のパラメータスタディモデルの設定

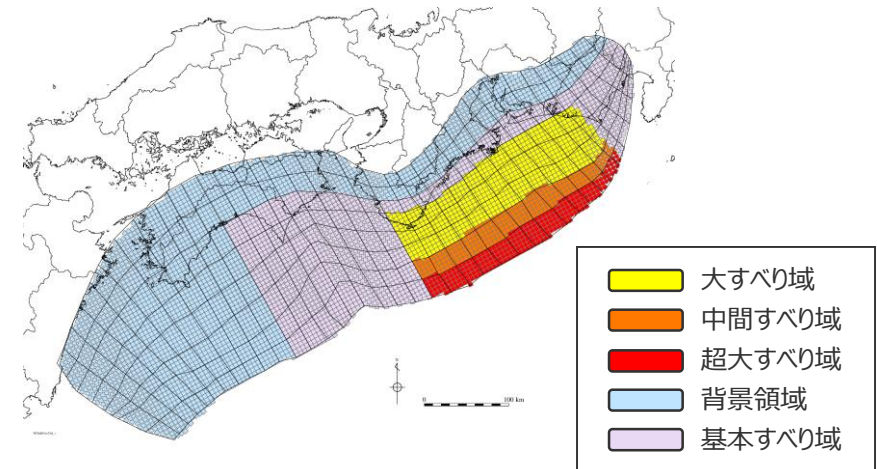
(大すべり域の位置を西へ50kmとしたケースの断層パラメータの設定)

検討波源モデル③

(日本海溝の宮城県の津波特性評価手法 2 によるモデル)
の大すべり域の位置を西へ50kmとしたケースの断層パラメータ

項目		設定値
全体	面積※ (km ²)	144,379
	地震モーメント (Nm)	6.8×10^{22}
	Mw	9.2
	平均応力降下量 (MPa)	3.0
	平均すべり量 (m)	9.4
	最大すべり量 (m)	35.3
	剛性率 (N/m ²)	5.0×10^{10}
	破壊伝播速度 (km/s)	2.0
	ライズタイム (s)	150
	主部断層	面積※ (km ²)
地震モーメント (Nm)		4.1×10^{22}
平均すべり量 (m)		7.5
最大すべり量 (m)		17.7
浅部断層	面積※ (km ²)	34,655
	地震モーメント (Nm)	2.6×10^{22}
	平均すべり量 (m)	15.2
	最大すべり量 (m)	35.3

※津波断層域のうちすべりが発生している波源域の面積



検討波源モデル③ (日本海溝の宮城県の津波特性評価手法 2 によるモデル)
の大すべり域の位置を西へ50kmとしたケース

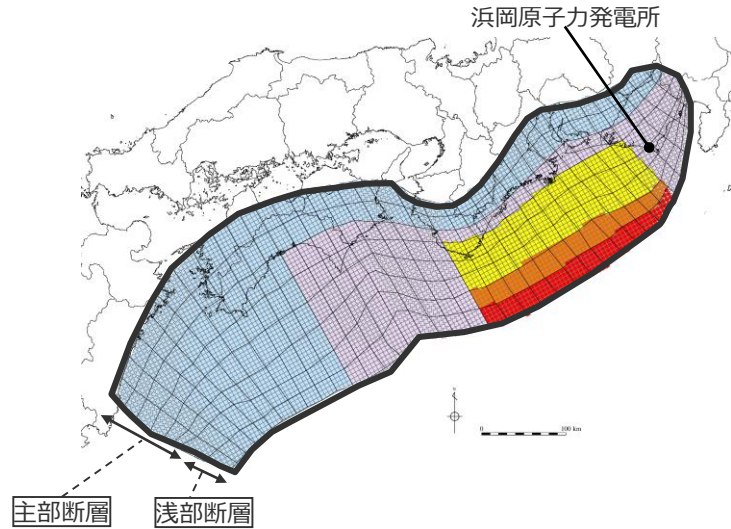
主部断層：深さ10km以深の断層
浅部断層：深さ10km以浅の断層

1 その他の検討波源モデルの詳細

1-4 検討波源モデル③のパラメータスタディモデルの設定

(大すべり域の位置を西へ60kmとしたケースのすべり量分布の設定)

■「検討波源モデル③（日本海溝の宮城県津波特性評価手法2によるモデル）」の大すべり域の位置を西へ60kmとしたケースの各小断層のすべり量分布は以下のとおり。



検討波源モデル③
(日本海溝の宮城県津波特性評価手法2によるモデル)
の大すべり域の位置を西へ60kmとしたケース

検討波源モデル③（日本海溝の宮城県津波特性評価手法2によるモデル）
の大すべり域の位置を西へ60kmとしたケースのすべり量

断層モデル		面積 (km ²)	M ₀ (Nm)	Mw	Δσ (MPa)	最大 すべり量(m)	平均 すべり量(m)
検討波源モデル③ (日本海溝の宮城県津波特性評価手法2によるモデル) 大すべり域の位置を西へ60kmとしたケース	全体	144,379	6.8×10 ²²	9.2	3.0	35.3	9.4
	主部断層	109,725	4.1×10 ²²	9.0	2.8	17.7	7.5
	浅部断層	34,655	2.6×10 ²²	-	-	35.3	15.1

波源域（津波断層域）	} 津波断層域の 全面積の約20%
大すべり域（平均すべり量の2×0.91倍=(1.82倍)）	
中間すべり域（平均すべり量の3×0.91倍=(2.73倍)）	
超大すべり域（平均すべり量の4×0.91倍=(3.64倍)）	
背景領域	
基本すべり域	

検討波源モデル③（日本海溝の宮城県津波特性評価手法2によるモデル）
の大すべり域の位置を西へ60kmとしたケースの小断層のすべり量分布（m）

		西 ←																⇒ 東																						
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	
陸側⇕	深度40km↓		7.1	7.1	6.8	6.8	6.6	6.6	6.0	5.8	5.7	5.6	5.6	5.4	5.2	5.2	5.1	5.1	5.1	4.9	4.9	4.9	4.8	4.8	4.7	4.7	4.5	4.9	4.3	4.3	3.6	3.6	2.9	2.9	2.9	2.9	2.6	2.6	1.9	1.9
	30km↓	1	7.1	7.1	6.8	6.8	6.6	6.6	6.0	5.8	5.8	5.7	5.6	5.6	5.4	5.2	5.1	5.1	5.1	4.9	4.9	4.9	4.8	4.8	4.7	4.7	4.5	4.9	4.3	4.3	3.6	3.6	2.9	2.9	2.9	2.9	2.6	2.6	1.9	1.9
海溝軸⇕	20km↓	2	7.1	7.1	6.8	6.8	6.6	6.6	6.0	6.0	5.8	5.7	5.7	9.0	8.7	8.7	8.4	8.4	8.2	8.2	8.0	8.0	8.0	7.7	7.7	7.6	7.3	7.3	7.8	7.8	6.9	6.9	5.9	5.9	5.9	4.6	4.6	4.1	4.1	3.0
	10km↓	3	7.1	7.1	6.8	6.8	6.6	6.6	6.0	6.0	5.8	5.7	5.7	9.0	8.7	8.7	8.4	8.4	8.2	8.2	8.0	8.0	15.9	15.4	15.4	15.2	15.2	14.7	17.7	15.7	15.7	13.8	11.7	11.7	11.7	5.9	4.6	4.6	4.1	3.0
⇓	0km↓	4	7.1	7.1	6.8	6.8	6.6	6.6	6.0	6.0	5.8	5.7	9.2	9.0	9.0	8.7	8.4	8.4	8.2	8.2	8.2	15.9	15.9	15.4	15.2	15.2	14.7	14.7	17.7	15.7	15.7	13.8	13.8	11.7	5.9	4.6	4.6	4.1	4.1	
	5	7.1	7.1	6.8	6.8	6.6	6.6	6.6	6.0	6.0	5.8	5.8	9.2	9.0	9.0	8.7	8.4	8.4	8.4	8.2	8.2	15.9	15.9	15.4	15.4	15.2	15.2	14.7	17.7	17.7	15.7	15.7	13.8	13.8	5.9	5.9	4.6	4.1	4.1	
	6	7.1	7.1	6.8	6.8	6.6	6.6	6.6	6.0	6.0	6.0	5.8	9.4	9.2	9.0	8.7	8.7	8.4	8.4	8.4	8.2	24.6	23.9	23.1	23.1	22.8	22.8	22.0	22.0	26.5	26.5	23.5	23.5	20.7	6.9	5.9	4.6	4.1	4.1	
	7	7.1	7.1	6.8	6.8	6.6	6.6	6.6	6.0	6.0	6.0	5.8	9.4	9.2	9.0	8.7	8.7	8.4	8.4	8.4	8.2	32.8	31.8	31.8	30.8	30.8	30.4	29.3	29.3	35.3	35.3	35.3	31.3	31.3	6.9	5.9	4.6	4.1	4.1	
	8	7.1	7.1	6.8	6.8	6.6	6.6	6.6	6.0	6.0	6.0	5.8	9.4	9.2	9.0	8.7	8.7	8.7	8.4	8.4	8.2	32.8	31.8	31.8	30.8	30.8	30.4	29.3	29.3	35.3	35.3	35.3	31.3	31.3	6.9	5.9	4.6	4.1	4.1	

- すべり量分布の番号は上記波源モデル図の各小断層に対し西側から東側に順に1列から38列まで設定。陸側から海溝軸側に1行から8行まで設定。
- 駿河湾内のトラフ軸付近の領域については、他の領域に比べ、プレート境界面の深さ10kmの位置がトラフ軸に近くなり、また、トラフ軸沿いの津波断層モデルの面積も狭くなることから、この領域は分岐断層的な運動をする領域とみなせる（内閣府2012）とされるが、敷地への影響の観点から大すべり域のすべり量ではなく超大すべり域のすべり量を設定。

1 その他の検討波源モデルの詳細

1-4 検討波源モデル③のパラメータスタディモデルの設定

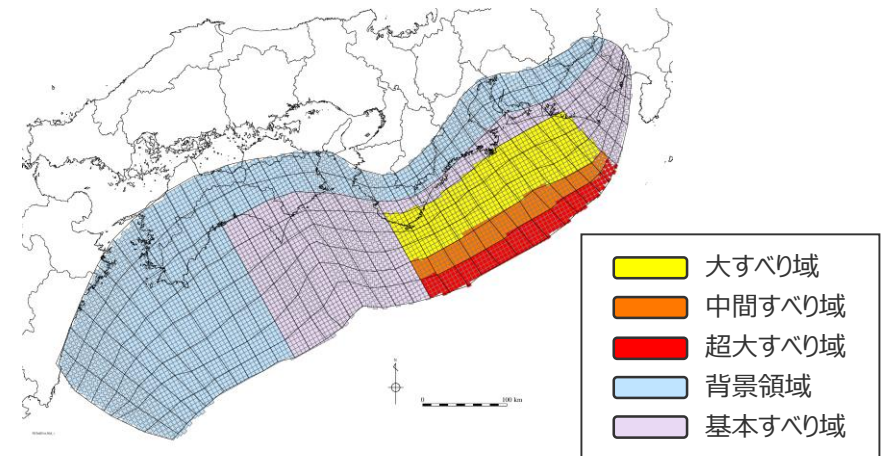
(大すべり域の位置を西へ60kmとしたケースの断層パラメータの設定)

検討波源モデル③

(日本海溝の宮城県の津波特性評価手法 2 によるモデル)
の大すべり域の位置を西へ60kmとしたケースの断層パラメータ

項目		設定値
全体	面積※ (km ²)	144,379
	地震モーメント (Nm)	6.8×10^{22}
	Mw	9.2
	平均応力降下量 (MPa)	3.0
	平均すべり量 (m)	9.4
	最大すべり量 (m)	35.3
	剛性率 (N/m ²)	5.0×10^{10}
	破壊伝播速度 (km/s)	2.0
	ライズタイム (s)	150
主部断層	面積※ (km ²)	109,725
	地震モーメント (Nm)	4.1×10^{22}
	平均すべり量 (m)	7.5
	最大すべり量 (m)	17.7
浅部断層	面積※ (km ²)	34,655
	地震モーメント (Nm)	2.6×10^{22}
	平均すべり量 (m)	15.1
	最大すべり量 (m)	35.3

※津波断層域のうちすべりが発生している波源域の面積



検討波源モデル③ (日本海溝の宮城県の津波特性評価手法 2 によるモデル)
の大すべり域の位置を西へ60kmとしたケース

主部断層：深さ10km以深の断層

浅部断層：深さ10km以浅の断層

1 その他の検討波源モデルの詳細

1-4 検討波源モデル③のパラメータスタディモデルの設定

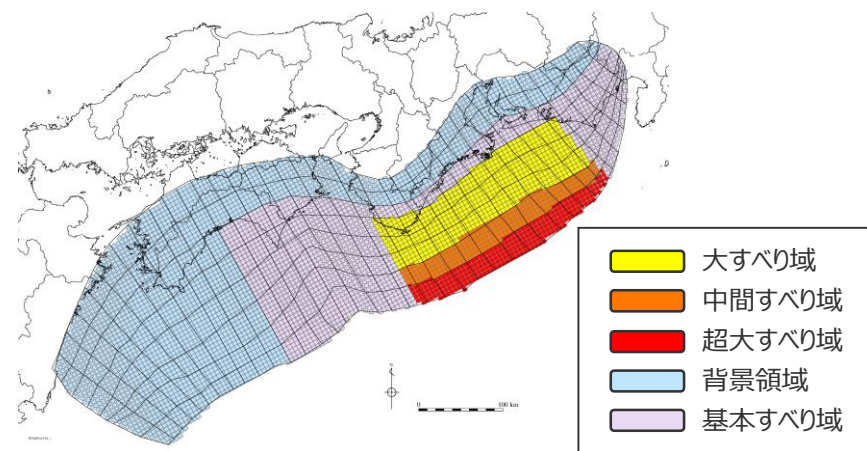
(大すべり域の位置を西へ70kmとしたケースの断層パラメータの設定)

検討波源モデル③

(日本海溝の宮城県津波特性評価手法2によるモデル)
の大すべり域の位置を西へ70kmとしたケースの断層パラメータ

項目		設定値
全体	面積※ (km ²)	144,379
	地震モーメント (Nm)	6.8×10^{22}
	Mw	9.2
	平均応力降下量 (MPa)	3.0
	平均すべり量 (m)	9.4
	最大すべり量 (m)	35.3
	剛性率 (N/m ²)	5.0×10^{10}
	破壊伝播速度 (km/s)	2.0
	ライズタイム (s)	150
主部断層	面積※ (km ²)	109,725
	地震モーメント (Nm)	4.1×10^{22}
	平均すべり量 (m)	7.5
	最大すべり量 (m)	17.7
浅部断層	面積※ (km ²)	34,655
	地震モーメント (Nm)	2.6×10^{22}
	平均すべり量 (m)	15.2
	最大すべり量 (m)	35.3

※津波断層域のうちすべりが発生している波源域の面積



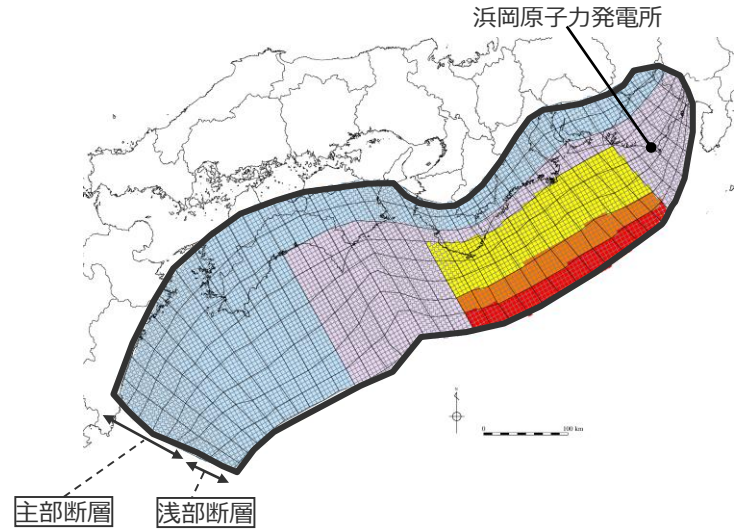
検討波源モデル③ (日本海溝の宮城県津波特性評価手法2によるモデル)
の大すべり域の位置を西へ70kmとしたケース

主部断層：深さ10km以深の断層
浅部断層：深さ10km以浅の断層

1 その他の検討波源モデルの詳細

1-4 検討波源モデル③のパラメータスタディモデルの設定 (大すべり域の位置を西へ80kmとしたケースのすべり量分布の設定)

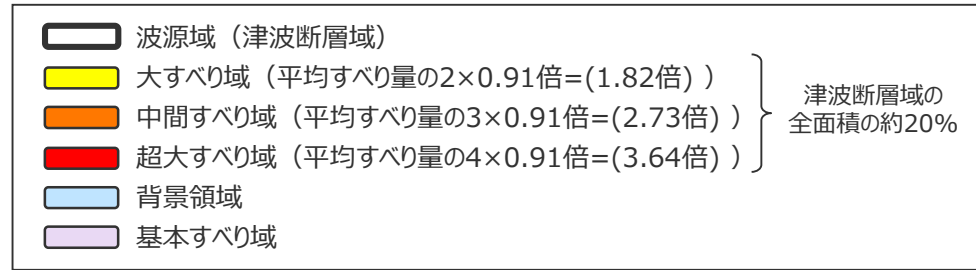
■「検討波源モデル③（日本海溝の宮城県津波特性評価手法2によるモデル）」の大すべり域の位置を西へ80kmとしたケースの各小断層のすべり量分布は以下のとおり。



検討波源モデル③
(日本海溝の宮城県津波特性評価手法2によるモデル)
の大すべり域の位置を西へ80kmとしたケース

検討波源モデル③（日本海溝の宮城県津波特性評価手法2によるモデル）
の大すべり域の位置を西へ80kmとしたケースのすべり量

断層モデル		面積 (km ²)	M ₀ (Nm)	Mw	Δσ (MPa)	最大すべり量(m)	平均すべり量(m)
検討波源モデル③ (日本海溝の宮城県津波特性評価手法2によるモデル) 大すべり域の位置を西へ80kmとしたケース	全体	144,379	6.8×10 ²²	9.2	3.0	35.3	9.4
	主部断層	109,725	4.1×10 ²²	9.0	2.7	17.7	7.5
	浅部断層	34,655	2.7×10 ²²	-	-	35.3	15.3



検討波源モデル③（日本海溝の宮城県津波特性評価手法2によるモデル）
の大すべり域の位置を西へ80kmとしたケースの小断層のすべり量分布 (m)

		西 ←																		⇒ 東																					
深度40km↓		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38		
陸側⇕	30km↓	1	6.8	6.8	6.6	6.6	6.4	6.4	5.8	5.7	5.5	5.4	5.4	5.2	5.1	4.9	4.9	4.9	4.8	4.8	4.8	4.6	4.6	4.6	4.6	4.4	4.7	4.1	4.1	3.5	3.5	2.8	2.8	2.8	2.8	2.5	2.5	1.8	1.8		
	20km↓	2	6.8	6.8	6.6	6.6	6.4	6.4	5.8	5.7	5.7	5.5	5.4	5.4	5.2	5.1	4.9	4.9	4.9	4.8	4.8	4.8	4.6	4.6	4.6	4.6	4.4	4.7	4.7	4.1	4.1	3.5	3.5	3.5	2.8	2.8	2.8	2.5	2.5	1.8	
3		6.8	6.8	6.6	6.6	6.4	6.4	5.8	5.8	5.7	5.5	5.5	9.0	8.7	8.7	8.4	8.4	8.2	8.2	8.0	8.0	8.0	7.7	7.7	7.6	7.3	7.3	7.8	7.8	6.9	6.9	5.9	5.9	5.9	4.6	4.6	4.1	4.1	3.0		
海溝軸⇕	10km↓	4	6.8	6.8	6.6	6.6	6.4	6.4	5.8	5.8	5.7	5.7	5.5	9.0	9.0	8.7	8.4	8.4	8.2	8.2	8.2	15.9	15.9	15.4	15.4	15.2	15.2	14.7	17.7	15.7	15.7	13.8	11.7	11.7	5.9	5.9	4.6	4.6	4.1	3.0	
		5	6.8	6.8	6.6	6.6	6.4	6.4	6.4	5.8	5.8	5.7	5.5	9.2	9.0	9.0	8.7	8.4	8.4	8.2	8.2	8.2	16.4	15.9	15.9	15.4	15.4	15.2	15.2	14.7	17.7	17.7	15.7	15.7	13.8	13.8	5.9	5.9	4.6	4.6	4.1
⇕	0km↓	6	6.8	6.8	6.6	6.6	6.4	6.4	6.4	5.8	5.8	5.7	9.2	9.0	9.0	8.7	8.4	8.4	8.4	8.4	8.4	8.4	24.6	24.6	23.9	23.1	23.1	22.8	22.8	22.0	22.0	26.5	26.5	23.5	23.5	6.9	6.9	5.9	4.6	4.1	4.1
		7	6.8	6.8	6.6	6.6	6.4	6.4	6.4	5.8	5.8	5.8	5.7	9.4	9.2	9.0	8.7	8.7	8.4	8.4	8.4	8.4	24.6	24.6	23.9	23.1	23.1	22.8	22.8	22.0	22.0	26.5	26.5	23.5	23.5	6.9	6.9	5.9	4.6	4.1	4.1
	8	6.8	6.8	6.6	6.6	6.6	6.4	6.4	6.4	5.8	5.8	5.7	9.4	9.2	9.0	8.7	8.7	8.7	8.4	8.4	8.4	32.8	32.8	31.8	31.8	30.8	30.8	30.4	29.3	29.3	35.3	35.3	35.3	31.3	7.8	6.9	5.9	4.6	4.1	4.1	

- すべり量分布の番号は上記波源モデル図の各小断層に対し西側から東側に順に1列から38列まで設定。陸側から海溝軸側に1行から8行まで設定。
- 駿河湾内のトラフ軸付近の領域については、他の領域に比べ、プレート境界面の深さ10kmの位置がトラフ軸に近くなり、また、トラフ軸沿いの津波断層モデルの面積も狭くなることから、この領域は分岐断層的な運動をする領域とみなせる（内閣府2012）とされるが、敷地への影響の観点から大すべり域のすべり量ではなく超大すべり域のすべり量を設定。

1 その他の検討波源モデルの詳細

1-4 検討波源モデル③のパラメータスタディモデルの設定

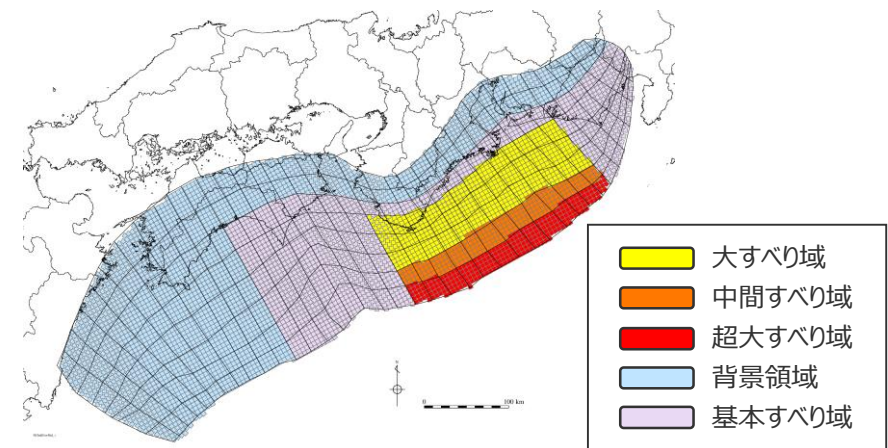
(大すべり域の位置を西へ80kmとしたケースの断層パラメータの設定)

検討波源モデル③

(日本海溝の宮城県津波特性評価手法2によるモデル)
の大すべり域の位置を西へ80kmとしたケースの断層パラメータ

項目		設定値
全体	面積※ (km ²)	144,379
	地震モーメント (Nm)	6.8×10^{22}
	Mw	9.2
	平均応力降下量 (MPa)	3.0
	平均すべり量 (m)	9.4
	最大すべり量 (m)	35.3
	剛性率 (N/m ²)	5.0×10^{22}
	破壊伝播速度 (km/s)	2.0
	ライズタイム (s)	150
主部断層	面積※ (km ²)	109,725
	地震モーメント (Nm)	4.1×10^{22}
	平均すべり量 (m)	7.5
	最大すべり量 (m)	17.7
浅部断層	面積※ (km ²)	34,655
	地震モーメント (Nm)	2.7×10^{22}
	平均すべり量 (m)	15.3
	最大すべり量 (m)	35.3

※津波断層域のうちすべりが発生している波源域の面積



検討波源モデル③ (日本海溝の宮城県津波特性評価手法2によるモデル)
の大すべり域の位置を西へ80kmとしたケース

主部断層：深さ10km以深の断層
浅部断層：深さ10km以浅の断層

余 白

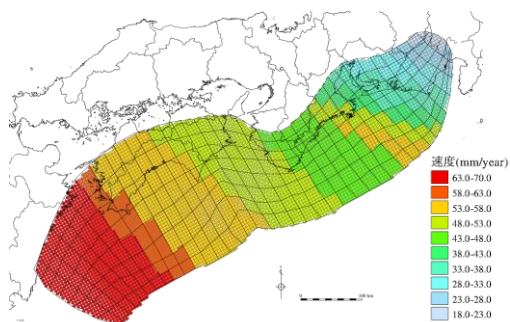
2 痕跡再現モデルの波源モデルの詳細

2-1 遠州灘沿岸域の痕跡再現モデル (プレートの沈み込み速度を考慮したモデル) の設定

2 痕跡再現モデルの波源モデルの詳細

2-1 遠州灘沿岸域の痕跡再現モデル（プレートの沈み込み速度を考慮したモデル）の設定 （すべり量分布の設定）

- プレートの沈み込み速度を考慮したモデルのすべり分布の設定については、各小断層のすべり量をフィリピン海プレートの沈み込み速度に比例するよう設定し、大すべり域には平均すべり量の2倍のすべり量を設定した。
- プレートの沈み込み速度を考慮したモデルのすべり分布の設定の詳細は以下のとおり。



（Loveless and Meade(2010)を基に作成）

各小断層の沈み込速度分布

【主部断層のすべり量の設定】

まず、各小断層の平均すべり量 D_i は、フィリピン海プレートの沈み込み速度に比例し、かつ各小断層の地震モーメント M_{0i} の総和が主部断層のスケーリング則から求められる地震モーメント M_0 になるように設定。

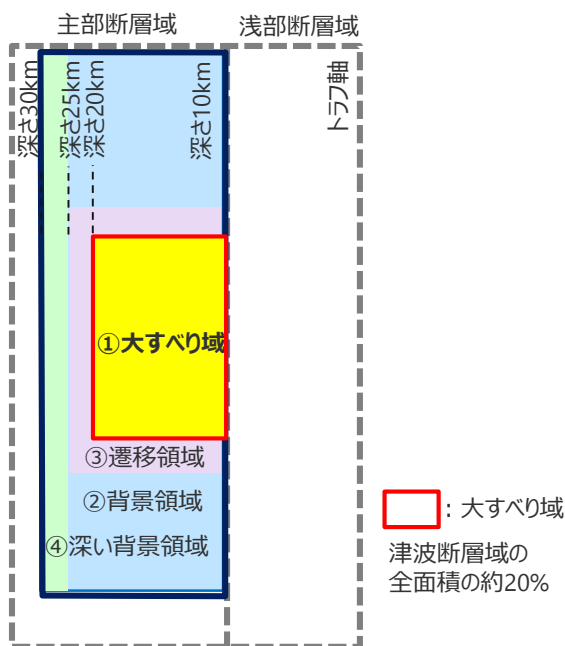
$$M_0 = \sum M_{0i} = \sum \mu D_i S_i \rightarrow \text{小断層毎のすべり量はプレートの沈み込み速度に比例するよう設定。}$$

次に、各小断層の平均すべり量 D_i に対して、以下の関係を与えて各小断層のすべり量を設定。

- ① 大すべり域 ■ : $2D_i$
- ② 背景領域 ■ : 主部断層（領域①～④）の小断層の地震モーメント M_{0i} の総和が、 M_0 となるすべり量 D_b を設定
- ③ ①と②④の遷移領域 ■ : ②側 $(2D_i + D_b) / 2$ 、④側 $(2D_i + 1/2 \times D_b) / 2$
- ④ 深い背景領域 ■ : $1/2 \times D_b$

D_i : 各小断層の平均すべり量 D_b : 各背景領域のすべり量(= aD_i , a は定数) S_i : 各小断層の面積
 M_0 : スケーリングから算定される主部断層の地震モーメント M_{0i} : 各小断層の地震モーメント

- ・今回実施した5ケース（応力降下量1.5MPa、1.6MPa、1.7MPa、1.8MPa、1.9MPa）とも、同様の考え方ですべり量設定を行っている。
- ・詳細な設定方法は、以降応力降下量1.5MPaのケースについて例示する。



プレートの沈み込み速度を考慮したモデルのすべり分布概念図

2 痕跡再現モデルの波源モデルの詳細

2-1 遠州灘沿岸域の痕跡再現モデル（プレートの沈み込み速度を考慮したモデル）の設定 （すべり量分布の設定）

【STEP2】各小断層の平均すべり量に基づき、主部断層に大すべり域等を設定し各小断層のすべり量を以下のとおり設定する。

- 津波断層域の全面積(82,604km²)の約20%となるよう大すべり域の範囲（深度20km以浅～海溝軸×幅（ここでは23～36列））を決定。
- 各小断層の平均すべり量 D_i に対し、以下の関係を与えて調整前の各小断層のすべり量を設定。
- 背景領域のすべり量 $D_b = a \cdot D_i$ を調整前として $a=1$ で設定。

各小断層の平均すべり量 D_i (m) …④

主部断層

深度		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38
40km	1																																						
30km	2				5.78	5.62	5.62	5.10	4.94	4.94	4.81	4.71	4.71	4.54	4.43	4.31	4.31	4.17	4.17	4.17	4.17	4.03	4.03	3.98	3.98	3.84	4.11	4.11	3.62	3.62	3.07	3.07	3.07	2.43	2.43	2.43	2.17	2.17	1.58
20km	3				5.78	5.62	5.62	5.10	5.10	4.94	4.81	4.71	4.71	4.54	4.54	4.43	4.43	4.31	4.31	4.17	4.17	4.17	4.03	4.03	3.98	3.98	3.84	4.11	4.11	3.62	3.62	3.07	3.07	3.07	2.43	2.43	2.17	2.17	1.58
10km	4				5.78	5.62	5.62	5.10	5.10	4.94	4.81	4.71	4.71	4.54	4.54	4.43	4.43	4.31	4.31	4.17	4.17	4.17	4.03	4.03	3.98	3.98	3.84	4.63	4.11	4.11	3.62	3.07	3.07	3.07	2.43	2.43	2.17	1.58	
0km	5				5.78	5.62	5.62	5.62	5.10	5.10	4.94	4.81	4.81	4.71	4.71	4.54	4.43	4.43	4.31	4.31	4.17	4.17	4.03	3.98	3.98	3.84	3.84	4.63	4.11	4.11	3.62	3.62	3.07	3.07	2.43	2.43	2.17	2.17	
	6				5.78	5.62	5.62	5.62	5.10	5.10	4.94	4.94	4.81	4.71	4.71	4.54	4.43	4.43	4.43	4.31	4.31	4.17	4.17	4.03	4.03	3.98	3.98	3.84	4.63	4.63	4.11	4.11	3.62	3.62	3.07	3.07	2.43	2.17	2.17
	7																																						
	8																																						

各小断層の調整前のすべり量 D_i (調整前) (m) …⑤

深度		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	
40km	1																																							
30km	2				2.89	2.81	2.81	2.55	2.47	2.47	2.41	2.35	2.35	2.27	2.21	2.15	2.15	2.15	2.08	2.08	2.02	2.02	1.99	1.99	1.92	2.05	2.05	1.81	1.81	1.54	1.54	1.54	1.22	1.22	1.22	1.09	1.09	0.79		
20km	3				5.78	5.62	5.62	5.10	5.10	4.94	4.81	4.71	4.71	4.54	4.54	4.43	4.43	4.31	4.31	4.17	4.17	4.17	5.04	4.98	4.98	4.80	5.14	5.14	4.53	4.53	3.84	3.84	3.84	3.04	3.04	2.97	2.97	1.58		
10km	4				5.78	5.62	5.62	5.10	5.10	4.94	4.94	4.81	4.71	4.71	4.54	4.43	4.43	4.31	4.31	4.17	4.17	4.17	6.12	8.06	7.96	7.96	7.69	9.26	8.22	8.22	7.24	6.15	6.15	6.15	4.86	4.86	3.22	1.58		
0km	5				5.78	5.62	5.62	5.62	5.10	5.10	4.94	4.81	4.81	4.71	4.71	4.54	4.43	4.43	4.31	4.31	4.17	4.17	6.12	8.06	7.96	7.96	7.69	9.26	8.22	8.22	7.24	7.24	6.15	6.15	4.86	4.86	3.52	2.17		
	6				5.78	5.62	5.62	5.62	5.10	5.10	4.94	4.94	4.81	4.71	4.71	4.54	4.43	4.43	4.43	4.31	4.31	4.17	6.12	8.06	8.06	7.96	7.96	7.69	9.26	9.26	8.22	8.22	7.24	7.24	6.15	6.15	4.86	3.52	2.17	
	7																																							
	8																																							

深い背景領域 : $1/2 \times D_b = 0.5a \cdot D_i$

背景領域 : $D_b = a \cdot D_i$

大すべり域 : $2D_i$

遷移領域のすべり量 D (m)の設定方法

遷移領域 : $(2D_i + D_b) / 2$,
 $(2D_i + 1/2 \times D_b) / 2$

遷移領域の小断層と隣り合う大すべり域の小断層と背景領域の小断層の平均とする。また、隣り合う小断層は可能な限り同じ沈み込み速度の小断層から選定する。

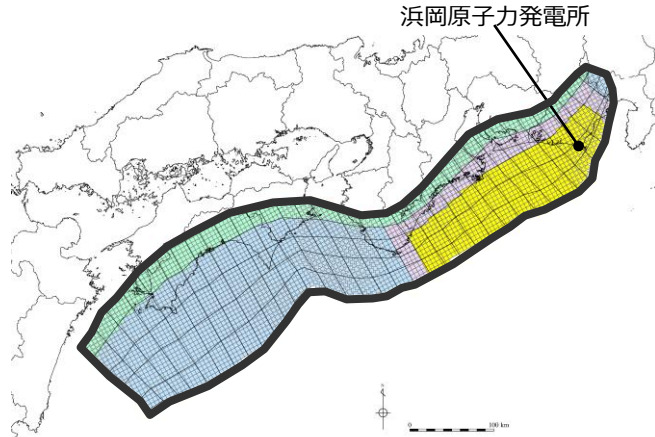
→ 遷移領域のすべり量設定において参照する小断層の位置関係を示す

深度		20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38																		
40km	1																																					
30km	2				2.08	2.02	2.02	1.99	1.99	1.92	2.05	2.05	1.81	1.81	1.54	1.54	1.54	1.22	1.22	1.22	1.22	1.09	1.09	0.79														
20km	3				4.17	4.17	5.04	4.98	4.98	4.80	4.80	5.14	5.14	4.53	4.53	3.84	3.84	3.84	3.04	3.04	2.97	2.97	1.58															
10km	4				4.17	4.17	6.12	8.06	7.96	7.96	7.69	9.26	8.22	8.22	7.24	6.15	6.15	6.15	6.15	4.86	4.86	3.22	1.58															
0km	5				4.31	4.17	6.12	8.06	7.96	7.96	7.69	7.69	9.26	8.22	8.22	7.24	7.24	6.15	6.15	4.86	4.86	3.52	2.17															
	6				4.31	4.17	6.12	8.06	8.06	7.96	7.96	7.69	9.26	9.26	8.22	8.22	7.24	7.24	6.15	6.15	4.86	3.52	2.17															
	7																																					
	8																																					

2 痕跡再現モデルの波源モデルの詳細

2-1 遠州灘沿岸域の痕跡再現モデル（プレートの沈み込み速度を考慮したモデル）の設定 （応力降下量：1.5MPa）

■「プレートの沈み込み速度を考慮したモデル」の各小断層のすべり分布は以下のとおり。



プレートの沈み込み速度を考慮したモデル
（応力降下量：1.5MPa）

プレートの沈み込み速度を考慮したモデル（応力降下量：1.5MPa）のすべり量

断層モデル	面積 (km ²)	M ₀ (Nm)	M _w	Δσ (MPa)	最大 すべり量(m)	平均 すべり量(m)
プレートの沈み込み速度を考慮したモデル （応力降下量：1.5MPa）	82,604	1.5×10 ²²	8.7	1.5	9.3	4.4

- 波源域（津波断層域）
- 大すべり域（平均すべり量の2倍）：津波断層域の全面積の約20%
- 大すべり域と背景領域の遷移領域：両者の中間のすべり量
- 背景領域
- 深い背景領域：背景領域の1/2のすべり量

プレートの沈み込み速度を考慮したモデル（応力降下量：1.5MPa）の小断層のすべり分布（m）

深度	断層番号	すべり分布 (m)																																									
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38				
30km	1																																										
	2				2.6	2.5	2.5	2.3	2.2	2.2	2.1	2.1	2.1	2.0	2.0	1.9	1.9	1.9	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.7	1.8	1.8	1.6	1.6	1.4	1.4	1.4	1.1	1.1	1.1	1.0	1.0	0.7			
20km	3				5.1	5.0	5.0	4.5	4.5	4.4	4.3	4.3	4.2	4.0	4.0	3.9	3.9	3.8	3.8	3.7	3.7	3.7	4.9	4.9	4.9	4.7	4.7	5.0	4.4	4.4	3.8	3.8	3.8	3.0	3.0	2.9	2.9	1.4					
	4				5.1	5.0	5.0	4.5	4.5	4.4	4.4	4.3	4.2	4.2	4.0	3.9	3.9	3.8	3.8	3.8	3.7	3.7	5.9	8.1	8.0	8.0	7.7	9.3	8.2	8.2	7.2	6.1	6.1	6.1	6.1	4.9	4.9	3.1	1.4				
10km	5				5.1	5.0	5.0	5.0	4.5	4.5	4.4	4.3	4.3	4.2	4.2	4.0	3.9	3.9	3.8	3.8	3.8	3.7	5.9	8.1	8.0	8.0	7.7	7.7	9.3	8.2	8.2	7.2	7.2	6.1	6.1	4.9	4.9	3.4	1.9				
	6				5.1	5.0	5.0	5.0	4.5	4.5	4.4	4.4	4.3	4.2	4.2	4.0	3.9	3.9	3.9	3.8	3.8	3.7	5.9	8.1	8.1	8.0	8.0	7.7	9.3	9.3	8.2	8.2	7.2	7.2	6.1	6.1	4.9	3.4	1.9				
0km	7																																										
	8																																										

すべり分布の番号は上記波源モデル図の各小断層に対し西側から東側に順に1列から38列まで設定。陸側から海溝軸側に1行から8行まで設定。

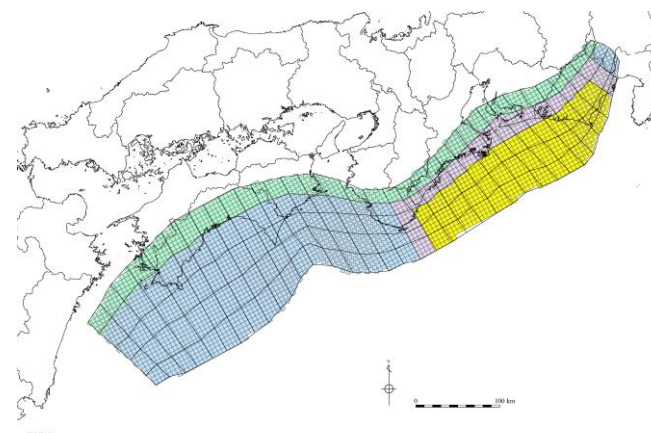
2 痕跡再現モデルの波源モデルの詳細

2-1 遠州灘沿岸域の痕跡再現モデル（プレートの沈み込み速度を考慮したモデル）の設定

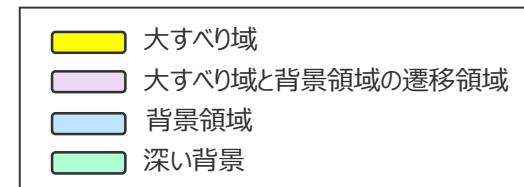
（応力降下量：1.5MPa）

断層パラメータ

項目		設定値
全体	面積 (km ²)	82,604
	地震モーメント (Nm)	1.5×10^{22}
	Mw	8.7
	平均応力降下量 (MPa)	1.5
	平均すべり量 (m)	4.4
	最大すべり量 (m)	9.3
	剛性率 (N/m ²)	4.1×10^{10}
	破壊伝播速度 (km/s)	2.0
	ライズタイム (s)	60



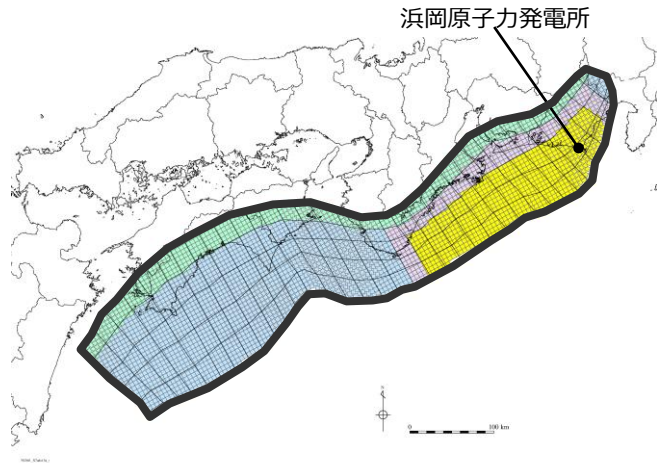
プレートの沈み込み速度を考慮したモデル
（応力降下量：1.5MPa）



2 痕跡再現モデルの波源モデルの詳細

2-1 遠州灘沿岸域の痕跡再現モデル（プレートの沈み込み速度を考慮したモデル）の設定 （応力降下量：1.6MPa）

■「プレートの沈み込み速度を考慮したモデル」の各小断層のすべり分布は以下のとおり。



プレートの沈み込み速度を考慮したモデル
（応力降下量：1.6MPa）

プレートの沈み込み速度を考慮したモデル（応力降下量：1.6MPa）のすべり量

断層モデル	面積 (km ²)	M ₀ (Nm)	M _w	Δσ (MPa)	最大すべり量(m)	平均すべり量(m)
プレートの沈み込み速度を考慮したモデル （応力降下量：1.6MPa）	82,604	1.6×10 ²²	8.7	1.6	9.9	4.7

波源域（津波断層域）	
大すべり域（平均すべり量の2倍）	：津波断層域の全面積の約20%
大すべり域と背景領域の遷移領域	：両者の中間のすべり量
背景領域	
深い背景領域	：背景領域の1/2のすべり量

プレートの沈み込み速度を考慮したモデル（応力降下量：1.6MPa）の小断層のすべり分布（m）

		西 ← → 東																																									
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38				
陸側⇕ 海溝軸⇕ ⇓	深度40km↓																																										
	30km↓	1																																									
	20km↓	2				2.7	2.7	2.7	2.4	2.3	2.3	2.3	2.2	2.2	2.1	2.1	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.9	1.9	1.9	1.9	1.8	1.9	1.9	1.7	1.7	1.5	1.5	1.5	1.1	1.1	1.1	1.0	1.0	1.0	0.7			
		3				5.5	5.3	5.3	4.8	4.8	4.7	4.5	4.5	4.4	4.3	4.3	4.2	4.2	4.1	4.1	3.9	3.9	3.9	5.3	5.2	5.2	5.0	5.0	5.4	5.4	4.7	4.7	4.0	4.0	4.0	3.2	3.2	3.1	3.1	1.5			
	10km↓	4				5.5	5.3	5.3	4.8	4.8	4.7	4.7	4.5	4.4	4.4	4.3	4.2	4.2	4.1	4.1	4.1	3.9	3.9	6.3	8.6	8.5	8.5	8.2	9.9	8.8	8.8	7.7	6.6	6.6	6.6	6.6	5.2	5.2	3.3	1.5			
		5				5.5	5.3	5.3	5.3	4.8	4.8	4.7	4.5	4.5	4.4	4.4	4.3	4.2	4.2	4.1	4.1	4.1	3.9	6.3	8.6	8.5	8.5	8.2	8.2	9.9	8.8	8.8	7.7	7.7	6.6	6.6	5.2	5.2	3.6	2.1			
	0km↓	6				5.5	5.3	5.3	5.3	4.8	4.8	4.7	4.7	4.5	4.4	4.4	4.3	4.2	4.2	4.1	4.1	4.1	3.9	6.3	8.6	8.6	8.5	8.5	8.2	9.9	9.9	8.8	8.8	7.7	7.7	6.6	6.6	5.2	3.6	2.1			
	7																																										
8																																											

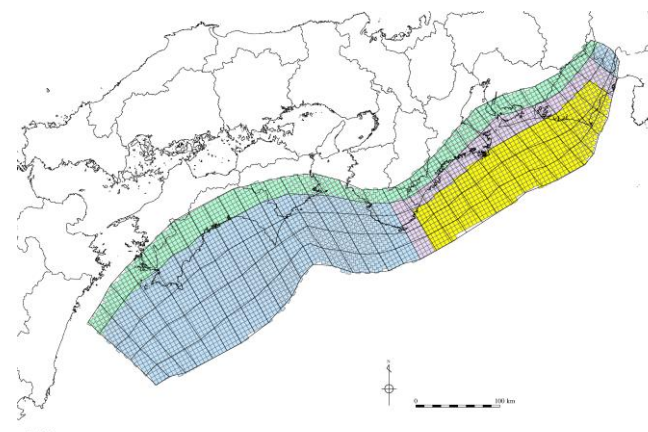
・すべり分布の番号は上記波源モデル図の各小断層に対し西側から東側に順に1列から38列まで設定。陸側から海溝軸側に1行から8行まで設定。

2 痕跡再現モデルの波源モデルの詳細

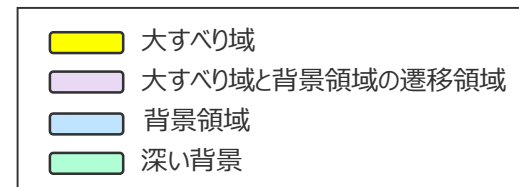
2-1 遠州灘沿岸域の痕跡再現モデル（プレートの沈み込み速度を考慮したモデル）の設定 （応力降下量：1.6MPa）

断層パラメータ

項目		設定値
全体	面積 (km ²)	82,604
	地震モーメント (Nm)	1.6×10^{22}
	Mw	8.7
	平均応力降下量 (MPa)	1.6
	平均すべり量 (m)	4.7
	最大すべり量 (m)	9.9
	剛性率 (N/m ²)	4.1×10^{10}
	破壊伝播速度 (km/s)	2.0
	ライズタイム (s)	60



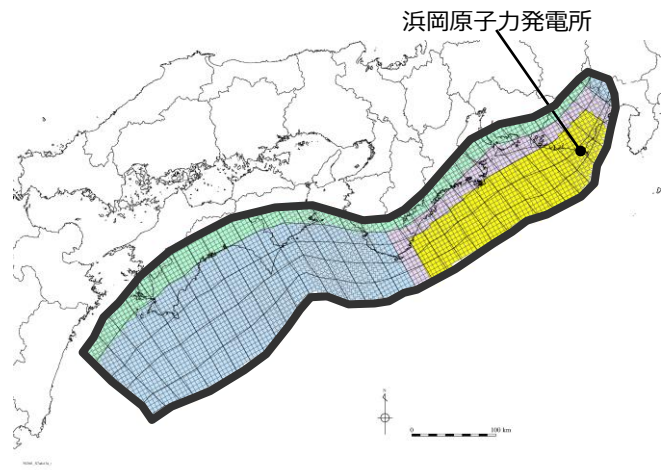
プレートの沈み込み速度を考慮したモデル
（応力降下量：1.6MPa）



2 痕跡再現モデルの波源モデルの詳細

2-1 遠州灘沿岸域の痕跡再現モデル（プレートの沈み込み速度を考慮したモデル）の設定 （応力降下量：1.7MPa）

■「プレートの沈み込み速度を考慮したモデル」の各小断層のすべり分布は以下のとおり。



プレートの沈み込み速度を考慮したモデル
（応力降下量：1.7MPa）

プレートの沈み込み速度を考慮したモデル（応力降下量：1.7MPa）のすべり量

断層モデル	面積 (km ²)	M ₀ (Nm)	M _w	Δσ (MPa)	最大すべり量(m)	平均すべり量(m)
プレートの沈み込み速度を考慮したモデル （応力降下量：1.7MPa）	82,604	1.7×10 ²²	8.8	1.7	10.4	5.0

- 波源域（津波断層域）
- 大すべり域（平均すべり量の2倍）：津波断層域の全面積の約20%
- 大すべり域と背景領域の遷移領域：両者の中間のすべり量
- 背景領域
- 深い背景領域：背景領域の1/2のすべり量

プレートの沈み込み速度を考慮したモデル（応力降下量：1.7MPa）の小断層のすべり分布（m）

		西 ←																																					→ 東			
深度		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38			
陸側⇕ 海溝軸⇓ ⇓	40km																																									
	30km	1																																								
	20km	2				2.9	2.8	2.8	2.5	2.5	2.5	2.4	2.3	2.3	2.3	2.2	2.1	2.1	2.1	2.1	2.1	2.1	2.0	2.0	2.0	2.0	1.9	2.0	2.0	1.8	1.8	1.5	1.5	1.5	1.2	1.2	1.2	1.1	1.1	0.8		
		3				5.8	5.6	5.6	5.1	5.1	4.9	4.8	4.8	4.7	4.5	4.5	4.4	4.4	4.3	4.3	4.2	4.2	4.2	5.5	5.5	5.5	5.3	5.3	5.6	5.6	5.0	5.0	4.2	4.2	4.2	3.3	3.3	3.3	3.3	1.6		
	10km	4				5.8	5.6	5.6	5.1	5.1	4.9	4.9	4.8	4.7	4.7	4.5	4.4	4.4	4.3	4.3	4.3	4.2	4.2	6.6	9.1	9.0	9.0	8.6	10.4	9.2	9.2	8.1	6.9	6.9	6.9	6.9	5.5	5.5	3.5	1.6		
		5				5.8	5.6	5.6	5.6	5.1	5.1	4.9	4.8	4.8	4.7	4.7	4.5	4.4	4.4	4.3	4.3	4.3	4.2	6.6	9.1	9.0	9.0	8.6	8.6	10.4	9.2	9.2	8.1	8.1	6.9	6.9	5.5	5.5	3.8	2.2		
	0km	6				5.8	5.6	5.6	5.6	5.1	5.1	4.9	4.9	4.8	4.7	4.7	4.5	4.4	4.4	4.4	4.3	4.3	4.2	6.6	9.1	9.1	9.0	9.0	8.6	10.4	10.4	9.2	9.2	8.1	8.1	6.9	6.9	5.5	3.8	2.2		
		7																																								
	8																																									

・すべり分布の番号は上記波源モデル図の各小断層に対し西側から東側に順に1列から38列まで設定。陸側から海溝軸側に1行から8行まで設定。

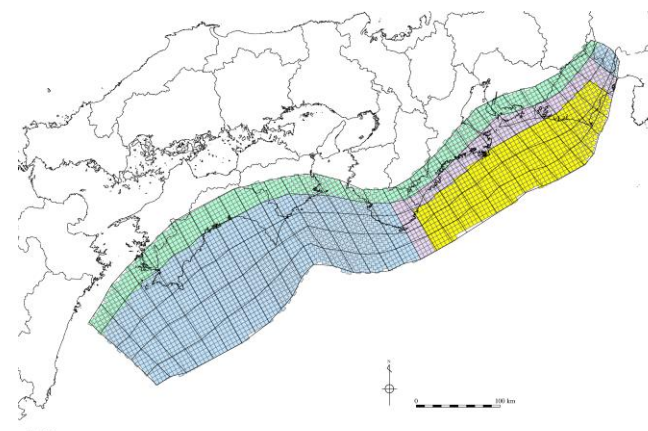
2 痕跡再現モデルの波源モデルの詳細

2-1 遠州灘沿岸域の痕跡再現モデル（プレートの沈み込み速度を考慮したモデル）の設定

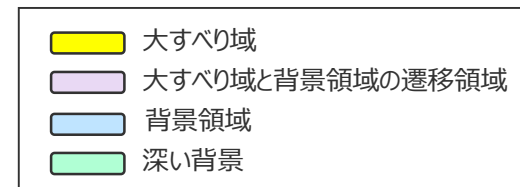
（応力降下量：1.7MPa）

断層パラメータ

項目		設定値
全体	面積 (km ²)	82,604
	地震モーメント (Nm)	1.7×10^{22}
	Mw	8.8
	平均応力降下量 (MPa)	1.7
	平均すべり量 (m)	5.0
	最大すべり量 (m)	10.4
	剛性率 (N/m ²)	4.1×10^{10}
	破壊伝播速度 (km/s)	2.0
	ライズタイム (s)	60



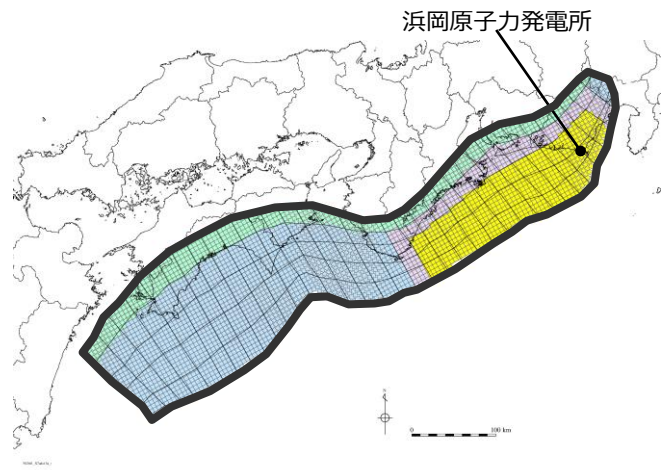
プレートの沈み込み速度を考慮したモデル
（応力降下量：1.7MPa）



2 痕跡再現モデルの波源モデルの詳細

2-1 遠州灘沿岸域の痕跡再現モデル（プレートの沈み込み速度を考慮したモデル）の設定 （応力降下量：1.8MPa）

■「プレートの沈み込み速度を考慮したモデル」の各小断層のすべり分布は以下のとおり。



プレートの沈み込み速度を考慮したモデル
（応力降下量：1.8MPa）

プレートの沈み込み速度を考慮したモデル（応力降下量：1.8MPa）のすべり量

断層モデル	面積 (km ²)	M ₀ (Nm)	M _w	Δσ (MPa)	最大すべり量(m)	平均すべり量(m)
プレートの沈み込み速度を考慮したモデル （応力降下量：1.8MPa）	82,604	1.8×10 ²²	8.8	1.8	11.1	5.3

- 波源域（津波断層域）
- 大すべり域（平均すべり量の2倍）：津波断層域の全面積の約20%
- 大すべり域と背景領域の遷移領域：両者の中間のすべり量
- 背景領域
- 深い背景領域：背景領域の1/2のすべり量

プレートの沈み込み速度を考慮したモデル（応力降下量：1.8MPa）の小断層のすべり分布（m）

		西 ←																																				→ 東					
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38				
陸側⇄ 海溝軸	深度40km↓																																										
	30km↓	1																																									
	20km↓	2				3.1	3.0	3.0	2.7	2.6	2.6	2.6	2.5	2.5	2.4	2.4	2.3	2.3	2.3	2.2	2.2	2.2	2.1	2.1	2.1	2.1	2.0	2.2	2.2	1.9	1.9	1.6	1.6	1.6	1.3	1.3	1.3	1.2	1.2	0.8			
		3				6.1	6.0	6.0	5.4	5.4	5.2	5.1	5.1	5.0	4.8	4.8	4.7	4.7	4.6	4.6	4.4	4.4	4.4	5.9	5.8	5.8	5.6	5.6	6.0	6.0	5.3	5.3	4.5	4.5	4.5	3.6	3.6	3.5	3.5	1.7			
	10km↓	4				6.1	6.0	6.0	5.4	5.4	5.2	5.2	5.1	5.0	5.0	4.8	4.7	4.7	4.6	4.6	4.6	4.4	4.4	7.1	9.7	9.6	9.6	9.2	11.1	9.9	9.9	8.7	7.4	7.4	7.4	7.4	5.8	5.8	3.8	1.7			
		5				6.1	6.0	6.0	6.0	5.4	5.4	5.2	5.1	5.1	5.0	4.8	4.7	4.7	4.6	4.6	4.6	4.4	4.4	7.1	9.7	9.6	9.6	9.2	9.2	11.1	9.9	9.9	8.7	8.7	7.4	7.4	5.8	5.8	4.1	2.3			
	0km↓	6				6.1	6.0	6.0	6.0	5.4	5.4	5.2	5.2	5.1	5.0	4.8	4.7	4.7	4.7	4.6	4.6	4.4	4.4	7.1	9.7	9.7	9.6	9.6	9.2	11.1	11.1	9.9	9.9	8.7	8.7	7.4	7.4	5.8	4.1	2.3			
	7																																										
8																																											

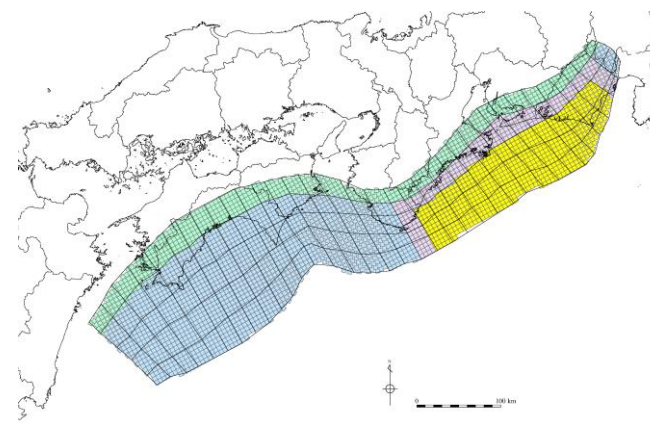
・すべり分布の番号は上記波源モデル図の各小断層に対し西側から東側に順に1列から38列まで設定。陸側から海溝軸側に1行から8行まで設定。

2 痕跡再現モデルの波源モデルの詳細

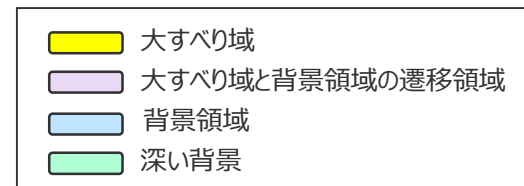
2-1 遠州灘沿岸域の痕跡再現モデル（プレートの沈み込み速度を考慮したモデル）の設定 （応力降下量：1.8MPa）

断層パラメータ

項目		設定値
全体	面積 (km ²)	82,604
	地震モーメント (Nm)	1.8×10^{22}
	Mw	8.8
	平均応力降下量 (MPa)	1.8
	平均すべり量 (m)	5.3
	最大すべり量 (m)	11.1
	剛性率 (N/m ²)	4.1×10^{10}
	破壊伝播速度 (km/s)	2.0
	ライズタイム (s)	60



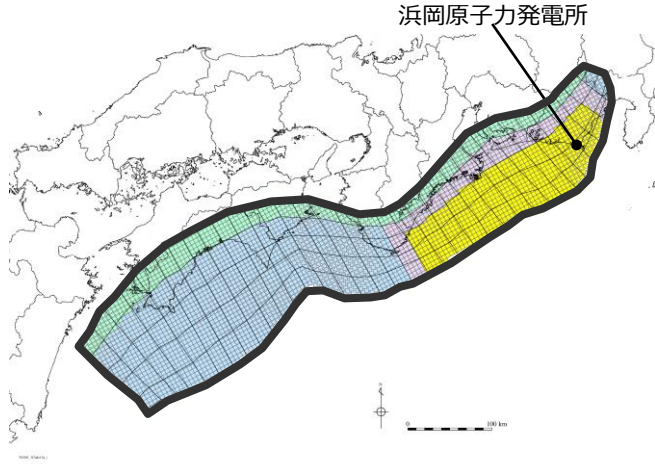
プレートの沈み込み速度を考慮したモデル
（応力降下量：1.8MPa）



2 痕跡再現モデルの波源モデルの詳細

2-1 遠州灘沿岸域の痕跡再現モデル（プレートの沈み込み速度を考慮したモデル）の設定 （応力降下量：1.9MPa）

■「プレートの沈み込み速度を考慮したモデル」の各小断層のすべり分布は以下のとおり。



プレートの沈み込み速度を考慮したモデル
（応力降下量：1.9MPa）

プレートの沈み込み速度を考慮したモデル（応力降下量：1.9MPa）のすべり量

断層モデル	面積 (km ²)	M ₀ (Nm)	M _w	Δσ (MPa)	最大すべり量(m)	平均すべり量(m)
プレートの沈み込み速度を考慮したモデル （応力降下量：1.9MPa）	82,604	1.9×10 ²²	8.8	1.9	11.7	5.6

- 波源域（津波断層域）
- 大すべり域（平均すべり量の2倍）：津波断層域の全面積の約20%
- 大すべり域と背景領域の遷移領域：両者の中間のすべり量
- 背景領域
- 深い背景領域：背景領域の1/2のすべり量

プレートの沈み込み速度を考慮したモデル（応力降下量：1.9MPa）の小断層のすべり分布（m）

		西 ←																																				→ 東		
深度		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	
陸側⇕ 海溝軸	40km																																							
	30km	1																																						
	20km	2				3.2	3.2	3.2	2.9	2.8	2.8	2.7	2.6	2.6	2.5	2.5	2.4	2.4	2.4	2.3	2.3	2.3	2.3	2.2	2.2	2.2	2.3	2.3	2.0	2.0	1.7	1.7	1.7	1.4	1.4	1.4	1.2	1.2	0.9	
		3				6.5	6.3	6.3	5.7	5.7	5.5	5.4	5.4	5.3	5.1	5.1	5.0	5.0	4.8	4.8	4.7	4.7	4.7	6.2	6.2	6.2	5.9	5.9	6.4	6.4	5.6	5.6	4.8	4.8	4.8	3.8	3.8	3.7	3.7	1.8
	10km	4				6.5	6.3	6.3	5.7	5.7	5.5	5.5	5.4	5.3	5.3	5.1	5.0	5.0	4.8	4.8	4.8	4.7	4.7	7.4	10.2	10.1	10.1	9.7	11.7	10.4	10.4	9.2	7.8	7.8	7.8	7.8	6.2	6.2	4.0	1.8
		5				6.5	6.3	6.3	6.3	5.7	5.7	5.5	5.4	5.4	5.3	5.3	5.1	5.0	5.0	4.8	4.8	4.8	4.7	7.4	10.2	10.1	10.1	9.7	9.7	11.7	10.4	10.4	9.2	9.2	7.8	7.8	6.2	6.2	4.3	2.4
	0km	6				6.5	6.3	6.3	6.3	5.7	5.7	5.5	5.5	5.4	5.3	5.3	5.1	5.0	5.0	4.8	4.8	4.7	7.4	10.2	10.2	10.1	10.1	9.7	11.7	11.7	10.4	10.4	9.2	9.2	7.8	7.8	6.2	4.3	2.4	
		7																																						
	8																																							

・すべり分布の番号は上記波源モデル図の各小断層に対し西側から東側に順に1列から38列まで設定。陸側から海溝軸側に1行から8行まで設定。

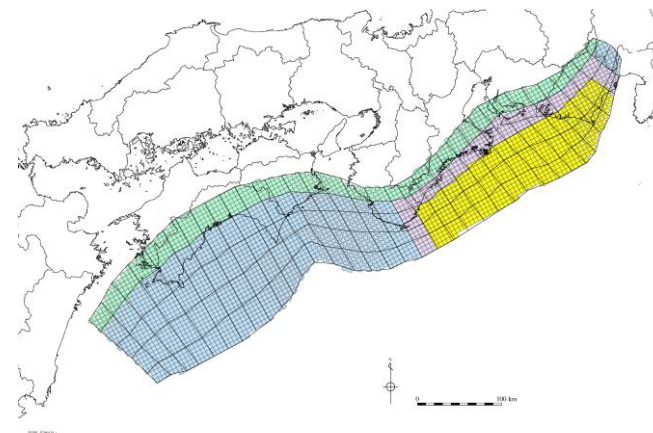
2 痕跡再現モデルの波源モデルの詳細

2-1 遠州灘沿岸域の痕跡再現モデル（プレートの沈み込み速度を考慮したモデル）の設定

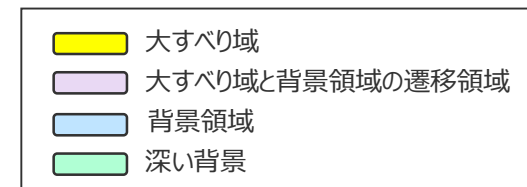
（応力降下量：1.9MPa）

断層パラメータ

項目		設定値
全体	面積 (km ²)	82,604
	地震モーメント (Nm)	1.9×10^{22}
	Mw	8.8
	平均応力降下量 (MPa)	1.9
	平均すべり量 (m)	5.6
	最大すべり量 (m)	11.7
	剛性率 (N/m ²)	4.1×10^{10}
	破壊伝播速度 (km/s)	2.0
	ライズタイム (s)	60



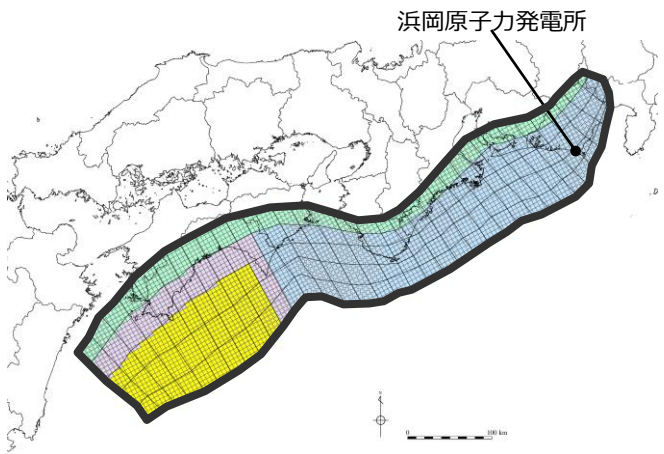
プレートの沈み込み速度を考慮したモデル
（応力降下量：1.9MPa）



2 痕跡再現モデルの波源モデルの詳細

2-1 遠州灘沿岸域の痕跡再現モデル（プレートの沈み込み速度を考慮したモデル）の設定 （大すべり域の位置を南海地域としたモデルのすべり量分布の設定）

■「プレートの沈み込み速度を考慮したモデル」の各小断層のすべり分布は以下のとおり。



プレートの沈み込み速度を考慮したモデル
（大すべり域の位置を南海地域としたモデル）

プレートの沈み込み速度を考慮したモデル（大すべり域の位置を南海地域としたモデル）のすべり量

断層モデル	面積 (km ²)	M ₀ (Nm)	M _w	Δσ (MPa)	最大すべり量(m)	平均すべり量(m)
プレートの沈み込み速度を考慮したモデル （大すべり域の位置を南海地域としたモデル）	82,604	1.7×10 ²²	8.8	1.7	13.0	5.0

- 波源域（津波断層域）
- 大すべり域（平均すべり量の2倍）：津波断層域の全面積の約20%
- 大すべり域と背景領域の遷移領域：両者の中間のすべり量
- 背景領域
- 深い背景領域：背景領域の1/2のすべり量

西 ← プレートの沈み込み速度を考慮したモデル（大すべり域の位置を南海地域としたモデル）の小断層のすべり分布（m） → 東

陸側 ⇄ 海溝軸 ⇄	深度40km↓	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	
	30km↓	1																																						
20km↓	2				2.2	2.1	2.1	1.9	1.9	1.9	1.8	1.8	1.8	1.7	1.7	1.6	1.6	1.6	1.6	1.6	1.6	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.6	1.6	1.4	1.4	1.2	1.2	1.2	0.9	0.9	0.9	0.8	0.8	0.6	
	3				7.6	7.4	7.4	6.7	6.7	6.5	6.3	6.3	6.2	6.2	6.1	3.3	3.3	3.3	3.3	3.2	3.2	3.2	3.0	3.0	3.0	2.9	2.9	3.1	3.1	2.7	2.7	2.3	2.3	2.3	1.8	1.8	1.6	1.6	1.2	
10km↓	4				13.0	12.7	12.7	11.5	11.5	11.1	11.1	10.8	10.6	10.6	7.0	3.3	3.3	3.3	3.3	3.3	3.2	3.2	3.0	3.0	3.0	3.0	2.9	3.5	3.1	3.1	2.7	2.3	2.3	2.3	2.3	1.8	1.8	1.6	1.6	1.2
	5				13.0	12.7	12.7	12.7	11.5	11.5	11.1	10.8	10.6	10.6	7.0	3.4	3.3	3.3	3.3	3.3	3.3	3.2	3.2	3.0	3.0	3.0	2.9	2.9	3.5	3.1	3.1	2.7	2.7	2.3	2.3	1.8	1.8	1.6	1.6	1.2
0km↓	6				13.0	12.7	12.7	12.7	11.5	11.5	11.1	11.1	10.8	10.6	7.0	3.4	3.3	3.3	3.3	3.3	3.3	3.2	3.2	3.0	3.0	3.0	2.9	3.5	3.5	3.1	3.1	2.7	2.7	2.3	2.3	1.8	1.6	1.6	1.2	
	7																																							
	8																																							

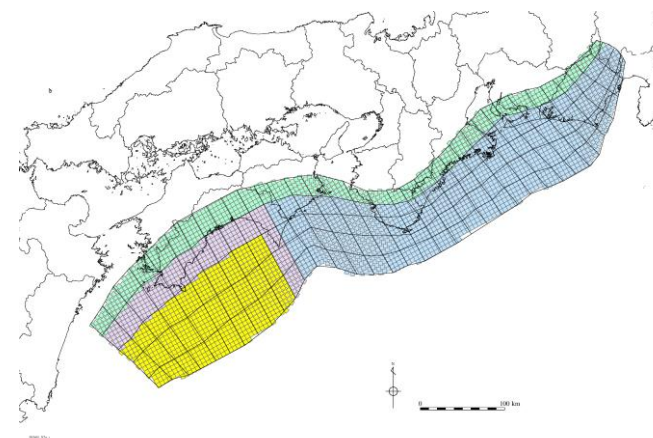
・すべり分布の番号は上記波源モデル図の各小断層に対し西側から東側に順に1列から38列まで設定。陸側から海溝軸側に1行から8行まで設定。

2 痕跡再現モデルの波源モデルの詳細

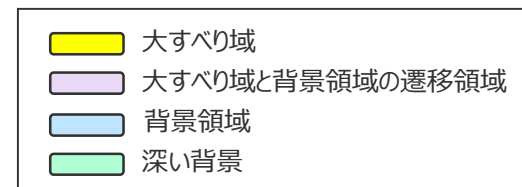
2-1 遠州灘沿岸域の痕跡再現モデル（プレートの沈み込み速度を考慮したモデル）の設定 （大すべり域の位置を南海地域としたモデルの設定）

断層パラメータ

項目		設定値
全体	面積 (km ²)	82,604
	地震モーメント (Nm)	1.7×10^{22}
	Mw	8.8
	平均応力降下量 (MPa)	1.7
	平均すべり量 (m)	5.0
	最大すべり量 (m)	13.0
	剛性率 (N/m ²)	4.1×10^{10}
	破壊伝播速度 (km/s)	2.0
	ライズタイム (s)	60



プレートの沈み込み速度を考慮したモデル
（大すべり域の位置を南海地域としたモデル）



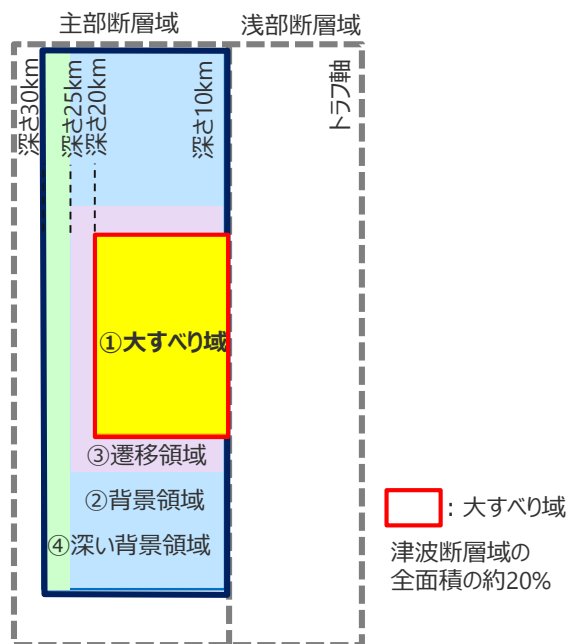
2 痕跡再現モデルの波源モデルの詳細

2-2 遠州灘沿岸域の痕跡再現モデル (プレートの沈み込み速度を考慮しないモデル) の設定

2 痕跡再現モデルの波源モデルの詳細

2-2 遠州灘沿岸域の痕跡再現モデル（プレートの沈み込み速度を考慮しないモデル）の設定 （すべり量分布の設定）

- プレートの沈み込み速度を考慮しないモデルのすべり分布の設定については、各小断層のすべり量をフィリピン海プレートの沈み込み速度を考慮せず設定し、大すべり域には平均すべり量の2倍のすべり量を設定した。
- プレートの沈み込み速度を考慮しないモデルのすべり分布の設定の詳細は以下のとおり。



プレートの沈み込み速度を考慮しないモデル
のすべり分布概念図

【主部断層のすべり量の設定】

まず、各小断層の平均すべり量 D_i を以下の領域ごとに設定し、各小断層の地震モーメント M_{0i} の総和が主部断層のスケーリング則から求められる地震モーメント M_0 になるように設定。

$$M_0 = \sum M_{0i} = \sum \mu D_i S_i \rightarrow \text{小断層毎のすべり量は以下の領域ごとに設定。}$$

次に、各小断層の平均すべり量 D_i に対して、以下の関係を与えて各小断層のすべり量を設定。

- ① 大すべり域 ■ : $2D_i$
- ② 背景領域 ■ : 主部断層（領域①～④）の小断層の地震モーメント M_{0i} の総和が、 M_0 となるすべり量 D_b を設定
- ③ ①と②④の遷移領域 ■ : ②側 $(2D_i + D_b) / 2$ 、④側 $(2D_i + 1/2 \times D_b) / 2$
- ④ 深い背景領域 ■ : $1/2 \times D_b$

D_i : 各小断層の平均すべり量 D_b : 各背景領域のすべり量(= aD_i , a は定数) S_i : 各小断層の面積
 M_0 : スケーリングから算定される主部断層の地震モーメント M_{0i} : 各小断層の地震モーメント

- ・今回実施した5ケース（応力降下量1.5MPa、1.6MPa、1.7MPa、1.8MPa、1.9MPa）とも、同様の考え方ですべり量設定を行っている。
- ・詳細な設定方法は、以降応力降下量1.5MPaのケースについて例示する。

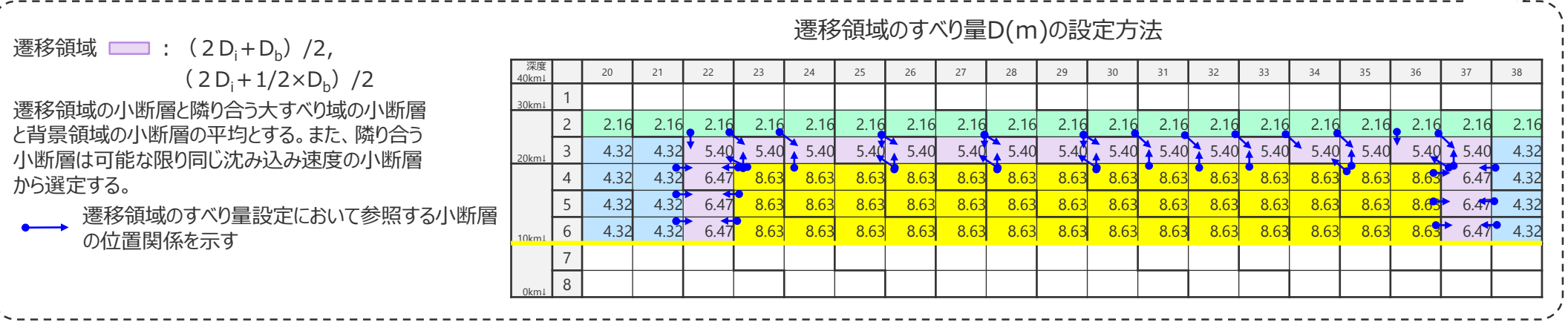
2 痕跡再現モデルの波源モデルの詳細

2-2 遠州灘沿岸域の痕跡再現モデル（プレートの沈み込み速度を考慮しないモデル）の設定 （すべり量分布の設定）

【STEP1】各小断層の平均すべり量に基づき、主部断層に大すべり域等を設定し各小断層のすべり量を以下のとおり設定する。

スケーリング則 $M_0 = 16 / (7\pi^{3/2}) \cdot \Delta\sigma \cdot S^{3/2}$ より、主部断層全体の地震モーメントは以下となる。
 $M_0 = 1.46 \times 10^{22} (\text{Nm}) \dots \text{①}$
 $\Delta\sigma_m$: 主部断層全体の平均の応力降下量(1.5MPa)
 S_m : 主部断層全体の面積:82,604km²
 主部断層の平均すべり量
 $D = 16 / (7\pi^{3/2}) \cdot \Delta\sigma_m \cdot S_m^{1/2} / \mu = 4.32\text{m}$
 μ : 剛性率: $4.1 \times 10^{10} (\text{N/m}^2)$

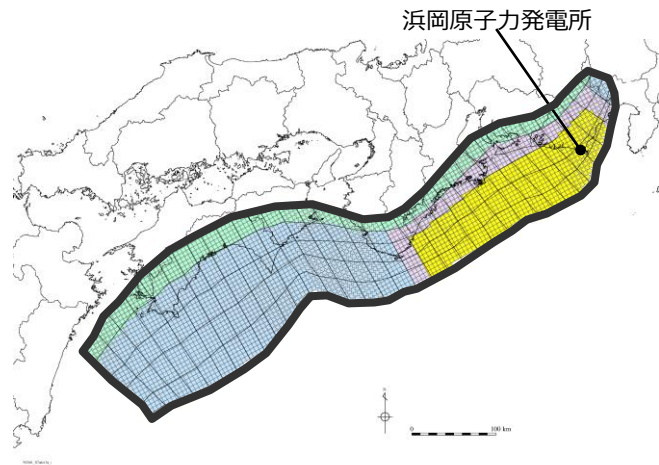
- 津波断層域の全面積(82,604km²)の約20%となるよう大すべり域の範囲（深度20km以浅～海溝軸×幅（ここでは23～36列））を決定。
- 各小断層の平均すべり量 D_i に対し、以下の関係を与えて調整前の各小断層のすべり量を設定。
- 背景領域のすべり量 $D_b = a \cdot D_i$ を調整前として $a=1$ で設定。



2 痕跡再現モデルの波源モデルの詳細

2-2 遠州灘沿岸域の痕跡再現モデル（プレートの沈み込み速度を考慮しないモデル）の設定 （応力降下量：1.5MPa）

■プレートの沈み込み速度を考慮しないモデルの各小断層のすべり分布は以下のとおり。



プレートの沈み込み速度を考慮しないモデル
（応力降下量：1.5MPa）

プレートの沈み込み速度を考慮しないモデル（応力降下量：1.5MPa）のすべり量

断層モデル	面積 (km ²)	M ₀ (Nm)	M _w	Δσ (MPa)	最大 すべり量(m)	平均 すべり量(m)
プレートの沈み込み速度を考慮しないモデル （応力降下量：1.5MPa）	82,604	1.5×10 ²²	8.7	1.5	8.6	4.4

- 波源域（津波断層域）
- 大すべり域（平均すべり量の2倍）：津波断層域の全面積の約20%
- 大すべり域と背景領域の遷移領域：両者の中間のすべり量
- 背景領域
- 深い背景領域：背景領域の1/2のすべり量

プレートの沈み込み速度を考慮しないモデル（応力降下量：1.5MPa）の小断層のすべり分布（m）

		西 ←																																				→ 東								
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38							
海溝軸 ⇕	深度40km↓																																													
	30km↓	1																																												
	20km↓	2				1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8				
		3				3.6	3.6	3.6	3.6	3.6	3.6	3.6	3.6	3.6	3.6	3.6	3.6	3.6	3.6	3.6	3.6	3.6	3.6	3.6	3.6	3.6	3.6	3.6	3.6	3.6	3.6	3.6	3.6	3.6	3.6	3.6	3.6	3.6	3.6	3.6	3.6	3.6	3.6			
	10km↓	4				3.6	3.6	3.6	3.6	3.6	3.6	3.6	3.6	3.6	3.6	3.6	3.6	3.6	3.6	3.6	3.6	3.6	3.6	3.6	3.6	3.6	3.6	3.6	3.6	3.6	3.6	3.6	3.6	3.6	3.6	3.6	3.6	3.6	3.6	3.6	3.6	3.6	3.6	3.6		
		5				3.6	3.6	3.6	3.6	3.6	3.6	3.6	3.6	3.6	3.6	3.6	3.6	3.6	3.6	3.6	3.6	3.6	3.6	3.6	3.6	3.6	3.6	3.6	3.6	3.6	3.6	3.6	3.6	3.6	3.6	3.6	3.6	3.6	3.6	3.6	3.6	3.6	3.6	3.6	3.6	
	0km↓	6				3.6	3.6	3.6	3.6	3.6	3.6	3.6	3.6	3.6	3.6	3.6	3.6	3.6	3.6	3.6	3.6	3.6	3.6	3.6	3.6	3.6	3.6	3.6	3.6	3.6	3.6	3.6	3.6	3.6	3.6	3.6	3.6	3.6	3.6	3.6	3.6	3.6	3.6	3.6	3.6	
		7																																												
	8																																													

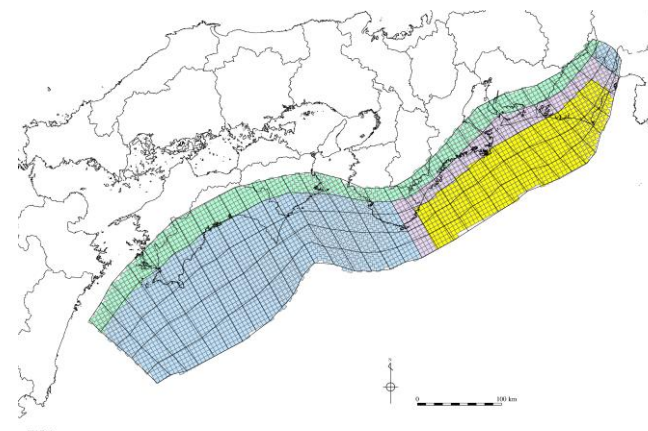
・すべり分布の番号は上記波源モデル図の各小断層に対し西側から東側に順に1列から38列まで設定。陸側から海溝軸側に1行から8行まで設定。

2 痕跡再現モデルの波源モデルの詳細

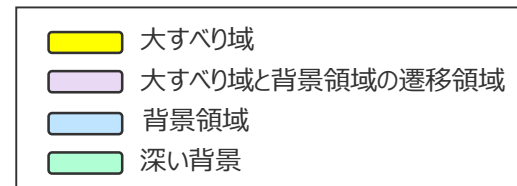
2-2 遠州灘沿岸域の痕跡再現モデル（プレートの沈み込み速度を考慮しないモデル）の設定 （応力降下量：1.5MPa）

断層パラメータ

項目		設定値
全体	面積 (km ²)	82,604
	地震モーメント (Nm)	1.5×10^{22}
	Mw	8.7
	平均応力降下量 (MPa)	1.5
	平均すべり量 (m)	4.4
	最大すべり量 (m)	8.6
	剛性率 (N/m ²)	4.1×10^{10}
	破壊伝播速度 (km/s)	2.0
	ライズタイム (s)	60



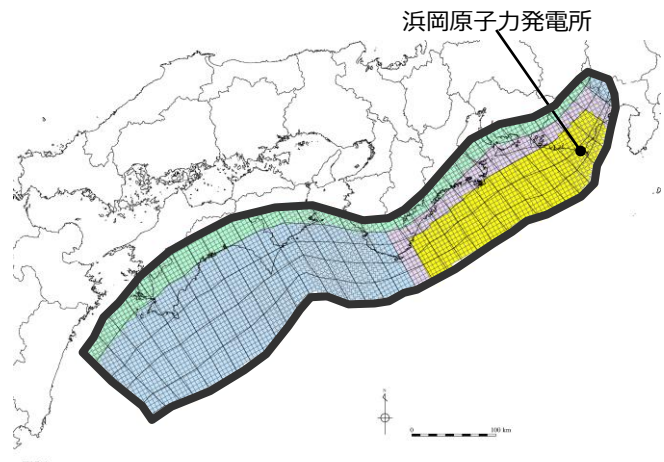
プレートの沈み込み速度を考慮しないモデル
（応力降下量：1.5MPa）



2 痕跡再現モデルの波源モデルの詳細

2-2 遠州灘沿岸域の痕跡再現モデル（プレートの沈み込み速度を考慮しないモデル）の設定 （応力降下量：1.6MPa）

■プレートの沈み込み速度を考慮しないモデルの各小断層のすべり分布は以下のとおり。



プレートの沈み込み速度を考慮しないモデル
（応力降下量：1.6MPa）

プレートの沈み込み速度を考慮しないモデル（応力降下量：1.6MPa）のすべり量

断層モデル	面積 (km ²)	M ₀ (Nm)	M _w	Δσ (MPa)	最大すべり量(m)	平均すべり量(m)
プレートの沈み込み速度を考慮しないモデル （応力降下量：1.6MPa）	82,604	1.6×10 ²²	8.7	1.6	9.2	4.7

- 波源域（津波断層域）
- 大すべり域（平均すべり量の2倍）：津波断層域の全面積の約20%
- 大すべり域と背景領域の遷移領域：両者の中間のすべり量
- 背景領域
- 深い背景領域：背景領域の1/2のすべり量

プレートの沈み込み速度を考慮しないモデル（応力降下量：1.6MPa）の小断層のすべり分布（m）

		西 ←																																				→ 東			
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38		
陸側⇄ 海溝軸	深度40km↓																																								
	30km↓	1																																							
	20km↓	2				1.9	1.9	1.9	1.9	1.9	1.9	1.9	1.9	1.9	1.9	1.9	1.9	1.9	1.9	1.9	1.9	1.9	1.9	1.9	1.9	1.9	1.9	1.9	1.9	1.9	1.9	1.9	1.9	1.9	1.9	1.9	1.9	1.9	1.9	1.9	
		3				3.8	3.8	3.8	3.8	3.8	3.8	3.8	3.8	3.8	3.8	3.8	3.8	3.8	3.8	3.8	3.8	3.8	3.8	3.8	3.8	3.8	3.8	3.8	3.8	3.8	3.8	3.8	3.8	3.8	3.8	3.8	3.8	3.8	3.8	3.8	3.8
	10km↓	4				3.8	3.8	3.8	3.8	3.8	3.8	3.8	3.8	3.8	3.8	3.8	3.8	3.8	3.8	3.8	3.8	3.8	3.8	3.8	3.8	3.8	3.8	3.8	3.8	3.8	3.8	3.8	3.8	3.8	3.8	3.8	3.8	3.8	3.8	3.8	3.8
		5				3.8	3.8	3.8	3.8	3.8	3.8	3.8	3.8	3.8	3.8	3.8	3.8	3.8	3.8	3.8	3.8	3.8	3.8	3.8	3.8	3.8	3.8	3.8	3.8	3.8	3.8	3.8	3.8	3.8	3.8	3.8	3.8	3.8	3.8	3.8	3.8
	0km↓	6				3.8	3.8	3.8	3.8	3.8	3.8	3.8	3.8	3.8	3.8	3.8	3.8	3.8	3.8	3.8	3.8	3.8	3.8	3.8	3.8	3.8	3.8	3.8	3.8	3.8	3.8	3.8	3.8	3.8	3.8	3.8	3.8	3.8	3.8	3.8	3.8
		7																																							
	8																																								

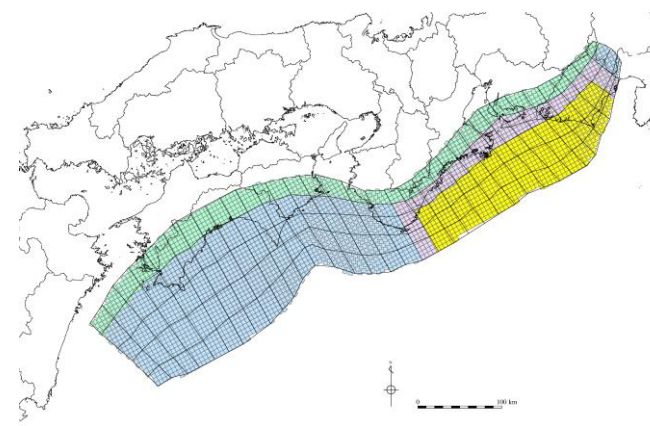
・すべり分布の番号は上記波源モデル図の各小断層に対し西側から東側に順に1列から38列まで設定。陸側から海溝軸側に1行から8行まで設定。

2 痕跡再現モデルの波源モデルの詳細

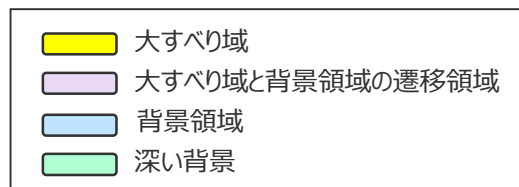
2-2 遠州灘沿岸域の痕跡再現モデル（プレートの沈み込み速度を考慮しないモデル）の設定 （応力降下量：1.6MPa）

断層パラメータ

項目		設定値
全体	面積 (km ²)	82,604
	地震モーメント (Nm)	1.6×10^{22}
	Mw	8.7
	平均応力降下量 (MPa)	1.6
	平均すべり量 (m)	4.7
	最大すべり量 (m)	9.2
	剛性率 (N/m ²)	4.1×10^{10}
	破壊伝播速度 (km/s)	2.0
	ライズタイム (s)	60



プレートの沈み込み速度を考慮しないモデル
（応力降下量：1.6MPa）

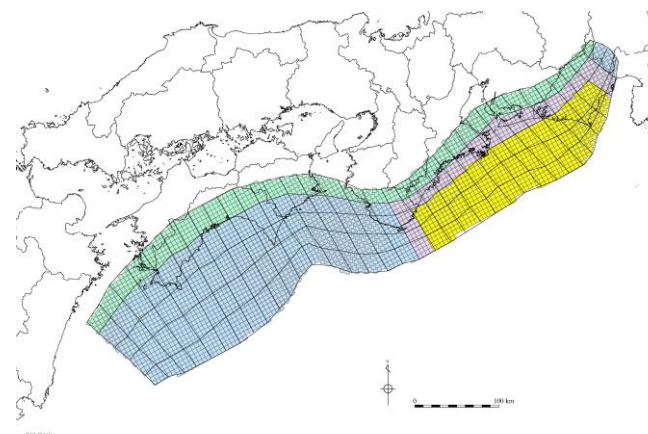


2 痕跡再現モデルの波源モデルの詳細

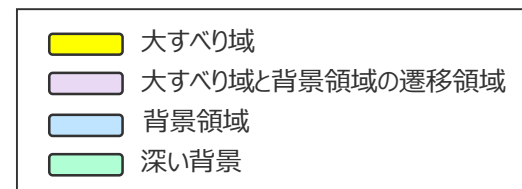
2-2 遠州灘沿岸域の痕跡再現モデル（プレートの沈み込み速度を考慮しないモデル）の設定 （応力降下量：1.7MPa）

断層パラメータ

項目		設定値
全体	面積 (km ²)	82,604
	地震モーメント (Nm)	1.7×10^{22}
	Mw	8.8
	平均応力降下量 (MPa)	1.7
	平均すべり量 (m)	5.0
	最大すべり量 (m)	9.8
	剛性率 (N/m ²)	4.1×10^{10}
	破壊伝播速度 (km/s)	2.0
	ライズタイム (s)	60



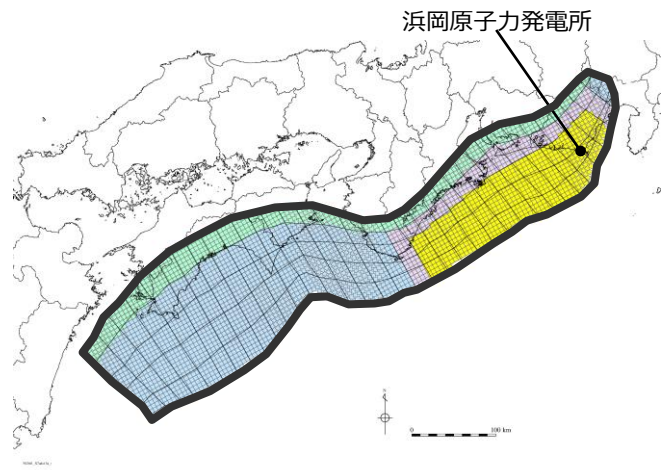
プレートの沈み込み速度を考慮しないモデル
（応力降下量：1.7MPa）



2 痕跡再現モデルの波源モデルの詳細

2-2 遠州灘沿岸域の痕跡再現モデル（プレートの沈み込み速度を考慮しないモデル）の設定 （応力降下量：1.8MPa）

■プレートの沈み込み速度を考慮しないモデルの各小断層のすべり分布は以下のとおり。



プレートの沈み込み速度を考慮しないモデル
（応力降下量：1.8MPa）

プレートの沈み込み速度を考慮しないモデル（応力降下量：1.8MPa）のすべり量

断層モデル	面積 (km ²)	M ₀ (Nm)	M _w	Δσ (MPa)	最大すべり量(m)	平均すべり量(m)
プレートの沈み込み速度を考慮しないモデル （応力降下量：1.8MPa）	82,604	1.8×10 ²²	8.8	1.8	10.4	5.3

- 波源域（津波断層域）
- 大すべり域（平均すべり量の2倍）：津波断層域の全面積の約20%
- 大すべり域と背景領域の遷移領域：両者の中間のすべり量
- 背景領域
- 深い背景領域：背景領域の1/2のすべり量

プレートの沈み込み速度を考慮しないモデル（応力降下量：1.8MPa）の小断層のすべり分布（m）

		西 ←																																				→ 東			
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38		
陸側⇄ 海溝軸	深度40km↓																																								
	30km↓	1																																							
	20km↓	2				2.1	2.1	2.1	2.1	2.1	2.1	2.1	2.1	2.1	2.1	2.1	2.1	2.1	2.1	2.1	2.1	2.1	2.1	2.1	2.1	2.1	2.1	2.1	2.1	2.1	2.1	2.1	2.1	2.1	2.1	2.1	2.1	2.1	2.1	2.1	
		3				4.3	4.3	4.3	4.3	4.3	4.3	4.3	4.3	4.3	4.3	4.3	4.3	4.3	4.3	4.3	4.3	4.3	4.3	4.3	4.3	4.3	4.3	4.3	4.3	4.3	4.3	4.3	4.3	4.3	4.3	4.3	4.3	4.3	4.3	4.3	
	10km↓	4				4.3	4.3	4.3	4.3	4.3	4.3	4.3	4.3	4.3	4.3	4.3	4.3	4.3	4.3	4.3	4.3	4.3	4.3	4.3	4.3	4.3	4.3	4.3	4.3	4.3	4.3	4.3	4.3	4.3	4.3	4.3	4.3	4.3	4.3	4.3	4.3
		5				4.3	4.3	4.3	4.3	4.3	4.3	4.3	4.3	4.3	4.3	4.3	4.3	4.3	4.3	4.3	4.3	4.3	4.3	4.3	4.3	4.3	4.3	4.3	4.3	4.3	4.3	4.3	4.3	4.3	4.3	4.3	4.3	4.3	4.3	4.3	4.3
	0km↓	6				4.3	4.3	4.3	4.3	4.3	4.3	4.3	4.3	4.3	4.3	4.3	4.3	4.3	4.3	4.3	4.3	4.3	4.3	4.3	4.3	4.3	4.3	4.3	4.3	4.3	4.3	4.3	4.3	4.3	4.3	4.3	4.3	4.3	4.3	4.3	4.3
		7																																							
	8																																								

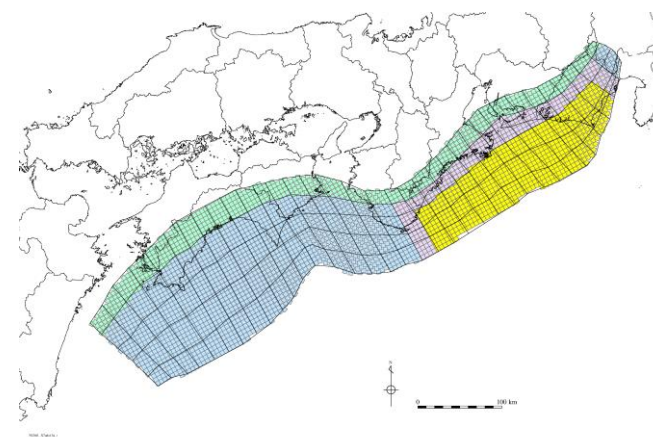
・すべり分布の番号は上記波源モデル図の各小断層に対し西側から東側に順に1列から38列まで設定。陸側から海溝軸側に1行から8行まで設定。

2 痕跡再現モデルの波源モデルの詳細

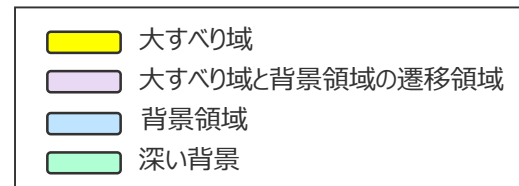
2-2 遠州灘沿岸域の痕跡再現モデル（プレートの沈み込み速度を考慮しないモデル）の設定 （応力降下量：1.8MPa）

断層パラメータ

項目		設定値
全体	面積 (km ²)	82,604
	地震モーメント (Nm)	1.8×10^{22}
	Mw	8.8
	平均応力降下量 (MPa)	1.8
	平均すべり量 (m)	5.3
	最大すべり量 (m)	10.4
	剛性率 (N/m ²)	4.1×10^{10}
	破壊伝播速度 (km/s)	2.0
	ライズタイム (s)	60



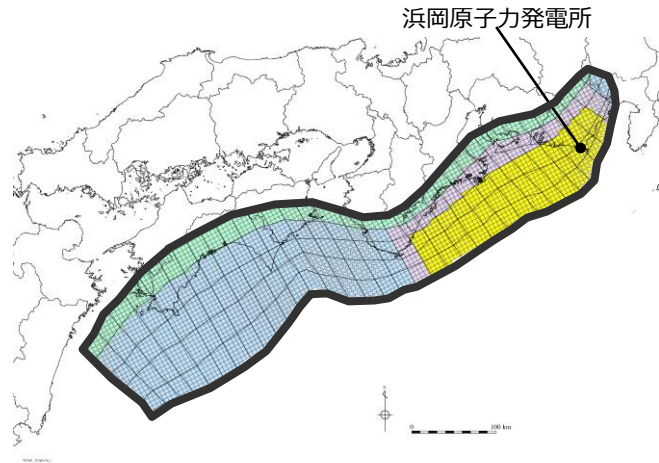
プレートの沈み込み速度を考慮しないモデル
（応力降下量：1.8MPa）



2 痕跡再現モデルの波源モデルの詳細

2-2 遠州灘沿岸域の痕跡再現モデル（プレートの沈み込み速度を考慮しないモデル）の設定 （応力降下量：1.9MPa）

■プレートの沈み込み速度を考慮しないモデルの各小断層のすべり分布は以下のとおり。



プレートの沈み込み速度を考慮しないモデル
（応力降下量：1.9MPa）

プレートの沈み込み速度を考慮しないモデル（応力降下量：1.9MPa）のすべり量

断層モデル	面積 (km ²)	M ₀ (Nm)	Mw	Δσ (MPa)	最大 すべり量(m)	平均 すべり量(m)
プレートの沈み込み速度を考慮しないモデル （応力降下量：1.9MPa）	82,604	1.9×10 ²²	8.8	1.9	10.9	5.6

- 波源域（津波断層域）
- 大すべり域（平均すべり量の2倍）：津波断層域の全面積の約20%
- 大すべり域と背景領域の遷移領域：両者の中間のすべり量
- 背景領域
- 深い背景領域：背景領域の1/2のすべり量

プレートの沈み込み速度を考慮しないモデル（応力降下量：1.9MPa）の小断層のすべり分布（m）

		西 ←																																				→ 東			
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38		
陸側⇄ 海溝軸	深度40km↓																																								
	30km↓	1																																							
	20km↓	2				2.3	2.3	2.3	2.3	2.3	2.3	2.3	2.3	2.3	2.3	2.3	2.3	2.3	2.3	2.3	2.3	2.3	2.3	2.3	2.3	2.3	2.3	2.3	2.3	2.3	2.3	2.3	2.3	2.3	2.3	2.3	2.3	2.3	2.3	2.3	
		3				4.5	4.5	4.5	4.5	4.5	4.5	4.5	4.5	4.5	4.5	4.5	4.5	4.5	4.5	4.5	4.5	4.5	4.5	4.5	4.5	4.5	4.5	4.5	4.5	4.5	4.5	4.5	4.5	4.5	4.5	4.5	4.5	4.5	4.5	4.5	
	10km↓	4				4.5	4.5	4.5	4.5	4.5	4.5	4.5	4.5	4.5	4.5	4.5	4.5	4.5	4.5	4.5	4.5	4.5	4.5	4.5	4.5	4.5	4.5	4.5	4.5	4.5	4.5	4.5	4.5	4.5	4.5	4.5	4.5	4.5	4.5	4.5	
		5				4.5	4.5	4.5	4.5	4.5	4.5	4.5	4.5	4.5	4.5	4.5	4.5	4.5	4.5	4.5	4.5	4.5	4.5	4.5	4.5	4.5	4.5	4.5	4.5	4.5	4.5	4.5	4.5	4.5	4.5	4.5	4.5	4.5	4.5	4.5	
	0km↓	6				4.5	4.5	4.5	4.5	4.5	4.5	4.5	4.5	4.5	4.5	4.5	4.5	4.5	4.5	4.5	4.5	4.5	4.5	4.5	4.5	4.5	4.5	4.5	4.5	4.5	4.5	4.5	4.5	4.5	4.5	4.5	4.5	4.5	4.5	4.5	
	7																																								
8																																									

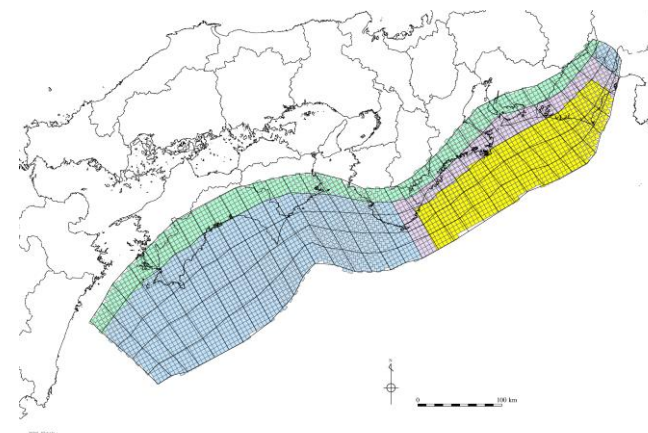
・すべり分布の番号は上記波源モデル図の各小断層に対し西側から東側に順に1列から38列まで設定。陸側から海溝軸側に1行から8行まで設定。

2 痕跡再現モデルの波源モデルの詳細

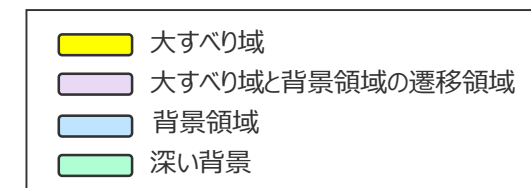
2-2 遠州灘沿岸域の痕跡再現モデル（プレートの沈み込み速度を考慮しないモデル）の設定 （応力降下量：1.9MPa）

断層パラメータ

項目		設定値
全体	面積 (km ²)	82,604
	地震モーメント (Nm)	1.9×10^{22}
	Mw	8.8
	平均応力降下量 (MPa)	1.9
	平均すべり量 (m)	5.6
	最大すべり量 (m)	10.9
	剛性率 (N/m ²)	4.1×10^{10}
	破壊伝播速度 (km/s)	2.0
	ライズタイム (s)	60



プレートの沈み込み速度を考慮しないモデル
（応力降下量：1.9MPa）



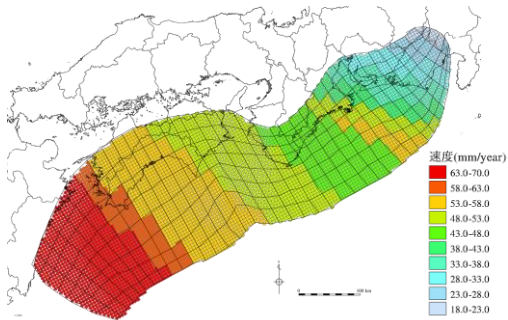
2 痕跡再現モデルの波源モデルの詳細

2-3 南海トラフ広域の痕跡再現モデル (プレートの沈み込み速度を考慮したモデル) の設定

2 痕跡再現モデルの波源モデルの詳細

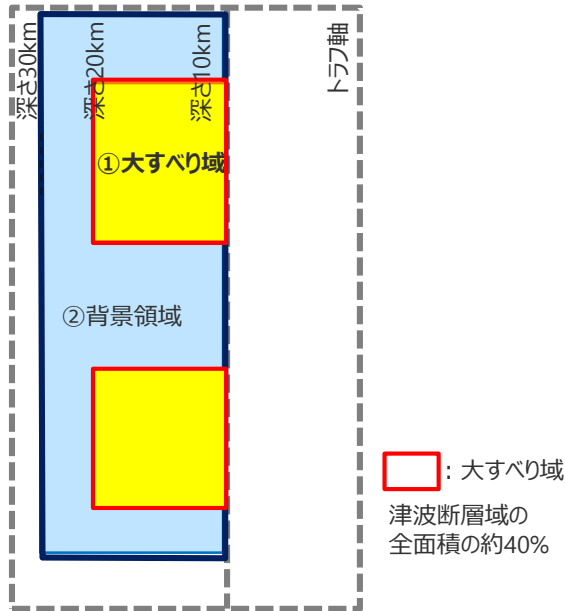
2-3 南海トラフ広域の痕跡再現モデル（プレートの沈み込み速度を考慮したモデル）の設定 すべり分布の設定

- プレートの沈み込み速度を考慮したモデルのすべり分布の設定については、各小断層のすべり量をフィリピン海プレートの沈み込み速度に比例するよう設定し、大すべり域には平均すべり量の2倍のすべり量を設定した。
- プレートの沈み込み速度を考慮したモデルのすべり分布の設定の詳細は以下のとおり。



(Loveless and Meade(2010)を基に作成)

各小断層の沈み込速度分布



□ : 大すべり域
津波断層域の
全面積の約40%

プレート沈み込み速度を考慮したモデルの
すべり分布概念図

【主部断層のすべり量の設定】

まず、各小断層の平均すべり量 D_i を領域ごとに設定し、各小断層の地震モーメント M_{0i} の総和が主部断層のスケーリング則から求められる地震モーメント M_0 になるように設定。

$M_0 = \sum M_{0i} = \sum \mu D_i S_i \rightarrow$ 小断層毎のすべり量はプレートの沈み込み速度に比例するよう設定。

次に、各小断層の平均すべり量 D_i に対して、以下の関係を与えて各小断層のすべり量を設定。

- ① 大すべり域 : $2D_i$
- ② 背景領域 : 主部断層（領域①～②）の小断層の地震モーメント M_{0i} の総和が、 M_0 となるすべり量 D_0 を設定

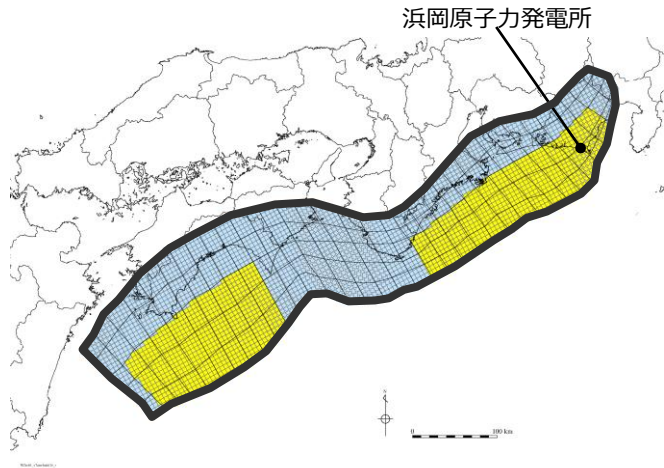
D_i : 各小断層の平均すべり量 D_0 : 各背景領域のすべり量(= aD_i , a は定数) S_i : 各小断層の面積
 M_0 : スケーリングから算定される主部断層の地震モーメント M_{0i} : 各小断層の地震モーメント

- ・今回実施した5ケース（応力降下量1.5MPa、1.6MPa、1.7MPa、1.8MPa、1.9MPa）とも、同様の考え方ですべり量設定を行っている。

2 痕跡再現モデルの波源モデルの詳細

2-3 南海トラフ広域の痕跡再現モデル（プレートの沈み込み速度を考慮したモデル）の設定 （応力降下量：1.5MPa）

■「南海トラフ広域の痕跡再現モデル」の各小断層のすべり分布は以下のとおり。



南海トラフ広域の痕跡再現モデル
（応力降下量：1.5MPa）

南海トラフ広域の痕跡再現モデル（応力降下量：1.5MPa）のすべり量

断層モデル	面積 (km ²)	M ₀ (Nm)	M _w	Δσ (MPa)	最大 すべり量(m)	平均 すべり量(m)
南海トラフ広域の痕跡再現モデル （応力降下量：1.5MPa）	82,604	1.5×10 ²²	8.7	1.5	11.2	4.4

- 波源域（津波断層域）
- 大すべり域（平均すべり量の2倍）：津波断層域の全面積の約40%
- 背景領域

南海トラフ広域の痕跡再現モデル（応力降下量：1.5MPa）の小断層のすべり分布（m）

		西 ←																																				→ 東		
深度40km↓		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	
陸側⇕	30km↓	1																																						
	20km↓	2				1.9	1.8	1.8	1.7	1.6	1.6	1.6	1.5	1.5	1.5	1.4	1.4	1.4	1.4	1.4	1.4	1.4	1.3	1.3	1.3	1.3	1.3	1.3	1.2	1.2	1.0	1.0	1.0	0.8	0.8	0.8	0.7	0.7	0.5	
3					1.9	1.8	1.8	1.7	1.7	1.6	1.6	1.6	1.5	1.5	1.5	1.4	1.4	1.4	1.4	1.4	1.4	1.3	1.3	1.3	1.3	1.3	1.3	1.2	1.2	1.0	1.0	1.0	0.8	0.8	0.8	0.7	0.7	0.5		
海溝軸⇕	10km↓	4				1.9	11.2	11.2	10.2	10.2	9.9	9.9	9.6	9.4	9.4	1.5	1.4	1.4	1.4	1.4	1.4	1.4	1.4	1.3	8.1	8.0	8.0	7.7	9.3	8.2	8.2	7.2	6.1	6.1	6.1	6.1	4.9	4.9	0.7	0.5
		5				1.9	11.2	11.2	11.2	10.2	10.2	9.9	9.6	9.6	9.4	1.5	1.5	1.4	1.4	1.4	1.4	1.4	1.4	1.4	8.1	8.0	8.0	7.7	7.7	9.3	8.2	8.2	7.2	6.1	6.1	6.1	4.9	4.9	0.7	0.7
⇓	0km↓	6				1.9	11.2	11.2	11.2	10.2	10.2	9.9	9.9	9.6	9.4	1.5	1.5	1.4	1.4	1.4	1.4	1.4	1.4	8.1	8.1	8.0	8.0	7.7	9.3	9.3	8.2	8.2	7.2	6.1	6.1	4.9	0.7	0.7		
		7																																						
	8																																							

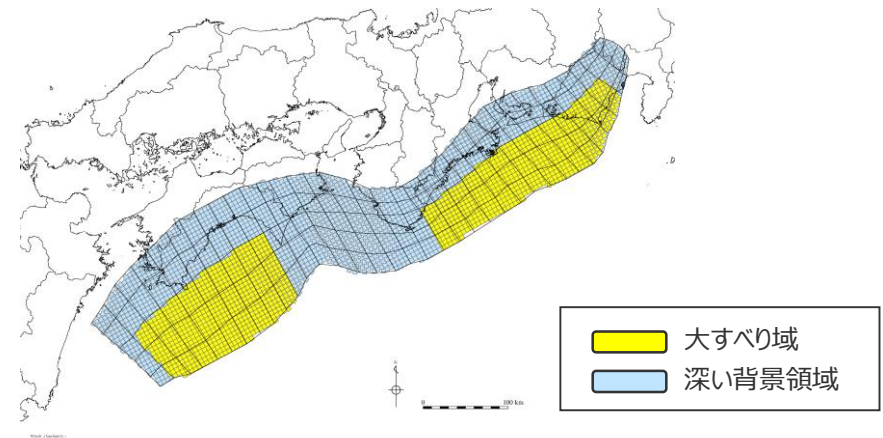
・すべり分布の番号は上記波源モデル図の各小断層に対し西側から東側に順に1列から38列まで設定。陸側から海溝軸側に1行から8行まで設定。

2 痕跡再現モデルの波源モデルの詳細

2-3 南海トラフ広域の痕跡再現モデル（プレートの沈み込み速度を考慮したモデル）の設定 （応力降下量：1.5MPa）

断層パラメータ

項目		設定値
全体	面積 (km ²)	82,604
	地震モーメント (Nm)	1.5×10^{22}
	Mw	8.7
	平均応力降下量 (MPa)	1.5
	平均すべり量 (m)	4.4
	最大すべり量 (m)	11.2
	剛性率 (N/m ²)	4.1×10^{10}
	破壊伝播速度 (km/s)	2.0
	ライズタイム (s)	60

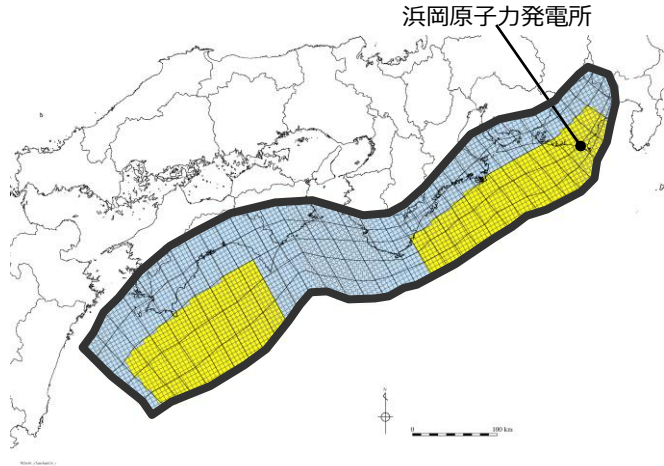


南海トラフ広域の痕跡再現モデル
（応力降下量：1.5MPa）

2 痕跡再現モデルの波源モデルの詳細

2-3 南海トラフ広域の痕跡再現モデル（プレートの沈み込み速度を考慮したモデル）の設定 （応力降下量：1.6MPa）

■「南海トラフ広域の痕跡再現モデル」の各小断層のすべり分布は以下のとおり。



南海トラフ広域の痕跡再現モデル
（応力降下量：1.6MPa）

南海トラフ広域の痕跡再現モデル（応力降下量：1.6MPa）のすべり量

断層モデル	面積 (km ²)	M ₀ (Nm)	M _w	Δσ (MPa)	最大 すべり量(m)	平均 すべり量(m)
南海トラフ広域の痕跡再現モデル （応力降下量：1.6MPa）	82,604	1.6×10 ²²	8.7	1.6	12.0	4.7

- 波源域（津波断層域）
- 大すべり域（平均すべり量の2倍）：津波断層域の全面積の約40%
- 背景領域

南海トラフ広域の痕跡再現モデル（応力降下量：1.6MPa）の小断層のすべり分布（m）

		西 ←																																				→ 東							
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38						
陸側⇕ 海溝軸 ⇓	深度40km↓																																												
	30km↓	1																																											
	20km↓	2				2.0	2.0	2.0	1.8	1.7	1.7	1.7	1.6	1.6	1.6	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.4	1.4	1.4	1.4	1.3	1.4	1.4	1.3	1.3	1.1	1.1	1.1	1.1	0.8	0.8	0.8	0.8	0.8	0.8	0.5			
		3				2.0	2.0	2.0	1.8	1.8	1.7	1.7	1.7	1.6	1.6	1.6	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.4	1.4	1.4	1.4	1.3	1.3	1.4	1.4	1.3	1.3	1.1	1.1	1.1	1.1	0.8	0.8	0.8	0.8	0.8	0.5			
	10km↓	4				2.0	12.0	12.0	10.9	10.9	10.5	10.5	10.3	10.0	10.0	1.6	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.4	8.6	8.5	8.5	8.2	9.9	8.8	8.8	7.7	6.6	6.6	6.6	6.6	5.2	5.2	0.8	0.8	0.5					
		5				2.0	12.0	12.0	12.0	10.9	10.9	10.5	10.3	10.3	10.0	1.6	1.6	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	8.6	8.5	8.5	8.2	8.2	9.9	8.8	8.8	7.7	7.7	6.6	6.6	5.2	5.2	0.8	0.8					
	0km↓	6				2.0	12.0	12.0	12.0	10.9	10.9	10.5	10.5	10.3	10.0	1.6	1.6	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	8.6	8.6	8.5	8.5	8.2	9.9	9.9	8.8	8.8	7.7	7.7	6.6	6.6	5.2	0.8	0.8						
		7																																											
	8																																												

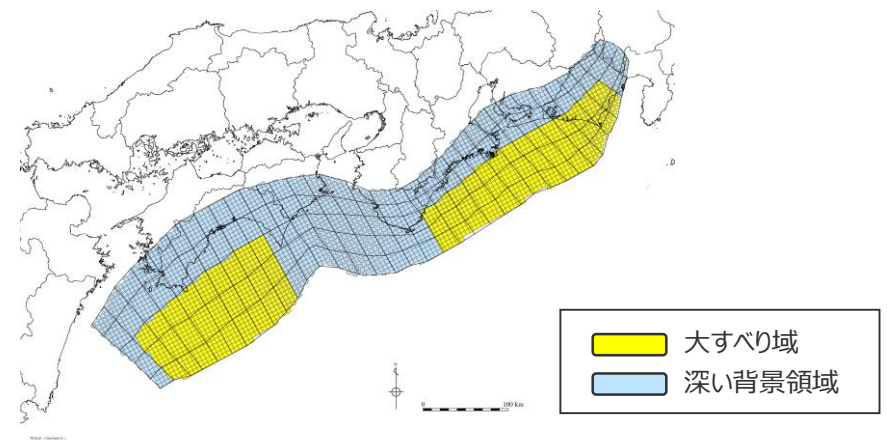
・すべり分布の番号は上記波源モデル図の各小断層に対し西側から東側に順に1列から38列まで設定。陸側から海溝軸側に1行から8行まで設定。

2 痕跡再現モデルの波源モデルの詳細

2-3 南海トラフ広域の痕跡再現モデル（プレートの沈み込み速度を考慮したモデル）の設定 （応力降下量：1.6MPa）

断層パラメータ

項目		設定値
全体	面積 (km ²)	82,604
	地震モーメント (Nm)	1.6×10^{22}
	Mw	8.7
	平均応力降下量 (MPa)	1.6
	平均すべり量 (m)	4.7
	最大すべり量 (m)	12.0
	剛性率 (N/m ²)	4.1×10^{10}
	破壊伝播速度 (km/s)	2.0
	ライズタイム (s)	60

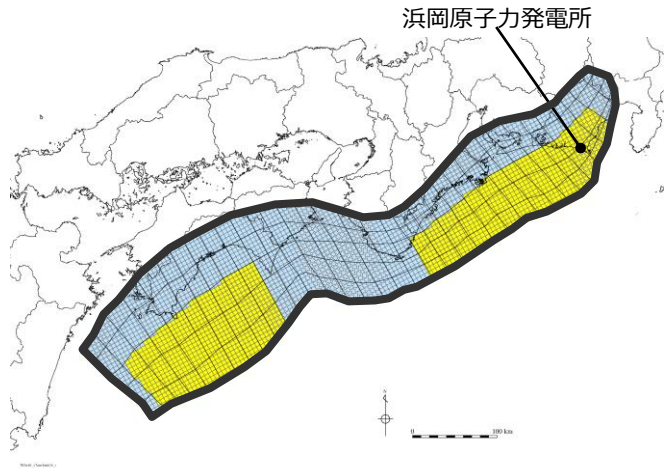


南海トラフ広域の痕跡再現モデル
（応力降下量：1.6MPa）

2 痕跡再現モデルの波源モデルの詳細

2-3 南海トラフ広域の痕跡再現モデル（プレートの沈み込み速度を考慮したモデル）の設定 （応力降下量：1.7MPa）

■「南海トラフ広域の痕跡再現モデル」の各小断層のすべり分布は以下のとおり。



南海トラフ広域の痕跡再現モデル
（応力降下量：1.7MPa）

南海トラフ広域の痕跡再現モデル（応力降下量：1.7MPa）のすべり量

断層モデル	面積 (km ²)	M ₀ (Nm)	Mw	Δσ (MPa)	最大 すべり量(m)	平均 すべり量(m)
南海トラフ広域の痕跡再現モデル （応力降下量：1.7MPa）	82,604	1.7×10 ²²	8.8	1.7	12.7	5.0

- 波源域（津波断層域）
- 大すべり域（平均すべり量の2倍）：津波断層域の全面積の約40%
- 背景領域

南海トラフ広域の痕跡再現モデル（応力降下量：1.7MPa）の小断層のすべり分布（m）

		西 ←																																				→ 東					
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38				
海溝軸 ⇕	深度40km↓																																										
	30km↓	1																																									
	20km↓	2				2.1	2.1	2.1	1.9	1.8	1.8	1.8	1.7	1.7	1.7	1.6	1.6	1.6	1.6	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.4	1.5	1.5	1.3	1.3	1.1	1.1	1.1	0.9	0.9	0.9	0.8	0.8	0.6				
		3				2.1	2.1	2.1	1.9	1.9	1.8	1.8	1.8	1.7	1.7	1.7	1.6	1.6	1.6	1.6	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.4	1.4	1.5	1.5	1.3	1.3	1.1	1.1	1.1	0.9	0.9	0.8	0.8	0.6				
	10km↓	4				2.1	12.7	12.7	11.5	11.5	11.1	11.1	10.8	10.6	10.6	1.7	1.6	1.6	1.6	1.6	1.6	1.5	1.5	1.5	9.1	9.0	9.0	8.6	10.4	9.2	9.2	8.1	6.9	6.9	6.9	6.9	5.5	5.5	0.8	0.6			
		5				2.1	12.7	12.7	12.7	11.5	11.5	11.1	10.8	10.8	10.6	1.7	1.7	1.6	1.6	1.6	1.6	1.6	1.5	1.5	9.1	9.0	9.0	8.6	8.6	10.4	9.2	9.2	8.1	8.1	6.9	6.9	5.5	5.5	0.8	0.8			
	0km↓	6				2.1	12.7	12.7	12.7	11.5	11.5	11.1	11.1	10.8	10.6	1.7	1.7	1.6	1.6	1.6	1.6	1.6	1.5	1.5	9.1	9.1	9.0	9.0	8.6	10.4	10.4	9.2	9.2	8.1	8.1	6.9	6.9	5.5	0.8	0.8			
		7																																									
	8																																										

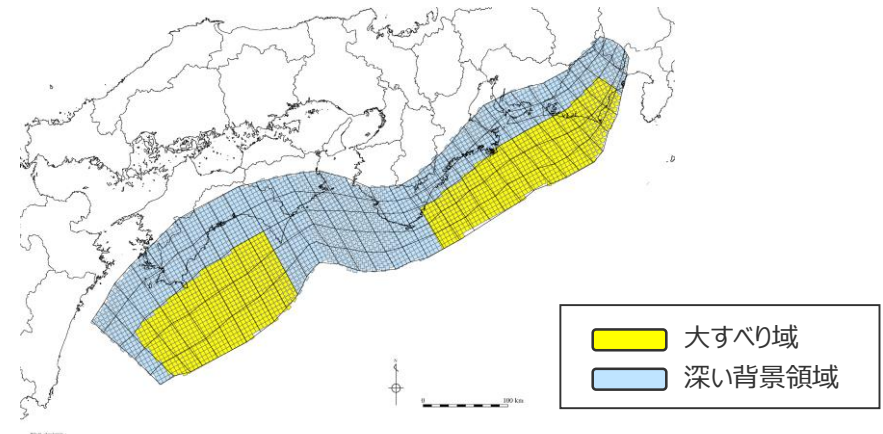
・すべり分布の番号は上記波源モデル図の各小断層に対し西側から東側に順に1列から38列まで設定。陸側から海溝軸側に1行から8行まで設定。

2 痕跡再現モデルの波源モデルの詳細

2-3 南海トラフ広域の痕跡再現モデル（プレートの沈み込み速度を考慮したモデル）の設定 （応力降下量：1.7MPa）

断層パラメータ

項目		設定値
全体	面積 (km ²)	82,604
	地震モーメント (Nm)	1.7×10^{22}
	Mw	8.8
	平均応力降下量 (MPa)	1.7
	平均すべり量 (m)	5.0
	最大すべり量 (m)	12.7
	剛性率 (N/m ²)	4.1×10^{10}
	破壊伝播速度 (km/s)	2.0
	ライズタイム (s)	60



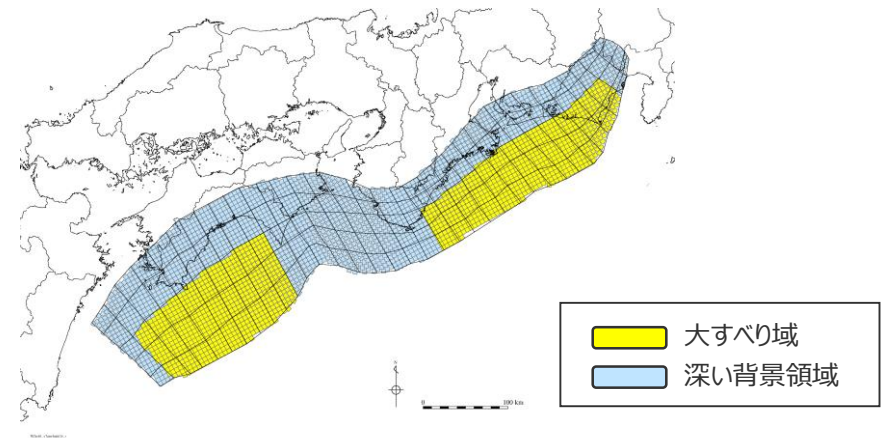
南海トラフ広域の痕跡再現モデル
（応力降下量：1.7MPa）

2 痕跡再現モデルの波源モデルの詳細

2-3 南海トラフ広域の痕跡再現モデル（プレートの沈み込み速度を考慮したモデル）の設定 （応力降下量：1.8MPa）

断層パラメータ

項目		設定値
全体	面積 (km ²)	82,604
	地震モーメント (Nm)	1.8×10^{22}
	Mw	8.8
	平均応力降下量 (MPa)	1.8
	平均すべり量 (m)	5.3
	最大すべり量 (m)	13.5
	剛性率 (N/m ²)	4.1×10^{10}
	破壊伝播速度 (km/s)	2.0
	ライズタイム (s)	60



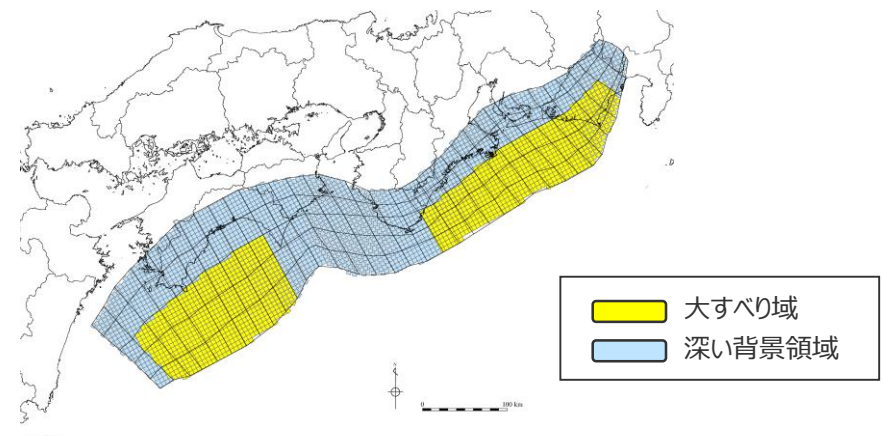
南海トラフ広域の痕跡再現モデル
（応力降下量：1.8MPa）

2 痕跡再現モデルの波源モデルの詳細

2-3 南海トラフ広域の痕跡再現モデル（プレートの沈み込み速度を考慮したモデル）の設定 （応力降下量：1.9MPa）

断層パラメータ

項目		設定値
全体	面積 (km ²)	82,604
	地震モーメント (Nm)	1.9×10^{22}
	Mw	8.8
	平均応力降下量 (MPa)	1.9
	平均すべり量 (m)	5.6
	最大すべり量 (m)	14.2
	剛性率 (N/m ²)	4.1×10^{10}
	破壊伝播速度 (km/s)	2.0
	ライズタイム (s)	60



南海トラフ広域の痕跡再現モデル
（応力降下量：1.9MPa）

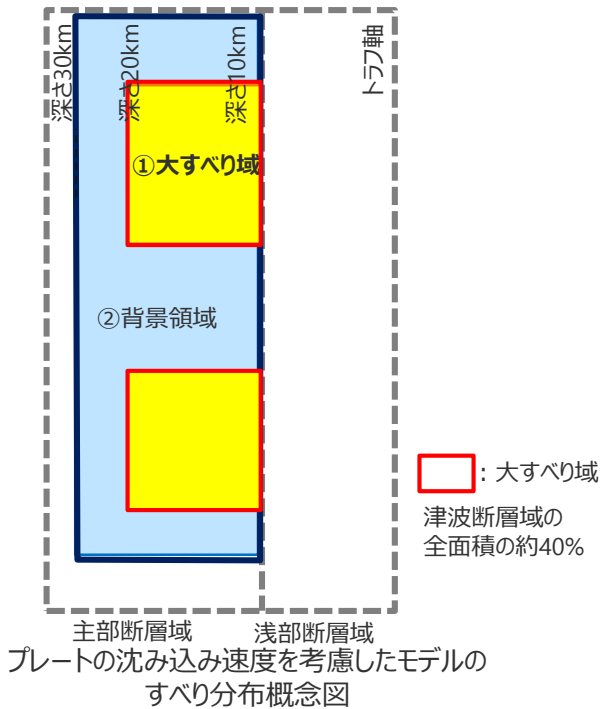
2 痕跡再現モデルの波源モデルの詳細

2-4 南海トラフ広域の痕跡再現モデル (プレートの沈み込み速度を考慮しないモデル) の設定

2 痕跡再現モデルの波源モデルの詳細

2-4 南海トラフ広域の痕跡再現モデル（プレートの沈み込み速度を考慮しないモデル）の設定（すべり量分布の設定）

- プレートの沈み込み速度を考慮しないモデルのすべり分布の設定については、各小断層のすべり量をフィリピン海プレートの沈み込み速度を考慮せず設定し、大すべり域には平均すべり量の2倍のすべり量を設定した。
- プレートの沈み込み速度を考慮しないモデルのすべり分布の設定の詳細は以下のとおり。



【主部断層のすべり量の設定】

まず、各小断層の平均すべり量 D_i を領域ごとに設定し、各小断層の地震モーメント M_{0i} の総和が主部断層のスケール則から求められる地震モーメント M_0 になるように設定。

$$M_0 = \sum M_{0i} = \sum \mu D_i S_i \rightarrow \text{小断層毎のすべり量は以下の領域ごとに設定。}$$

次に、各小断層の平均すべり量 D_i に対して、以下の関係を与えて各小断層のすべり量を設定。

① 大すべり域 : $2D_i$

② 背景領域 : 主部断層（領域①～②）の小断層の地震モーメント M_{0i} の総和が、 M_0 となるすべり量 D_0 を設定

D_i : 各小断層の平均すべり量 D_0 : 各背景領域のすべり量(= aD_i , a は定数) S_i : 各小断層の面積

M_0 : スケール則から算定される主部断層の地震モーメント M_{0i} : 各小断層の地震モーメント

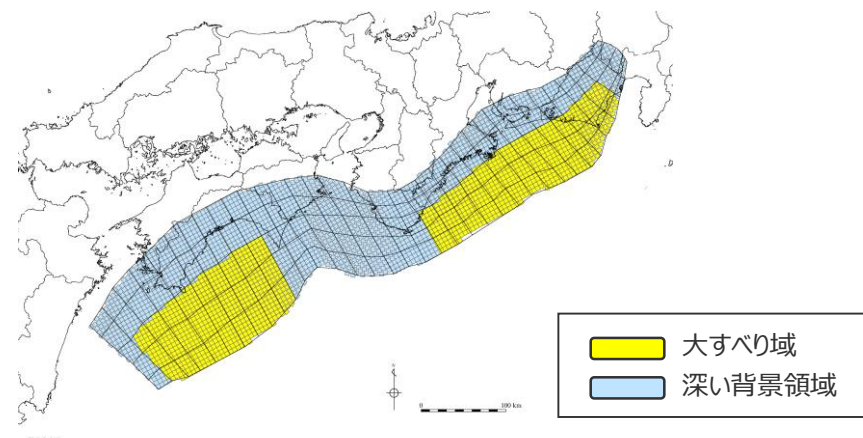
- ・今回実施した5ケース（応力降下量1.5MPa、1.6MPa、1.7MPa、1.8MPa、1.9MPa）とも、同様の考え方ですべり量設定を行っている。

2 痕跡再現モデルの波源モデルの詳細

2-4 南海トラフ広域の痕跡再現モデル（プレートの沈み込み速度を考慮しないモデル）の設定 （応力降下量：1.5MPa）

断層パラメータ

項目		設定値
全体	面積 (km ²)	82,604
	地震モーメント (Nm)	1.5×10^{22}
	Mw	8.7
	平均応力降下量 (MPa)	1.5
	平均すべり量 (m)	4.4
	最大すべり量 (m)	8.6
	剛性率 (N/m ²)	4.1×10^{10}
	破壊伝播速度 (km/s)	2.0
	ライズタイム (s)	60

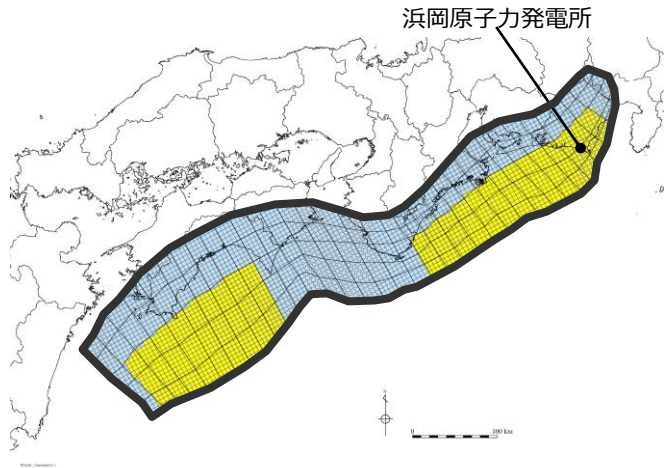


南海トラフ広域の痕跡再現モデル
（応力降下量：1.5MPa）

2 痕跡再現モデルの波源モデルの詳細

2-4 南海トラフ広域の痕跡再現モデル（プレートの沈み込み速度を考慮しないモデル）の設定 （応力降下量：1.6MPa）

■「南海トラフ広域の痕跡再現モデル」の各小断層のすべり分布は以下のとおり。



南海トラフ広域の痕跡再現モデル
（応力降下量：1.6MPa）

南海トラフ広域の痕跡再現モデル（応力降下量：1.6MPa）のすべり量

断層モデル	面積 (km ²)	M ₀ (Nm)	Mw	Δσ (MPa)	最大 すべり量(m)	平均 すべり量(m)
南海トラフ広域の痕跡再現モデル （応力降下量：1.6MPa）	82,604	1.6×10 ²²	8.7	1.6	9.2	4.7

- 波源域（津波断層域）
- 大すべり域（平均すべり量の2倍）：津波断層域の全面積の約40%
- 背景領域

南海トラフ広域の痕跡再現モデル（応力降下量：1.6MPa）の小断層のすべり分布（m）

		西 ←																																				→ 東		
深度40km↓		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	
陸側⇕	30km↓	1																																						
	20km↓	2				1.6	1.6	1.6	1.6	1.6	1.6	1.6	1.6	1.6	1.6	1.6	1.6	1.6	1.6	1.6	1.6	1.6	1.6	1.6	1.6	1.6	1.6	1.6	1.6	1.6	1.6	1.6	1.6	1.6	1.6	1.6	1.6	1.6	1.6	1.6
3					1.6	1.6	1.6	1.6	1.6	1.6	1.6	1.6	1.6	1.6	1.6	1.6	1.6	1.6	1.6	1.6	1.6	1.6	1.6	1.6	1.6	1.6	1.6	1.6	1.6	1.6	1.6	1.6	1.6	1.6	1.6	1.6	1.6	1.6	1.6	1.6
海溝軸⇕	10km↓	4			1.6	9.2	9.2	9.2	9.2	9.2	9.2	9.2	9.2	9.2	1.6	1.6	1.6	1.6	1.6	1.6	1.6	1.6	1.6	1.6	9.2	9.2	9.2	9.2	9.2	9.2	9.2	9.2	9.2	9.2	9.2	9.2	9.2	1.6	1.6	
		5			1.6	9.2	9.2	9.2	9.2	9.2	9.2	9.2	9.2	9.2	1.6	1.6	1.6	1.6	1.6	1.6	1.6	1.6	1.6	1.6	9.2	9.2	9.2	9.2	9.2	9.2	9.2	9.2	9.2	9.2	9.2	9.2	9.2	9.2	1.6	1.6
⇓	0km↓	6			1.6	9.2	9.2	9.2	9.2	9.2	9.2	9.2	9.2	1.6	1.6	1.6	1.6	1.6	1.6	1.6	1.6	1.6	1.6	9.2	9.2	9.2	9.2	9.2	9.2	9.2	9.2	9.2	9.2	9.2	9.2	9.2	1.6	1.6		
		7																																						
	8																																							

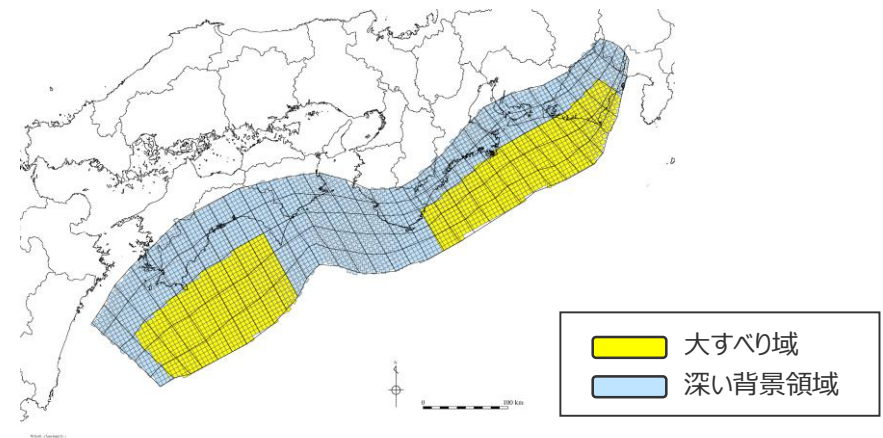
・すべり分布の番号は上記波源モデル図の各小断層に対し西側から東側に順に1列から38列まで設定。陸側から海溝軸側に1行から8行まで設定。

2 痕跡再現モデルの波源モデルの詳細

2-4 南海トラフ広域の痕跡再現モデル（プレートの沈み込み速度を考慮しないモデル）の設定 （応力降下量：1.6MPa）

断層パラメータ

項目		設定値
全体	面積 (km ²)	82,604
	地震モーメント (Nm)	1.6×10^{22}
	Mw	8.7
	平均応力降下量 (MPa)	1.6
	平均すべり量 (m)	4.7
	最大すべり量 (m)	9.2
	剛性率 (N/m ²)	4.1×10^{10}
	破壊伝播速度 (km/s)	2.0
	ライズタイム (s)	60

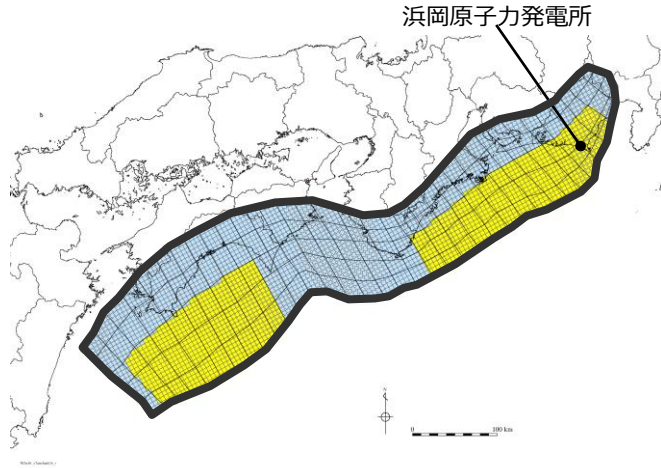


南海トラフ広域の痕跡再現モデル
（応力降下量：1.6MPa）

2 痕跡再現モデルの波源モデルの詳細

2-4 南海トラフ広域の痕跡再現モデル（プレートの沈み込み速度を考慮しないモデル）の設定 （応力降下量：1.7MPa）

■「南海トラフ広域の痕跡再現モデル」の各小断層のすべり分布は以下のとおり。



南海トラフ広域の痕跡再現モデル
（応力降下量：1.7MPa）

南海トラフ広域の痕跡再現モデル（応力降下量：1.7MPa）のすべり量

断層モデル	面積 (km ²)	M ₀ (Nm)	M _w	Δσ (MPa)	最大 すべり量(m)	平均 すべり量(m)
南海トラフ広域の痕跡再現モデル （応力降下量：1.7MPa）	82,604	1.7×10 ²²	8.8	1.7	9.8	5.0

- 波源域（津波断層域）
- 大すべり域（平均すべり量の2倍）：津波断層域の全面積の約40%
- 背景領域

南海トラフ広域の痕跡再現モデル（応力降下量：1.7MPa）の小断層のすべり分布（m）

		西 ←																																				⇨ 東			
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38		
陸側⇕ 海溝軸	深度40km↓																																								
	30km↓	1																																							
	20km↓	2				1.7	1.7	1.7	1.7	1.7	1.7	1.7	1.7	1.7	1.7	1.7	1.7	1.7	1.7	1.7	1.7	1.7	1.7	1.7	1.7	1.7	1.7	1.7	1.7	1.7	1.7	1.7	1.7	1.7	1.7	1.7	1.7	1.7	1.7	1.7	
		3				1.7	1.7	1.7	1.7	1.7	1.7	1.7	1.7	1.7	1.7	1.7	1.7	1.7	1.7	1.7	1.7	1.7	1.7	1.7	1.7	1.7	1.7	1.7	1.7	1.7	1.7	1.7	1.7	1.7	1.7	1.7	1.7	1.7	1.7	1.7	
	10km↓	4				1.7	9.8	9.8	9.8	9.8	9.8	9.8	9.8	9.8	9.8	1.7	1.7	1.7	1.7	1.7	1.7	1.7	1.7	1.7	1.7	9.8	9.8	9.8	9.8	9.8	9.8	9.8	9.8	9.8	9.8	9.8	9.8	9.8	1.7	1.7	
		5				1.7	9.8	9.8	9.8	9.8	9.8	9.8	9.8	9.8	9.8	1.7	1.7	1.7	1.7	1.7	1.7	1.7	1.7	1.7	9.8	9.8	9.8	9.8	9.8	9.8	9.8	9.8	9.8	9.8	9.8	9.8	9.8	9.8	9.8	1.7	1.7
	0km↓	6				1.7	9.8	9.8	9.8	9.8	9.8	9.8	9.8	9.8	9.8	1.7	1.7	1.7	1.7	1.7	1.7	1.7	1.7	9.8	9.8	9.8	9.8	9.8	9.8	9.8	9.8	9.8	9.8	9.8	9.8	9.8	9.8	9.8	1.7	1.7	
		7																																							
	8																																								

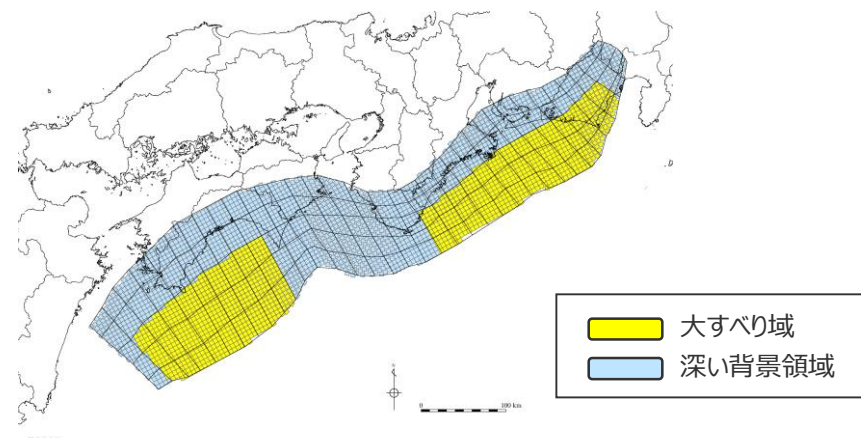
・すべり分布の番号は上記波源モデル図の各小断層に対し西側から東側に順に1列から38列まで設定。陸側から海溝軸側に1行から8行まで設定。

2 痕跡再現モデルの波源モデルの詳細

2-4 南海トラフ広域の痕跡再現モデル（プレートの沈み込み速度を考慮しないモデル）の設定 （応力降下量：1.7MPa）

断層パラメータ

項目		設定値
全体	面積 (km ²)	82,604
	地震モーメント (Nm)	1.7×10^{22}
	Mw	8.8
	平均応力降下量 (MPa)	1.7
	平均すべり量 (m)	5.0
	最大すべり量 (m)	9.8
	剛性率 (N/m ²)	4.1×10^{10}
	破壊伝播速度 (km/s)	2.0
	ライズタイム (s)	60



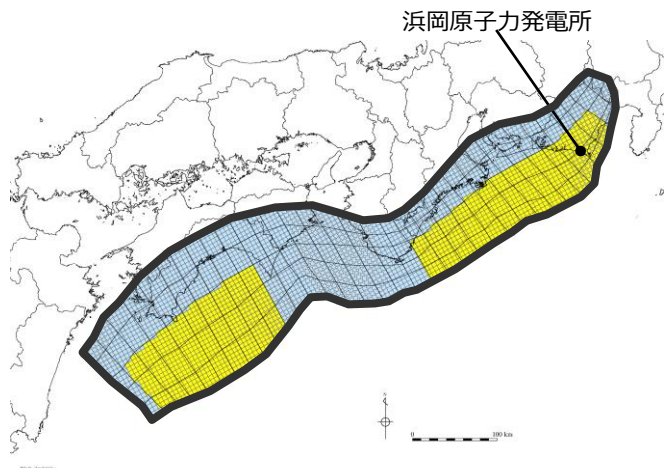
南海トラフ広域の痕跡再現モデル
（応力降下量：1.7MPa）

2 痕跡再現モデルの波源モデルの詳細

2-4 南海トラフ広域の痕跡再現モデル（プレートの沈み込み速度を考慮しないモデル）の設定

（応力降下量：1.8MPa）

■「南海トラフ広域の痕跡再現モデル」の各小断層のすべり分布は以下のとおり。



南海トラフ広域の痕跡再現モデル
（応力降下量：1.8MPa）

南海トラフ広域の痕跡再現モデル（応力降下量：1.8MPa）のすべり量

断層モデル	面積 (km ²)	M ₀ (Nm)	Mw	Δσ (MPa)	最大 すべり量(m)	平均 すべり量(m)
南海トラフ広域の痕跡再現モデル （応力降下量：1.8MPa）	82,604	1.8×10 ²²	8.8	1.8	10.4	5.3

- 波源域（津波断層域）
- 大すべり域（平均すべり量の2倍）：津波断層域の全面積の約40%
- 背景領域

南海トラフ広域の痕跡再現モデル（応力降下量：1.8MPa）の小断層のすべり分布（m）

		西 ←																																				→ 東					
深度40km↓		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38				
陸側⇕ 海溝軸	30km↓	1																																									
	20km↓	2				1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8		
		3				1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	
	10km↓	4				1.8	10.4	10.4	10.4	10.4	10.4	10.4	10.4	10.4	10.4	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	10.4	10.4	10.4	10.4	10.4	10.4	10.4	10.4	10.4	10.4	10.4	10.4	10.4	10.4	10.4	1.8	1.8	
		5				1.8	10.4	10.4	10.4	10.4	10.4	10.4	10.4	10.4	10.4	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	10.4	10.4	10.4	10.4	10.4	10.4	10.4	10.4	10.4	10.4	10.4	10.4	10.4	10.4	10.4	10.4	1.8	1.8
	0km↓	6				1.8	10.4	10.4	10.4	10.4	10.4	10.4	10.4	10.4	10.4	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	10.4	10.4	10.4	10.4	10.4	10.4	10.4	10.4	10.4	10.4	10.4	10.4	10.4	10.4	10.4	10.4	10.4	1.8	1.8
		7																																									
		8																																									

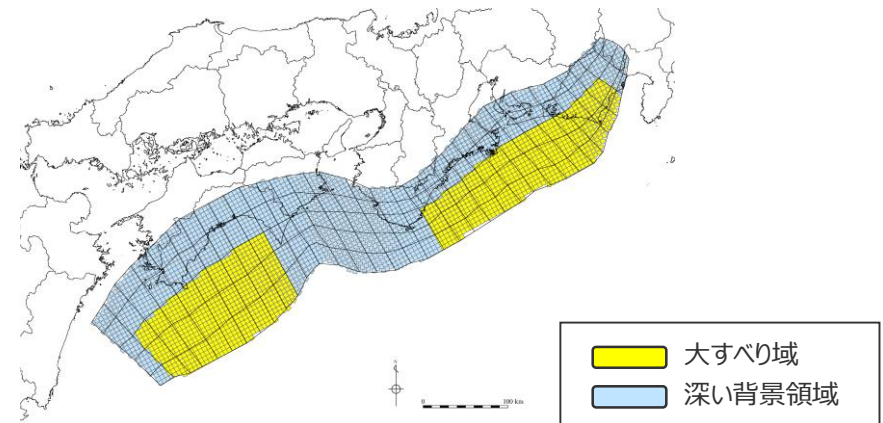
・すべり分布の番号は上記波源モデル図の各小断層に対し西側から東側に順に1列から38列まで設定。陸側から海溝軸側に1行から8行まで設定。

2 痕跡再現モデルの波源モデルの詳細

2-4 南海トラフ広域の痕跡再現モデル（プレートの沈み込み速度を考慮しないモデル）の設定 （応力降下量：1.8MPa）

断層パラメータ

項目		設定値
全体	面積 (km ²)	82,604
	地震モーメント (Nm)	1.8×10^{22}
	Mw	8.8
	平均応力降下量 (MPa)	1.8
	平均すべり量 (m)	5.3
	最大すべり量 (m)	10.4
	剛性率 (N/m ²)	4.1×10^{10}
	破壊伝播速度 (km/s)	2.0
	ライズタイム (s)	60

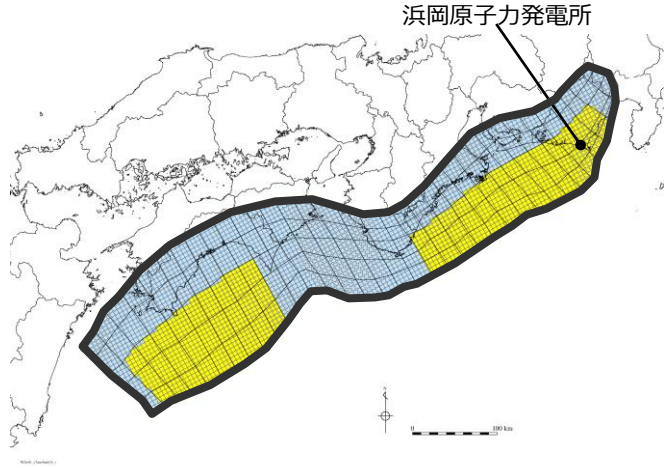


南海トラフ広域の痕跡再現モデル
（応力降下量：1.8MPa）

2 痕跡再現モデルの波源モデルの詳細

2-4 南海トラフ広域の痕跡再現モデル（プレートの沈み込み速度を考慮しないモデル）の設定 （応力降下量：1.9MPa）

■「南海トラフ広域の痕跡再現モデル」の各小断層のすべり分布は以下のとおり。



南海トラフ広域の痕跡再現モデル
（応力降下量：1.9MPa）

南海トラフ広域の痕跡再現モデル（応力降下量：1.9MPa）のすべり量

断層モデル	面積 (km ²)	M ₀ (Nm)	Mw	Δσ (MPa)	最大 すべり量(m)	平均 すべり量(m)
南海トラフ広域の痕跡再現モデル （応力降下量：1.9MPa）	82,604	1.9×10 ²²	8.8	1.9	10.9	5.6

- 波源域（津波断層域）
- 大すべり域（平均すべり量の2倍）：津波断層域の全面積の約40%
- 背景領域

西 ← 南海トラフ広域の痕跡再現モデル（応力降下量：1.9MPa）の小断層のすべり分布（m） → 東

		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38								
陸側⇄ 海溝軸 ⇄	深度40km																																														
	30km	1																																													
	20km	2				1.9	1.9	1.9	1.9	1.9	1.9	1.9	1.9	1.9	1.9	1.9	1.9	1.9	1.9	1.9	1.9	1.9	1.9	1.9	1.9	1.9	1.9	1.9	1.9	1.9	1.9	1.9	1.9	1.9	1.9	1.9	1.9	1.9	1.9	1.9	1.9	1.9	1.9	1.9			
		3				1.9	1.9	1.9	1.9	1.9	1.9	1.9	1.9	1.9	1.9	1.9	1.9	1.9	1.9	1.9	1.9	1.9	1.9	1.9	1.9	1.9	1.9	1.9	1.9	1.9	1.9	1.9	1.9	1.9	1.9	1.9	1.9	1.9	1.9	1.9	1.9	1.9	1.9	1.9	1.9		
	10km	4				1.9	10.9	10.9	10.9	10.9	10.9	10.9	10.9	10.9	10.9	1.9	1.9	1.9	1.9	1.9	1.9	1.9	1.9	1.9	1.9	1.9	1.9	1.9	1.9	1.9	1.9	1.9	1.9	1.9	1.9	1.9	1.9	1.9	1.9	1.9	1.9	1.9	1.9	1.9	1.9	1.9	
		5				1.9	10.9	10.9	10.9	10.9	10.9	10.9	10.9	10.9	10.9	1.9	1.9	1.9	1.9	1.9	1.9	1.9	1.9	1.9	1.9	1.9	1.9	1.9	1.9	1.9	1.9	1.9	1.9	1.9	1.9	1.9	1.9	1.9	1.9	1.9	1.9	1.9	1.9	1.9	1.9	1.9	1.9
	6				1.9	10.9	10.9	10.9	10.9	10.9	10.9	10.9	10.9	10.9	1.9	1.9	1.9	1.9	1.9	1.9	1.9	1.9	1.9	1.9	1.9	1.9	1.9	1.9	1.9	1.9	1.9	1.9	1.9	1.9	1.9	1.9	1.9	1.9	1.9	1.9	1.9	1.9	1.9	1.9	1.9	1.9	1.9
	7																																														
0km	8																																														

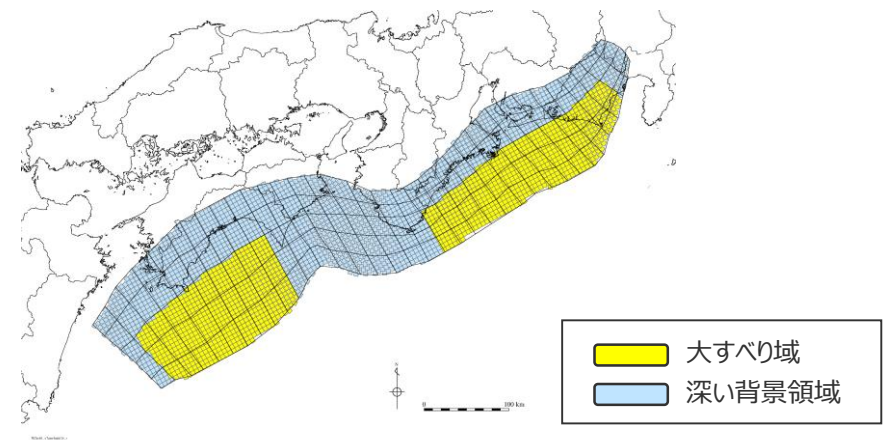
・すべり分布の番号は上記波源モデル図の各小断層に対し西側から東側に順に1列から38列まで設定。陸側から海溝軸側に1行から8行まで設定。

2 痕跡再現モデルの波源モデルの詳細

2-4 南海トラフ広域の痕跡再現モデル（プレートの沈み込み速度を考慮しないモデル）の設定 （応力降下量：1.9MPa）

断層パラメータ

項目		設定値
全体	面積 (km ²)	82,604
	地震モーメント (Nm)	1.9×10^{22}
	Mw	8.8
	平均応力降下量 (MPa)	1.9
	平均すべり量 (m)	5.6
	最大すべり量 (m)	10.9
	剛性率 (N/m ²)	4.1×10^{10}
	破壊伝播速度 (km/s)	2.0
	ライズタイム (s)	60



南海トラフ広域の痕跡再現モデル
（応力降下量：1.9MPa）



中部電力